

第2部 アンケート調査結果

第1 実施概要

1 調査対象及び対象者数

- (1) 調査対象者 児童扶養手当を受給する板橋区民
- (2) 調査対象者数 2,000人(無作為抽出)

2 調査の方法

郵送による配布、回収

3 調査票回収結果

- (1) 調査票発送数 2,000件
- (2) 調査票回収数 845件
- (3) 回収率 42.3%

4 調査期間

令和3年7月7日 ～ 令和3年8月10日

5 調査項目

次の項目について、子どものライフステージ(乳幼児期・義務教育期・高校生相当以上)も踏まえて調査を行った。

- (1) 属性
性別、年齢、世帯構成など
- (2) 保護者の生活・就業・経済状況
健康状態、相談相手、悩み、就労の有無・形態、暮らし向きなど
- (3) 子どもの生活・学習状況
健康状態、生活習慣、交際関係、放課後の居場所、成績など
- (4) 制度の認知・利用状況
制度の利用経験、今後の利用意向など

6 調査結果(次ページ以降)の表示について

- (1) アンケート調査の結果は、百分率(%)で示した。小数点以下は、原則として、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで示した。
- (2) 回答者の総数は「N=〇〇」で、各選択肢の選択者の内数は「n=〇〇」で、それぞれ示した。
- (3) 複数の選択肢を選択できる設問の場合や、四捨五入の処理の関係で、各選択肢の百分率の合計が100%にならないことがある。

第2 調査結果

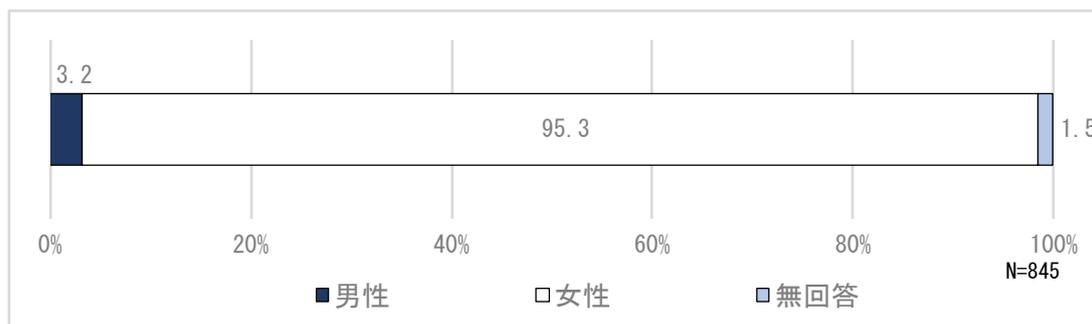
1. 単純集計

(1) 家庭生活一般(問1～32)

ア(7) 性別(問1-(1))

回答者の性別は、「女性」が95.3%を占め、「男性」は3.2%となっている。

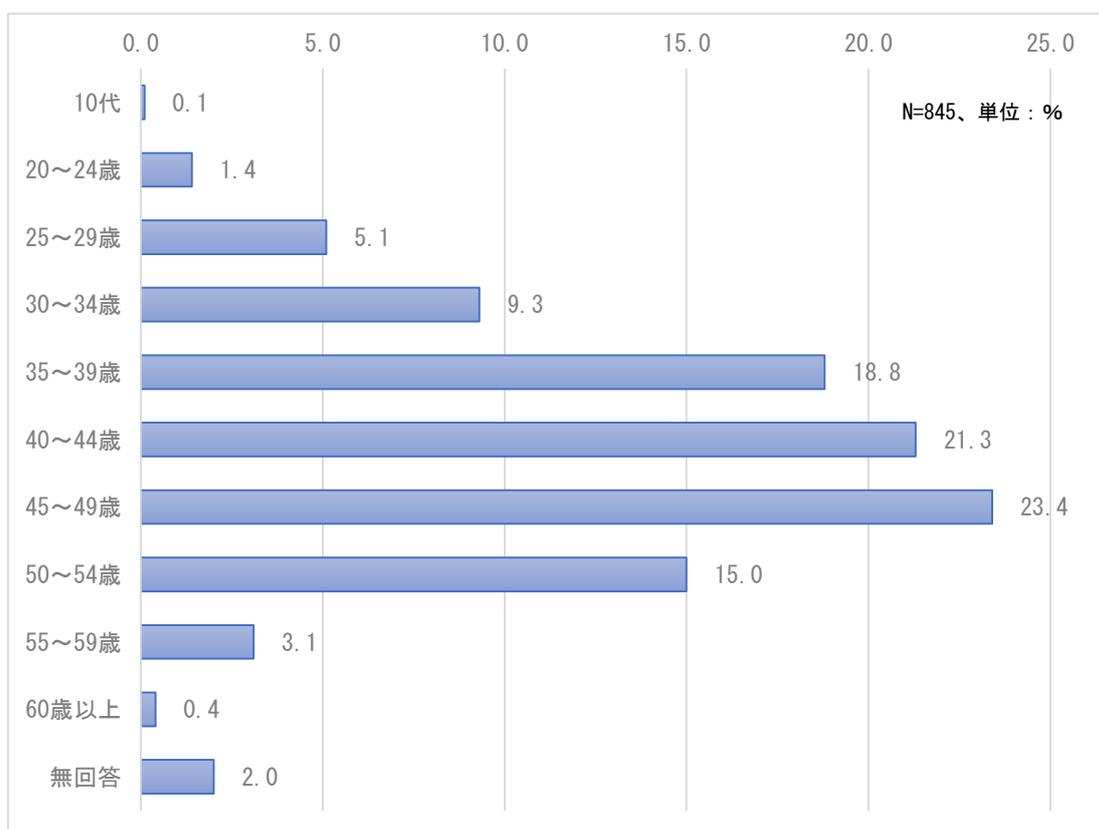
図表1 回答者の性別



ア(イ) 年齢(問1-(2))

回答者の年齢は、「45～49歳」が23.4%で最も多く、次に「40～44歳」が21.3%、「35～39歳」が18.8%となっている。

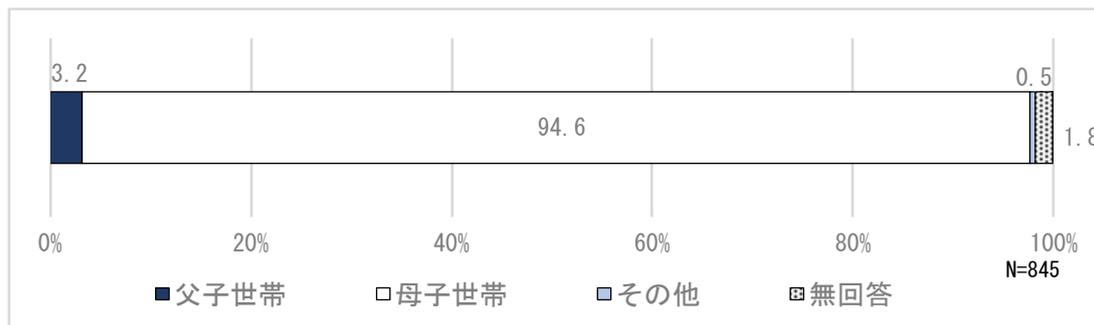
図表2 回答者の年齢



イ 回答者の世帯の種類（問2）

回答者の世帯の種類は、「母子家庭」が94.6%を占め、「父子家庭」は3.2%となっている。

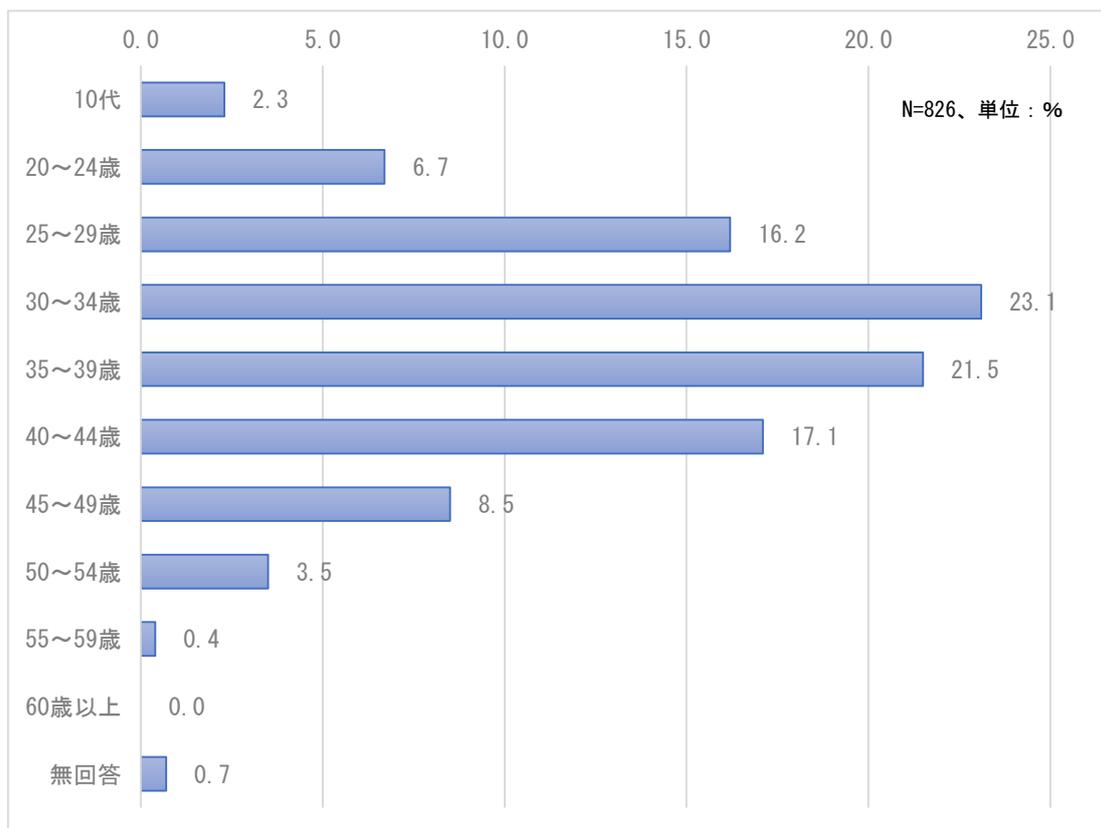
図表3 回答者の世帯の種類



ウ ひとり親家庭になったときの年齢（問3）

ひとり親家庭になったときの年齢は、「30～34歳」が23.1%で最も多く、次に「35～39歳」が21.5%、「40～44歳」が17.1%、「25～29歳」が16.2%などとなっている。

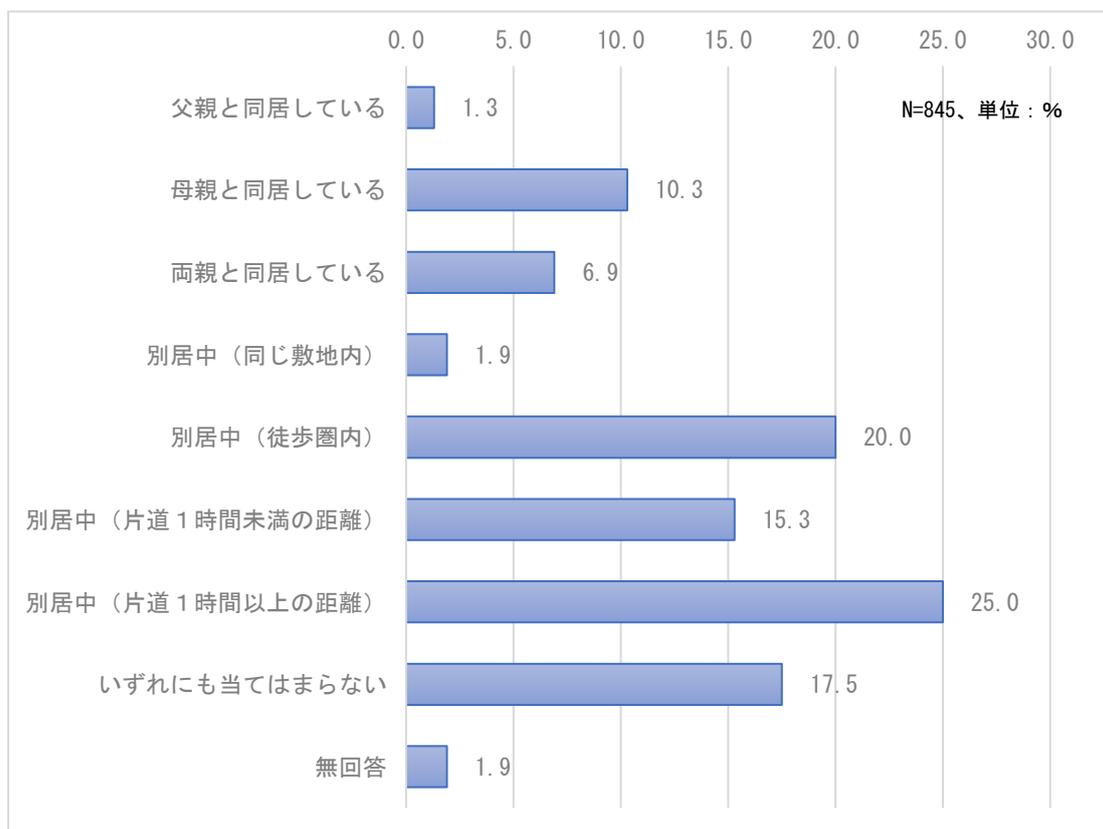
図表4 回答者がひとり親家庭になったときの年齢



エ 回答者(保護者)の親との同居状況 (問4)

回答者(保護者)の親(子どもからみた祖父母)との同居状況は、「別居中(片道1時間以上の距離)」が25.0%で最も多く、「別居中(徒歩圏内)」(20.0%)、「いずれにも当てはまらない」(17.5%)が続く。なお、「いずれにも当てはまらない」とする回答の中には、「他界」、「海外で別居」などの追記が見られた。

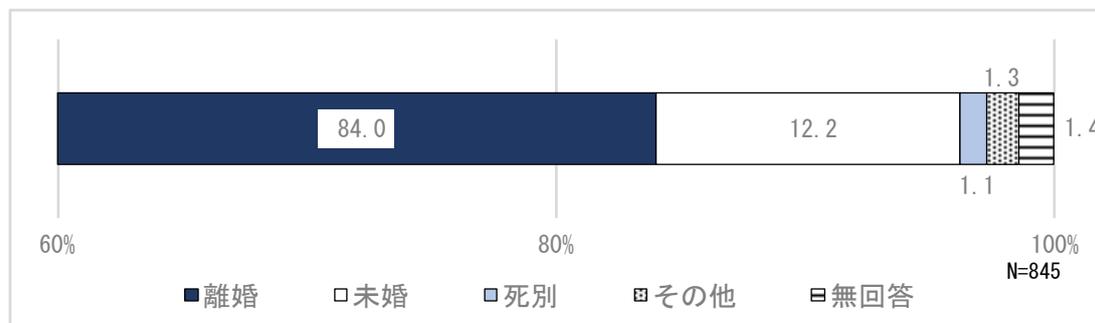
図表5 回答者の親との同居状況



オ ひとり親家庭等になった理由 (問5)

ひとり親家庭等になった理由は「離婚」が84.0%を占めており、次に「未婚」が12.2%となっている。

図表6 回答者がひとり親家庭等になった理由

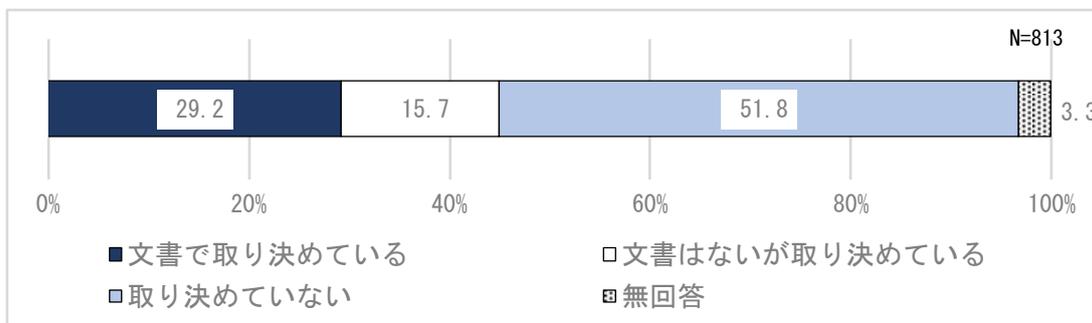


カ 子どもの養育費の取決め及び受給状況

(7) 養育費の取決め状況（問6-1）

養育費の取決めは、「取り決めていない」が51.8%で最多となっている。

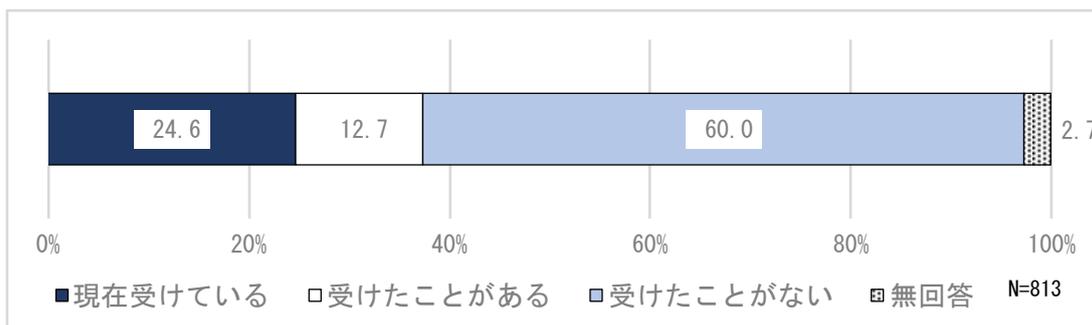
図表7 養育費の取決め



(1) 養育費の受給状況（問6-2）

養育費の受給状況は、「受けたことがない」が60.0%で最多となっている。

図表8 養育費の受給状況

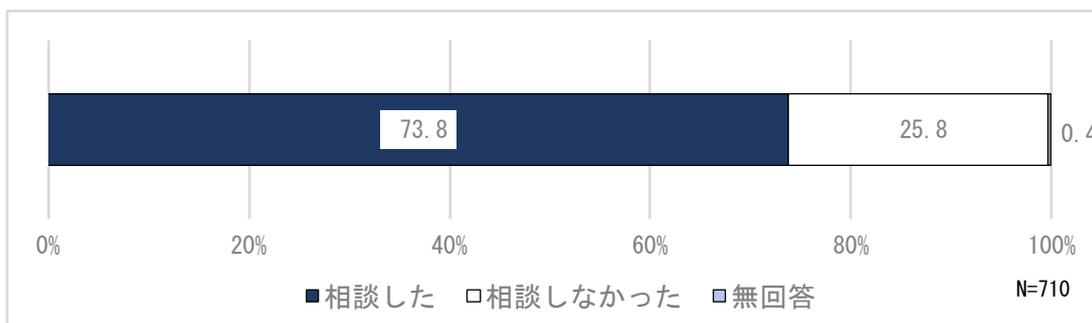


キ 離婚の際の相談

(7) 離婚の際の相談の有無（問7-1）

離婚の際の相談の有無は、「相談した」が73.8%、「相談しなかった」が25.8%となっている。

図表9 離婚の際の相談の有無

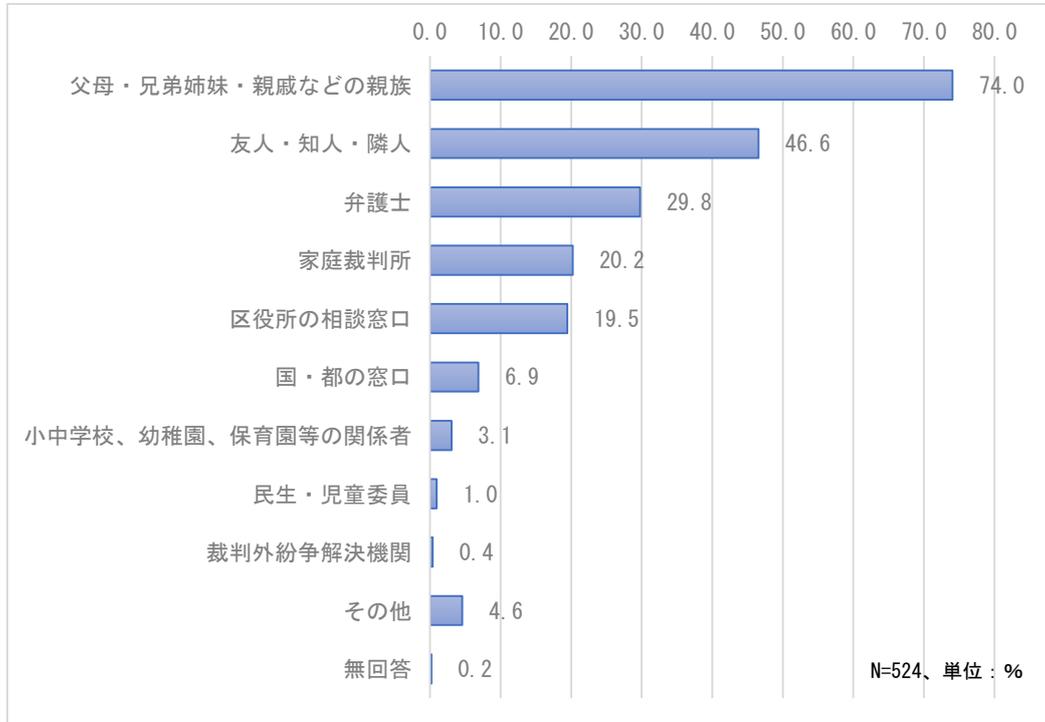


(イ) 離婚の際の相談先（問7-(2)）

離婚の際の相談先は、「父母・兄弟姉妹・親戚などの親族」（74.0%）が最多で、「友人・知人・隣人」（46.6%）、「弁護士」（29.8%）が続く。

なお、「その他」の例として、「行政書士」、「会社の総務担当者」などがあつた。

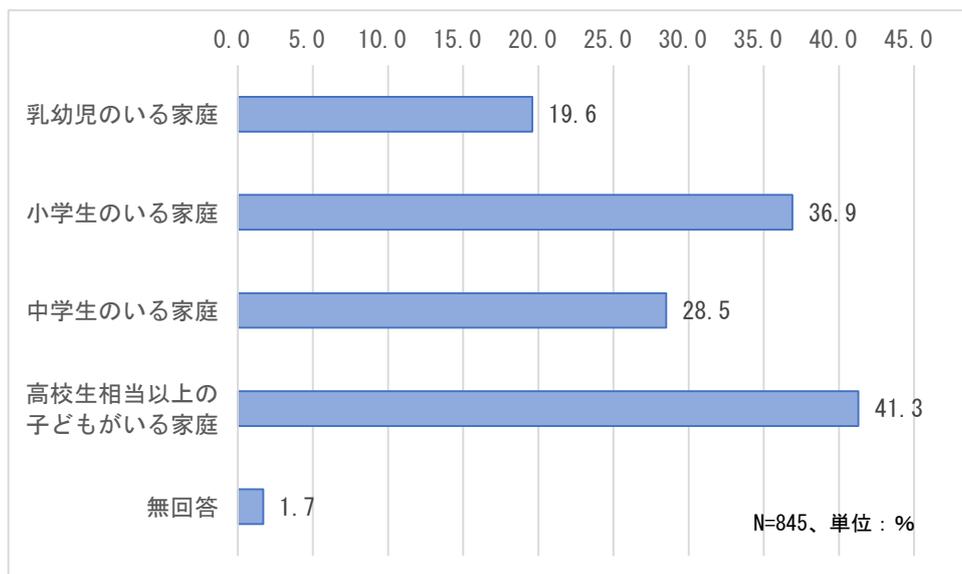
図表 10 離婚の際の相談先（複数回答）



ク 同居している子ども(20歳未満)の状況（問8）

同居している子ども(20歳未満)の状況は、「高校生相当以上の子どもがいる家庭」（41.3%）、次いで「小学生のいる家庭」（36.9%）の回答者が多い。

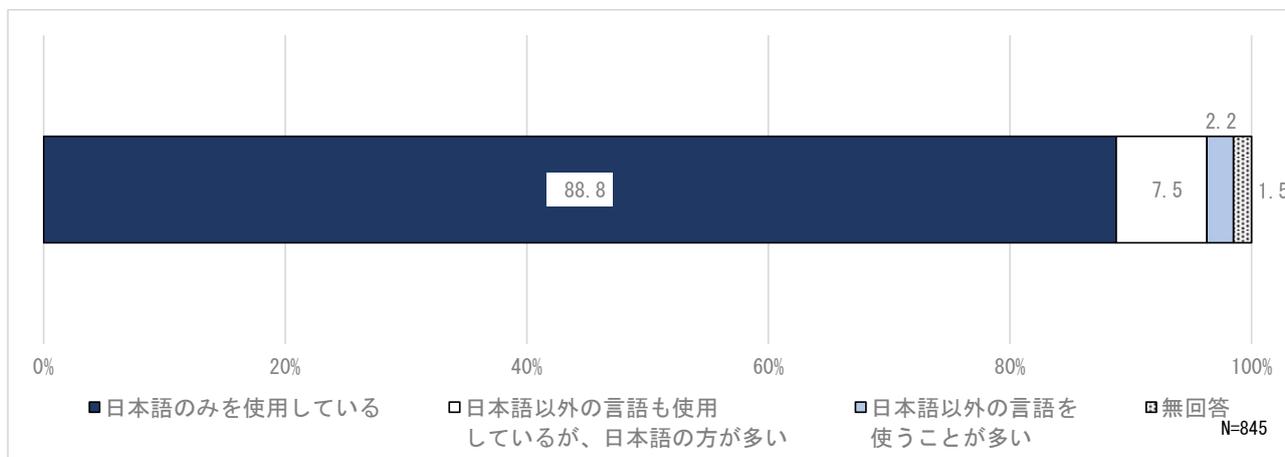
図表 11 同居している子ども(20歳未満)の状況



ケ 日本語以外の言語の使用状況（問9）

家庭での言語の使用状況は、「日本語のみを使用している」（88.8%）がほとんどだが、日本語以外の言語も使用する家庭が約1割ある（9.7%）。

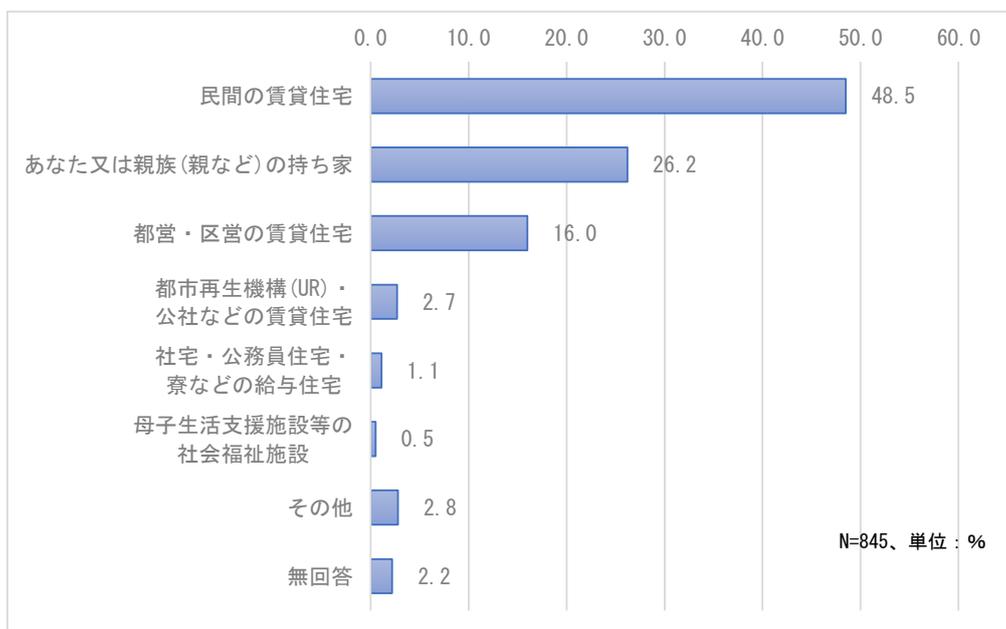
図表 12 日本語以外の言語の使用状況



コ 住居の形態（問10）

住居の形態は、「民間の賃貸住宅」（48.5%）が最多で、「あなた又は親族（親など）の持ち家」（26.2%）、「都営・区営の賃貸住宅」（16.0%）が続く。

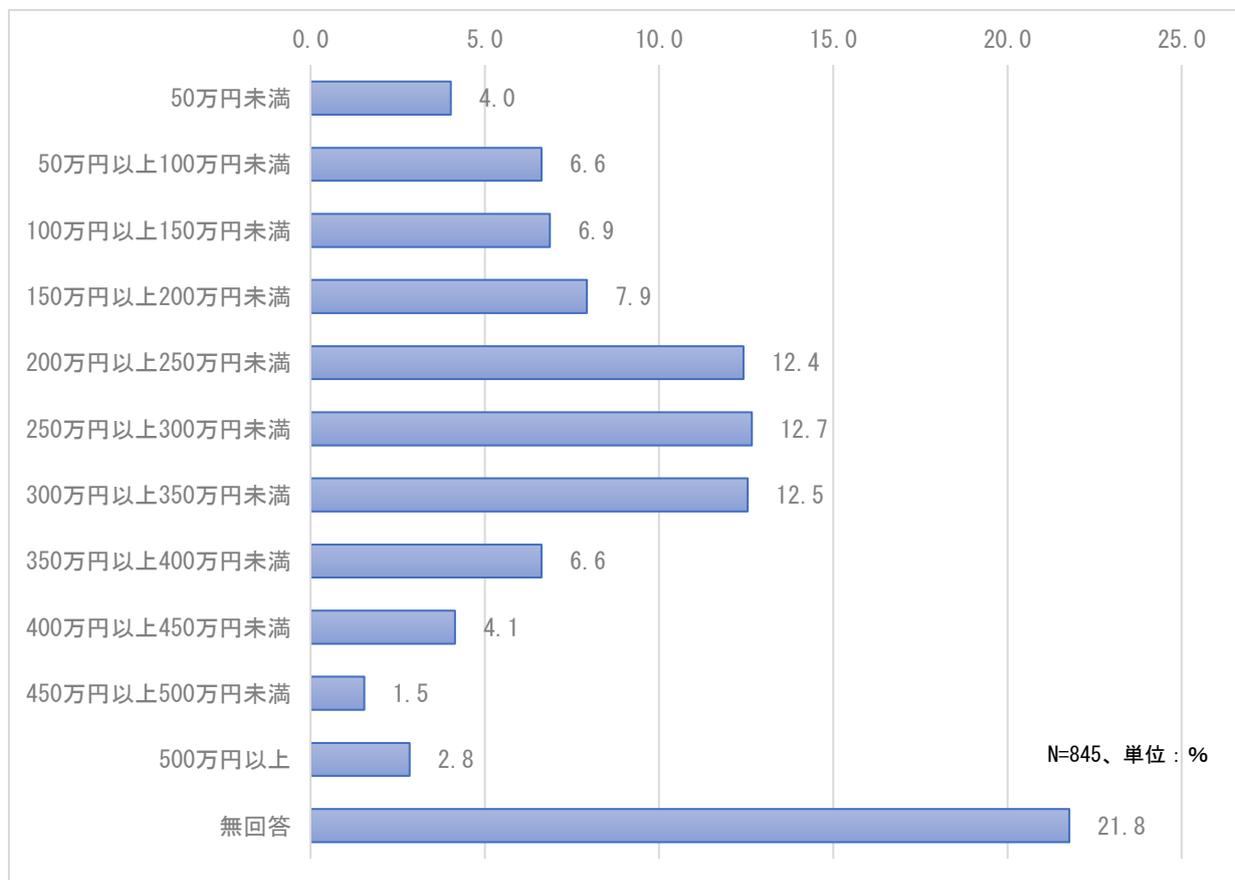
図表 13 住居の形態



サ 昨年1年間の世帯年収（問11）

昨年1年間(令和2年1月～12月)における回答者のおおよその世帯年収(手取り)は、「250万円以上300万円未満」(12.7%)が最も多い。

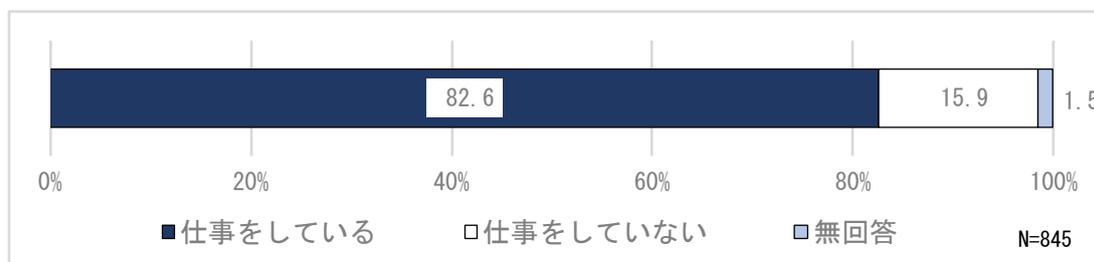
図表14 昨年1年間の世帯年収



シ 現在の就業状況（問12）

現在の就業状況は、「仕事をしている」が8割を超えている。

図表15 現在の就業状況

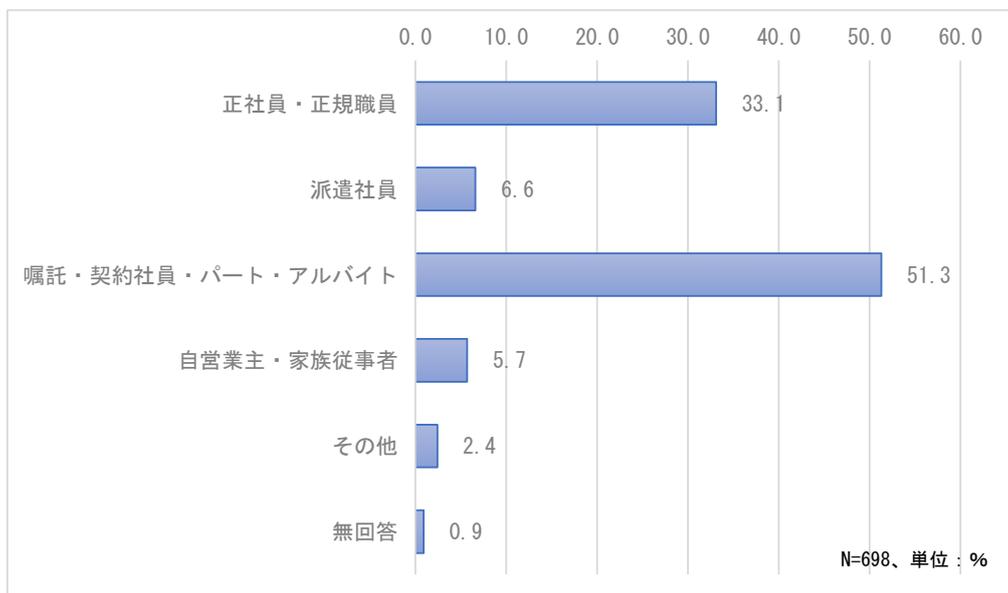


ス 就労形態（問 13）

「仕事をしている」人（問 12）にその就業形態を尋ねたところ、「嘱託・契約社員・パート・アルバイト」（51.3%）が最多で、「正社員・正規職員」（33.1%）が続く。

なお、「その他」の例として、「共同経営者」、「準社員」などがあつた。

図表 16 就労形態

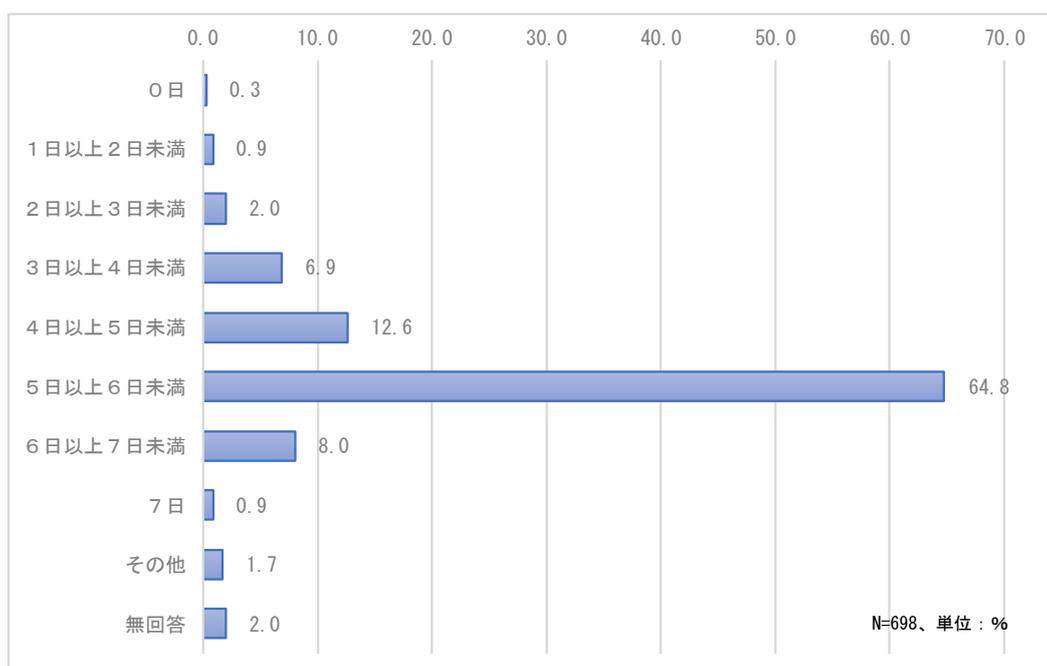


セ 現在の仕事の勤務時間などの状況

(7) 就労日数（問 14-（1））

「仕事をしている」人（問 12）に対し、就労日数を尋ねたところ、週に「5日以上6日未満」（64.8%）が最多となっている。

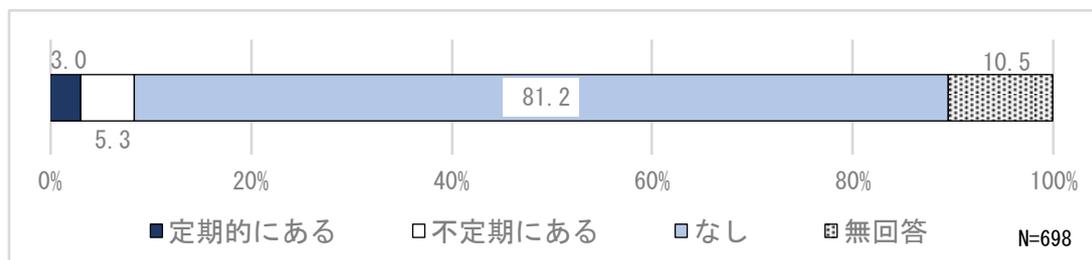
図表 17 就労日数



(イ) 22時以降の深夜勤務（問14-（2））

「仕事をしている」人（問12）に、22時以降の深夜勤務の状況を尋ねると、「なし」（81.2%）が多いが、1割近くが定期・不特定の深夜勤務に従事している（8.3%）。

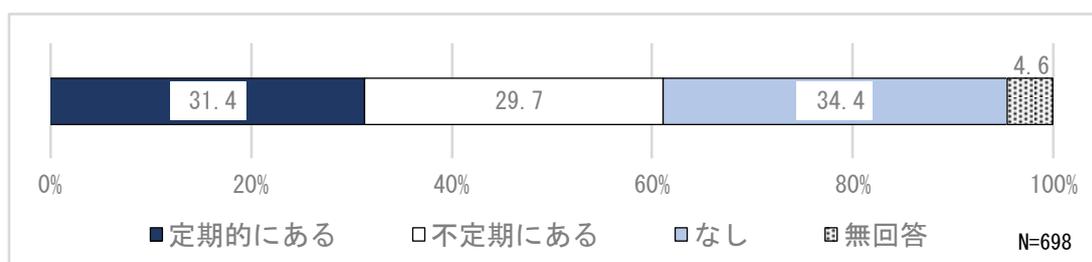
図表18 22時以降の深夜勤務



(ウ) 土曜・日曜、祝日勤務（問14-（3））

「仕事をしている」人（問12）に、土曜・日曜、祝日の勤務状況を尋ねると、「定期的にある」、「不特定にある」、「なし」がほぼ3分の1ずつとなっている。

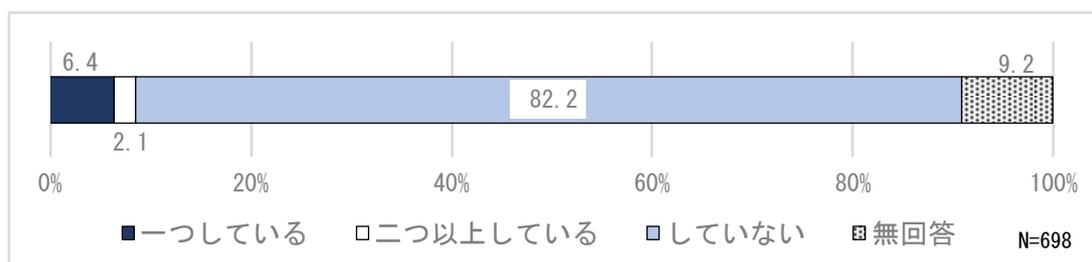
図表19 土曜・日曜、祝日勤務



(エ) 副業（主な仕事以外にしているアルバイト、内職等の数）（問14-（4））

「仕事をしている」人（問12）に、副業の状況を尋ねると、「していない」（82.2%）が多いが、1割近くが副業に従事している（8.5%）。

図表20 副業（主な仕事以外にしているアルバイト、内職等の数）

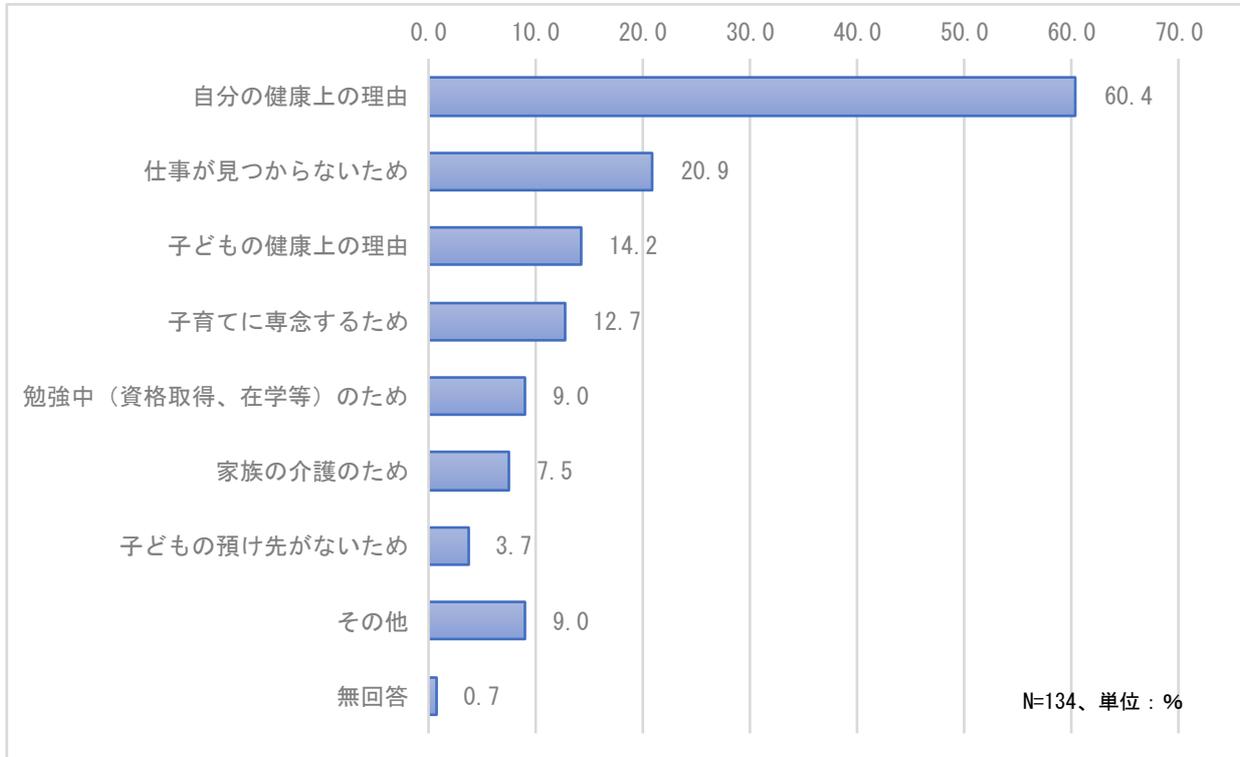


ソ 現在、仕事をしていない理由（問 15）

「仕事をしていない」人(問 12)に、その理由を尋ねたところ、「自分の健康上の理由」(60.4%)が最多で、「仕事が見つからないため」(20.9%)が続く。

なお、「その他」の例として、「解雇」、「新型コロナウイルス感染症」などがあつた。

図表 21 現在、仕事をしていない理由（複数回答）

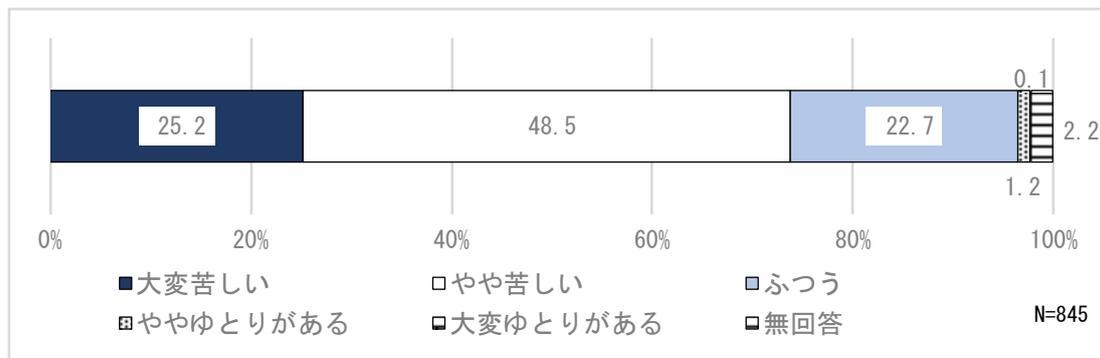


タ 現在の暮らし向き

(ア) 暮らし向き(問 16- (1))

現在の暮らし向きは、「やや苦しい」と「大変苦しい」を合わせた割合が 73.7%で、「苦しい」が7割を超えている。

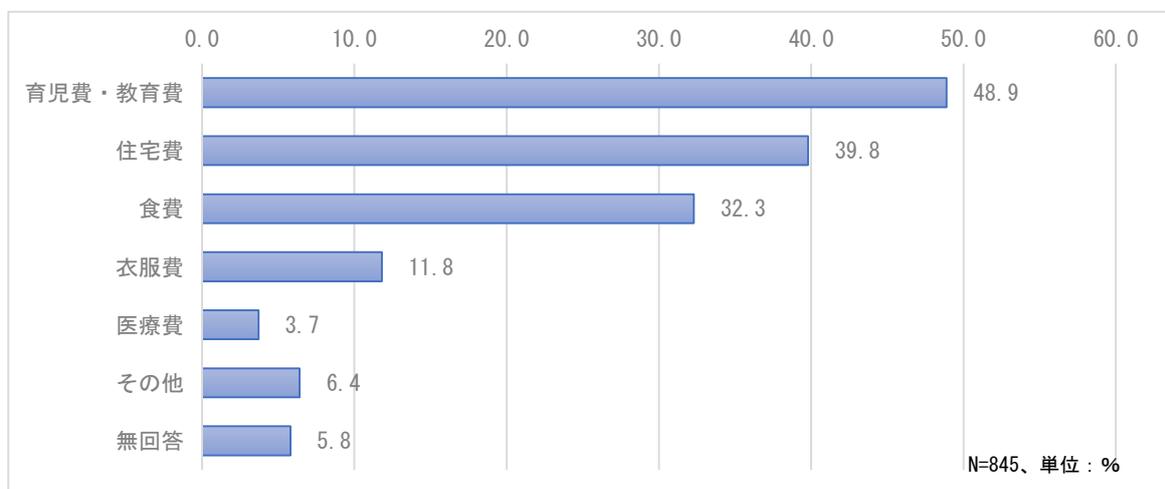
図表 22 現在の暮らし向き



(イ) 生活費の中で負担に感じる費用(問16-(2))

生活費の中で負担に感じる費用は、「育児費・教育費」(48.9%)が最多で、「住宅費」(39.8%)、「食費」(32.3%)が続く。なお、「その他」の例に、「光熱費」などがあつた。

図表 23 生活費の中で負担に感じる費用(複数回答)

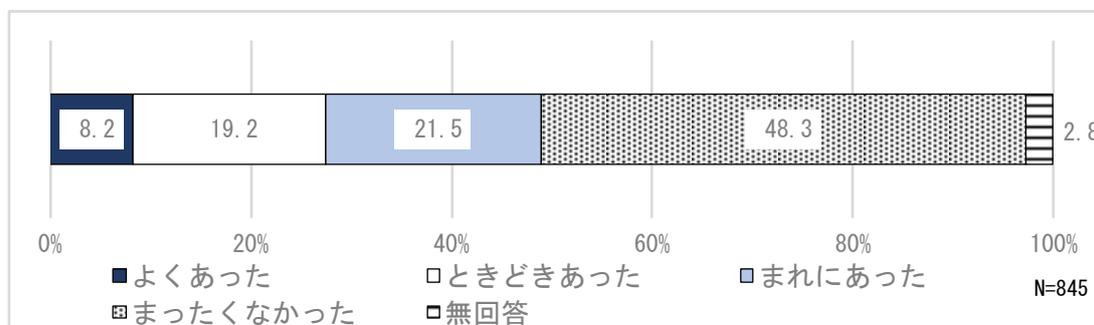


チ 家族が必要とする食料や衣服を買えない経験

(7) 食料(問17-(1))

約半数の家庭が経済的理由で食料を買えない経験が「(よく・ときどき・まれに)あつた」(48.9%)としている。

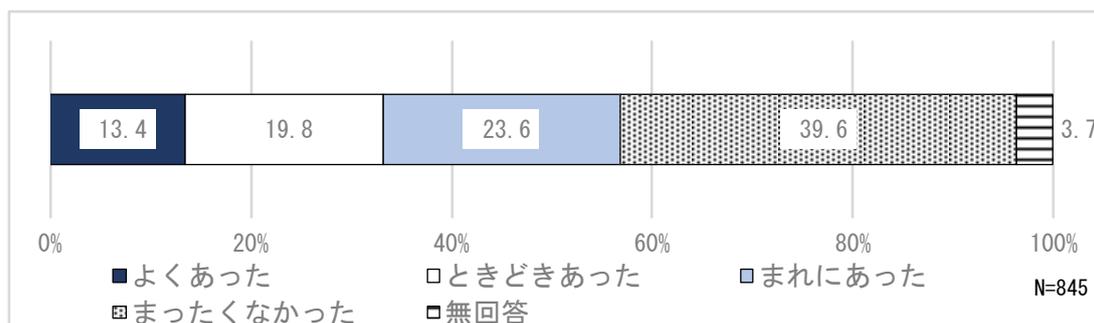
図表 24 家族が必要とする食料を買えないことの有無



(イ) 衣服(問17-(2))

過半数の家庭が経済的理由で衣服を買えない経験が「(よく・ときどき・まれに)あつた」(56.8%)としている。

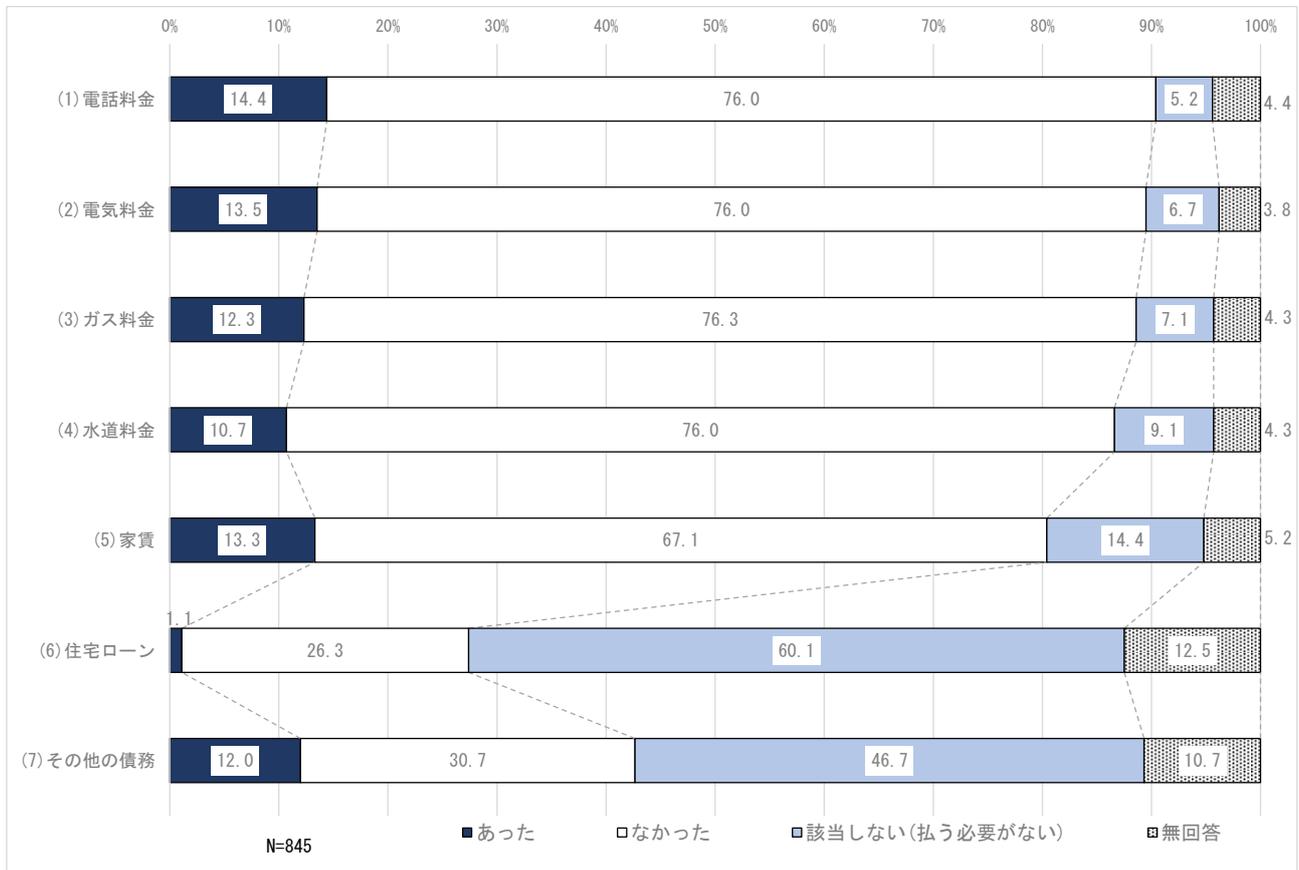
図表 25 家族が必要とする衣服を買えないことの有無



ツ サービス・料金について、支払えないことの有無(問18)

「電話料金」、「電気料金」、「ガス料金」、「水道料金」、「家賃」、「住宅ローン」、「その他の債務」について支払えないことがあったかを尋ねたところ、「住宅ローン」以外の項目は、支払えないことが「あった」とする回答が10%を超えている。

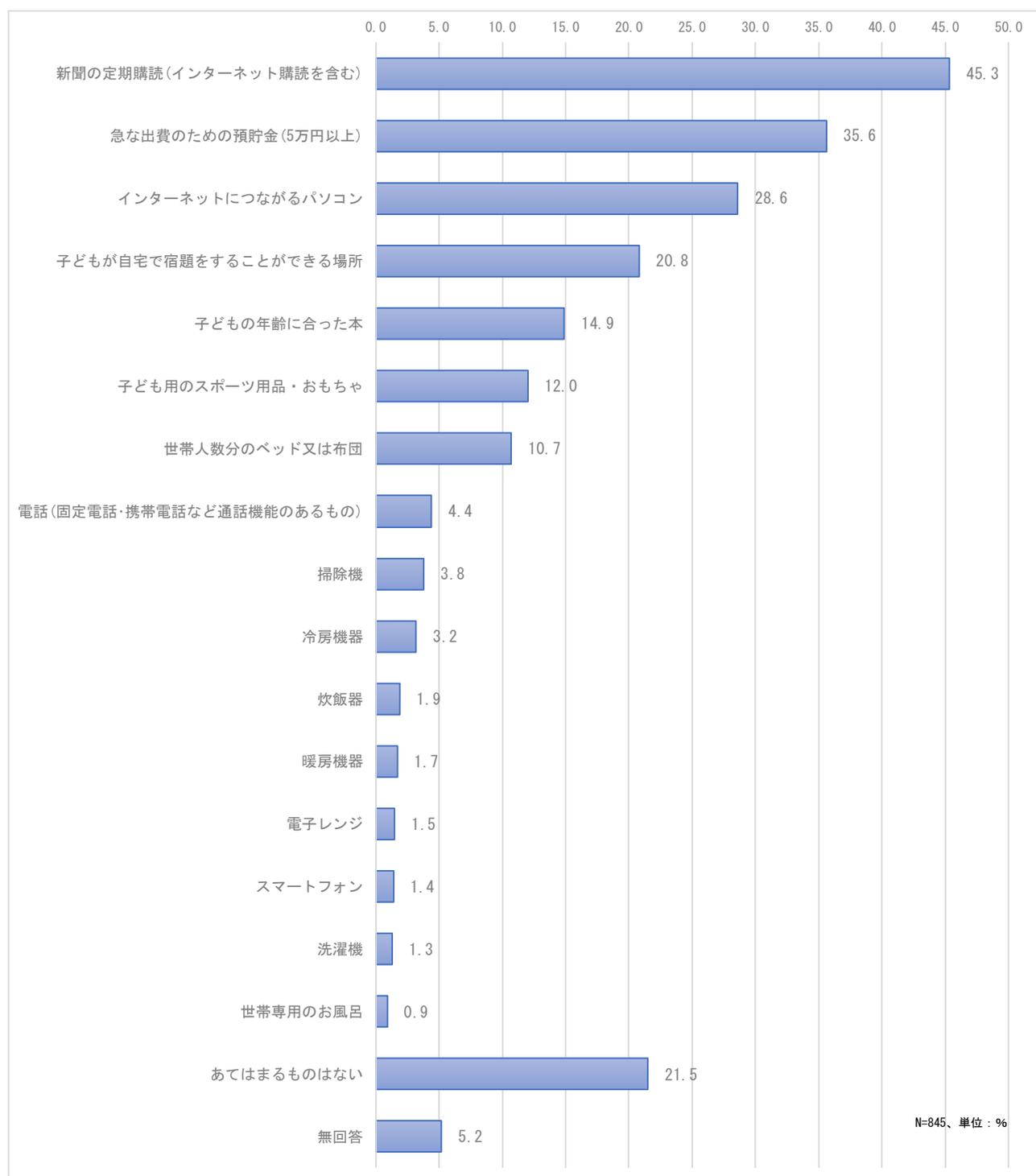
図表 26 サービス・料金について、支払えないことの有無



テ 経済的理由のために世帯にないもの(問 19)

経済的理由のために世帯にないものは、「新聞の定期購読(インターネット購読を含む)」(45.3%)が最多で、「急な出費のための預貯金(5万円以上)」(35.6%)、「インターネットにつながるパソコン」(28.6%)、「子どもが自宅で宿題をすることができる場所」(20.8%)が続く。

図表 27 経済的理由のために世帯にないもの(複数回答)

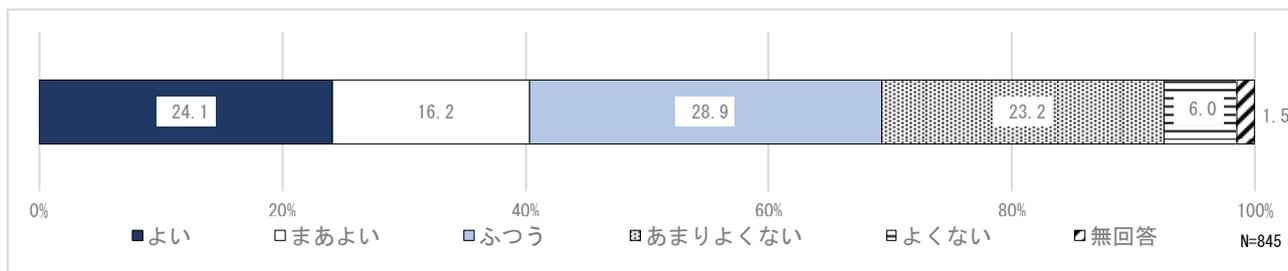


ト 主観的健康状態(健康状態の自己評価)

(ア) 回答者(問 20-(1))

回答者の主観的健康状態(健康状態の自己評価)は、「よい」と「まあよい」を合わせた割合が 40.3%の一方、「あまりよくない」と「よくない」を合わせた割合が 29.2%で、約 3 割が健康状態を優れないとしている。

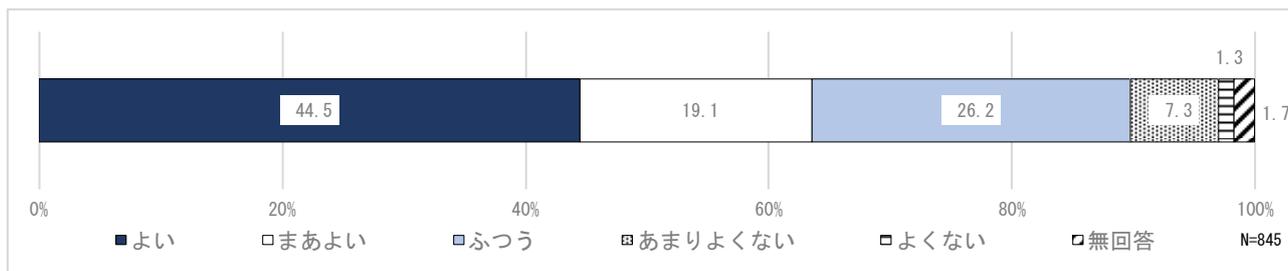
図表 28 回答者の主観的健康状態



(イ) 子ども(問 20-(2))

子どもの主観的健康状態は、「よい」と「まあよい」を合わせた割合が 63.6%の一方、「あまりよくない」と「よくない」を合わせた割合が 8.6%となっている。

図表 29 子どもの主観的健康状態

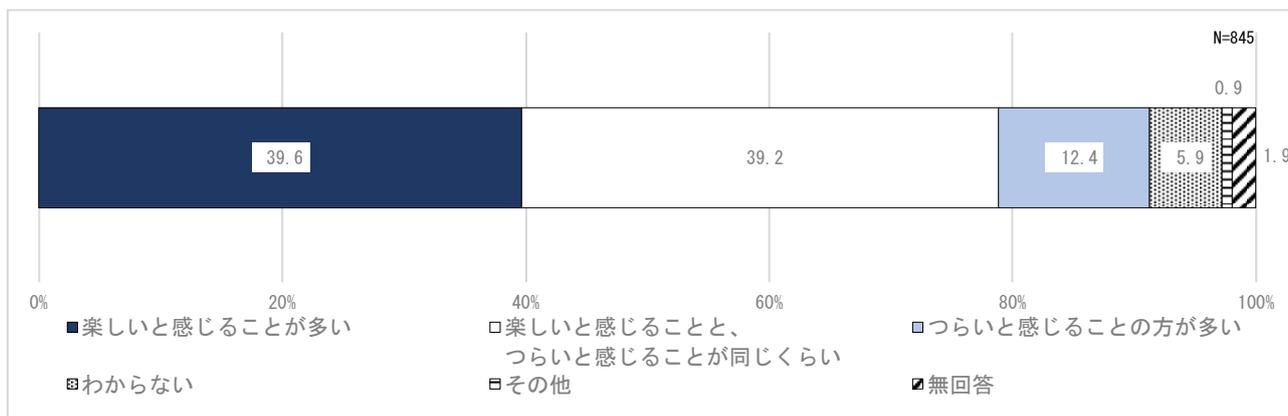


ナ 子育ての楽しさに関する認識(問 21)

子育てを「楽しいと感じることが多い」が 39.6%の一方、「つらいと感じることが多い」が 12.4%となっている。

なお、「その他」の例として、「考える余裕もない」、「働いてばかりで子どもとの時間が持たない」などがあつた。

図表 30 子育ての楽しさ

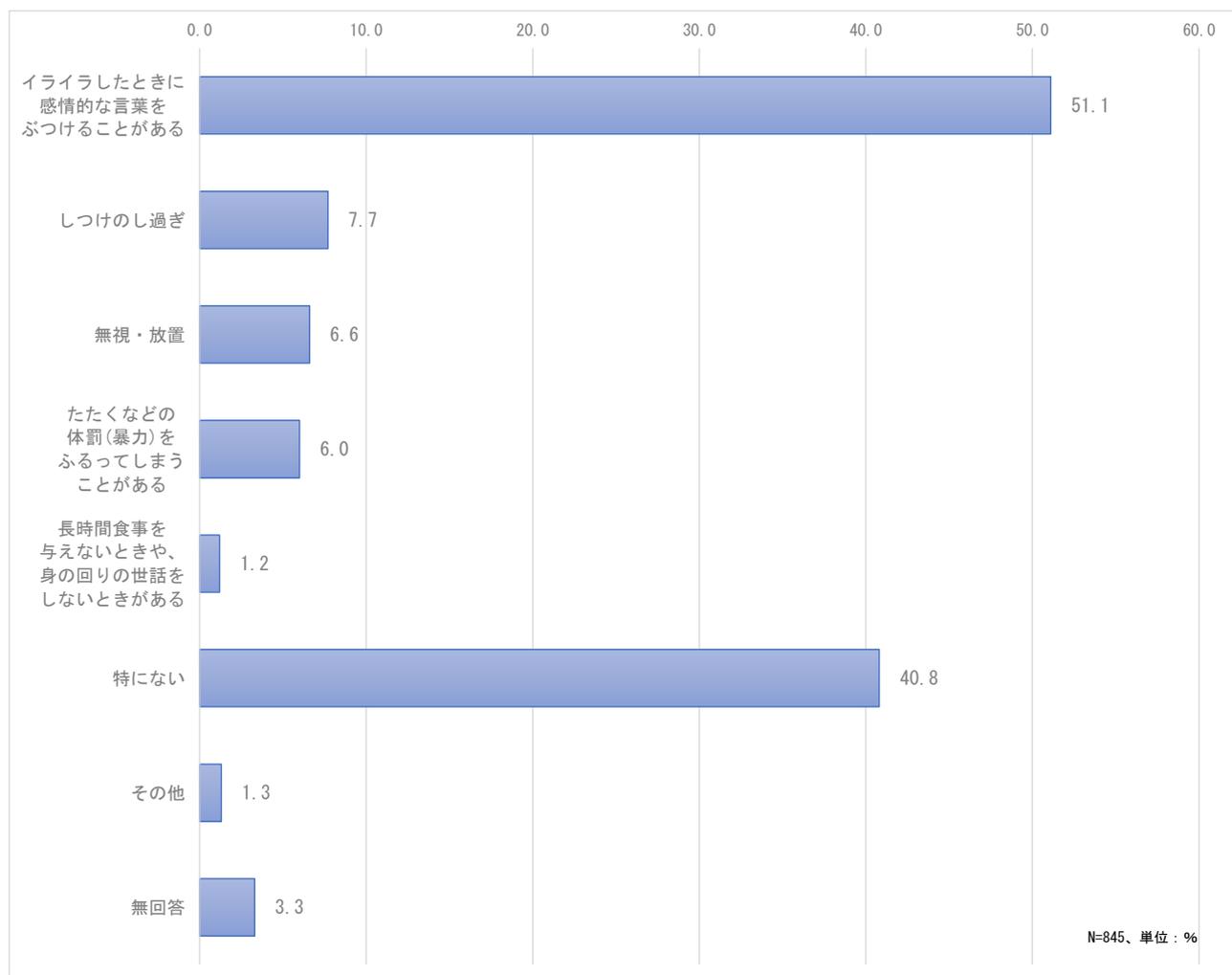


ニ 日頃、子どもに対して無意識のうちに行っているのではないかと思うこと(問 22)

日頃、子どもに対して無意識のうちに行っているのではないかと思うことは、「特にない」が40.8%の一方、「イライラしたときに感情的な言葉をぶつけることがある」(51.1%)が約半数に達している。

なお、「その他」の例として、「過干渉」、「忙しいと子どもの話すことを適当に流してしまうことがある」、「甘やかす」、「話す時間もない」などがあつた。

図表 31 子どもに対して無意識のうちに行っているのではないかと思うこと(複数回答)

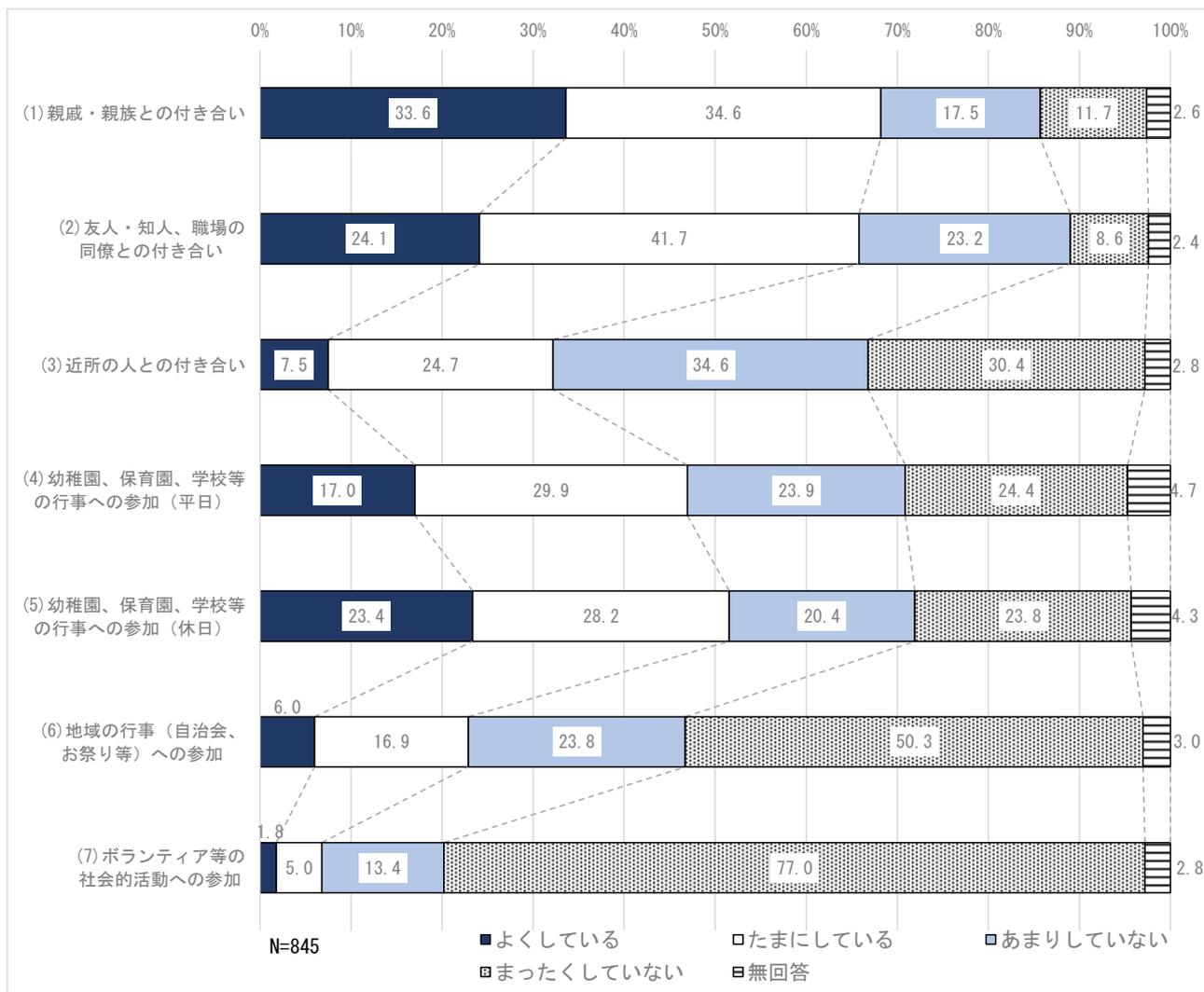


又 保護者の社会とのかかわり (問 23)

回答者の社会とのかかわりについて、「(よく・たまに)している」割合が高いものは、「親戚・親族との付き合い」(68.2%)、「友人・知人、職場の同僚との付き合い」(65.8%) などとなっている。

一方、「(あまり・まったく)していない」割合が高いものは、「ボランティア等の社会的活動への参加」(90.4%) や「地域の行事(自治会、お祭り等)への参加」(74.1%) などとなっている。

図表 32 保護者の社会とのかかわり

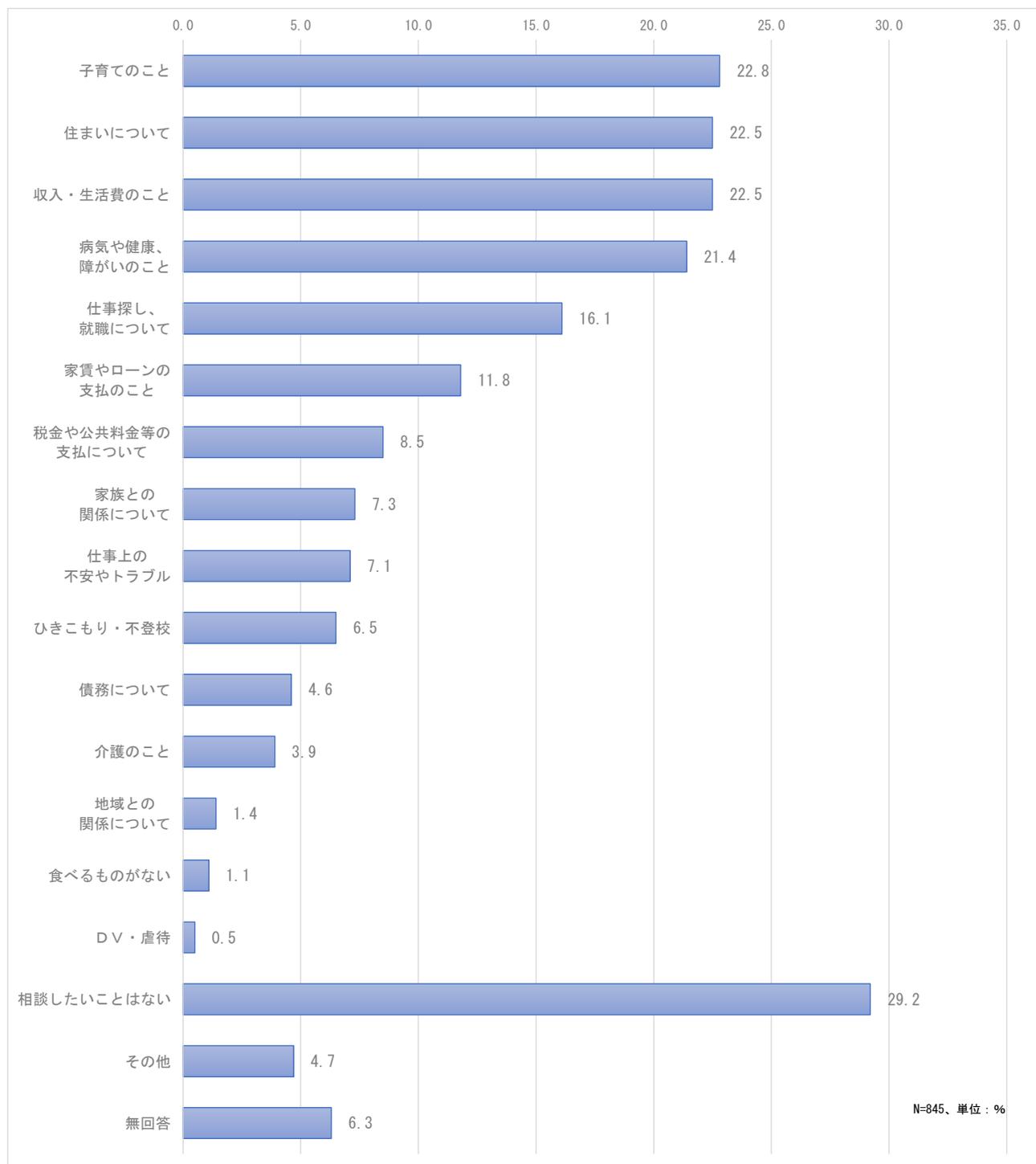


ネ 生活・仕事について相談したいこと(問 24)

生活・仕事について相談したいことは、「相談したいことはない」(29.2%)を除けば、「子育てのこと」(22.8%)が最多で、「住まいについて」・「収入・生活費のこと」(22.5%)、「病気や健康、障がいのこと」(21.4%)が続く。

なお、「その他」の例として、「ひとり親の支援について」、「自分の老後」などがあつた。

図表 33 生活・仕事について相談したいこと(複数回答)

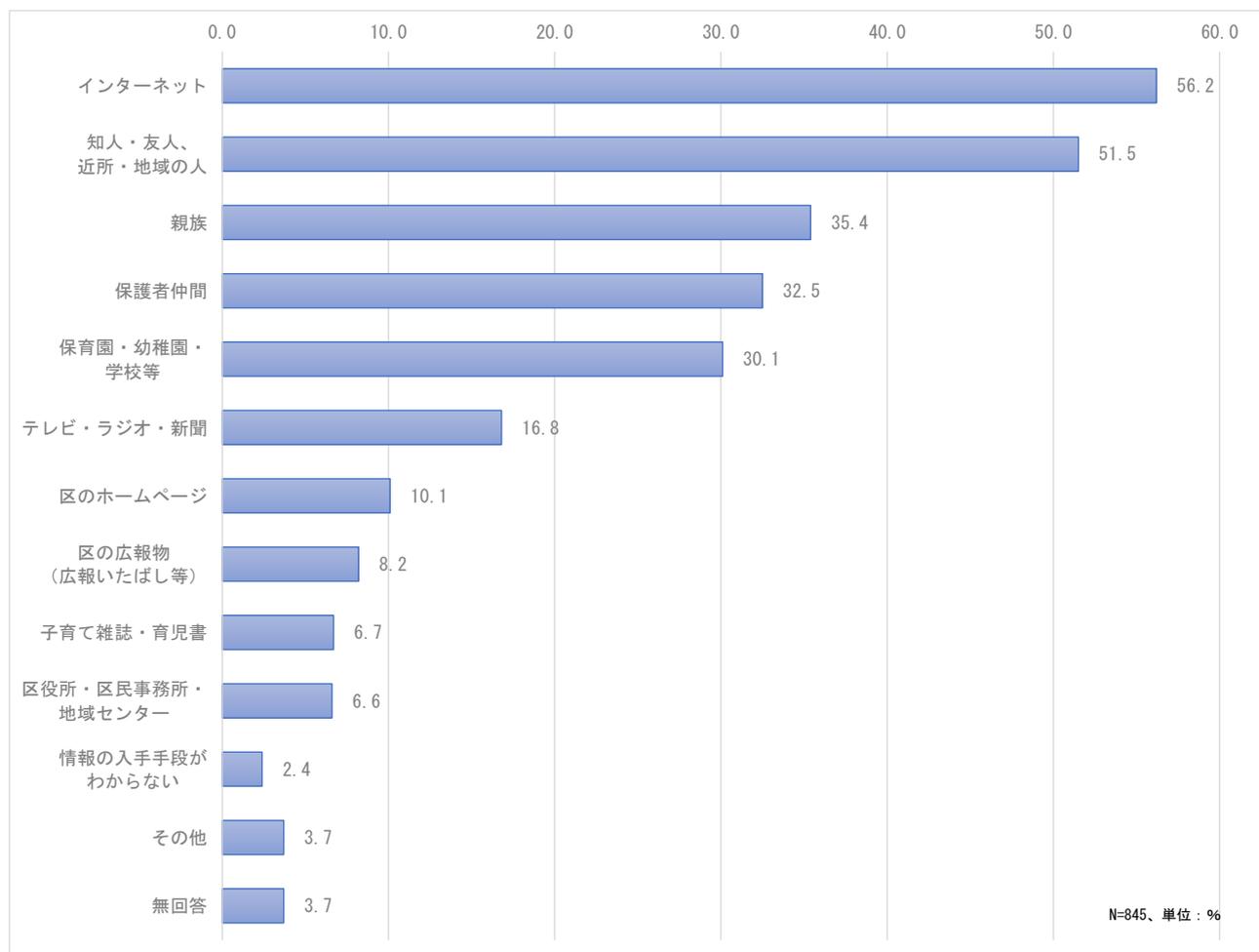


ノ 子育てに関する情報の入手源(問 25)

子育てに関する情報の入手源は、「インターネット」(56.2%)が最多で、「知人・友人、近所・地域の人」(51.5%)が続く。

なお、「その他」の例として、「職場の同僚」、「療育センター」、「発達支援センター、病院など」、「放課後等デイサービス」などがあつた。

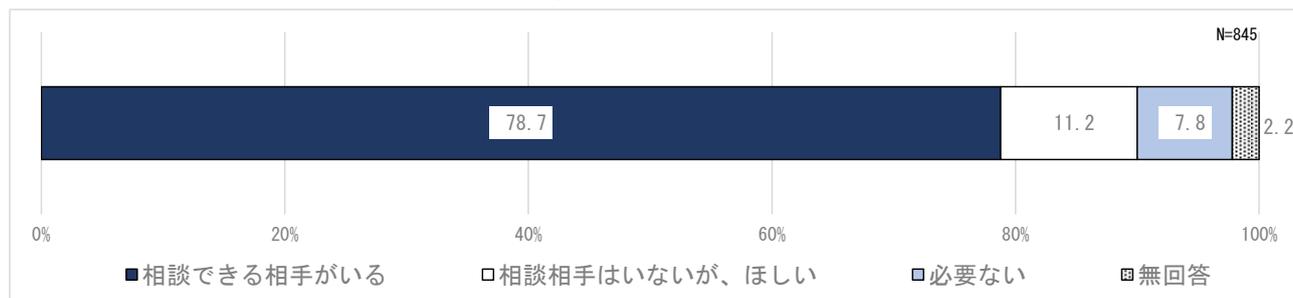
図表 34 子育てに関する情報の入手源(複数回答)



ハ 子どもに関する悩みを相談できる相手の有無(問 26)

子どもに関する悩みの相談相手について、「相談できる相手がいる」が約8割を占めるが、「相談相手はいないが、ほしい」が約1割あつた(11.2%)。

図表 35 子どもに関する悩みの相談相手の有無

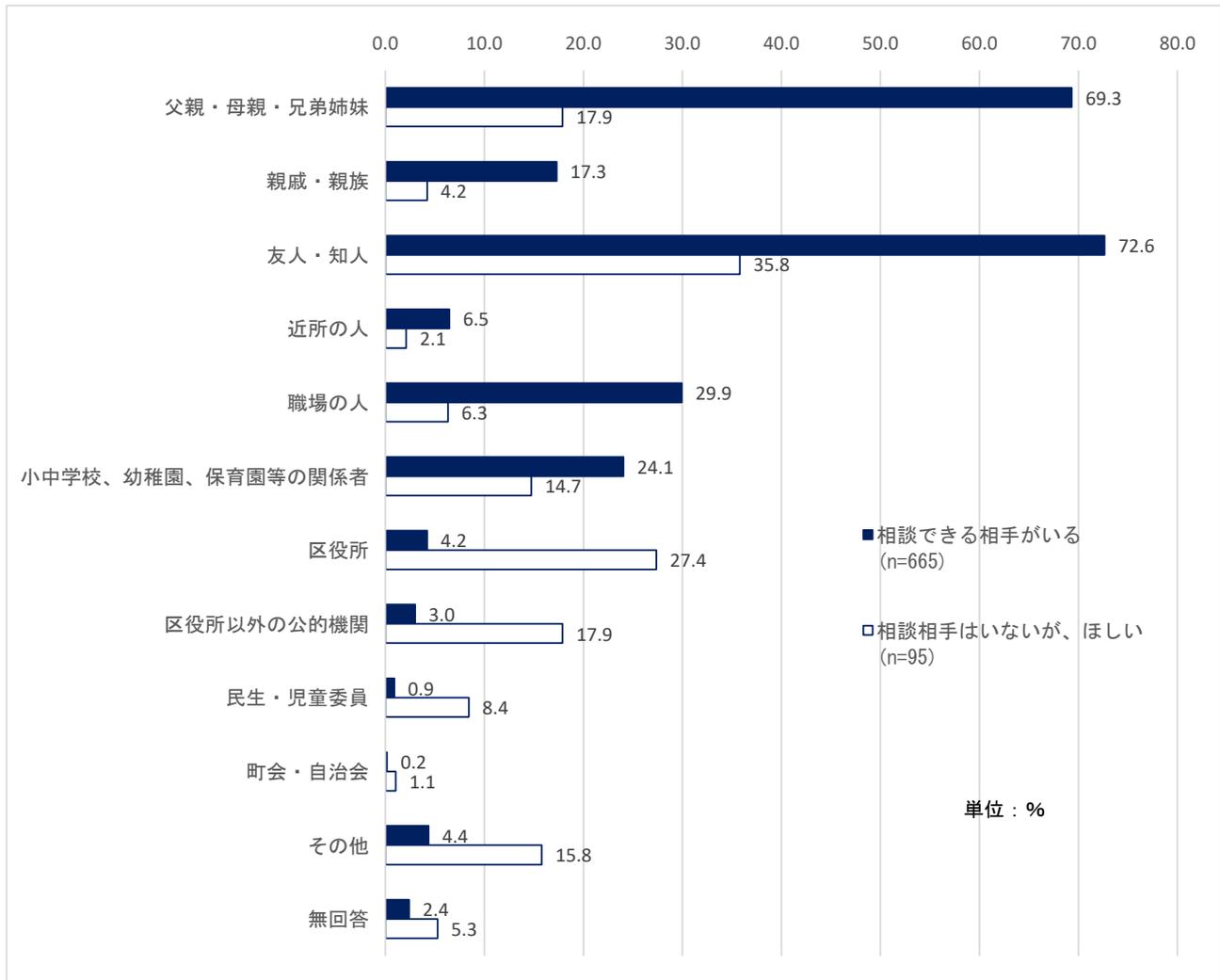


ヒ 具体的な相談相手・ほしい相談相手（問 27）

問 26 で「相談できる相手がいる」と回答した者について、その具体的な相談相手を見ると、「友人・知人」（72.6%）が最多で、「父親・母親・兄弟姉妹」（69.3%）が続く。

一方、「相談相手はいないが、ほしい」と回答した者について、誰に（どこに）相談するかをみると、「友人・知人」（35.8%）が最多で、「区役所」（27.4%）、「父親・母親・兄弟姉妹」・「区役所以外の公的機関」（17.9%）が続き、公的機関の役割が大きくなっている。

図表 36 具体的な相談相手・欲しい相談相手（複数回答）

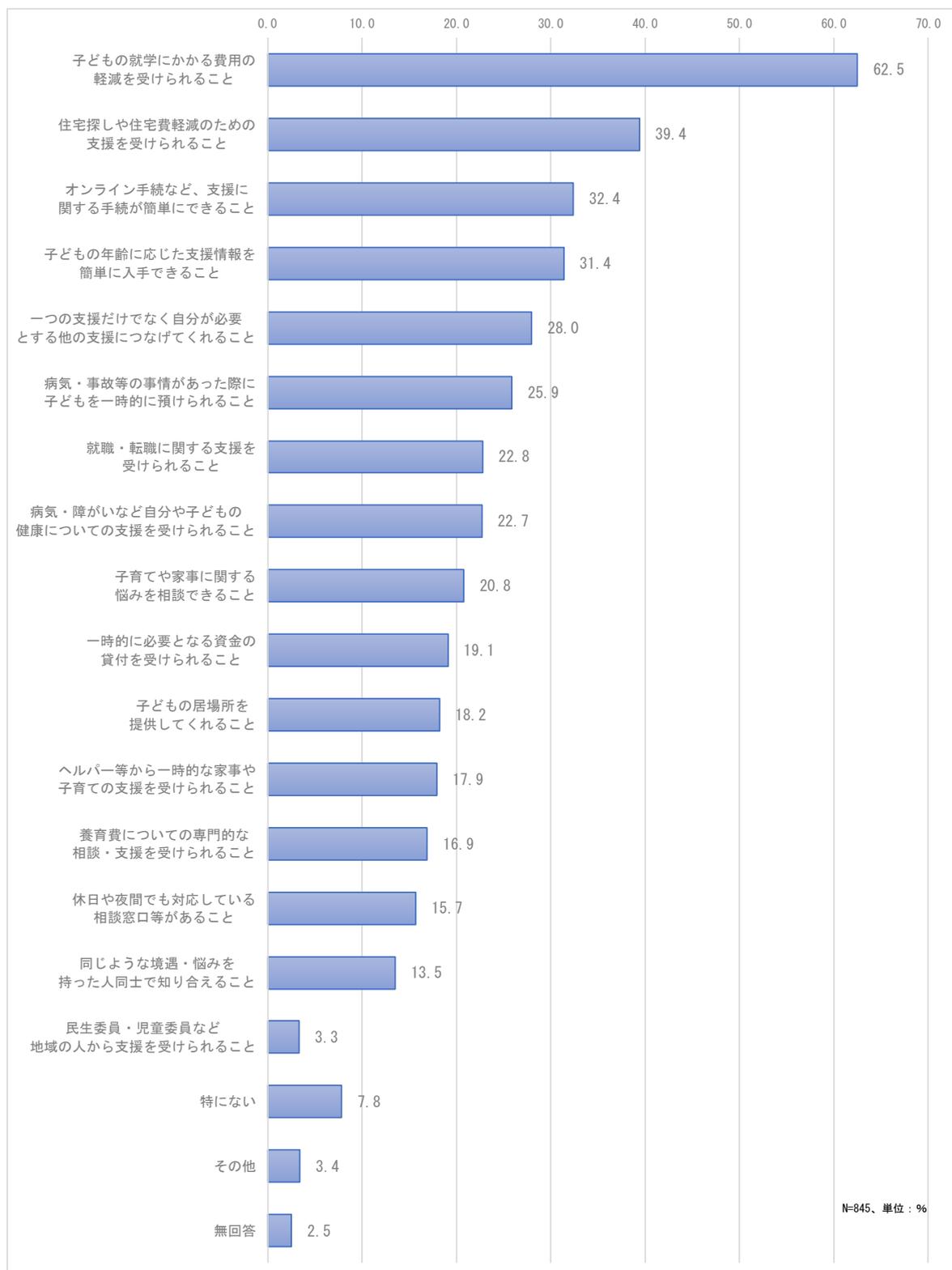


フ 必要だと思う支援等(問 28)

必要だと思う支援等は、「子どもの就学にかかる費用の軽減を受けられること」(62.5%)が最多で、「住宅探しや住宅費軽減のための支援を受けられること」(39.4%)、「オンライン手続など、支援に関する手続が簡単にできること」(32.4%)が続く。

なお、「その他」の例として、「外国語で対応してくれる窓口」などがあつた。

図表 37 必要だと思う支援等 (複数回答)



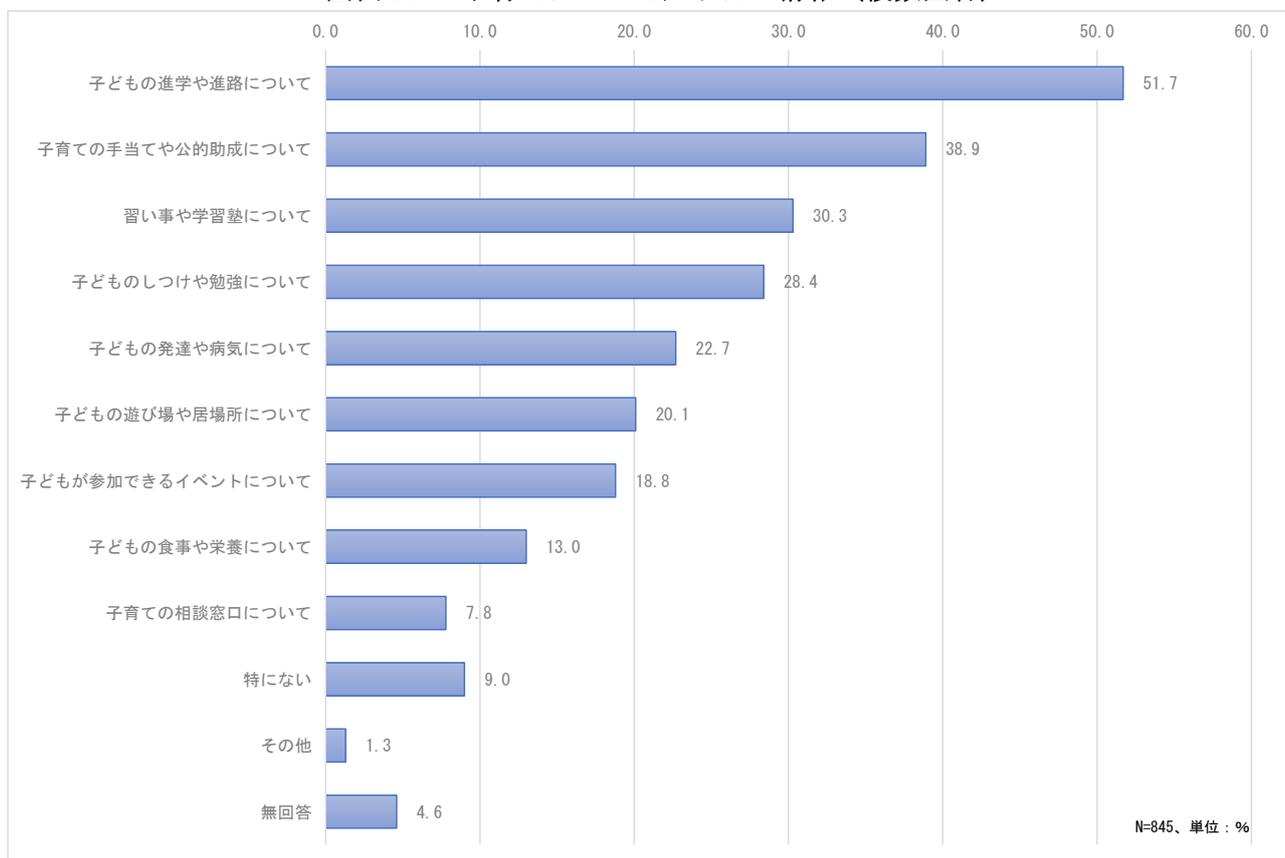
へ 子育てについて知りたい情報(問 29)

子育てについて知りたい情報は、「子どもの進学や進路について」(51.7%)が最多で、「子育ての手当てや公的助成について」(38.9%)、「習い事や学習塾について」(30.3%)が続く。

なお、「特にない」理由は、「もう子どもが大きい」、「情報を聞ける人脈がある」、「ネットで調べる」などがあつた。

また、「その他」の例として、「親側のメンタルケア」、「中学生以上の不登校生徒の支援」などがあつた。

図表 38 子育てについて知りたい情報 (複数回答)

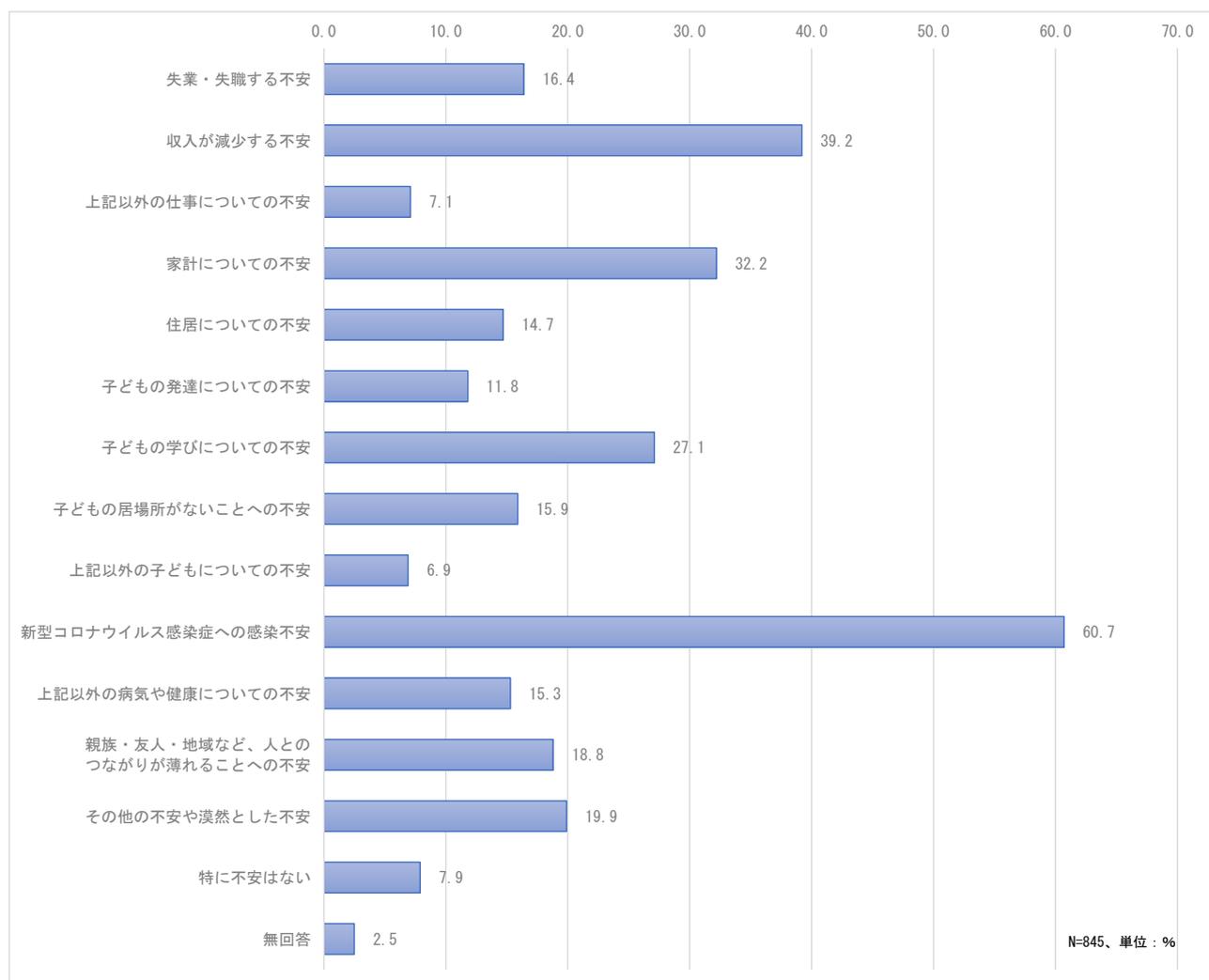


ホ 新型コロナウイルス感染症に関して、現在抱えている不安(問 30)

新型コロナウイルス感染症に関し、現在抱えている不安は、「新型コロナウイルス感染症への感染不安」(60.7%)が最多で、「収入が減少する不安」(39.2%)、「家計についての不安」(32.2%)、「子どもの学びについての不安」(27.1%)が続く。

なお、「上記以外の子どもについての不安」の例として、「子どもが外で安全に遊べない」、「楽しみにしていた行事等ができないまま卒業がせままっていることがかわいそう」、「自分が感染した時の子どもの居場所や短期間の預かり」、「不登校」などがあつた。

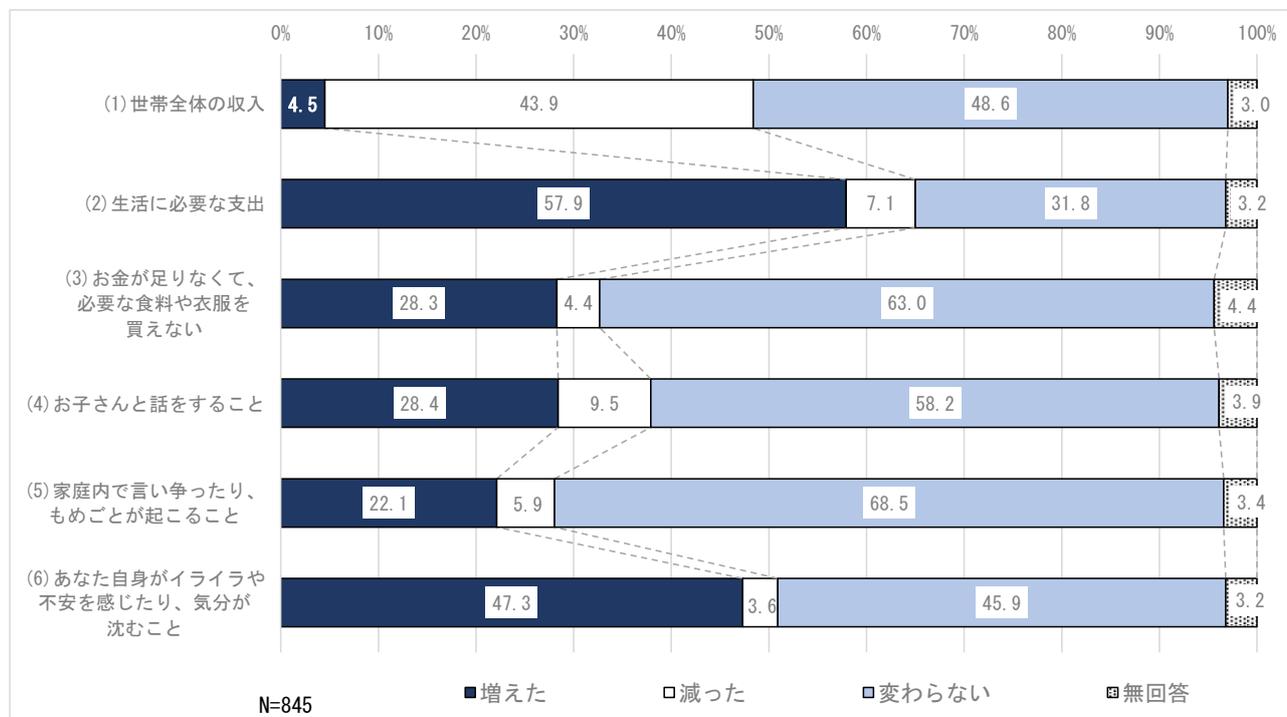
図表 39 新型コロナウイルス感染症に関して、現在抱えている不安(複数回答)



マ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の前後の家庭生活の変化(問 31)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の前後の家庭生活の変化は、「世帯全体の収入」が「減った」(43.9%)一方、「生活に必要な支出」は「増えた」(57.9%)とする。また、回答者自身が「イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと」が「増えた」(47.3%)とする。

図表 40 コロナ拡大前後の家庭生活の変化

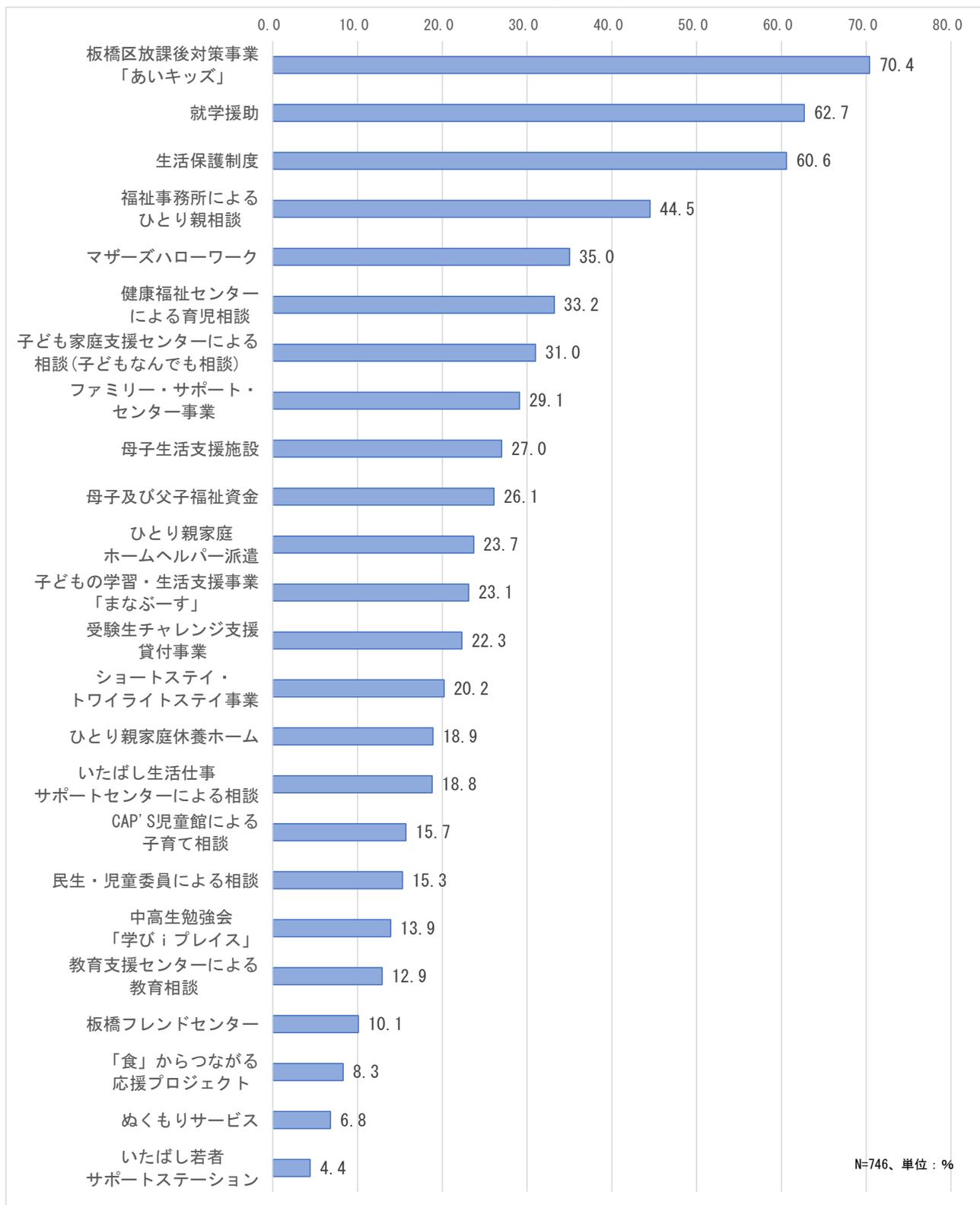


ミ 知っている支援制度・利用したことがある支援制度(問 32)

(ア) 知っている支援制度

「子育て家庭への支援策」として例示した 24 事業のうち「知っていて利用したことがある」又は「(利用したことはないが)知っている」支援制度は、「板橋区放課後対策事業「あいキッズ」(70.4%)が最多で、「就学援助」(62.7%)、「生活保護制度」(60.6%)と続く。

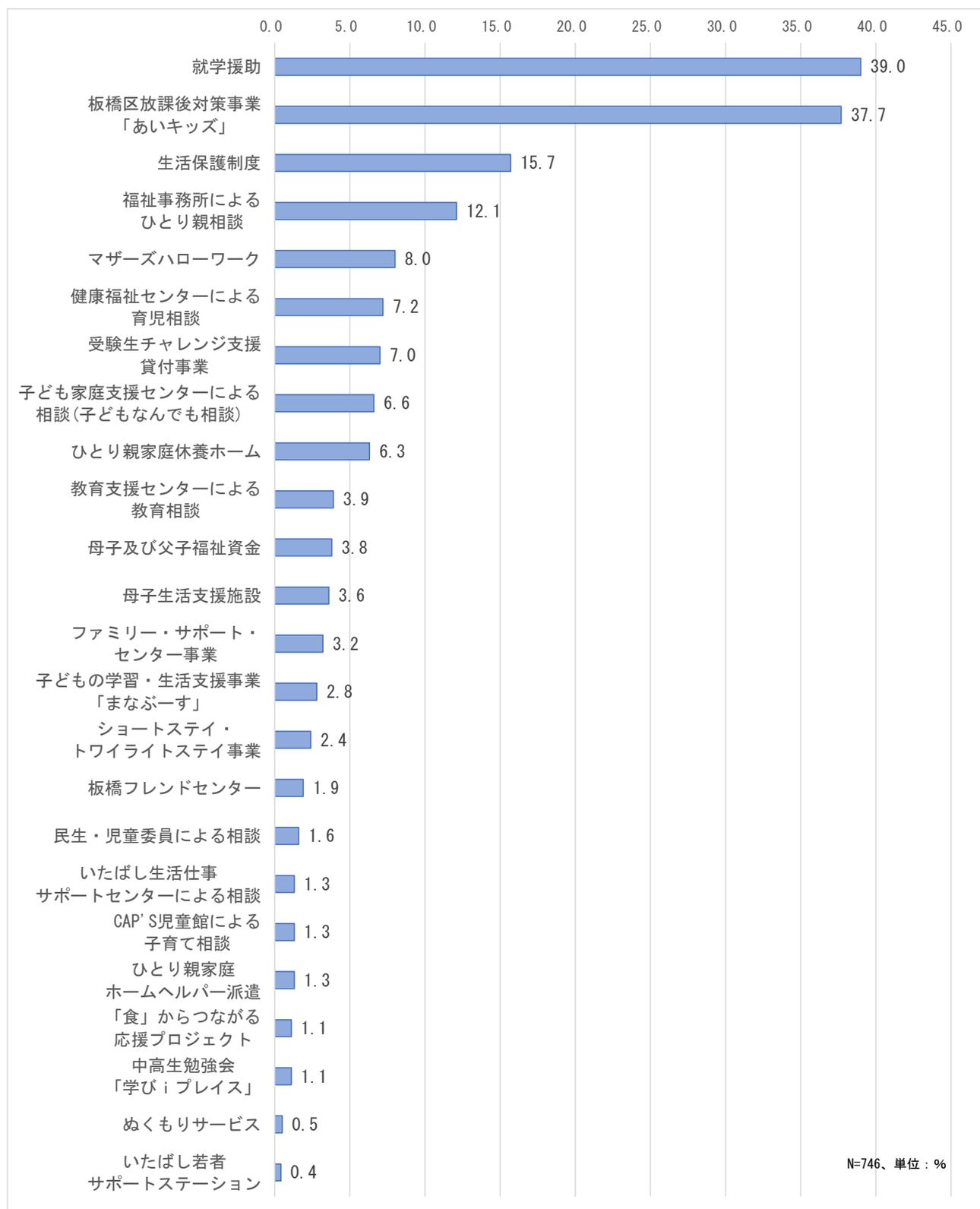
図表 41 知っている支援策 (複数回答)



(イ) (7)のうち、実際に利用したことがある支援制度

一方、「利用したことがある」制度は、「就学援助」(39.0%)が最多で、「板橋区放課後対策事業「あいキッズ」」(37.7%)、「生活保護制度」(15.7%)、「福祉事務所によるひとり親相談」(12.1%)が続く。

図表 42 利用したことがある支援策（複数回答）

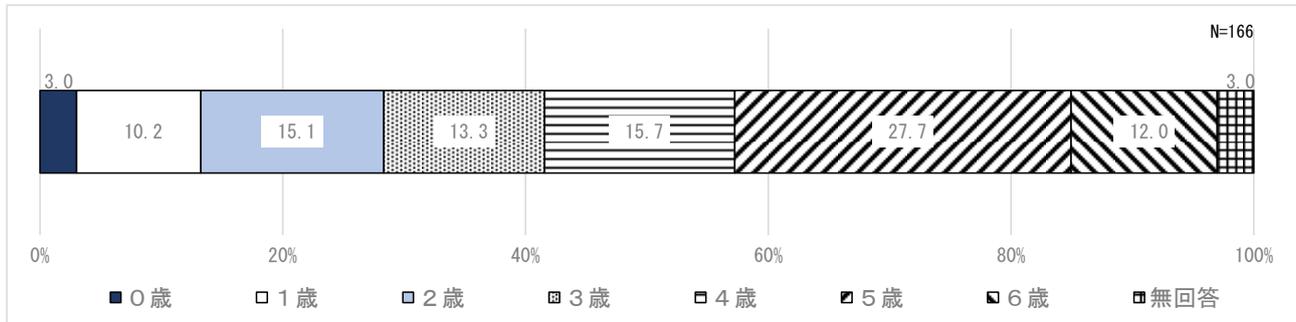


(2) 乳幼児期(問 33~40)

ア 小学校入学前の子どものうち、最年長の子どもの年齢(問 33)

「5歳」(27.7%)が最多で、「4歳」(15.7%)、「2歳」(15.1%)が続く。

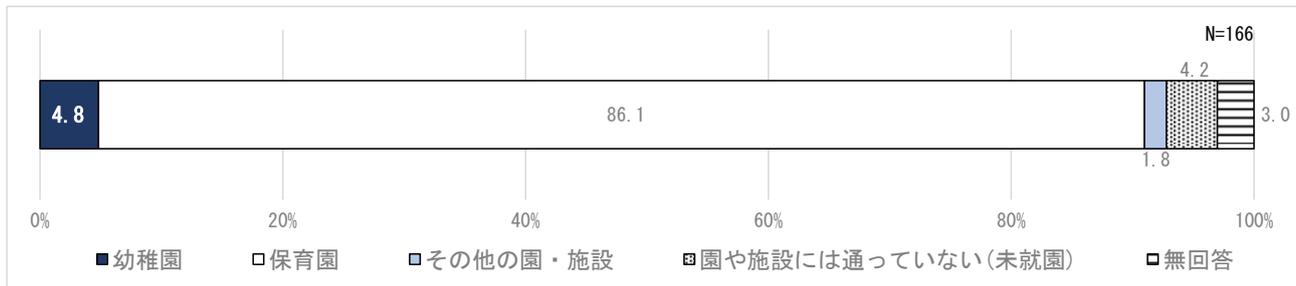
図表 43 小学校入学前の子どものうち、最年長の子どもの年齢



イ 子どもの就園状況(問 34)

「保育園」、「幼稚園」、「その他の園・施設」を合わせた割合は 92.7%で、就園児が 9 割を超える。

図表 44 子どもの就園状況

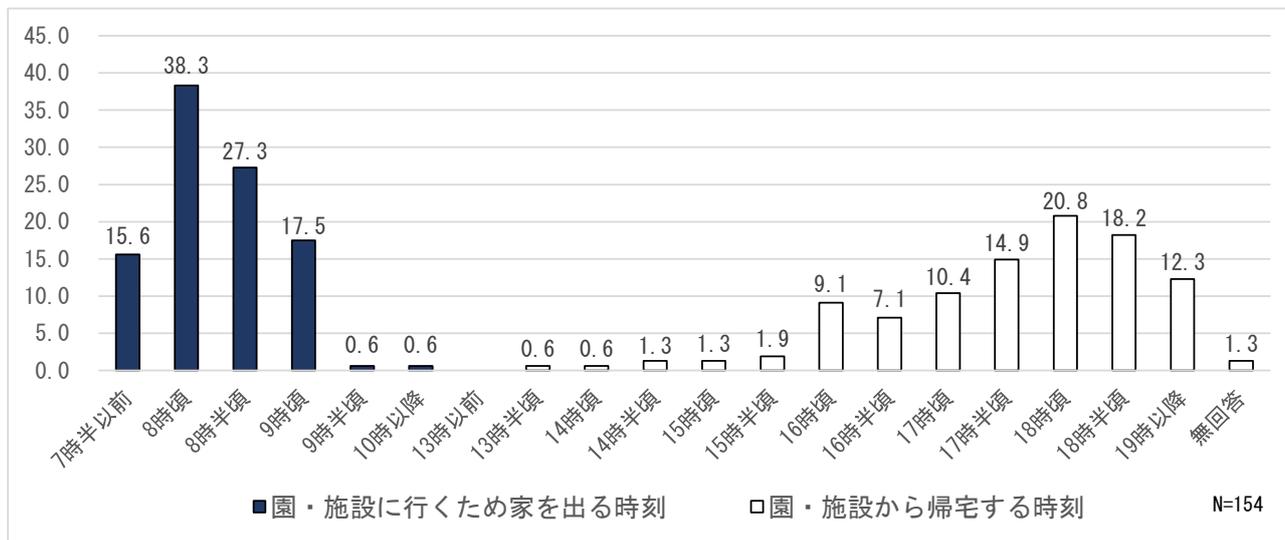


ウ 園・施設の利用について

(7) 家を出る時刻・帰宅する時刻(問 35- (1) (3))

園・施設に行くために家を出る時刻は、「8時頃」(38.3%)が最も多く、帰宅する時刻は「18時頃」(20.8%)が最も多い。

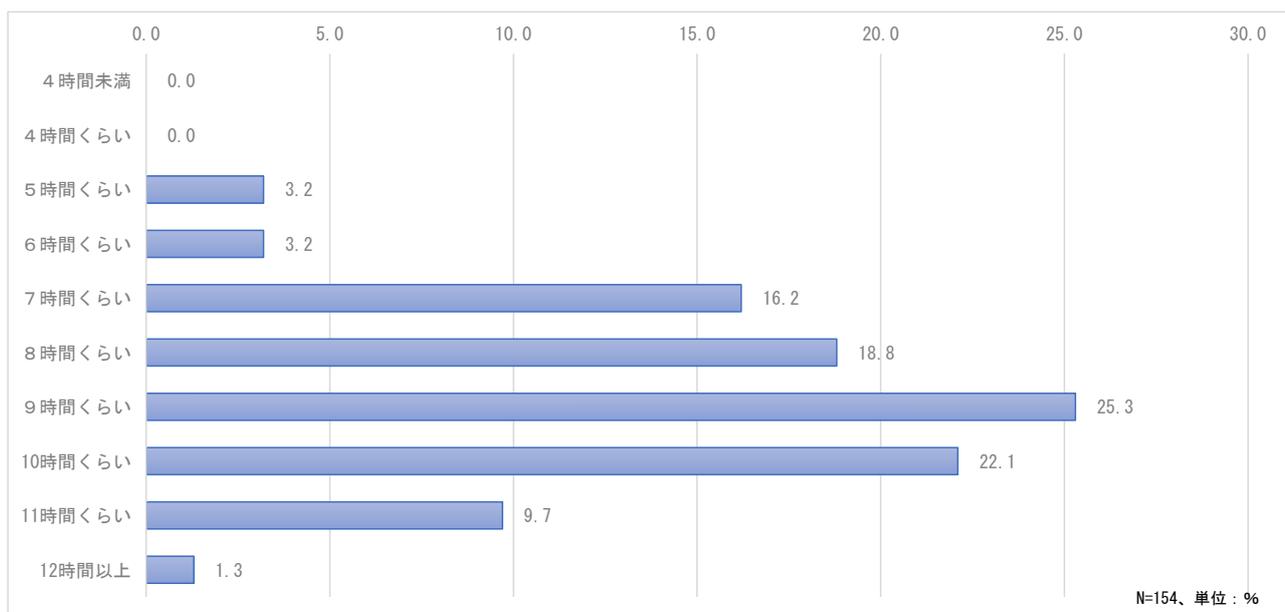
図表 45 家を出る時刻・帰宅する時刻



(4) 園・施設で過ごす時間(問 35- (2))

子どもが園・施設で過ごす時間は、「9時間くらい」(25.3%)が最も多い。

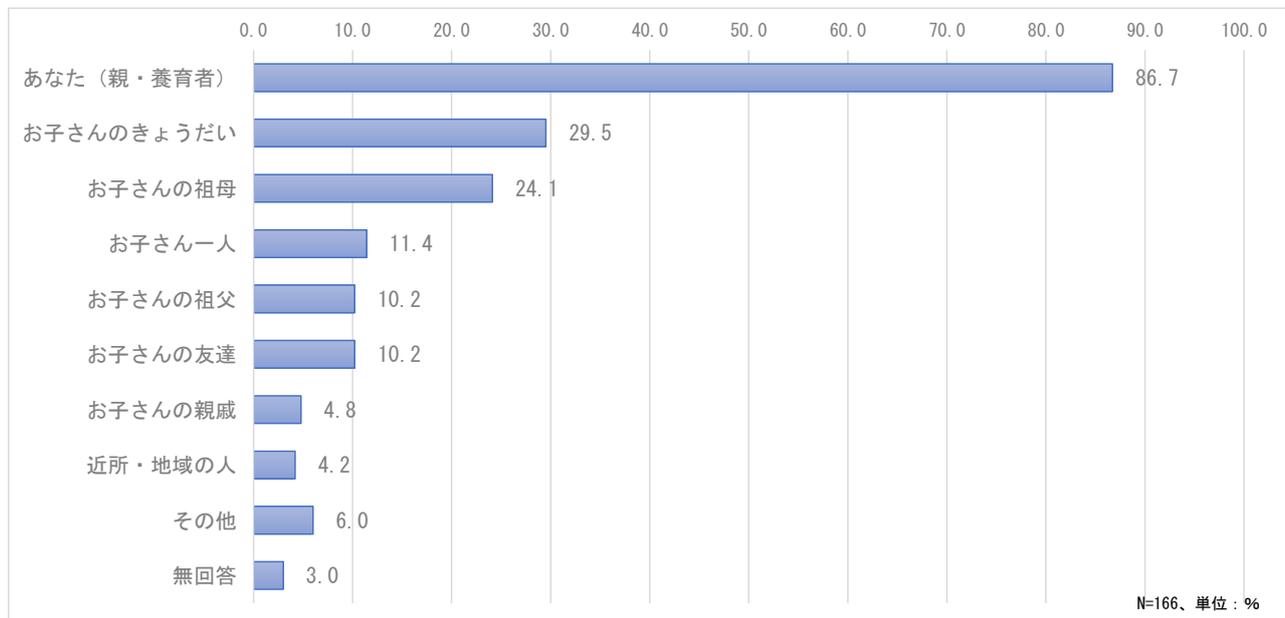
図表 46 園・施設で過ごす時間



エ 子どもが幼稚園・保育園以外で遊ぶときの相手(問 36)

平日に、子どもが幼稚園・保育園以外で遊ぶときの遊び相手は、「あなた(親・養育者)」(86.7%)が最も多い。「お子さん一人」も約1割あった(11.4%)。なお、「その他」の例として、「ヘルパー」、「私(回答者)の友人」などがあつた。

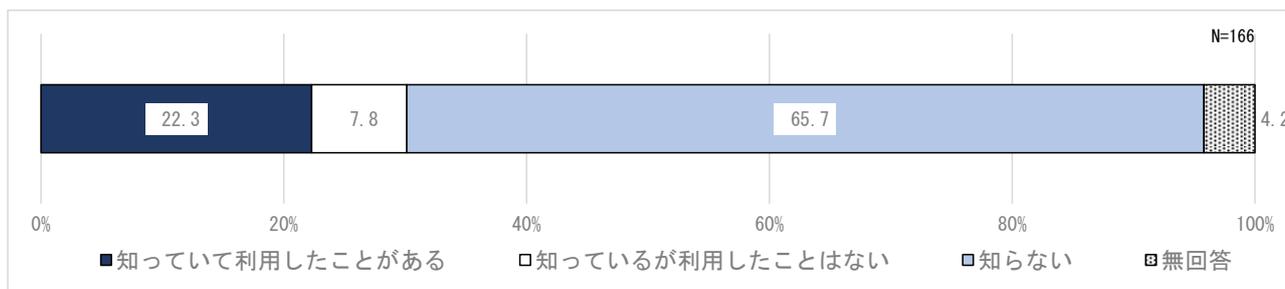
図表 47 子どもが幼稚園・保育園以外で遊ぶときの相手(複数回答)



オ 「妊婦面接(妊婦・出産ナビゲーション事業)」の認知度(問 37)

「妊婦面接(妊婦・出産ナビゲーション事業)」の認知は、「知っているが利用したことはない」と「知っているが利用したことはない」を合わせた割合がおよそ3割となっている(30.1%)。

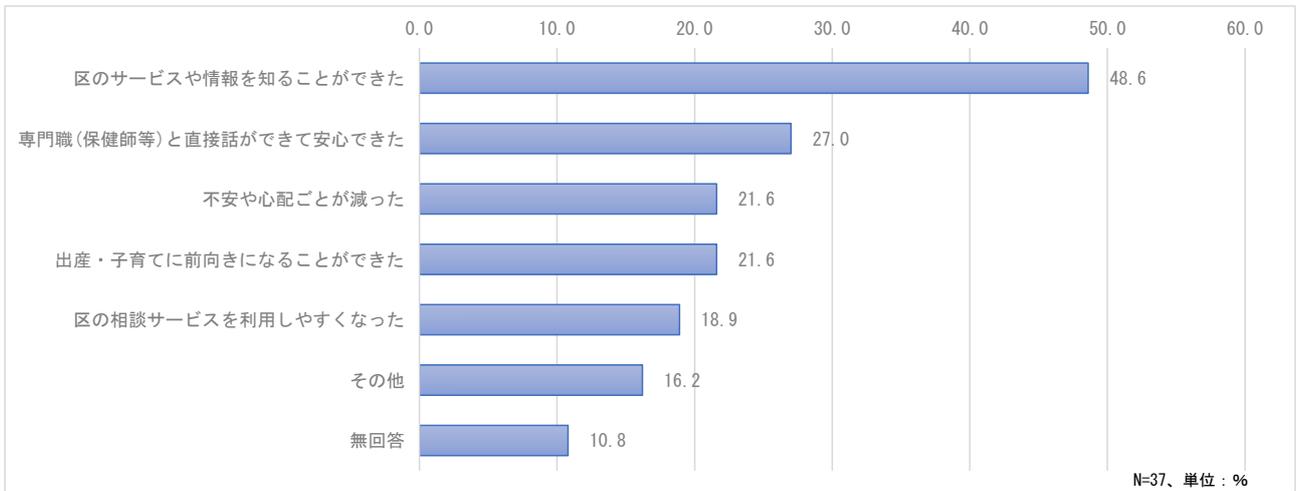
図表 48 「妊婦面接(妊婦・出産ナビゲーション事業)」の認知度



カ 妊婦面接を受ける前後で生じた変化(問 38)

妊婦面接を受ける前後で生じた変化は、「区のサービスや情報を知ることができた」(48.6%)が最多で、「専門職(保健師等)と直接話ができ安心できた」(27.0%)が続く。

図表 49 面接を受ける前後で生じた変化(複数回答)

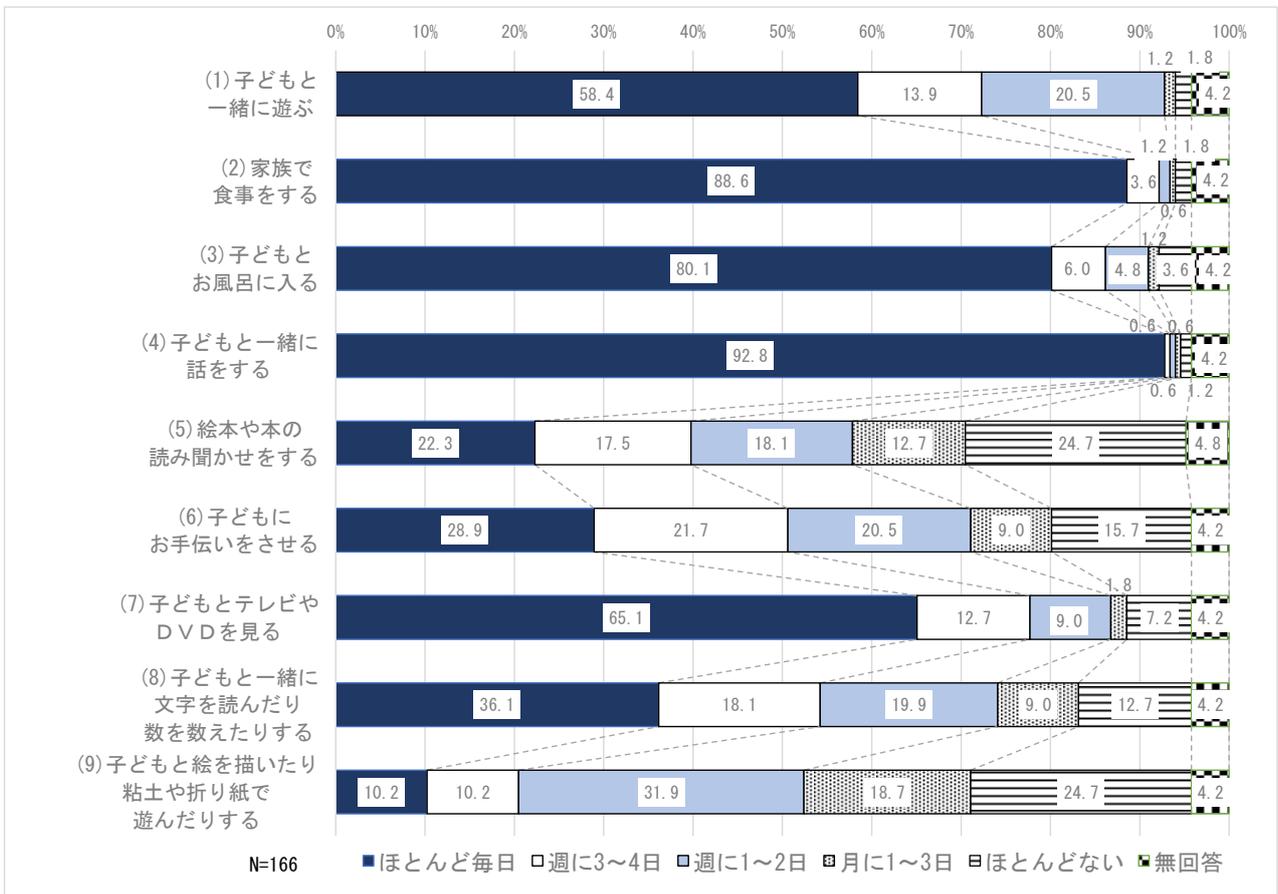


キ 家庭で子どもとすること(問 39)

家庭で子どもとすることについて、「ほとんど毎日」する割合が高いものは、「子どもと一緒に話をする」(92.8%)、「家族で食事をする」(88.6%)、「子どもとお風呂に入る」(80.1%)がある。

一方「ほとんどない」割合が高いものは、「子どもと絵を描いたり粘土や折り紙で遊んだりする」・「絵本や本の読み聞かせをする」(24.7%)がある。

図表 50 家庭で子どもとすること

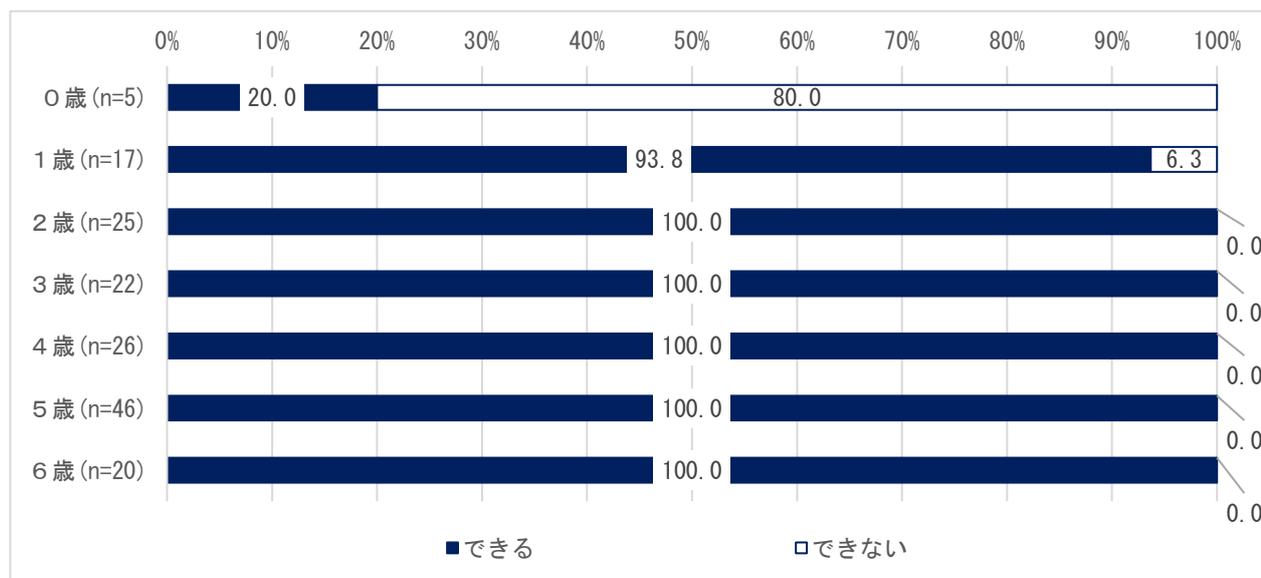


ク ひとりでできること(問 40)

12 項目の事柄を例示して、子どもがひとりでできることができるかを尋ねたところ、概ね年齢を経るにつれて、ひとりで「できる」ようになっていき、6 歳児の段階では、多くのことをひとりで「できる」ようになっているが、「決まった時間に起床・就寝する」については、年齢を経ても「できない」とする割合が比較的高い(6 歳児の段階で 20.0%が「できない」)。

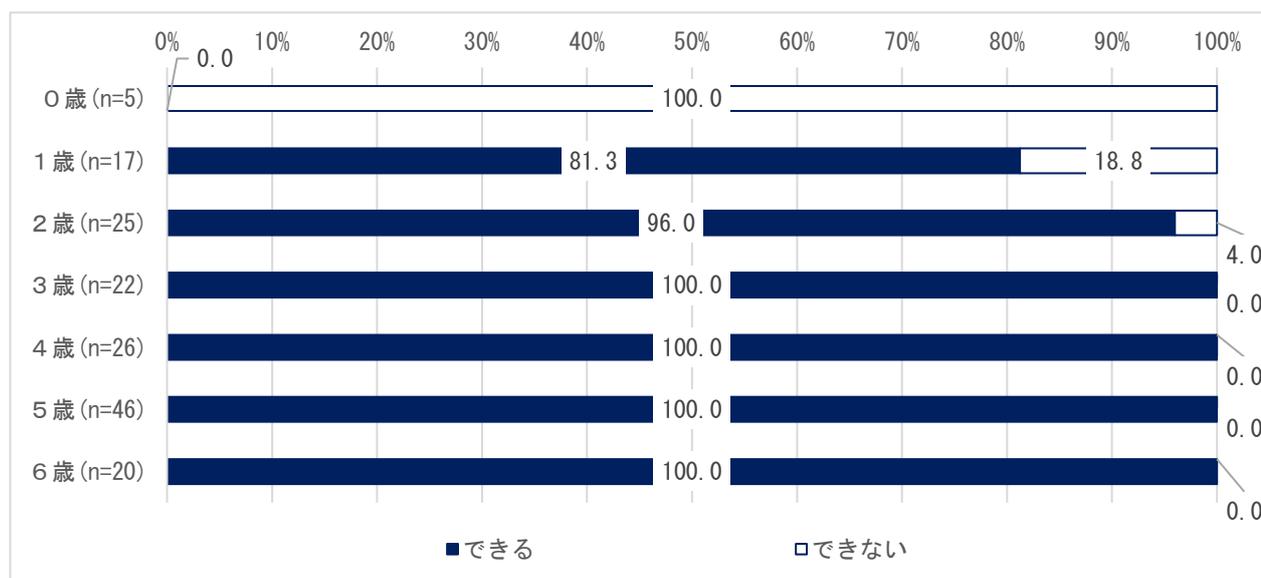
(7) コップを手で持って飲む(問 40-(1))

図表 51 子どもがひとりでできること (1)コップを手で持って飲む



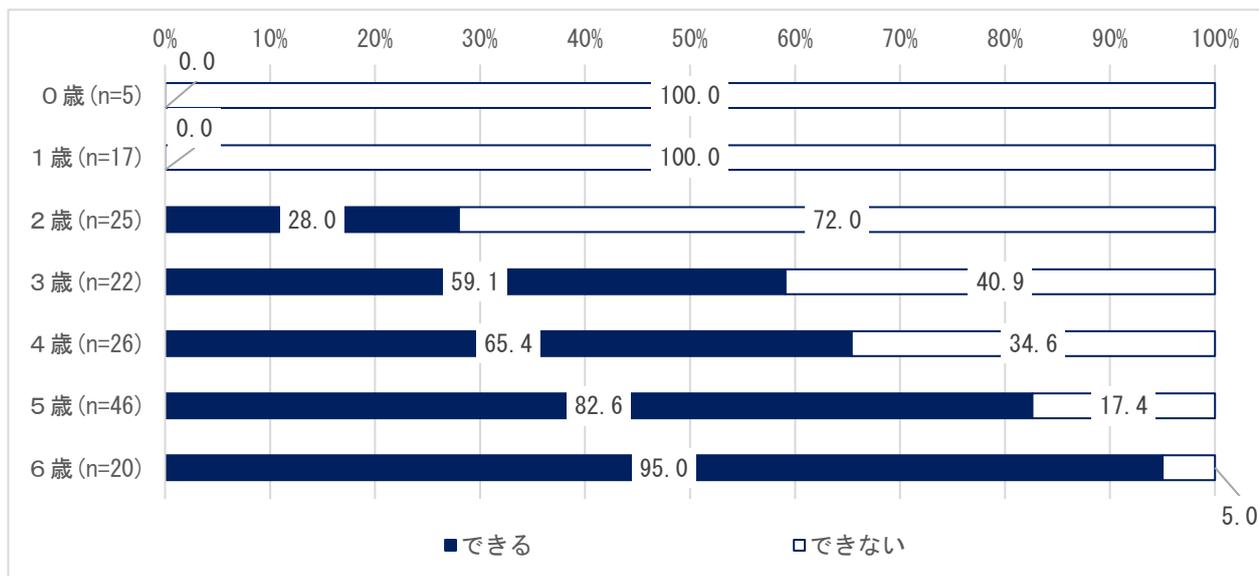
(イ) スプーンを使って食べる (問 40-(2))

図表 52 子どもがひとりでできること (2)スプーンを使って食べる



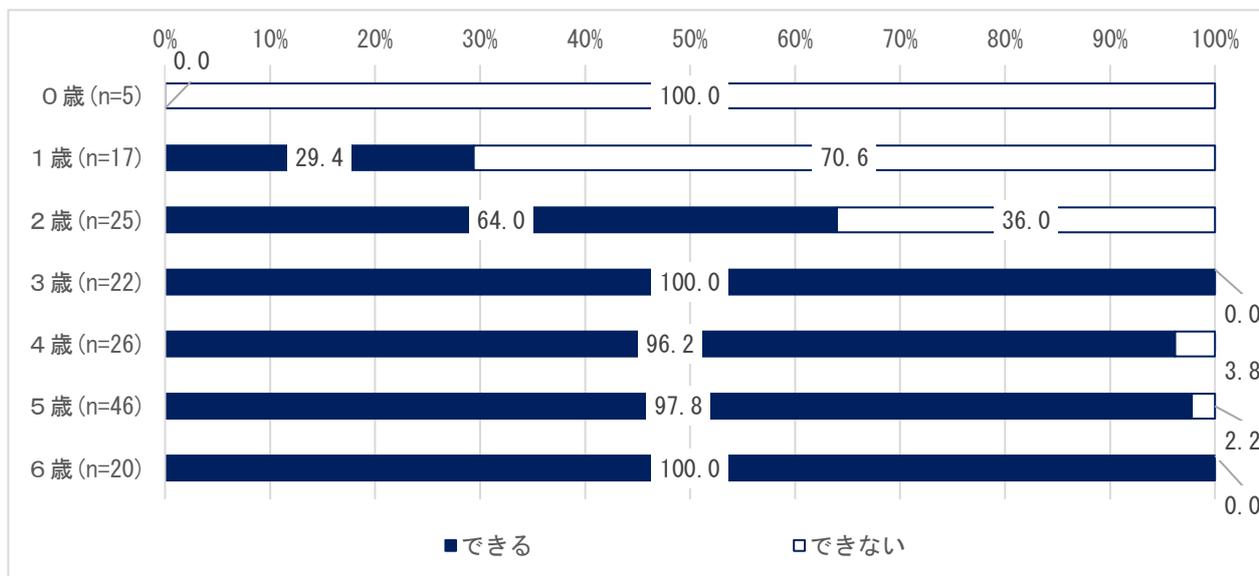
(ウ) おはしを使って食事をする (問 40-(3))

図表 53 子どもがひとりでできること (3)おはしを使って食事をする



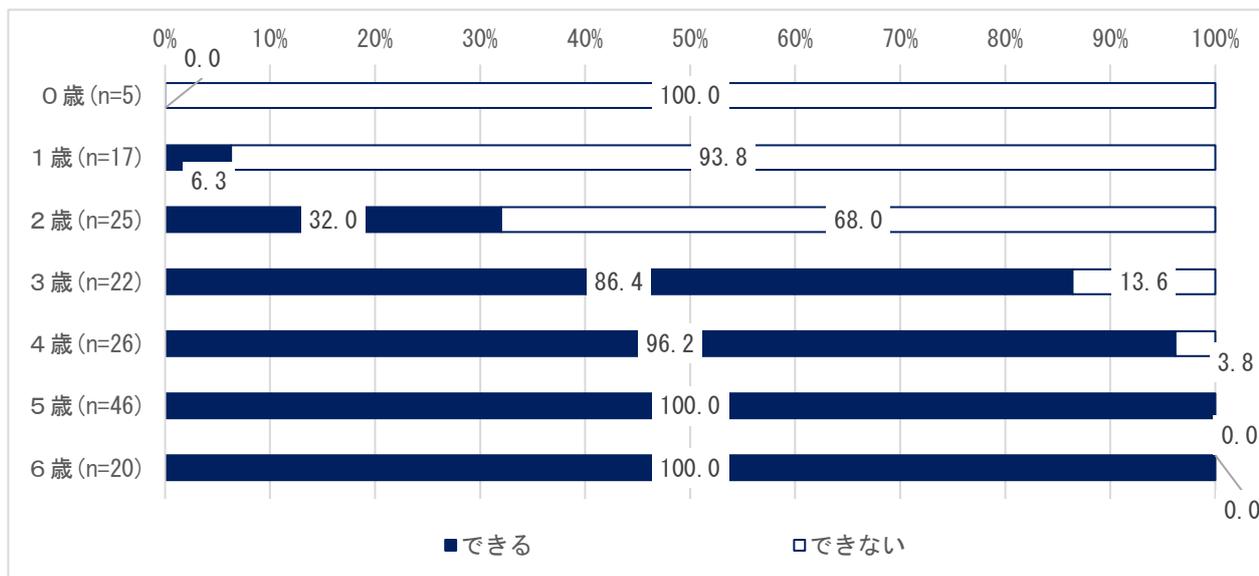
(エ) 歯をみがいて口をすすぐ (問 40-(4))

図表 54 子どもがひとりでできること (4)歯をみがいて口をすすぐ



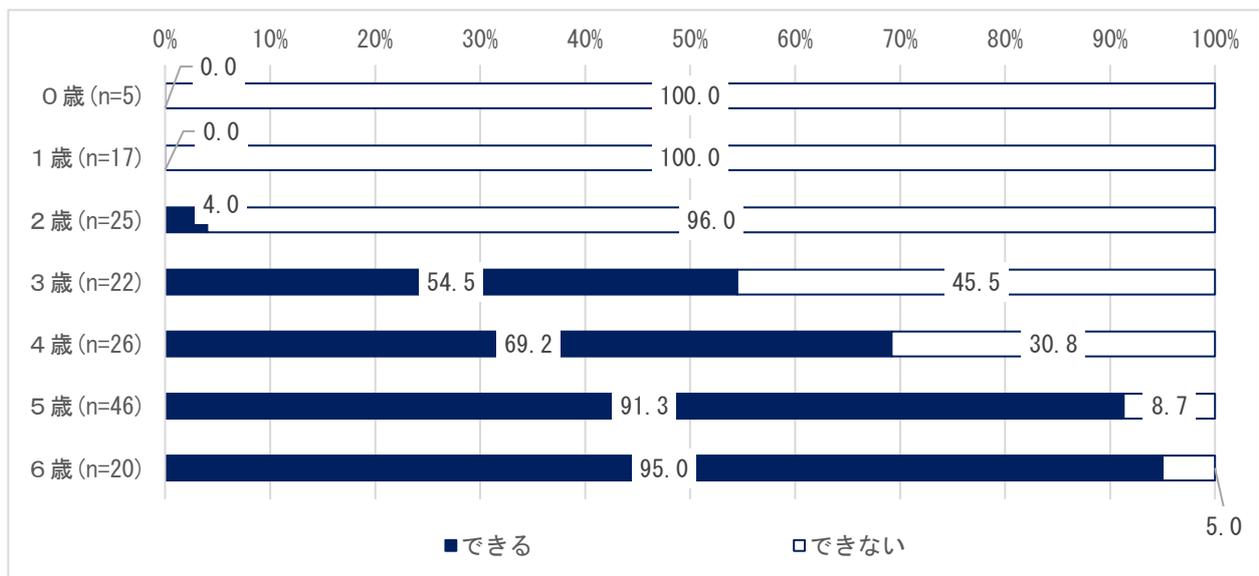
(オ) おしっこをする前に知らせる(問 40-(5))

図表 55 子どもがひとりでできること (5)おしっこをする前に知らせる



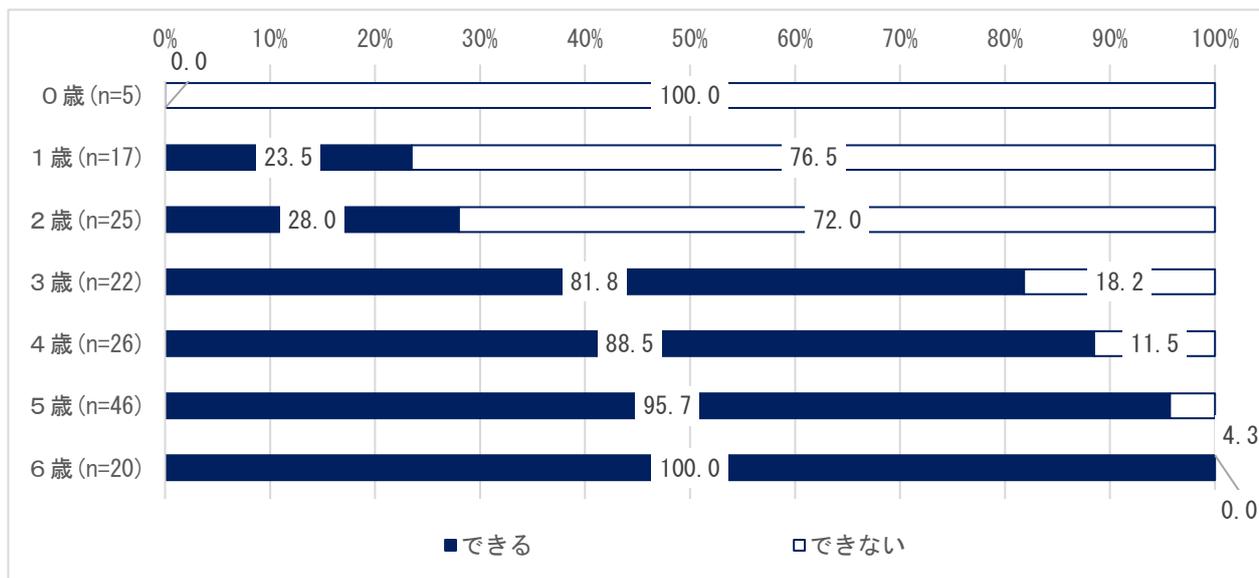
(カ) おむつをしないで寝る(問 40-(6))

図表 56 子どもがひとりでできること (6)おむつをしないで寝る



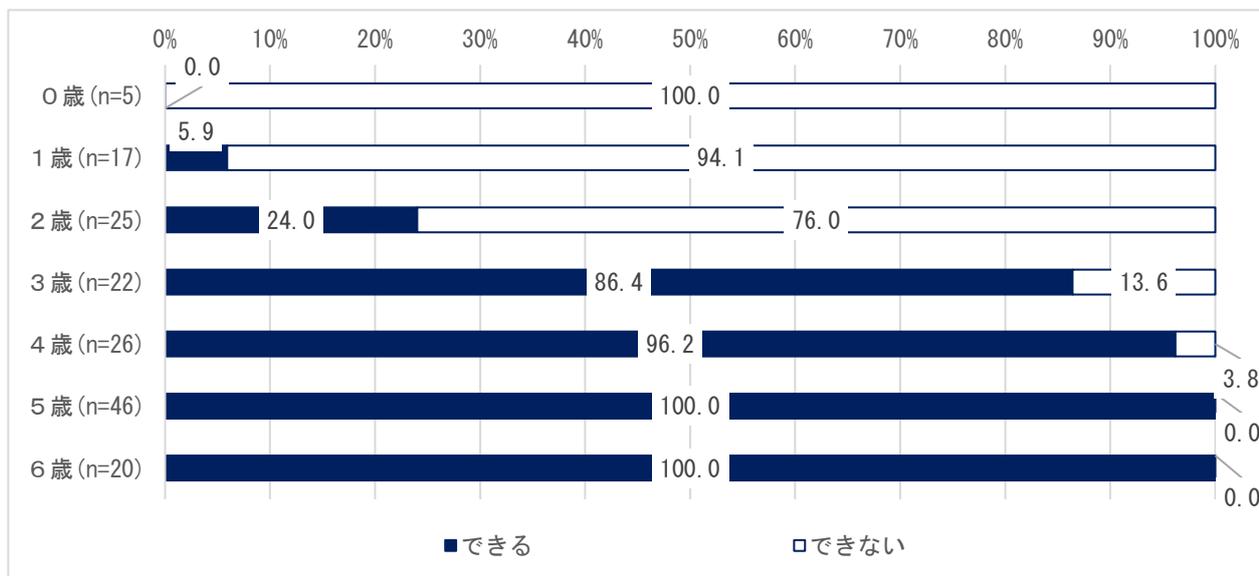
(キ) 自分でうんちができる(問40-(7))

図表57 子どもがひとりでできること (7)自分でうんちができる



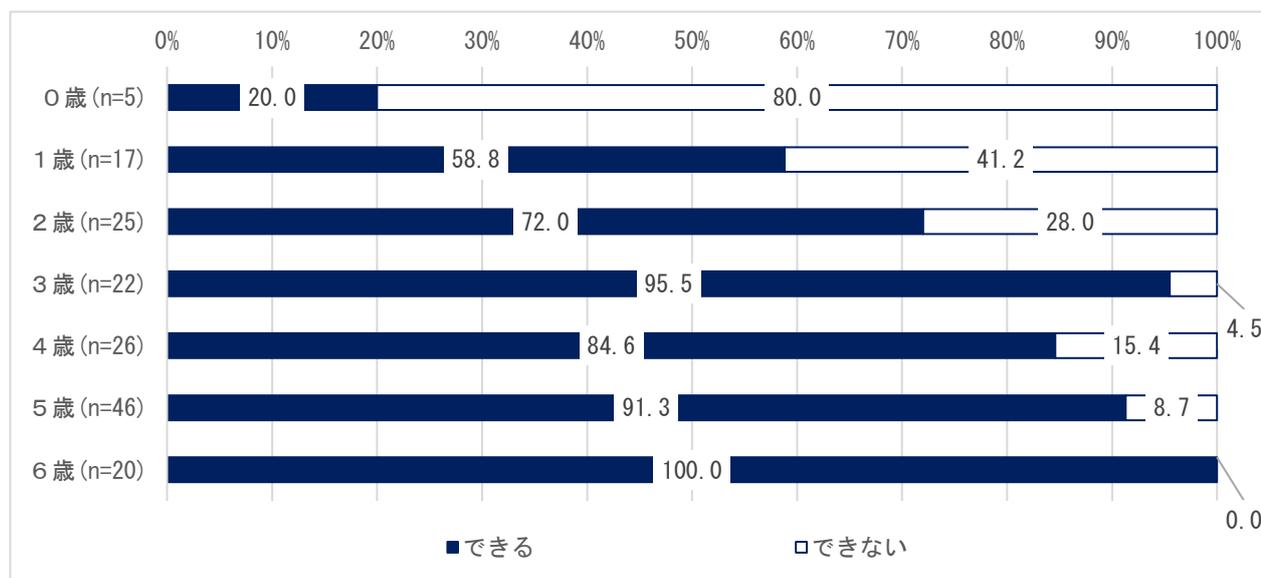
(ク) 自分でパンツを脱いでおしっこをする(問40-(8))

図表58 子どもがひとりでできること (8)自分でパンツを脱いでおしっこをする



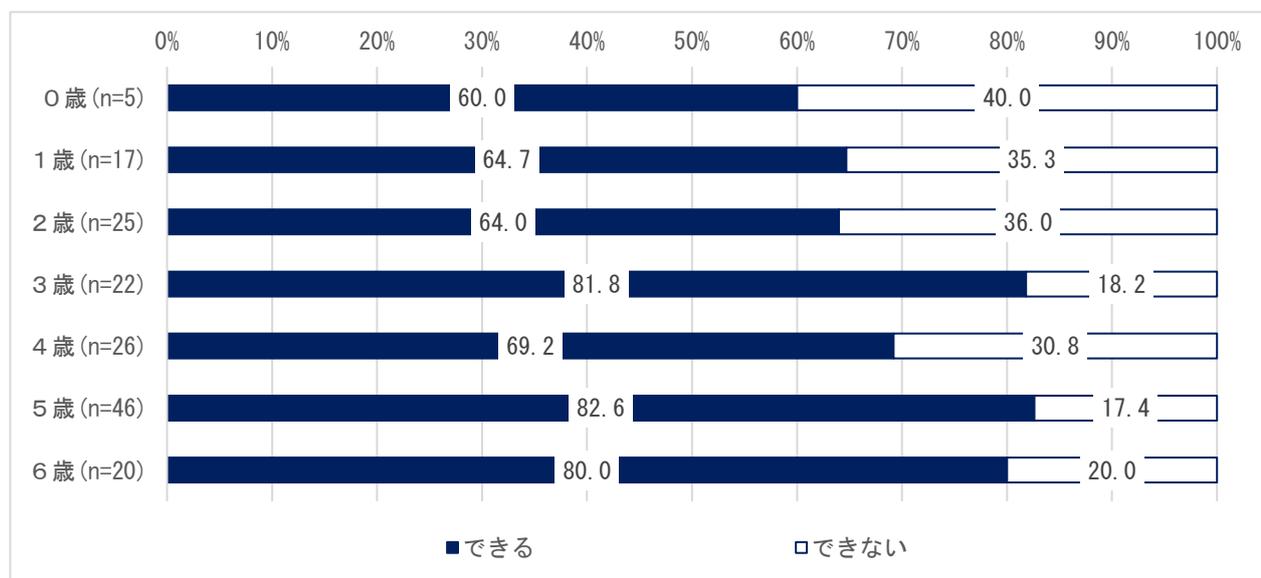
(ケ) 家族や周りの人にあいさつする(問 40-(9))

図表 59 子どもがひとりでできること (9)家族や周りの人にあいさつする



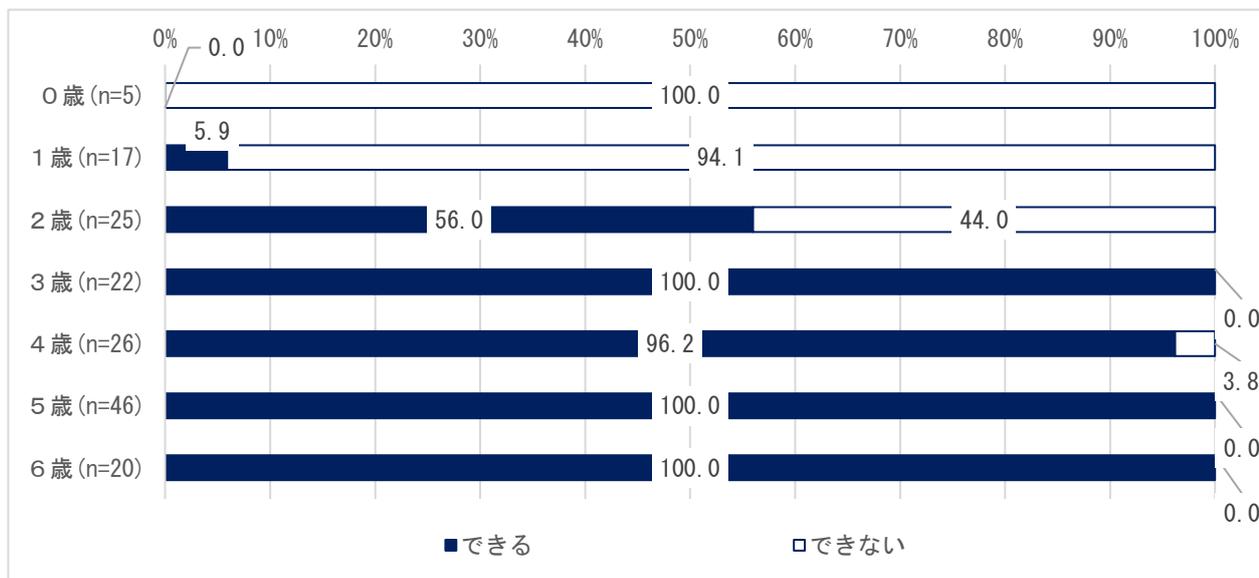
(コ) 決まった時間に起床・就寝する(問 40-(10))

図表 60 子どもがひとりでできること (10)決まった時間に起床・就寝する



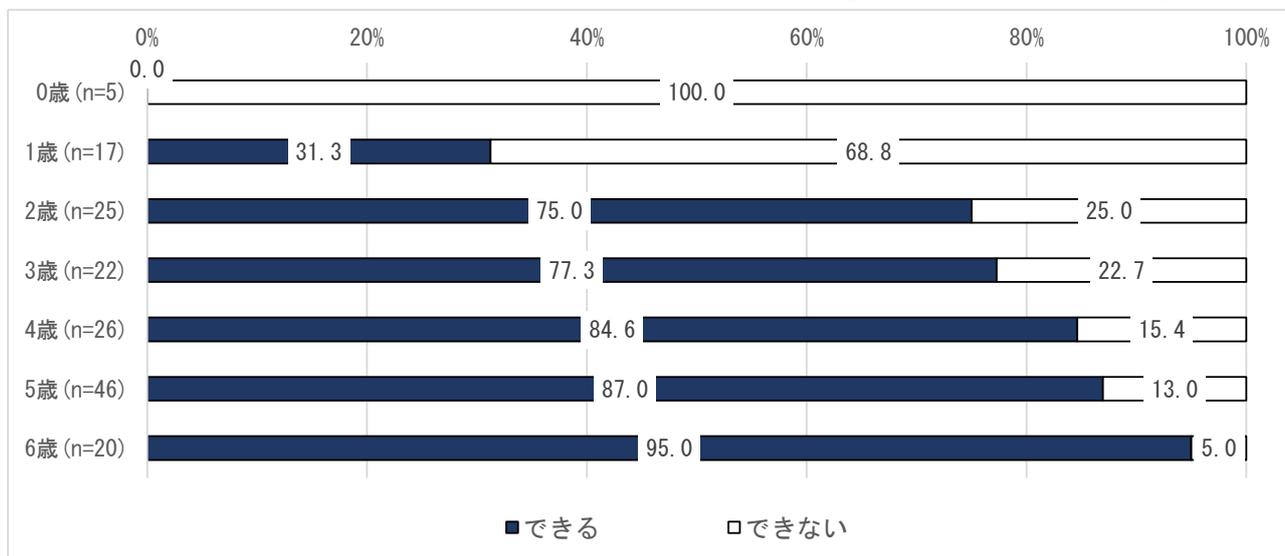
(サ) ひとりで洋服の着脱ができる(問40-(11))

図表 61 子どもがひとりでできること (11)ひとりで洋服の着脱ができる



(シ) ひとりで遊んだあとの片付けができる(問40-(12))

図表 62 子どもがひとりでできること (12)ひとりで遊んだあとの片付けができる



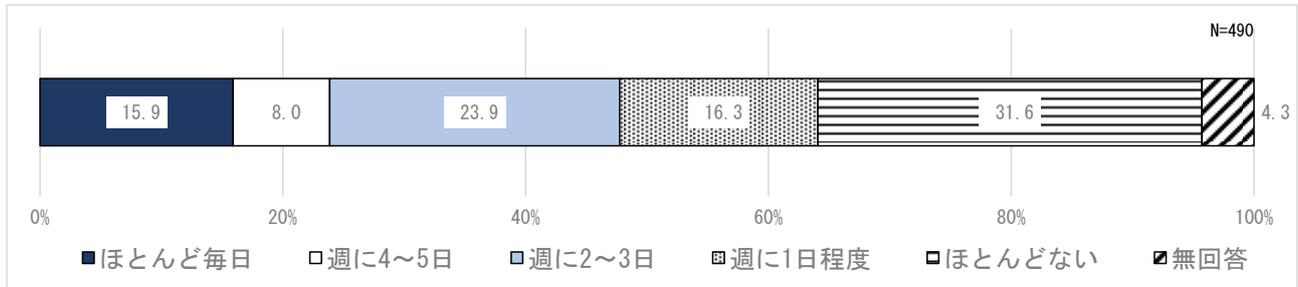
(3) 義務教育期(問 41～56)

ア 家事を手伝う頻度・きょうだいの世話をする頻度

(7) 家事の手伝い(問 41- (1))

子どもが家事を手伝う頻度は、「ほとんどない」(31.6%)が最多だが、一方で、「ほとんど毎日」という回答も1割以上あった(15.9%)。

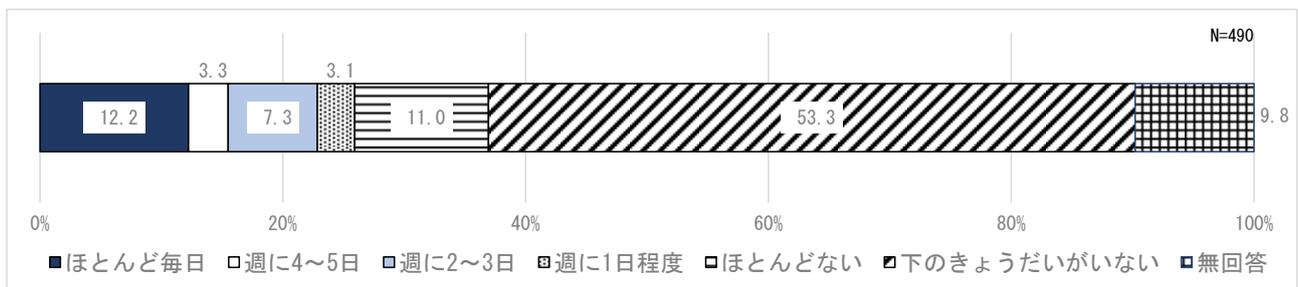
図表 63 家事の手伝い



(イ) 下のきょうだいの世話の頻度(問 41- (2))

下のきょうだいの世話の頻度は、「下のきょうだいがいない」(53.3%)が最多だが、下のきょうだいがいる家庭の場合は、「ほとんど毎日」(12.2%)が最多となっている。

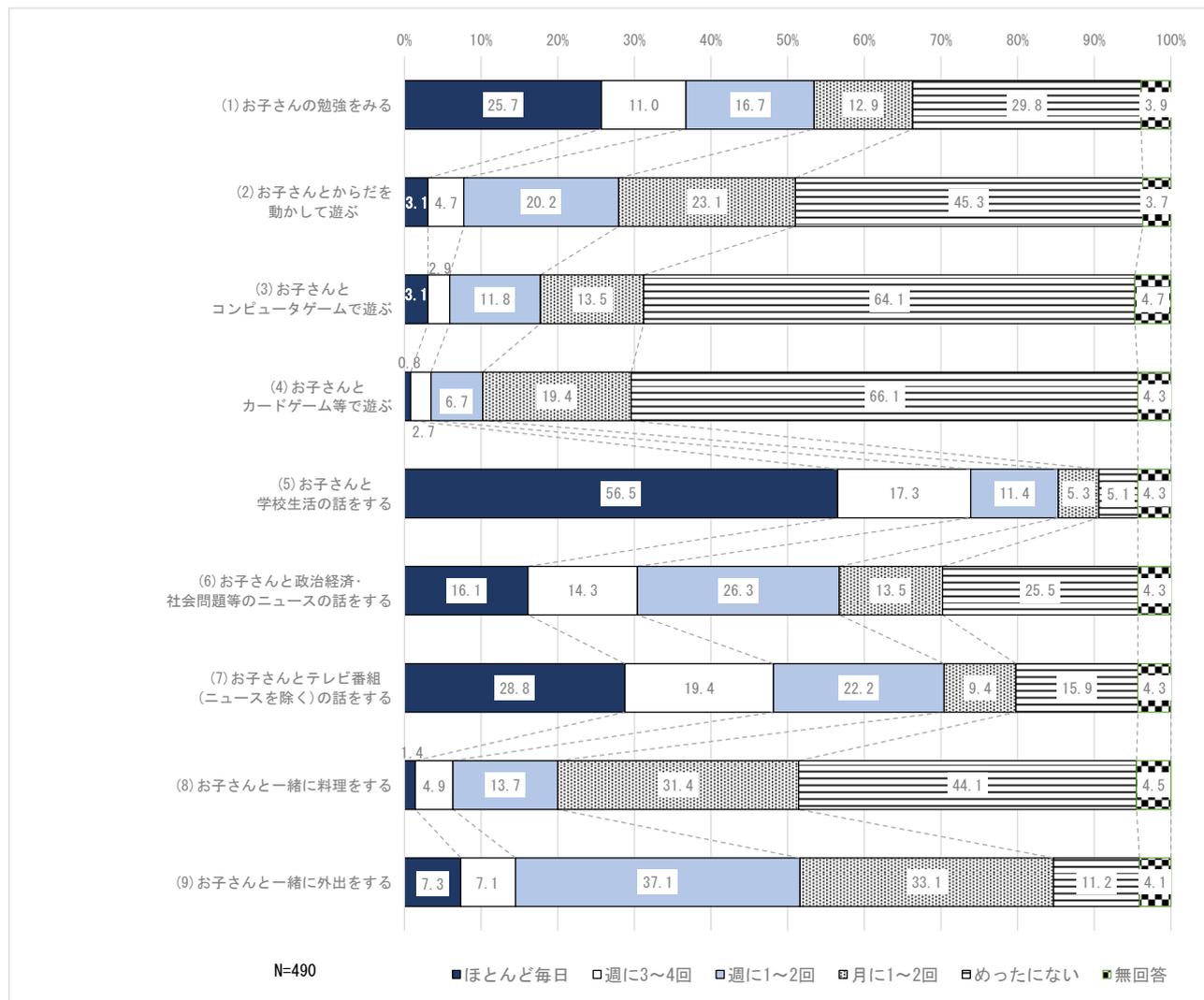
図表 64 下のきょうだいの世話



イ 家庭で子どもとすること(問 42)

家庭で子どもとすることについて、「ほとんど毎日」、「週に3～4回」、「週に1～2回」、「月に1～2回」を合わせた割合(月に1～2回以上行っていること)が高いものは、「子どもと学校生活の話をする」(90.5%)、「子どもと一緒に外出をする」(84.6%)、「子どもとテレビ番組(ニュースを除く)の話をする」(79.8%)、「子どもと政治経済・社会問題等のニュースの話をする」(70.2%) などとなっている。

図表 65 家庭で子どもとすること

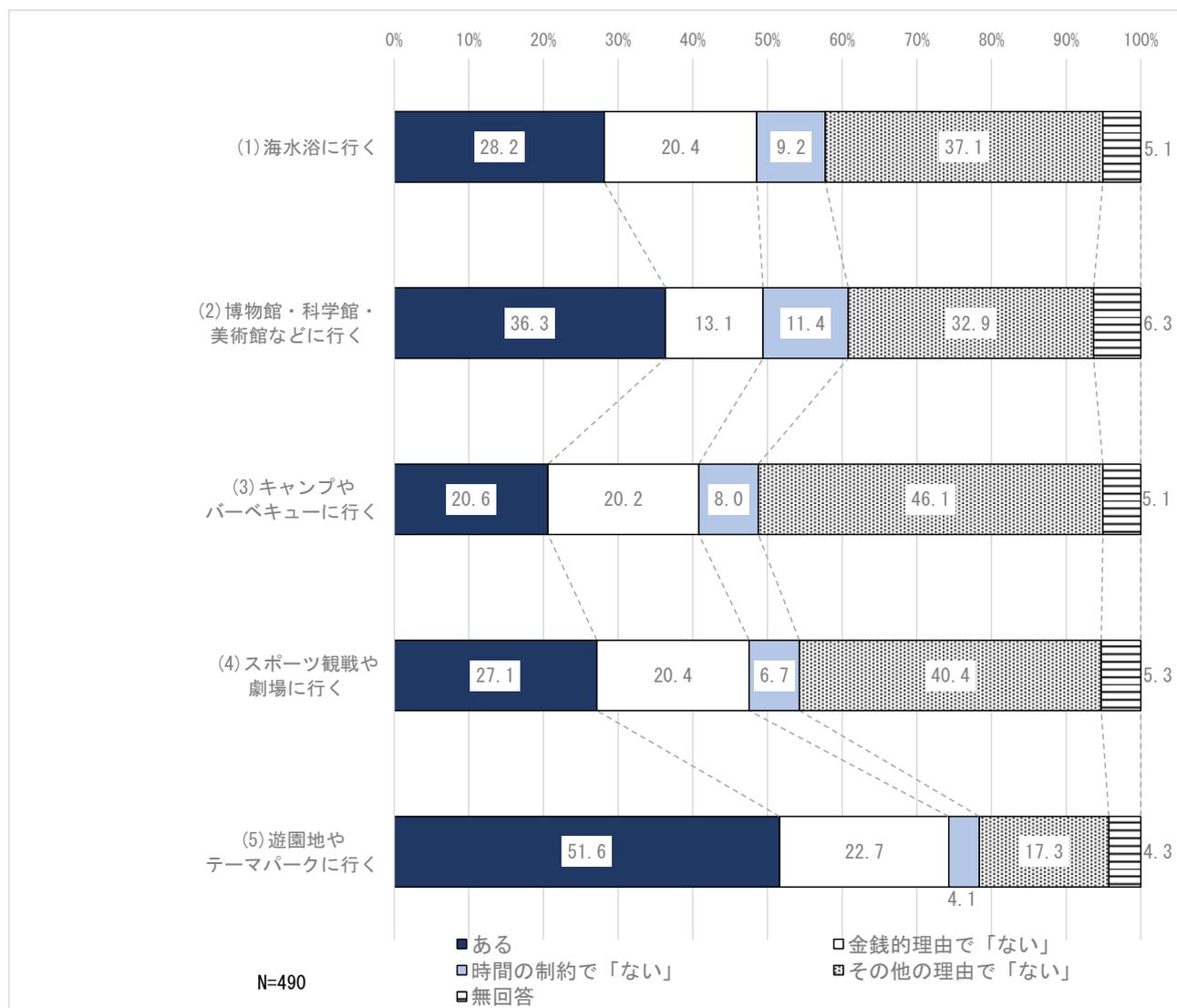


ウ 子どもの体験(過去2年間)(問43)

過去2年間に、子どもと体験したことの「ある」割合が高いものは、「遊園地やテーマパークに行く」(51.6%)、「博物館・科学館・美術館などに行く」(36.3%)などとなっている。

一方、金銭的理由で「ない」割合が高いものは、「遊園地やテーマパークに行く」(22.7%)、「海水浴に行く」・「スポーツ観戦や劇場に行く」(20.4%)などとなっており、「遊園地やテーマパークに行く」ことは、体験したことの「ある」割合も、金銭的理由で体験して「ない」割合も、どちらも高くなっている。

図表 66 子どもの体験

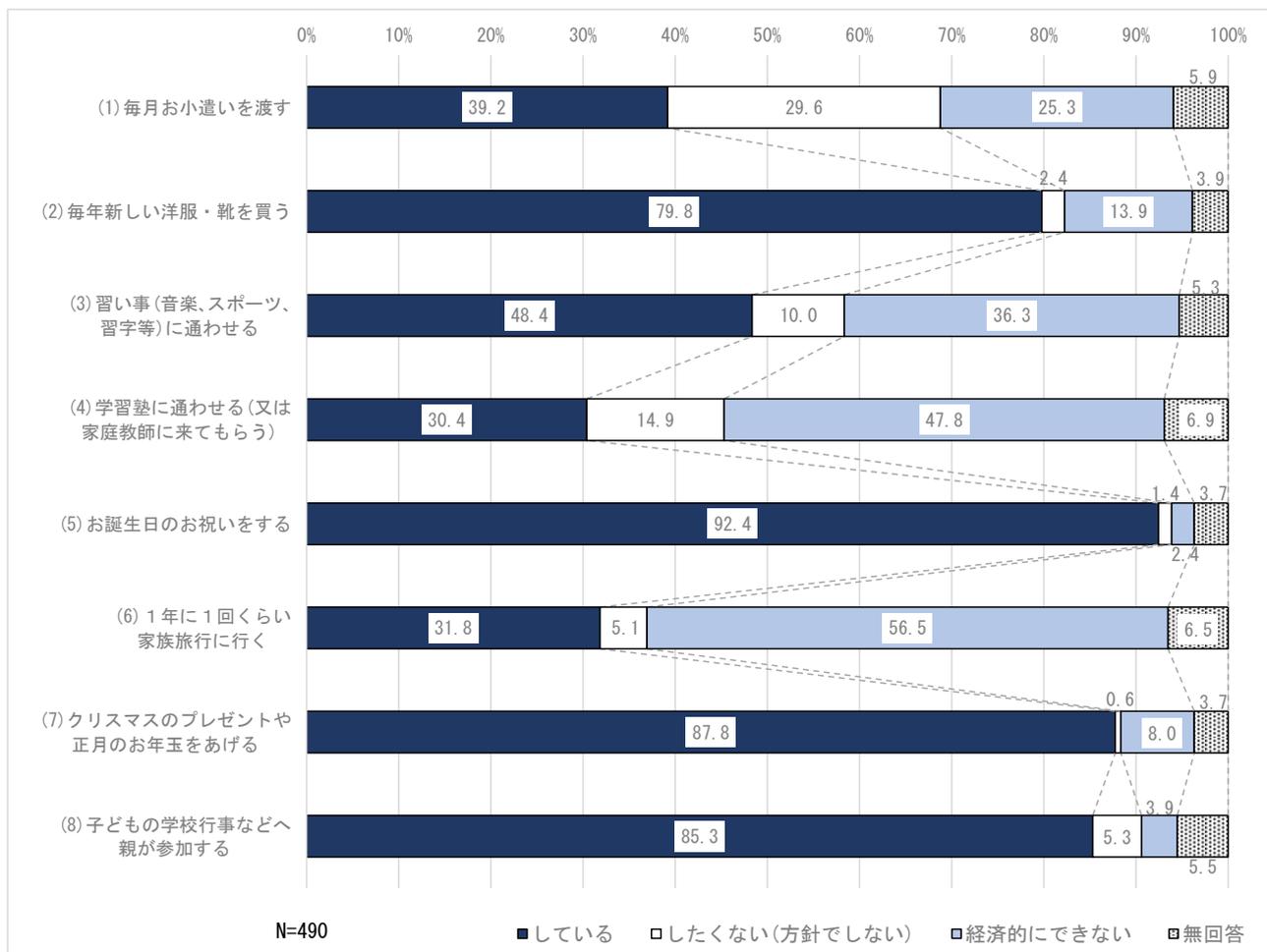


エ 家庭での行事等(問 44)

家庭での行事等で、「している」割合の高いものは、「お誕生日のお祝いをする」(92.4%)、「クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる」(87.8%)、「子どもの学校行事などへ親が参加する」(85.3%)などとなっている。

一方、「経済的にできない」割合が高いものは、「1年に1回くらい家族旅行に行く」(56.5%)、「学習塾に通わせる(又は家庭教師に来てもらう)」(47.8%)などとなっている。

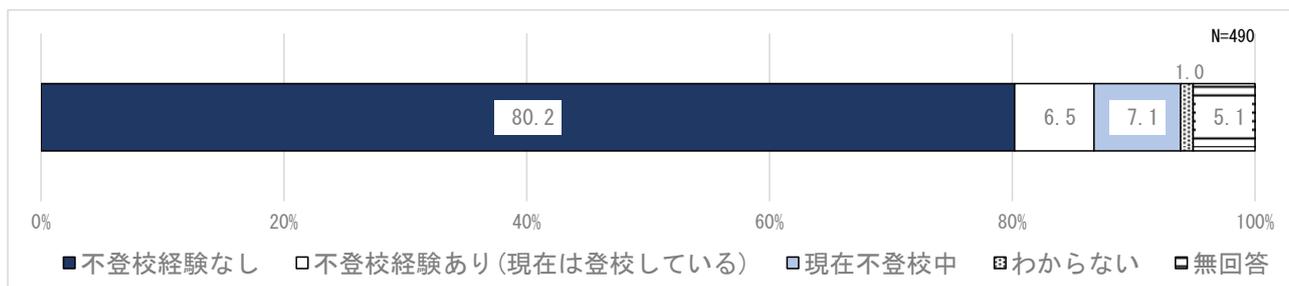
図表 67 家庭での行事等



オ 子どもの不登校経験(問 45)

子どもの登校状況について、「不登校経験あり(現在は登校している)」と「現在不登校中」を合わせた割合(過去・現在で不登校経験のある子どもの割合)が13.6%となっている。

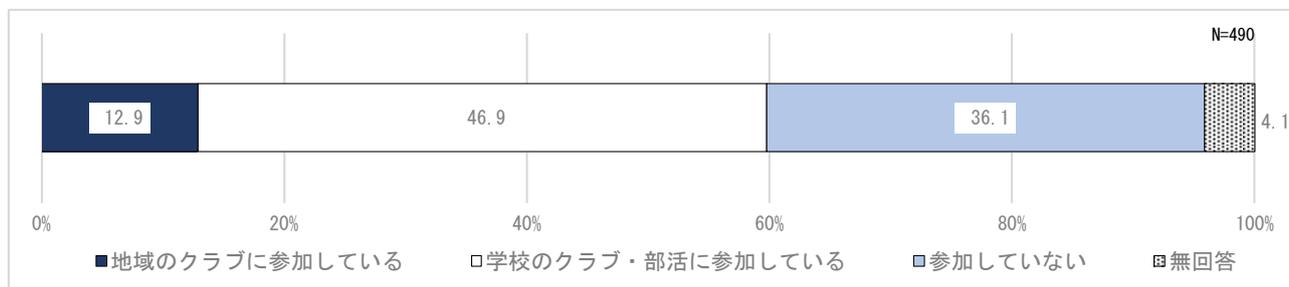
図表 68 子どもの不登校経験



カ クラブ活動等の参加状況(問 46)

子どもの学校・地域でのクラブ活動等の参加状況は、「地域のクラブに参加している」と「学校のクラブ・部活に参加している」を合わせた割合(何らかの活動に参加している子どもの割合)が59.8%である一方、「参加していない」子どもの割合は、36.1%となっている。

図表 69 クラブ活動等の参加状況

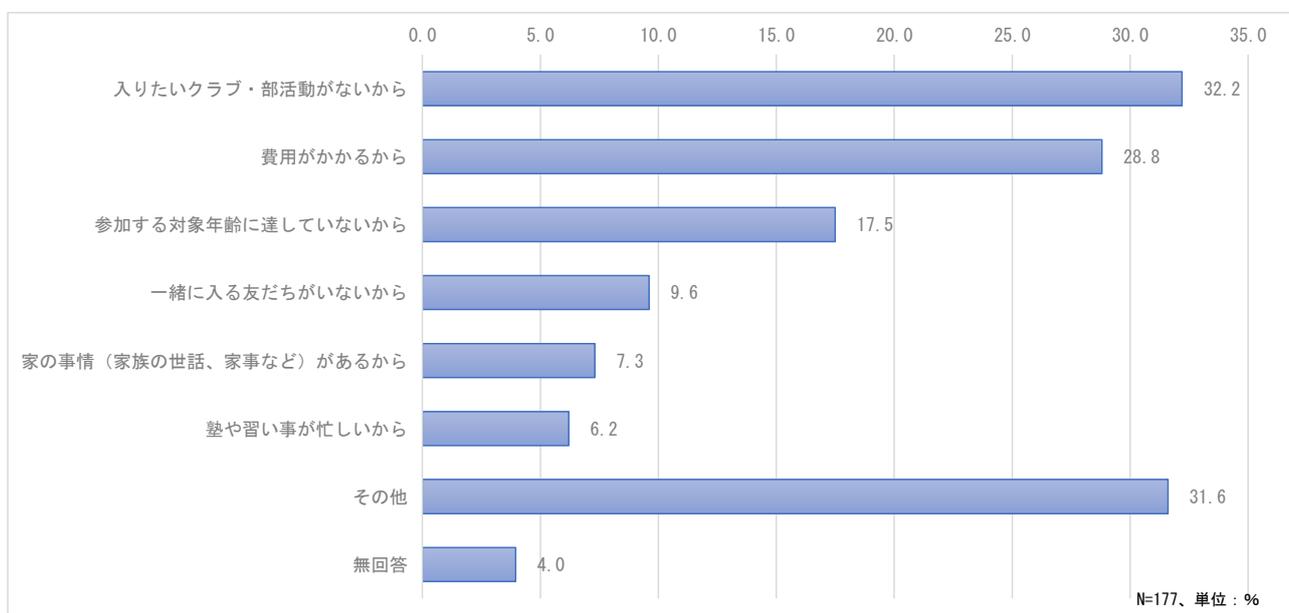


キ クラブ活動等に参加していない理由(問 47)

クラブ活動等に「参加していない」(問 46)理由を尋ねたところ、「その他」(31.6%)を除けば、「入りたいクラブ・部活動がないから」(32.2%)が最多で、「費用がかかるから」(28.8%)が続く。

なお、「その他」の例として、「コロナウイルスが心配」、「下の子がいるから」、「本人がやりたがらない」、「平日はあいキッズ」などがあつた。

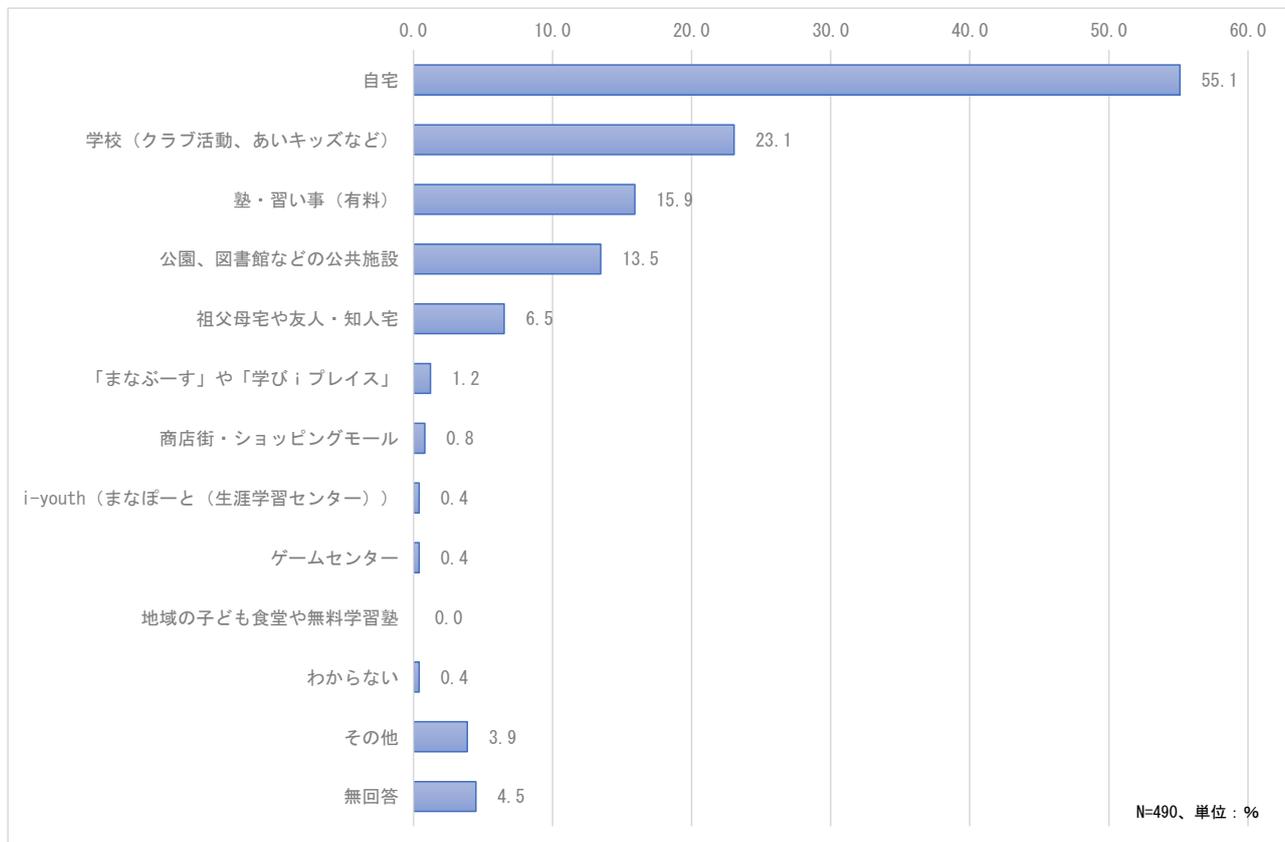
図表 70 子どもがクラブ活動等に参加していない理由



ク 子どもが放課後に過ごす場所(問 48)

子どもが平日の放課後に過ごす場所は、「自宅」(55.1%)が最多で、「学校(クラブ活動、あいキッズなど)」(23.1%)、「塾・習い事(有料)」(15.9%)が続く。

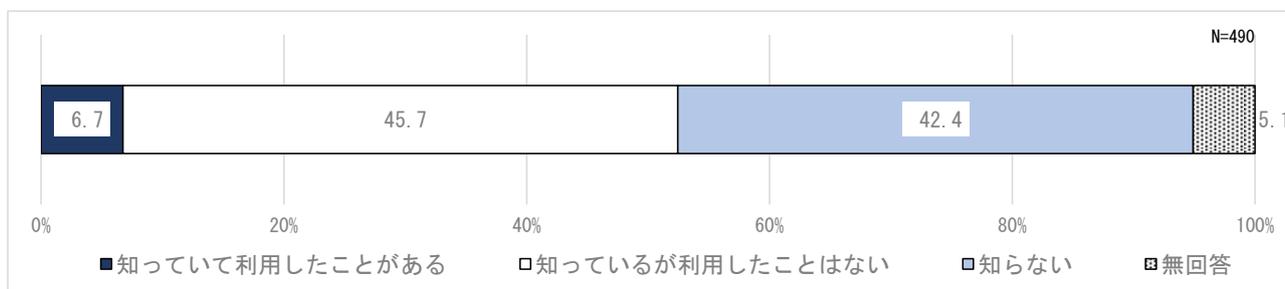
図表 71 子どもが放課後に過ごす場所



ケ 地域の子どもの居場所の利用経験(問 49)

地域の人が運営する子ども食堂・無料学習塾・多世代交流等の居場所について、「知っている」(知っているが利用したことがある・知っているが利用したことはない)が52.4%と半分を超えているが、実際に利用したことがあるのは6.7%となっている。

図表 72 子ども食堂、無料学習塾、多世代交流の場などの居場所の認知度・利用経験

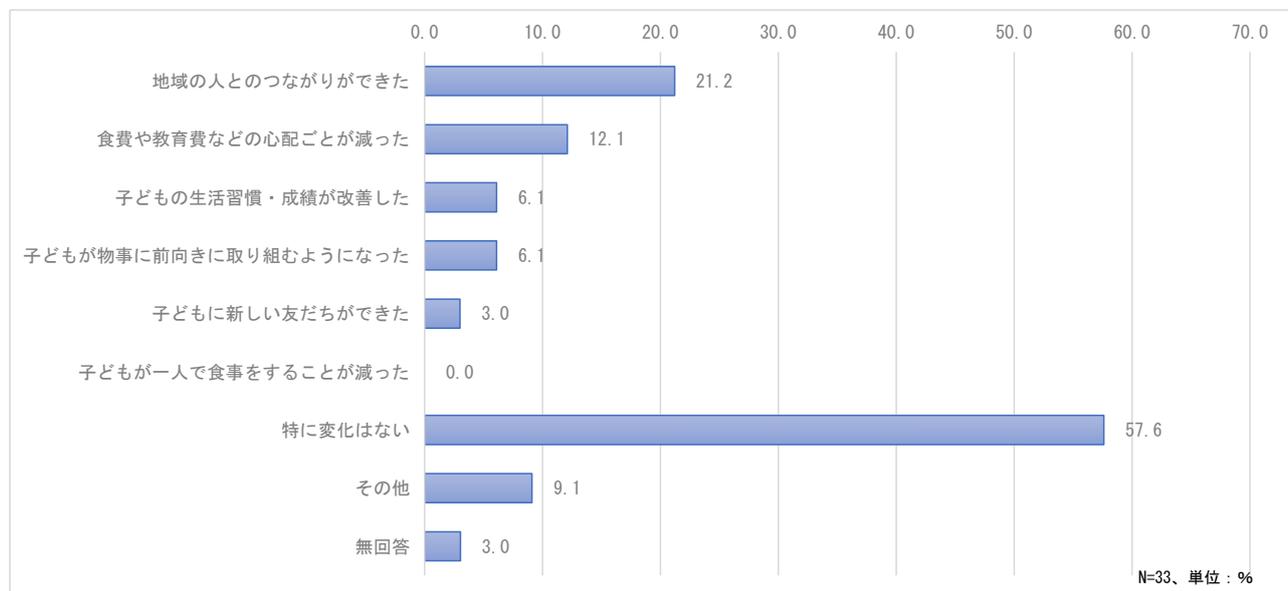


コ 地域の子どもの居場所の利用前後の変化(問 50)

地域の子どもの居場所について、「知っていて利用したことがある」人(問 49)に、利用前後の変化を尋ねたところ、「特に変化はない」(57.6%)が最多であった。

一方、変化があったとする回答では、「地域の人とのつながりができた」(21.2%)、「食費や教育費などの心配ごとが減った」(12.1%)などとなっている。

図表 73 子どもの居場所の利用前後の変化



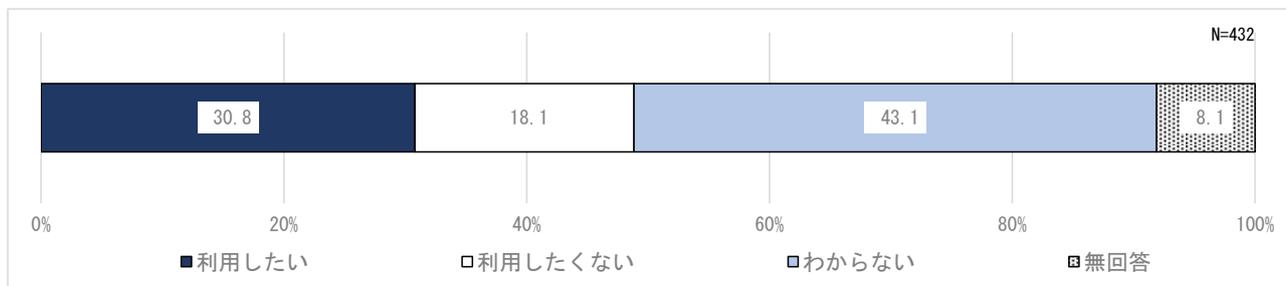
サ 地域の子どもの居場所の利用意向・理由

(7) 利用意向(問 51-(1))

① 子ども食堂

地域の子どもの居場所のうち、子ども食堂の利用意向を尋ねたところ、「わからない」(43.1%)が最多で、「利用したい」(30.8%)が続く。

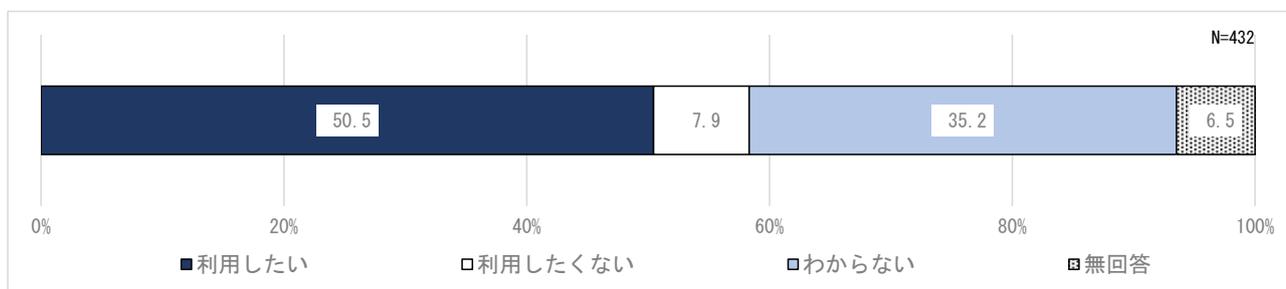
図表 74 子ども食堂の利用意向



② 無料学習塾の利用意向

地域の子どもの居場所のうち、無料学習塾の利用意向を尋ねたところ、「利用したい」(50.5%)が最多で、「わからない」(35.2%)が続く。

図表 75 無料学習塾の利用意向

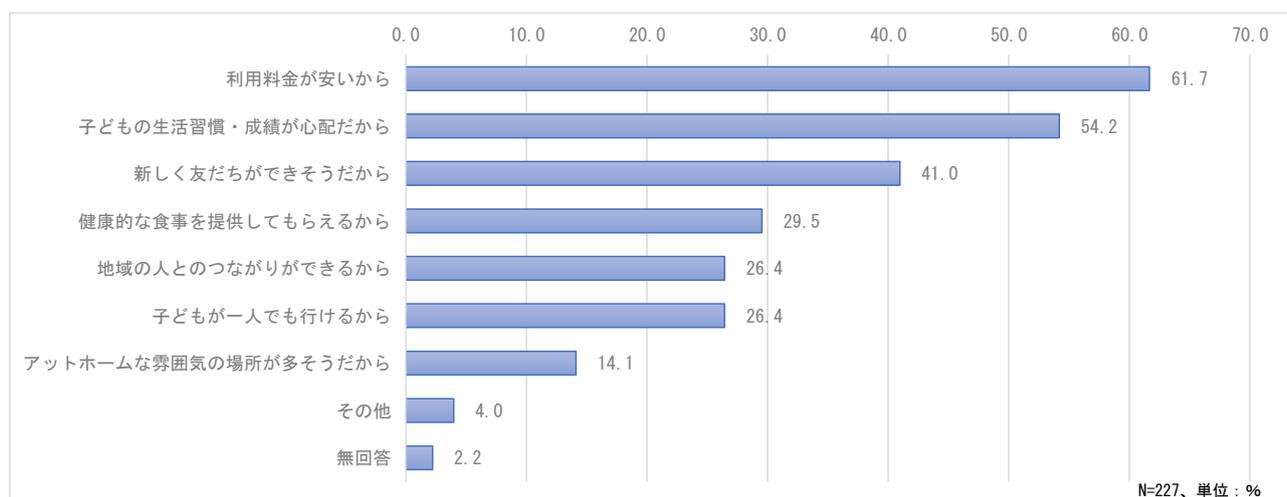


(イ) 利用したい理由(問 51-(2))

地域の子どもの居場所を「利用したい」人(問 51-(1))に対し、その理由を尋ねたところ、「利用料金が安いから」(61.7%)が最多で、「子どもの生活習慣・成績が心配だから」(54.2%)、「新しく友だちができそうだから」(41.0%)が続く。

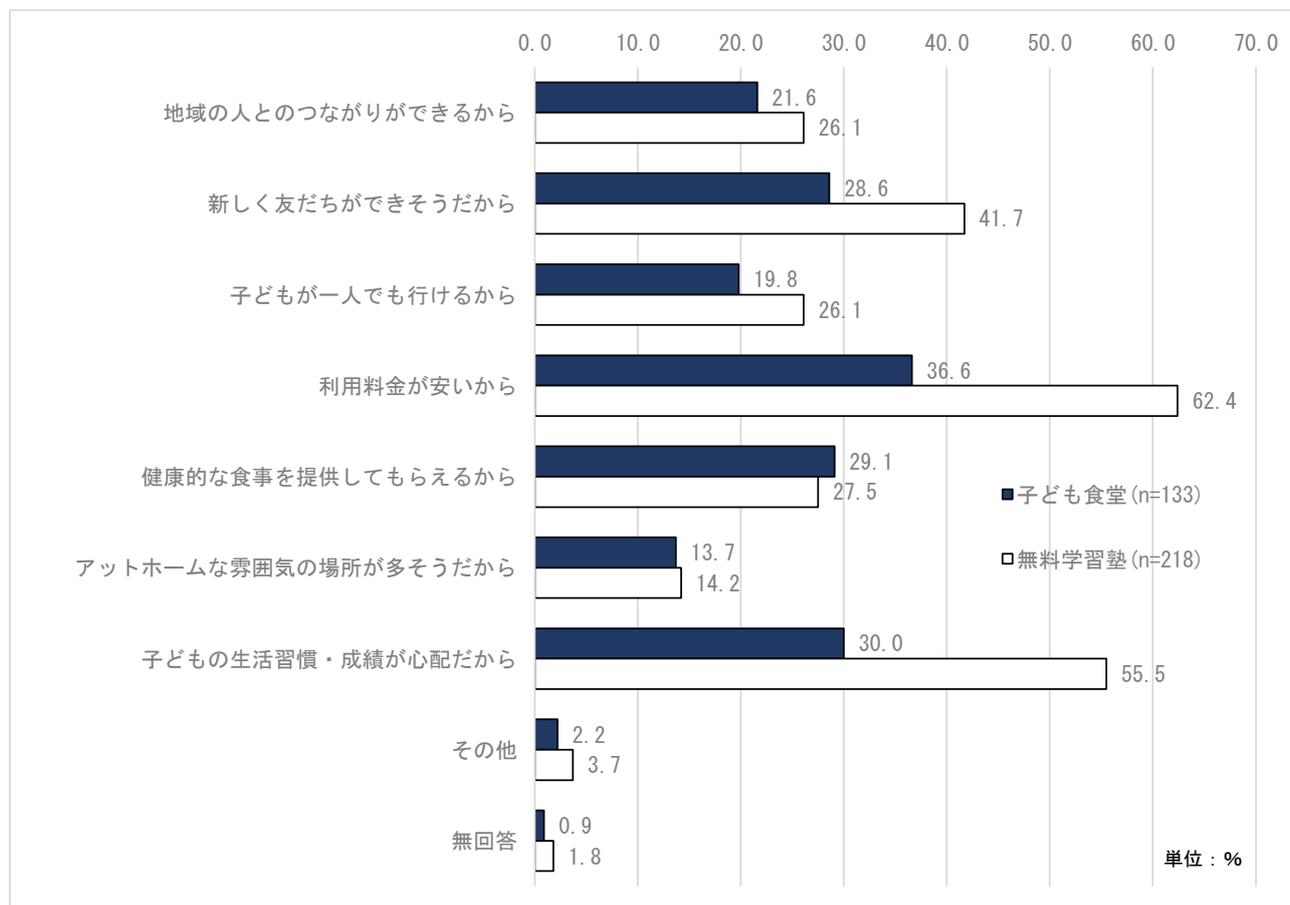
なお、「その他」の例として、「1人での食事にならないから」、「1人でいる時間を減らせる」、「家から近いなら行かせたい」、「引きこもりがちなので気分転換になりそうだから」などがあった。

図表 76 利用したい理由(全体)



上記の理由を子ども食堂・無料学習塾それぞれについてみると、無料学習塾において、「利用料金が安いから」、「子どもの生活習慣・成績が心配だから」、「新しく友だちができそうだから」の割合が特に高くなっている。

図表 77 子ども食堂・無料学習塾それぞれの利用したい理由

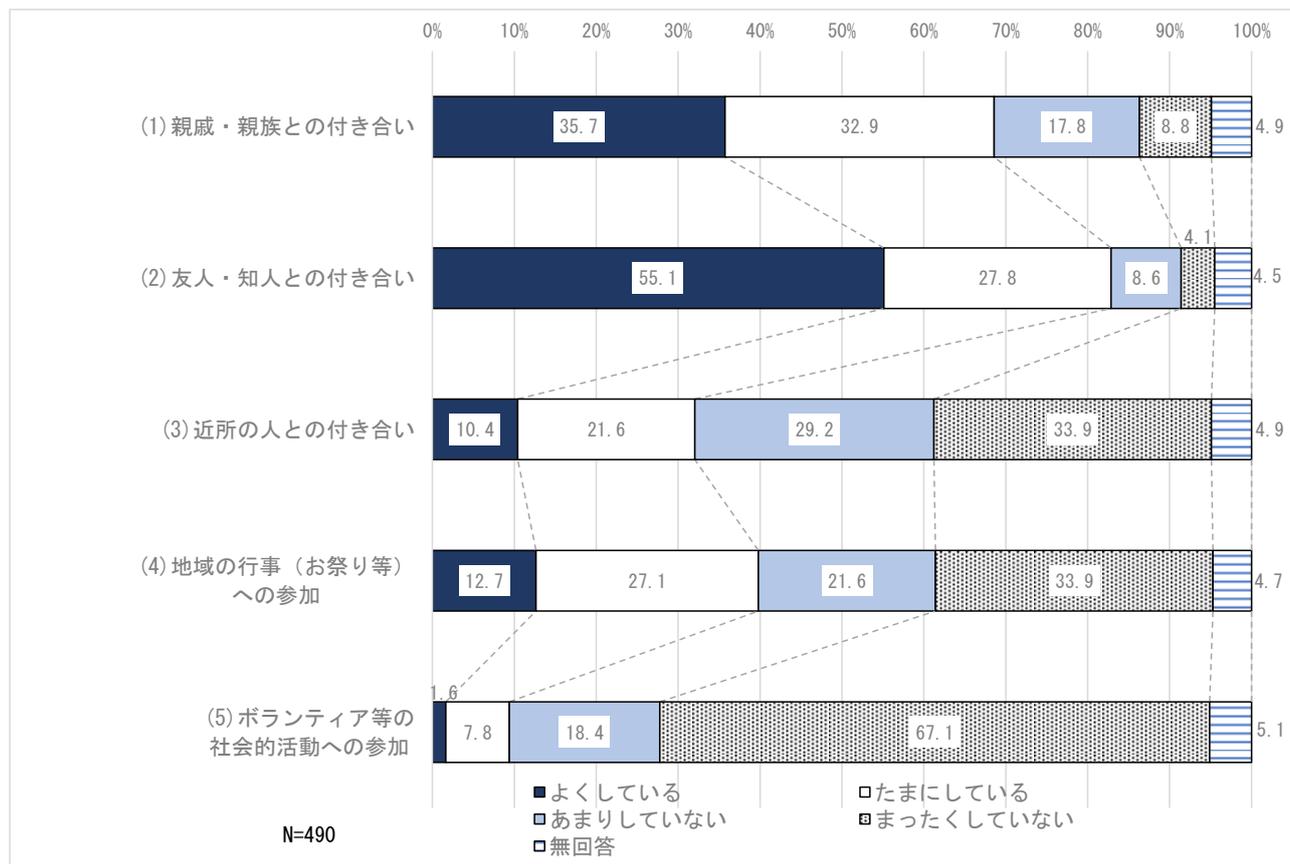


シ 子どもの社会とのかかわり (問 52)

子どもの社会とのかかわりについて、「(よく・たまに)している」割合が高いものは、「友人・知人との付き合い」(82.9%)、「親戚・親族との付き合い」(68.6%) などとなっている。

一方、「(あまり・まったく)していない」割合が高いものは、「ボランティア等の社会的活動への参加」(85.5%)、「近所の人との付き合い」(63.1%)、「地域の行事(お祭り等)への参加」(55.5%) などとなっている。

図表 78 子どもの社会とのかかわり

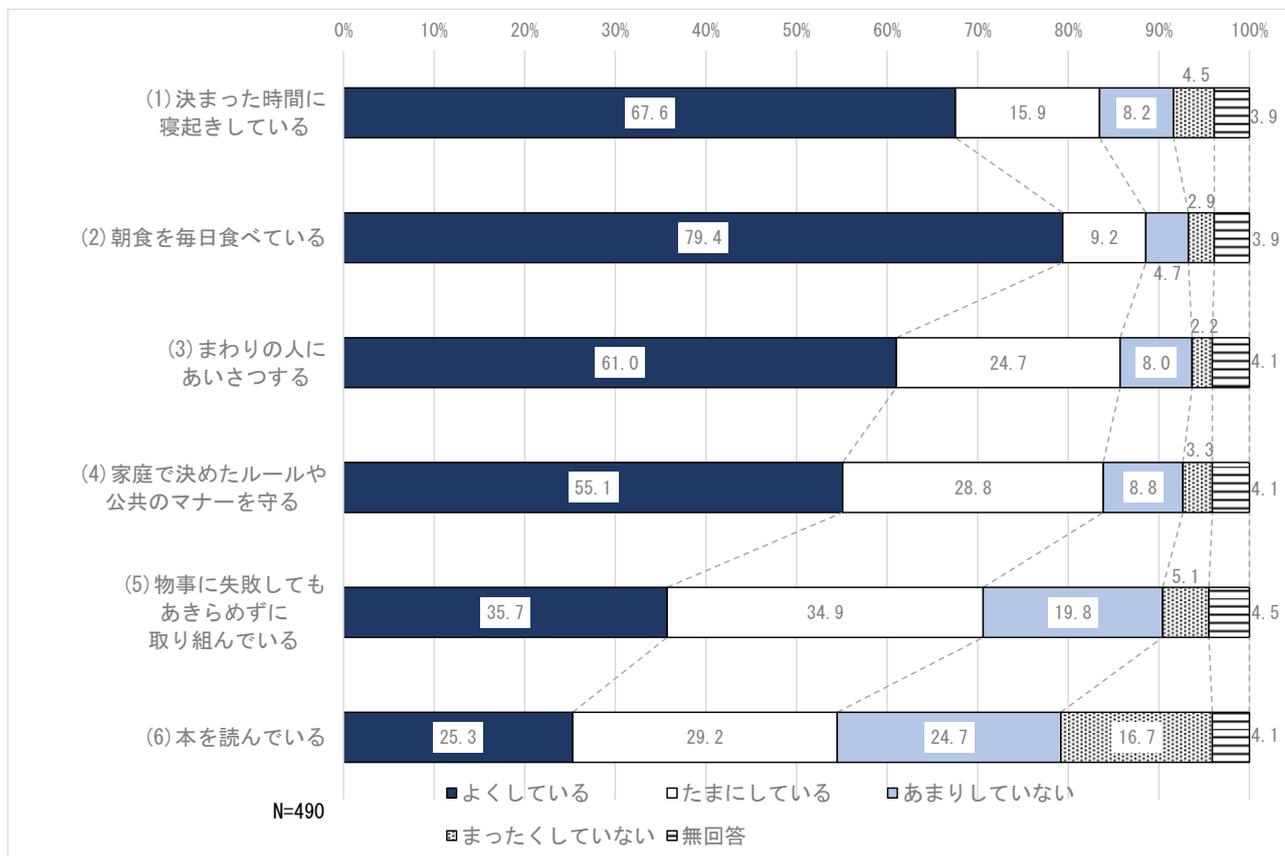


ス 子どもの生活習慣(問 53)

子どもの過去1か月の生活習慣について、「(よく・たまに)している」割合が高いものは、「朝食を毎日食べている」(88.6%)、「まわりの人にあいさつする」(85.7%) などとなっている。

一方、「(あまり・まったく)していない」割合が高いものは、「本を読んでいる」(41.4%)、「物事に失敗してもあきらめずに取り組んでいる」(24.9%) などとなっている。

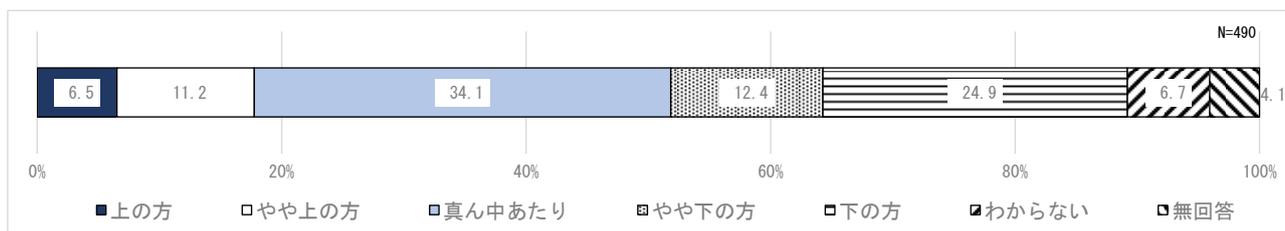
図表 79 子どもの過去1ヵ月の様子



セ 保護者から見た子どもの成績(問 54)

「上の方」と「やや上の方」を合わせた割合が17.7%、「真ん中あたり」が34.1%、「やや下の方」と「下の方」を合わせた割合が37.3%となっている。

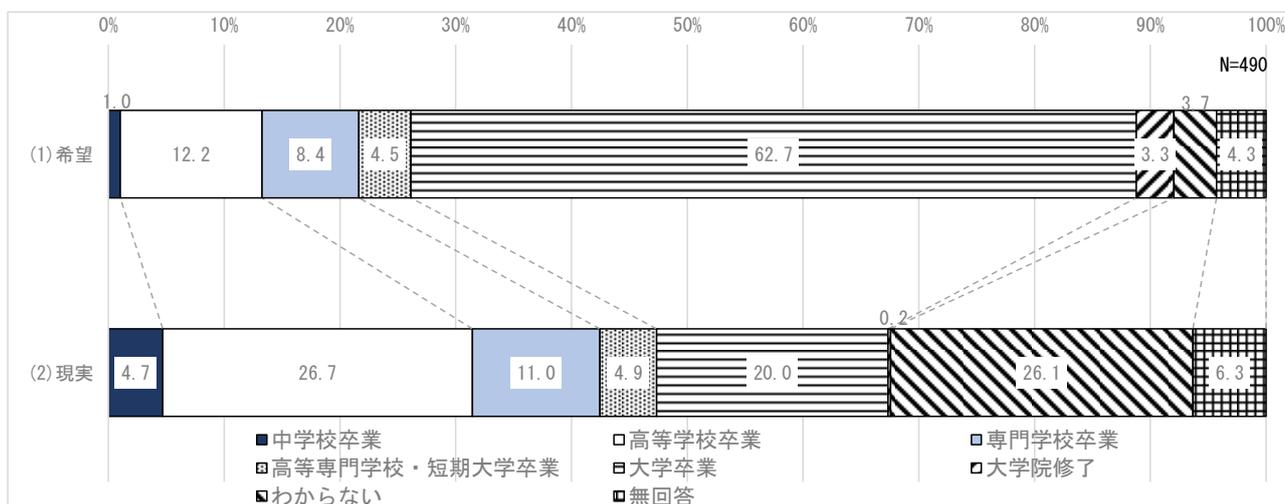
図表 80 子どもの成績



ソ 子どもの進学希望と現実(問 55)

子どもにどの段階の学校まで進学して欲しいかについて、「希望」は、「大学卒業」(62.7%)が最多の一方、現実には、「高等学校卒業」(26.7%)が最多となっている。

図表 81 子どもの進学段階の希望と現実

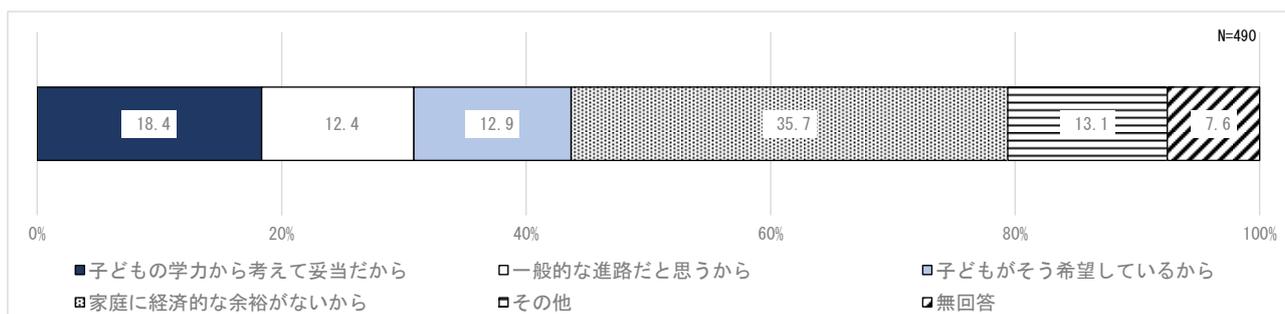


タ 進学の「現実」のように考える理由(問 56)

子どもの進学段階について「現実」(問 55-(2))のように考える理由を尋ねると、「家庭に経済的な余裕がないから」(35.7%)が最多で、「子どもの学力から考えて妥当だから」(18.4%)が続く。

なお、「その他」の例として、「今の段階ではわからない」、「本人の夢をかなえるため」、「障がいがある」などがあつた。

図表 82 「現実」のように考える理由



(4) 高校生相当以上 (問 57~61)

ア 最年長の子どもの現在の状況 (問 57)

最年長の高校生相当以上の子どもの現在の状況は、「就学中(学校に行っている)」(85.7%)が最多となっている。

図表 83 最年長の子どもの現在の状況



イ 子どもの希望する進路 (問 58)

子どもが「就学中」(問 57)の人に対し、子どもが希望する進路について尋ねたところ、「進学希望」(70.9%)が最多となっている。

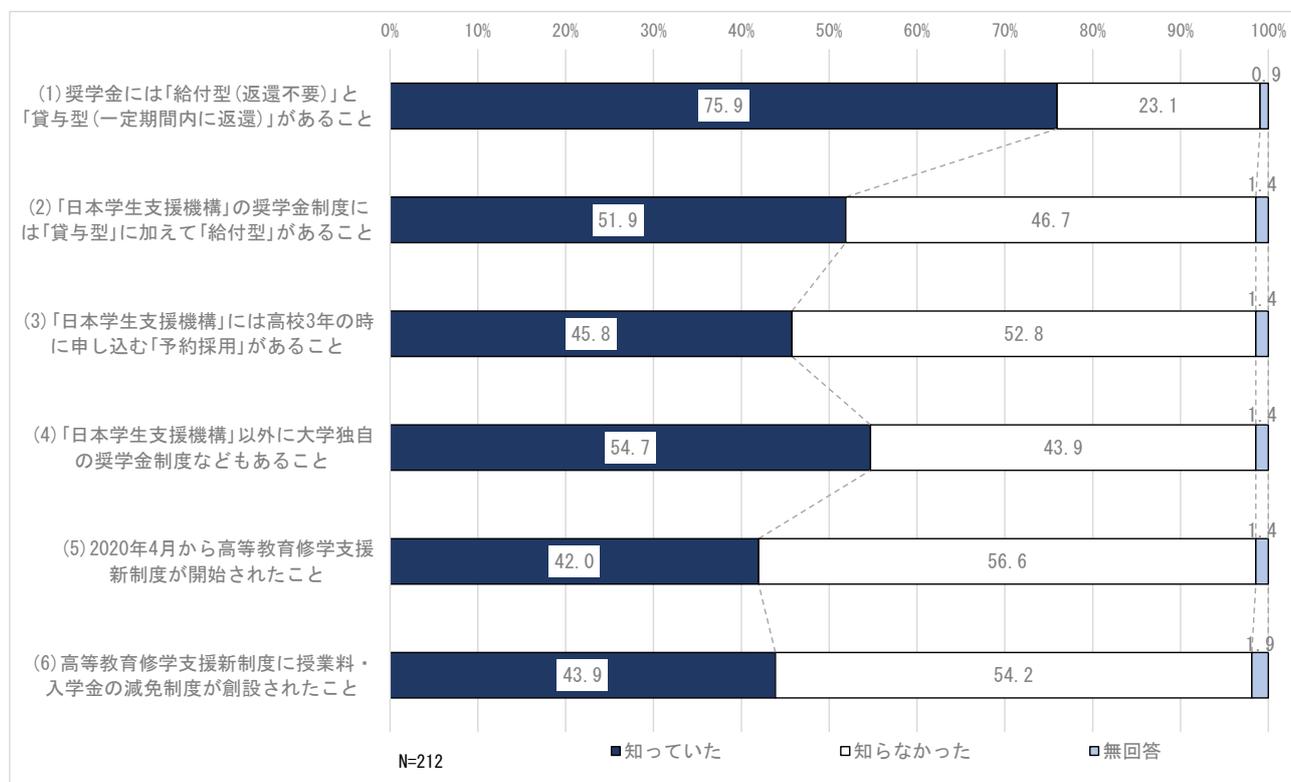
図表 84 子どもの希望する進路



ウ 進学に関する経済支援の認知度(問 59)

子どもの進路希望が「進学希望」(問 58)の人に対し、進学に関する経済支援について尋ねたところ、「奨学金には「給付型(返還不要)」と「貸与型(一定期間内に返還)」があること」は75.9%が「知っていた」が、その他については、半分前後の認知状況となっている。

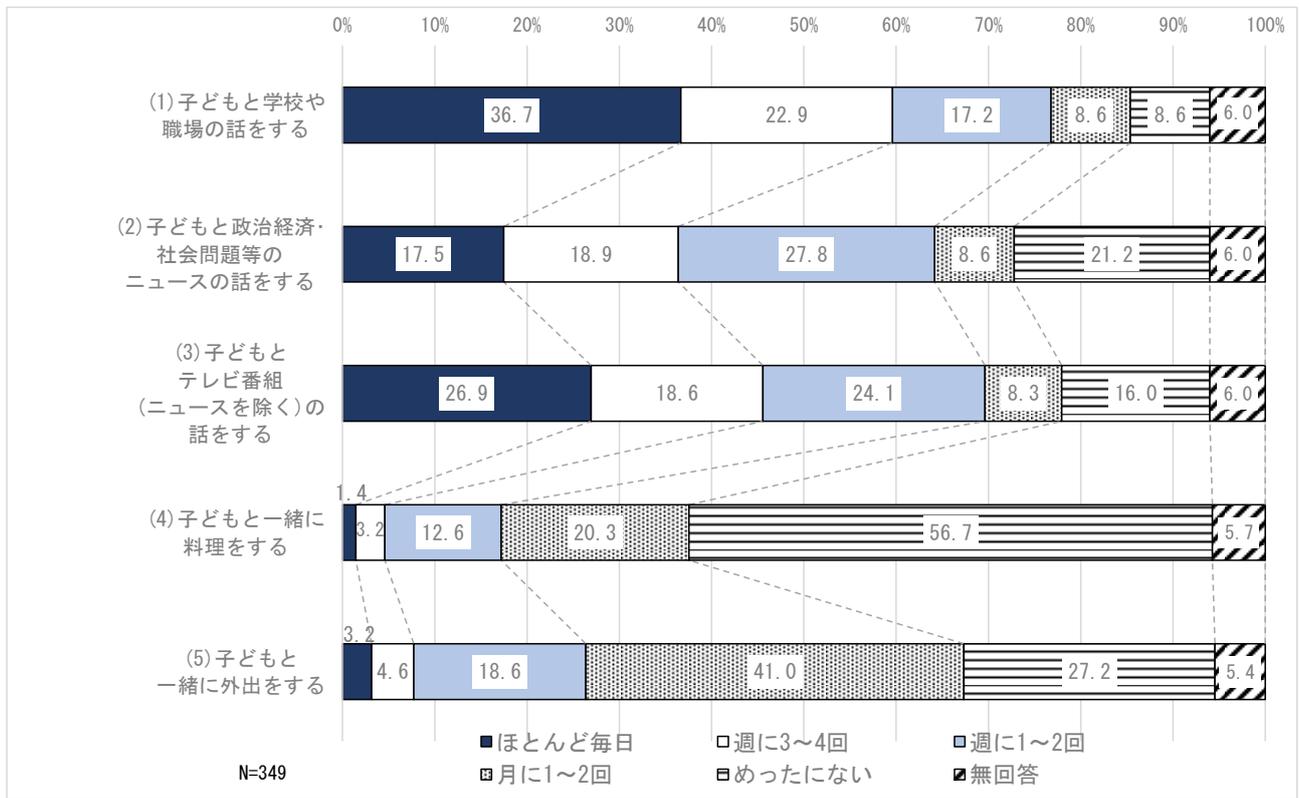
図表 85 進学に関する経済支援の認知度



エ 家庭で子どもとすること(問 60)

家庭で子どもとすることについて、「ほとんど毎日」、「週に3～4回」、「週に1～2回」、「月に1～2回」を合わせた割合(月に1～2回以上行っていること)が高いものは、「子どもと学校や職場の話をする」(85.4%)、「子どもとテレビ番組(ニュースを除く)の話をする」(77.9%)、「子どもと政治経済・社会問題等のニュースの話をする」(72.8%)などとなっている。

図表 86 子どもとすること



オ 子どもの将来についての会話等(問 61)

子どもの将来について、一緒に考えたり、話すことの頻度は、「よくする」と「たまにする」を合わせた割合が、79.7%となっている。

図表 87 子どもの将来について、一緒に考えたり、話すことの有無



2. クロス集計

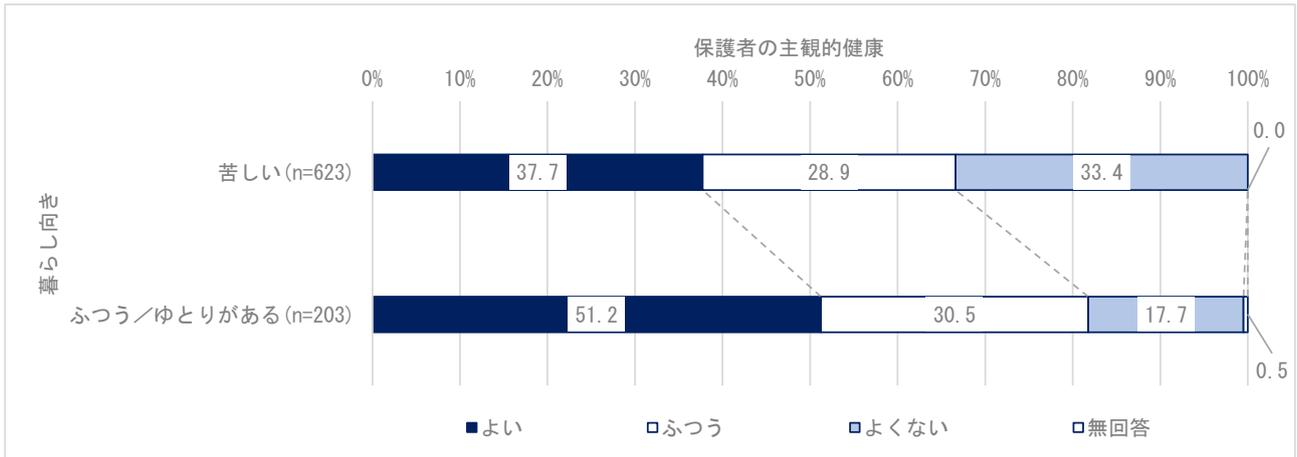
(1) 暮らし向き(経済状況)と家庭生活

家庭の現在の暮らし向きが、親子の心身や社会関係等に及ぼす影響を検討した。

ア 現在の暮らし向き×保護者の主観的健康(問16(1)×問20)

現在の暮らし向きが「苦しい」方が、保護者の主観的健康状態は「よくない」割合が高い。

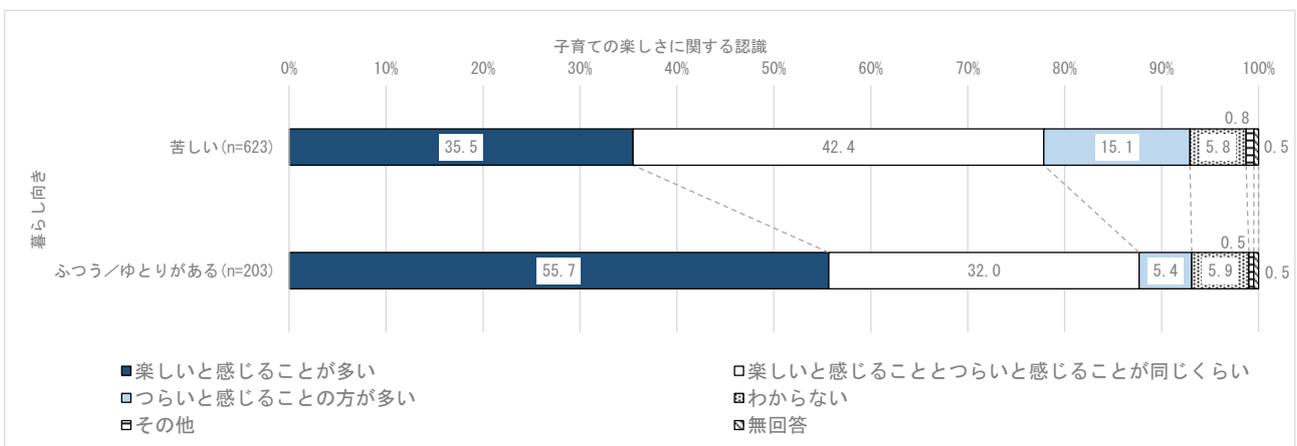
図表 88 問16(1)現在の暮らし向き×問20 保護者の主観的健康



イ 現在の暮らし向き×子育ての楽しさに関する認識(問16(1)×問21)

現在の暮らし向きが「苦しい」方が、子育てについて、「つらいと感じることの方が多い」割合が高い。

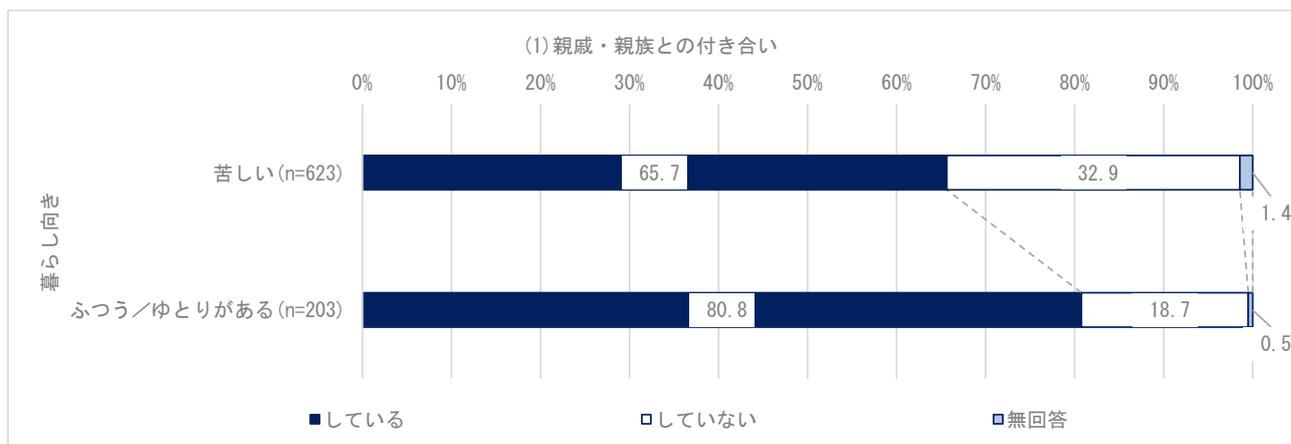
図表 89 問16(1)現在の暮らし向き×問21 子育ての楽しさに関する認識



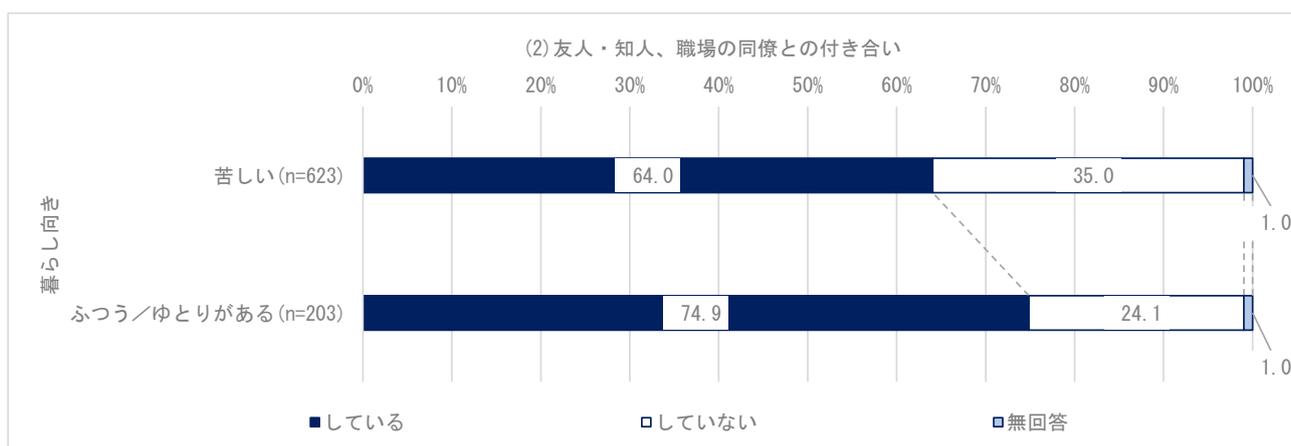
ウ 現在の暮らし向き×保護者の社会とのかかわり (問 16(1) × 問 23)

現在の暮らし向きが「苦しい」方が、保護者が社会とのかかわりを、「していない」割合が高い傾向がある。

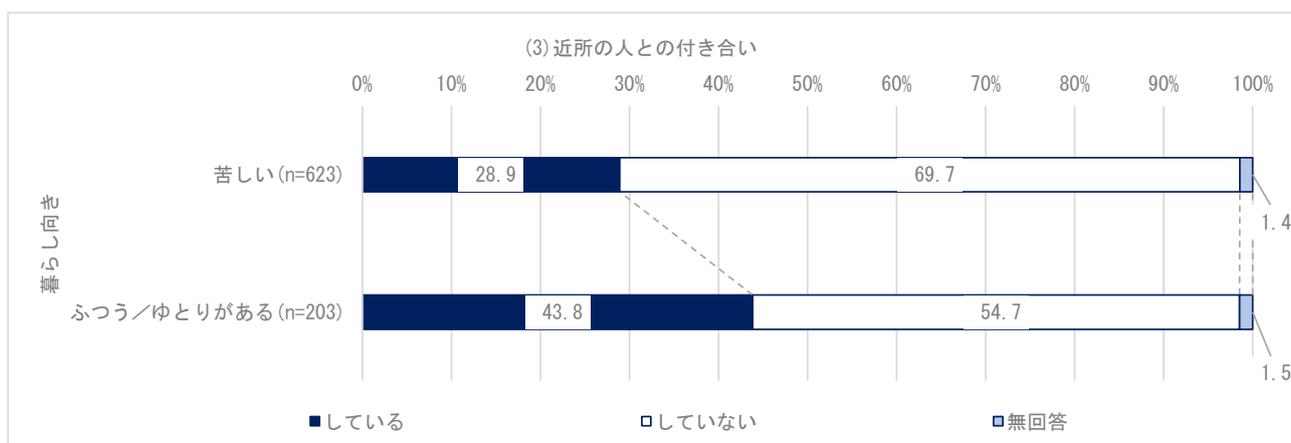
図表 90 問 16(1)現在の暮らし向き×問 23(1)親戚・親族との付き合い



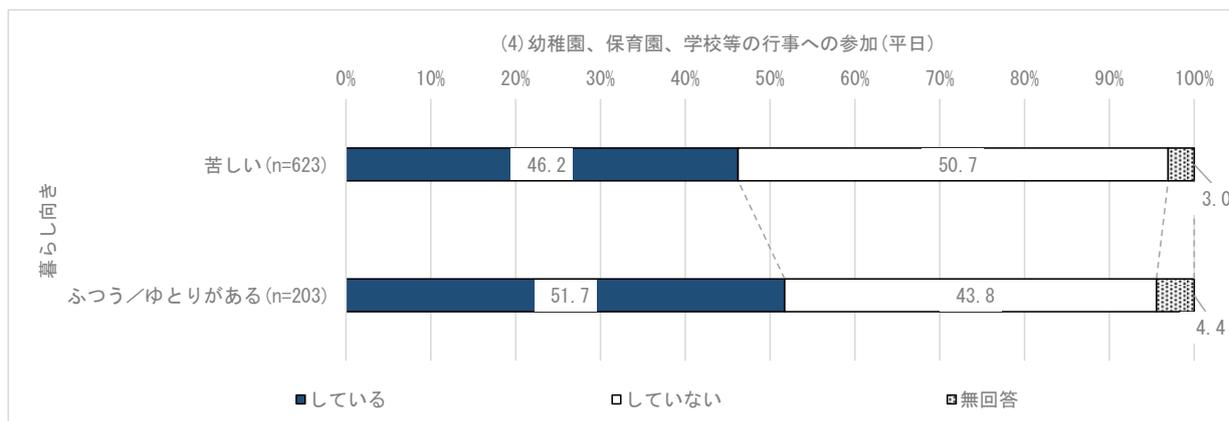
図表 91 問 16(1)現在の暮らし向き×問 23(2)友人・知人、職場の同僚との付き合い



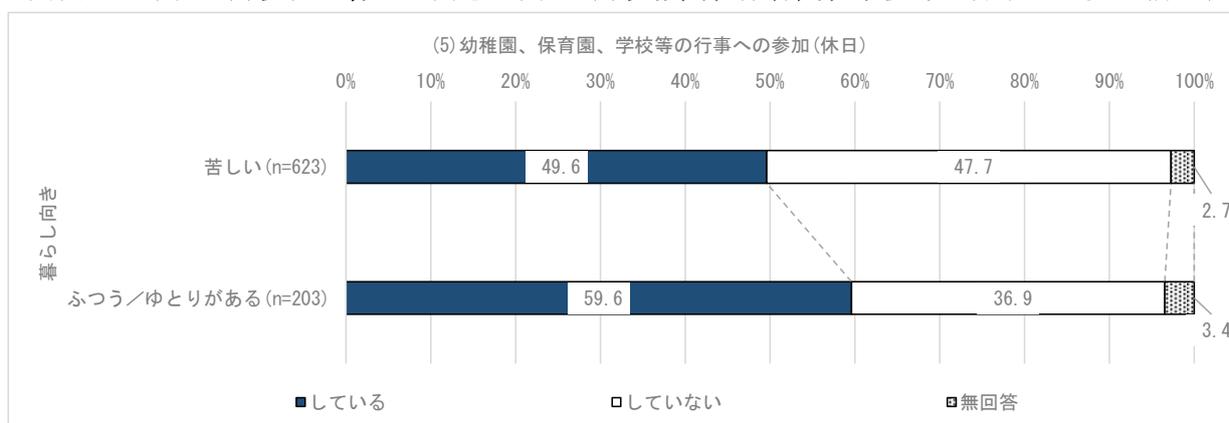
図表 92 問 16(1)現在の暮らし向き×問 23(3)近所の人との付き合い



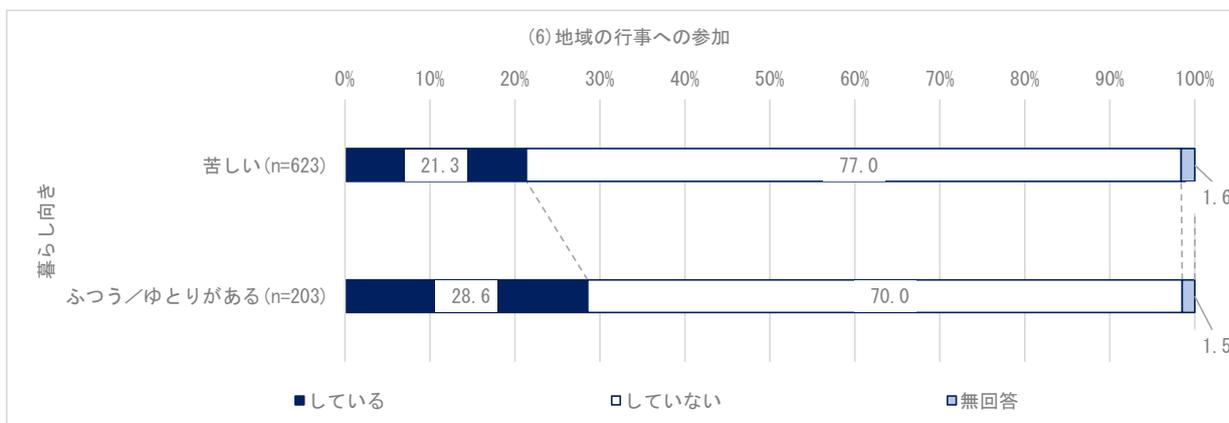
図表 93 問 16(1)現在の暮らし向き×問 23(4)幼稚園、保育園、学校等の行事への参加(平日)



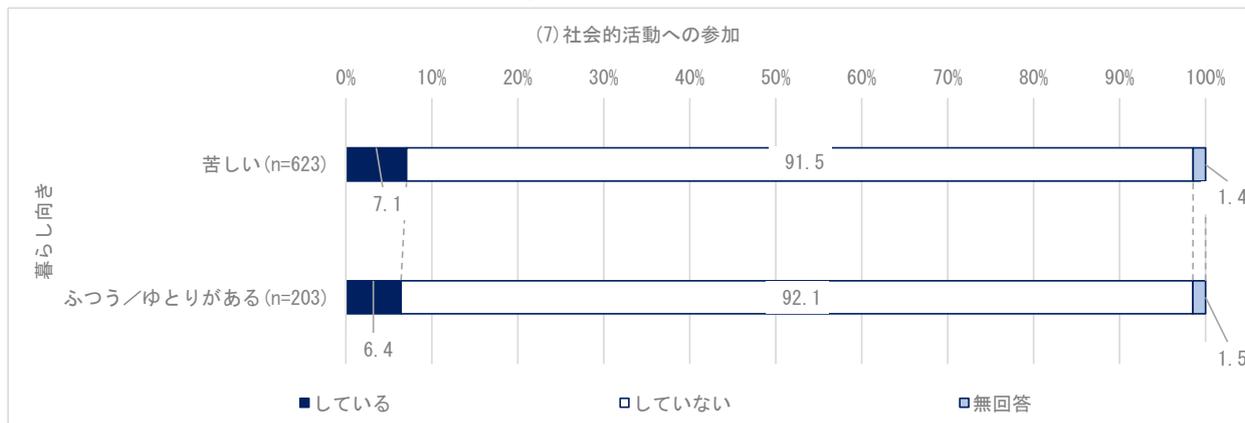
図表 94 問 16(1)現在の暮らし向き×問 23(5)幼稚園、保育園、学校等の行事への参加(休日)



図表 95 問 16(1)現在の暮らし向き×問 23(6)地域の行事への参加

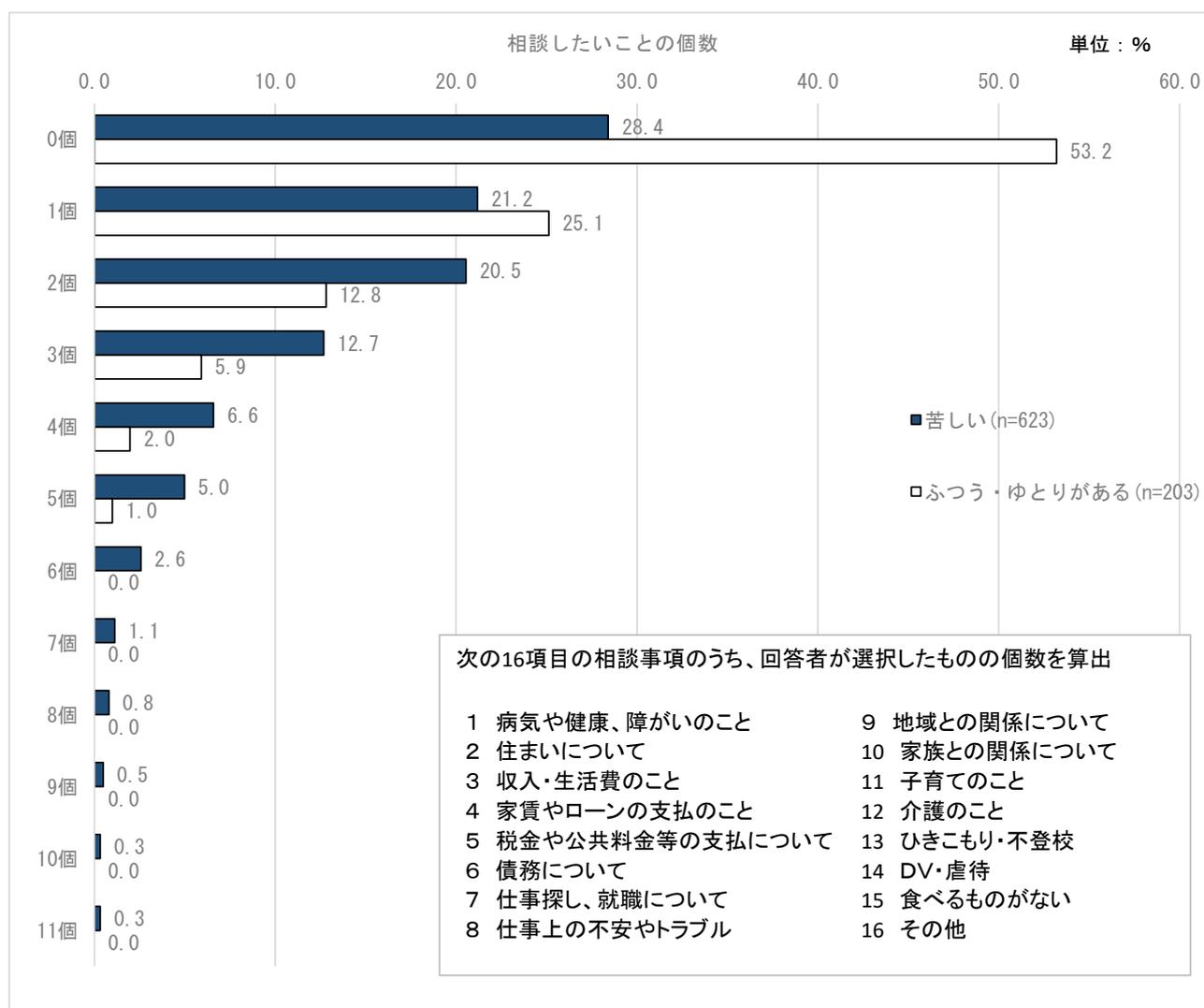


図表 96 問 16(1)現在の暮らし向き×問 23(7)社会的活動への参加

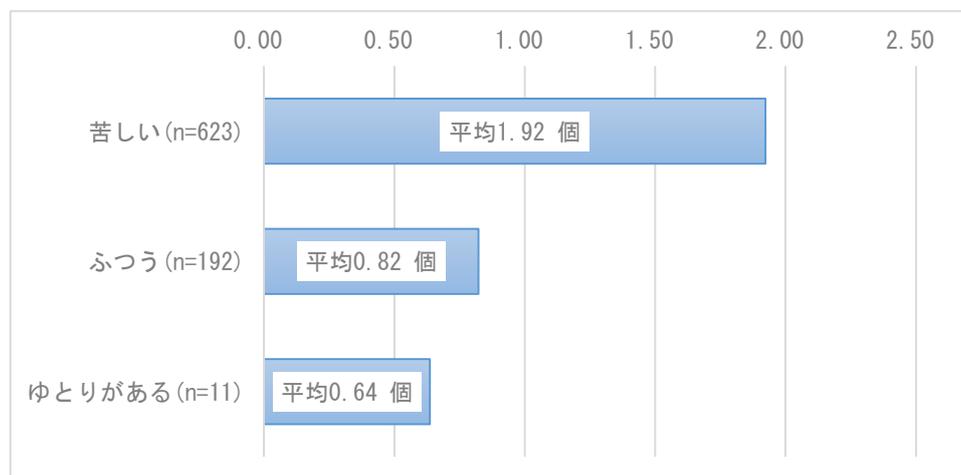


エ 現在の暮らし向き×生活・仕事について相談したいこと(個数)(問16(1)×問24)
 現在の暮らし向きが「苦しい」方が、生活・仕事について相談したいことが増えている。

図表 97 問16(1)現在の暮らし向き×問24 相談したいこと(個数)



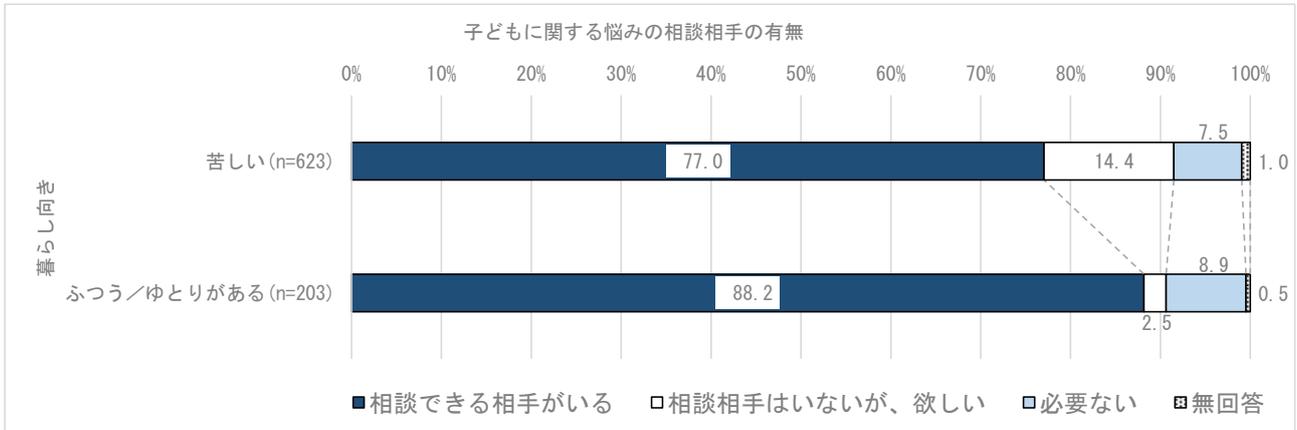
図表 98 問16(1)現在の暮らし向き×問24 相談したいこと(平均個数)



オ 現在の暮らし向き×悩みの相談相手(問 16(1) × 問 26)

現在の暮らし向きが「苦しい」方が、子どもに関する悩みについて「相談相手はいないが、ほしい」割合が高い。

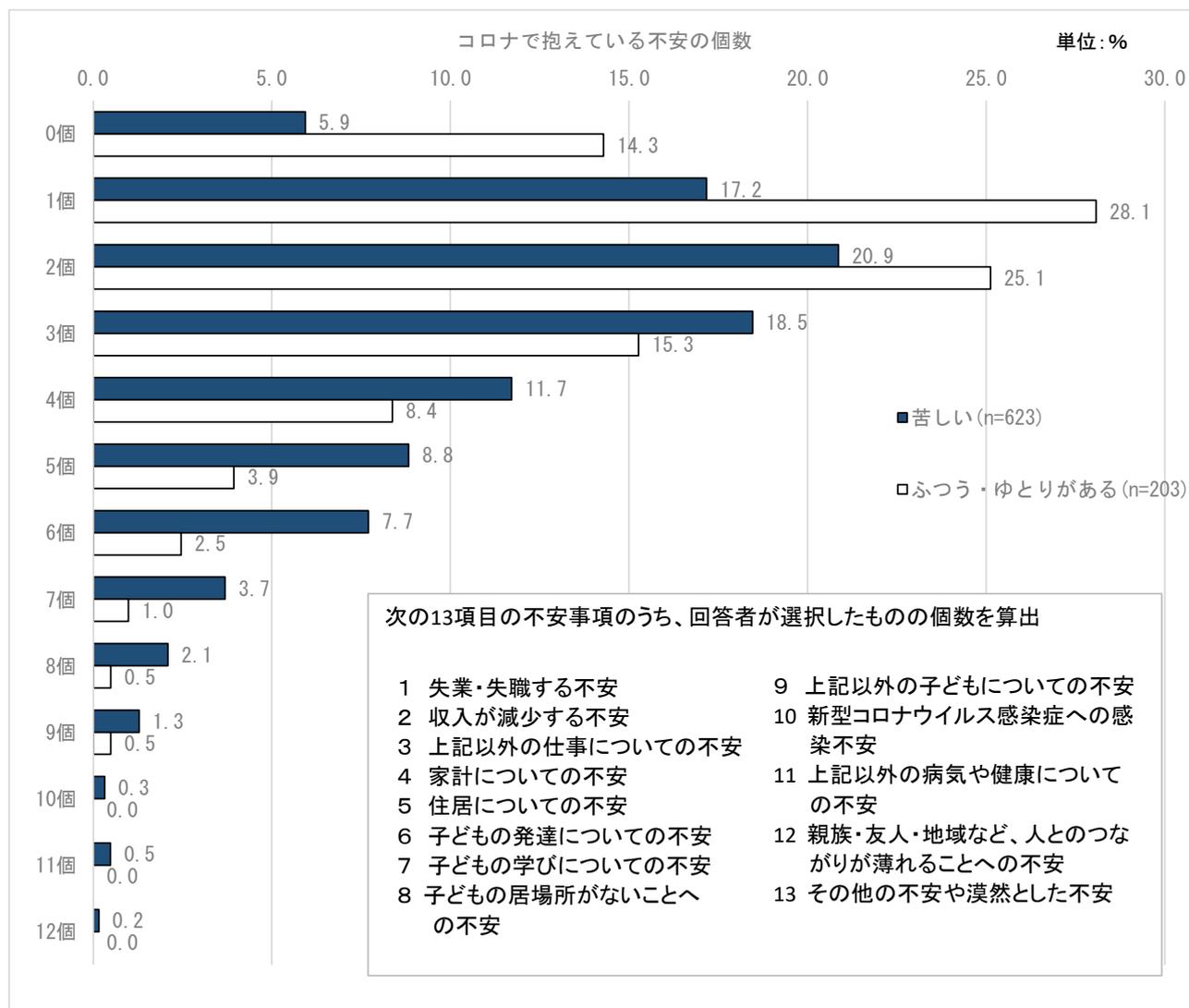
図表 99 問 16(1)現在の暮らし向き×問 26 悩みの相談相手



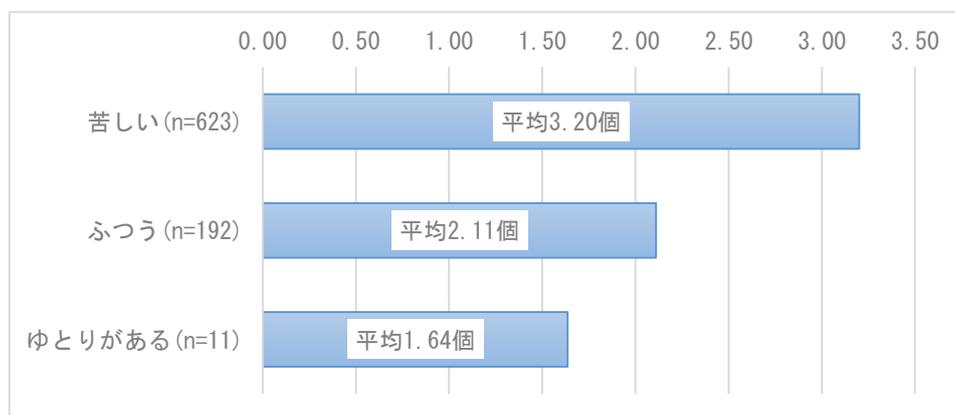
カ 現在の暮らし向き×コロナ禍の不安(問 16(1) × 問 30)

現在の暮らし向きが「苦しい」方が、新型コロナウイルス感染症に関して抱える不安が多くなっている。

図表 100 問 16(1)現在の暮らし向き×問 30 コロナ禍の不安 (個数)



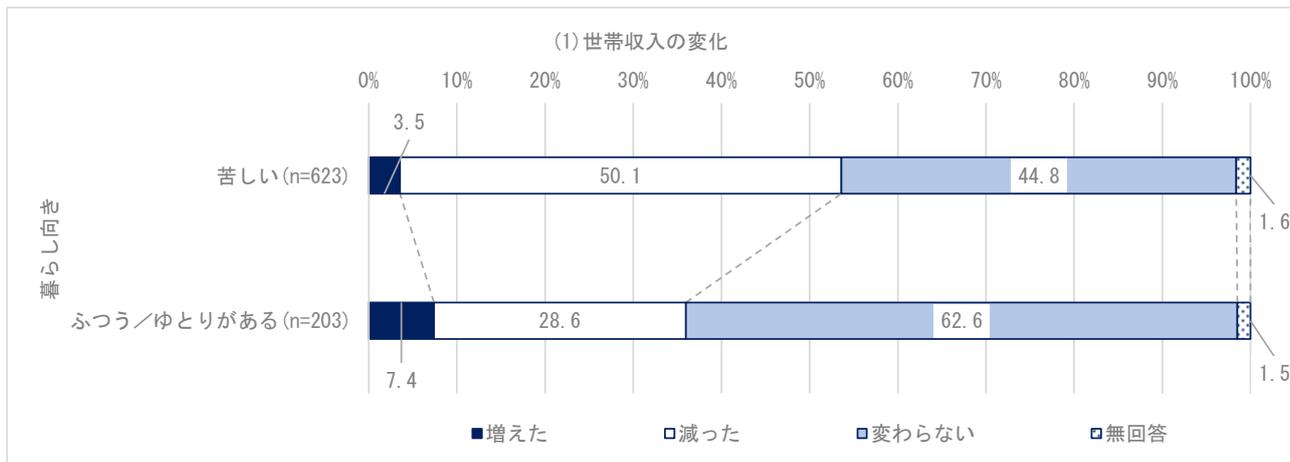
図表 101 問 16(1)現在の暮らし向き×問 30 コロナ禍の不安 (平均個数)



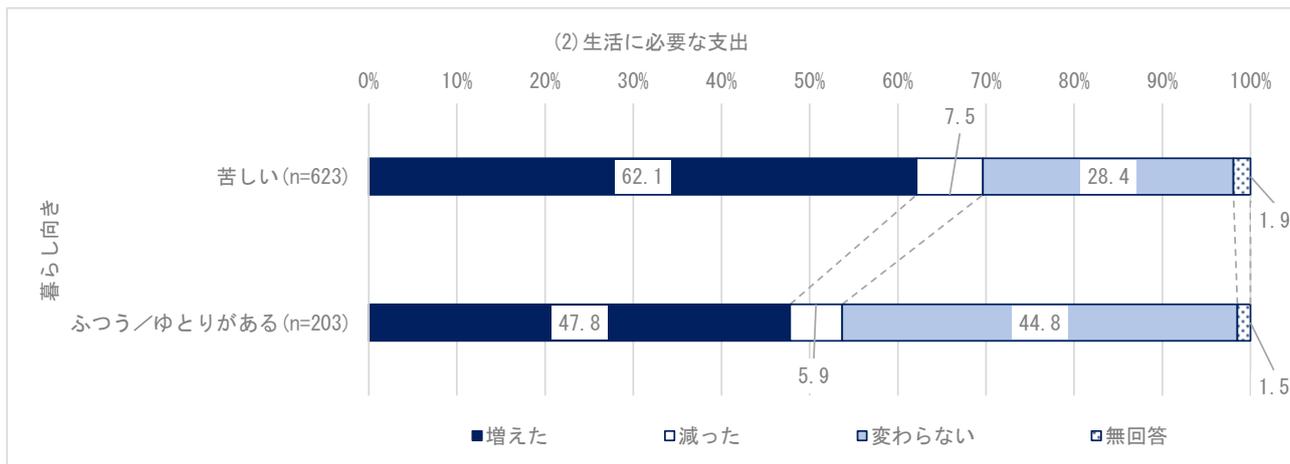
キ 現在の暮らし向き×コロナ拡大前後の変化(問 16(1)×問 31)

現在の暮らし向きが「苦しい」方が、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前後で、「収入」は減少し、「支出」は増加している。また、「必要な食料や衣服が買えないこと」、「イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと」が増えている。

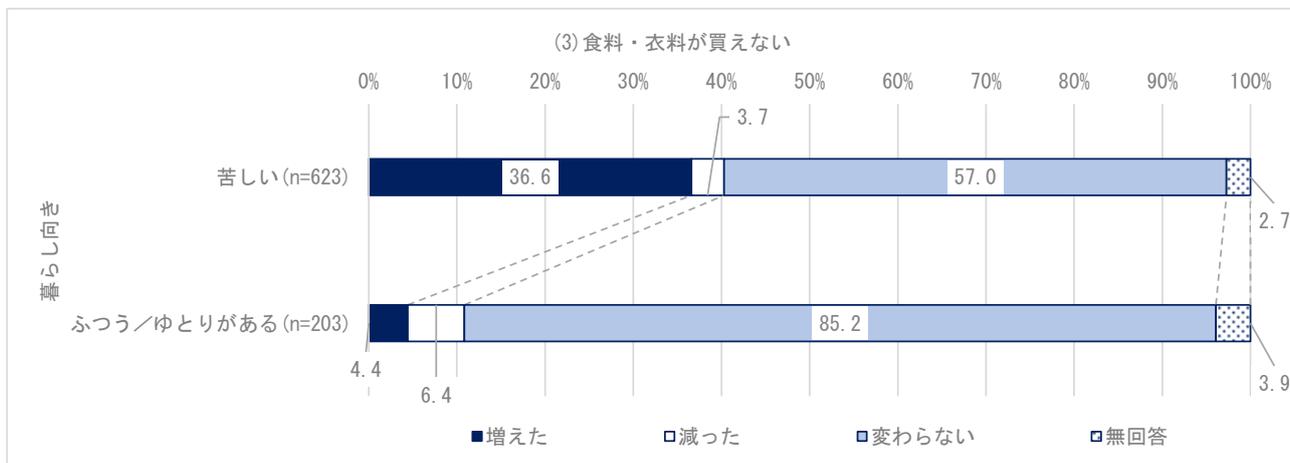
図表 102 問 16(1)現在の暮らし向き×問 31(1)世帯全体の収入



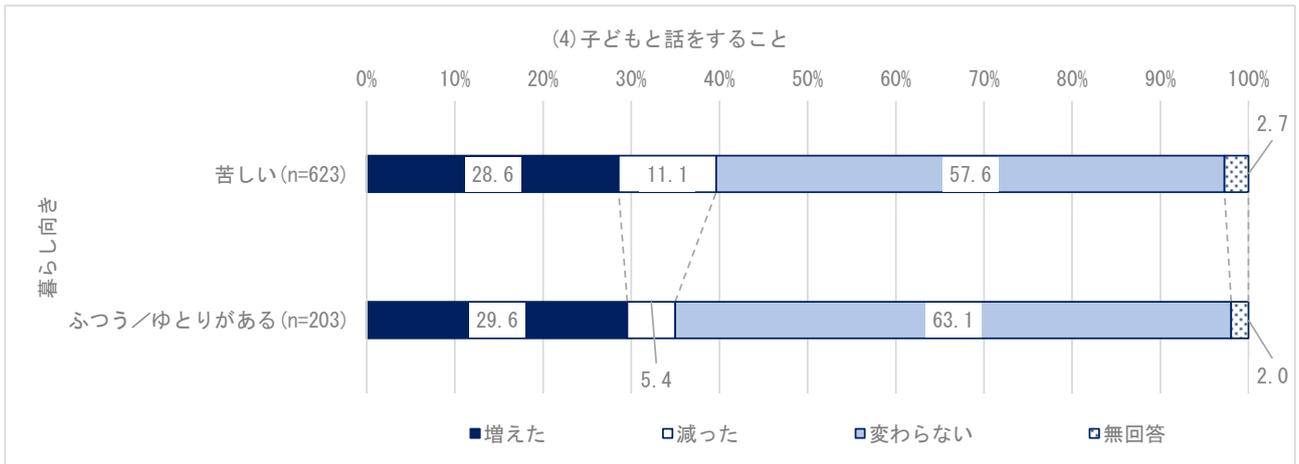
図表 103 問 16(1)現在の暮らし向き×問 31(2)生活に必要な支出



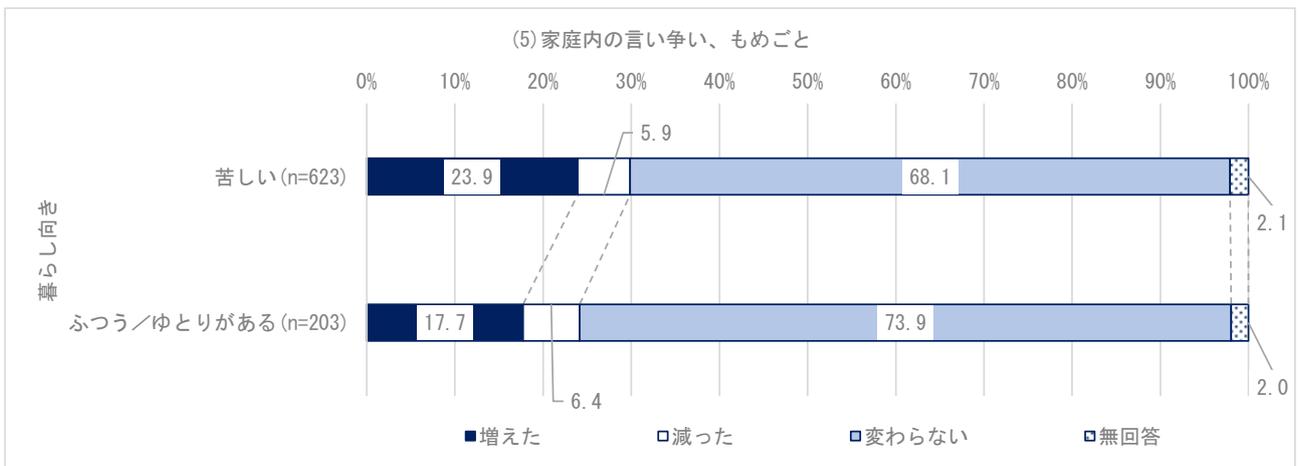
図表 104 問 16(1)現在の暮らし向き×問 31(3)食料・衣服が買えないこと



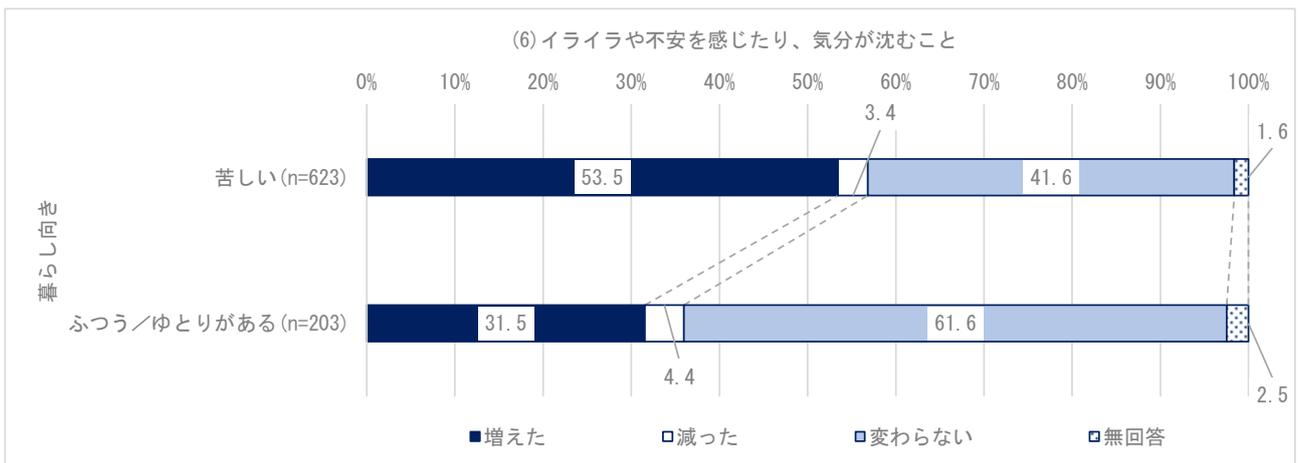
図表 105 問 16(1)現在の暮らし向き×問 31(4)子どもと話をすること



図表 106 問 16(1)現在の暮らし向き×問 31(5)家庭内の言い争い・もめごと

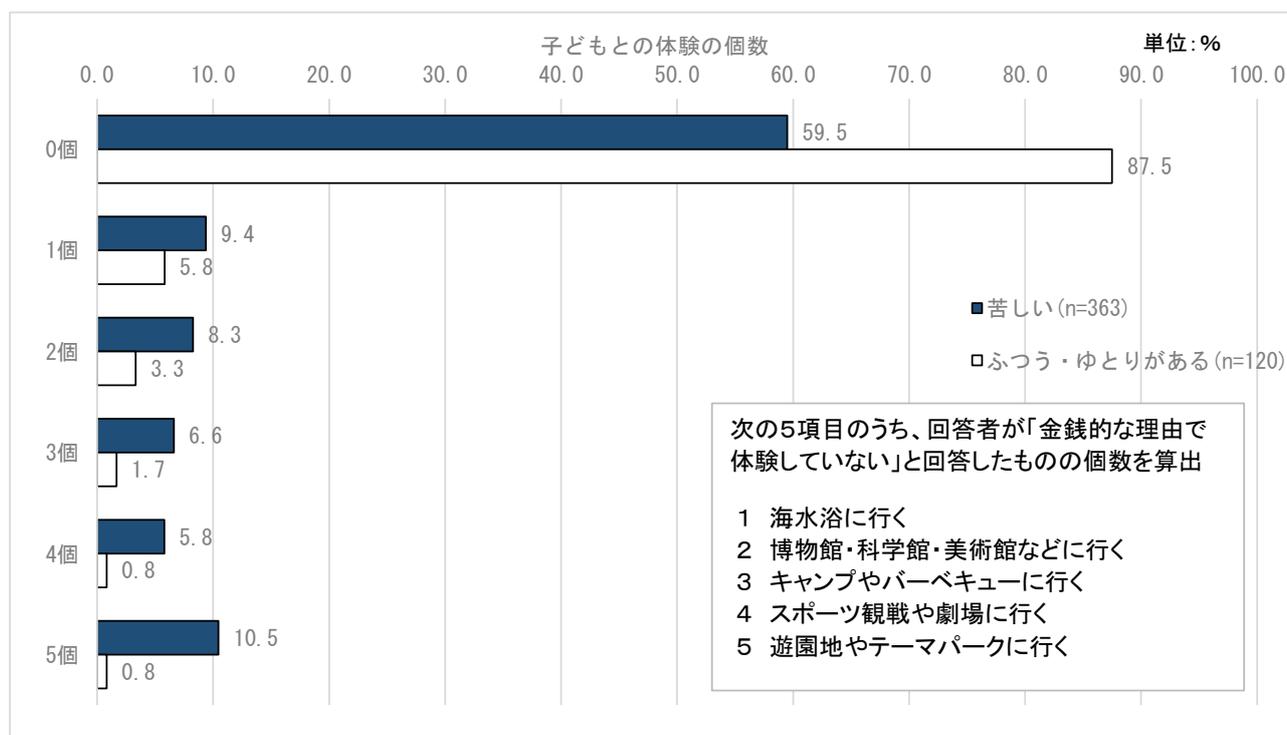


図表 107 問 16(1)現在の暮らし向き×問 31(6)イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと

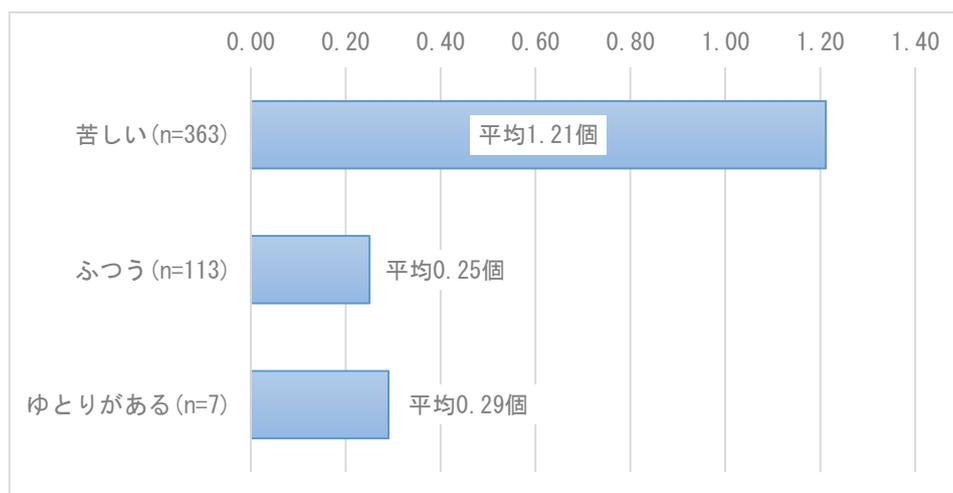


ク 現在の暮らし向き×家庭での子どもとの体験(経済的理由で体験できない個数)(問16×問43)
 現在の暮らし向きが「苦しい」方が、経済的な理由で、子どもとの体験できないことの個数が多くなっている。

図表 108 問16(1)現在の暮らし向き×問43 家庭での子どもとの体験
 (経済的理由で体験できないことの個数)



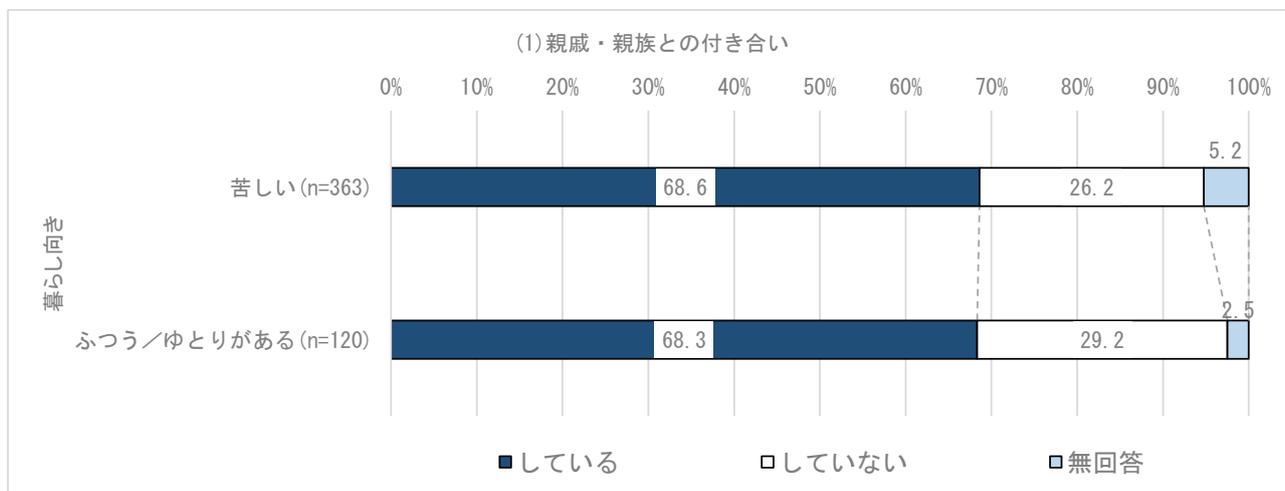
図表 109 問16(1)現在の暮らし向き×問43 家庭での子どもとの体験
 (経済的理由で体験できないことの平均個数)



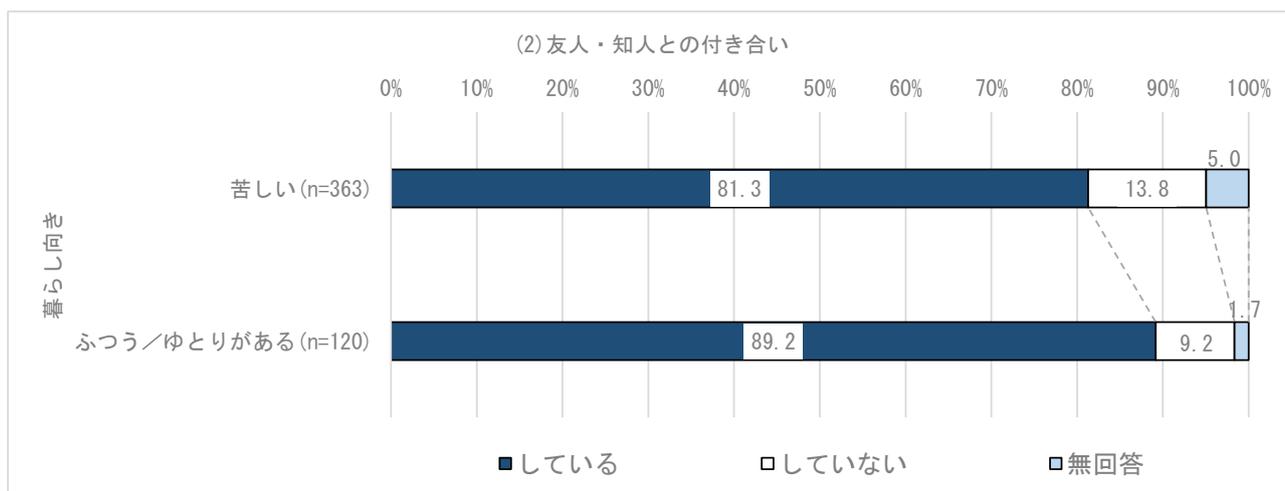
ケ 現在の暮らし向き×子どもの社会とのかかわり (問 16(1) × 問 52)

現在の暮らし向きが「苦しい」方が、子どもが社会とのかかわりを、「していない」割合が高い傾向がある。

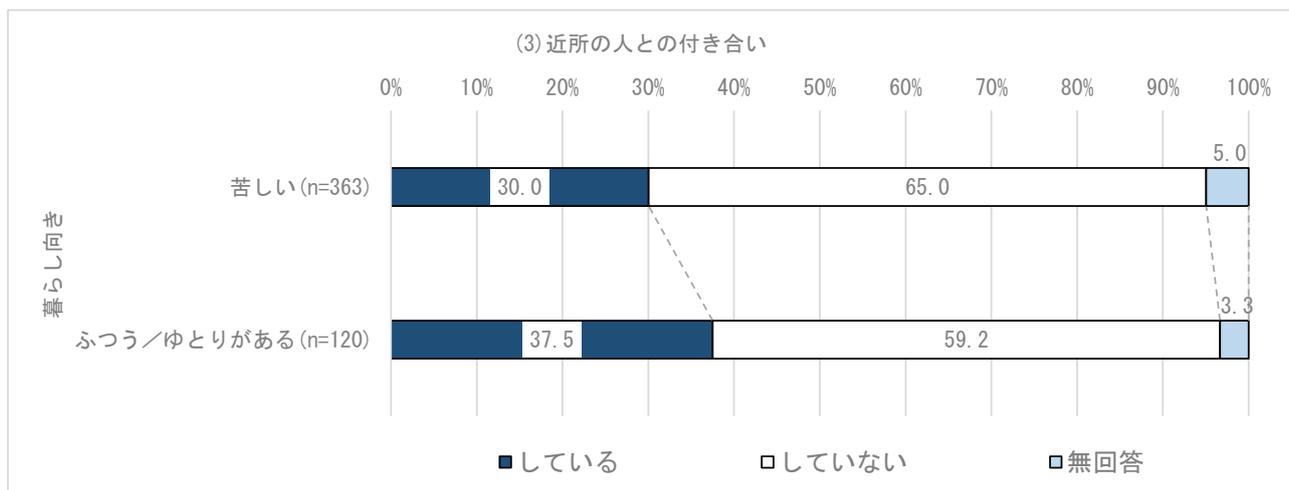
図表 110 問 16(1)現在の暮らし向き×問 52 (1)親戚・親族との付き合い



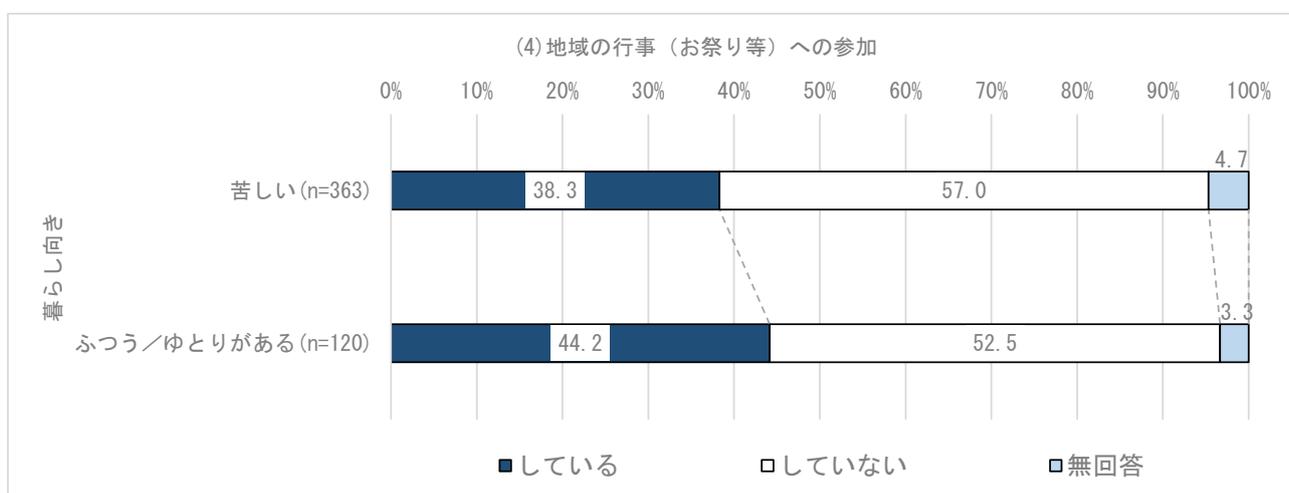
図表 111 問 16(1)現在の暮らし向き×問 52 (2)友人・知人との付き合い



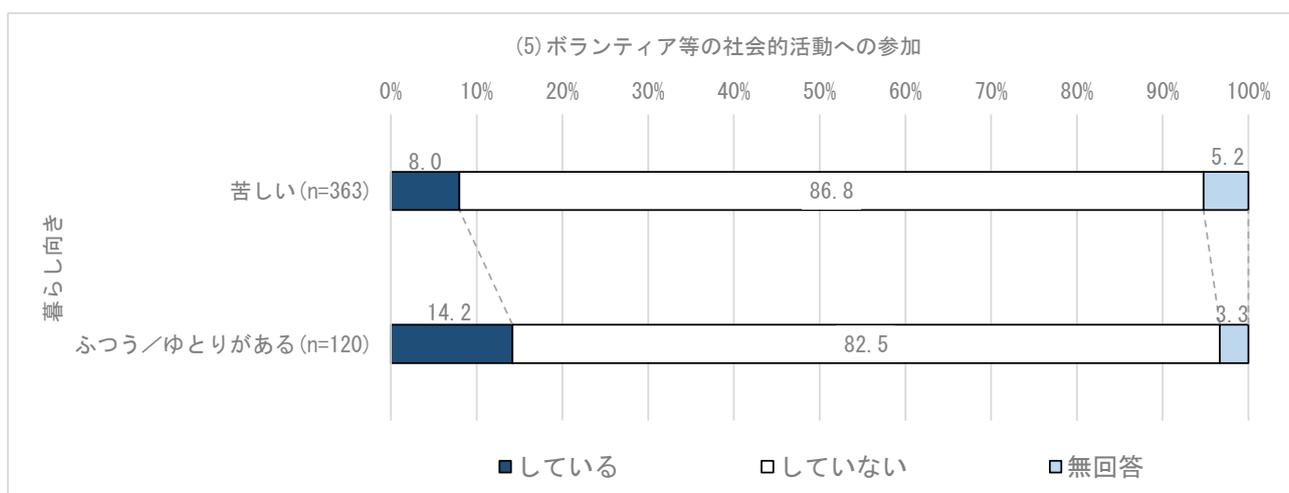
図表 112 問 16(1)現在の暮らし向き×問 52 (3)近所の人との付き合い



図表 113 問 16(1)現在の暮らし向き×問 52 (4)地域の行事（お祭り等）への参加



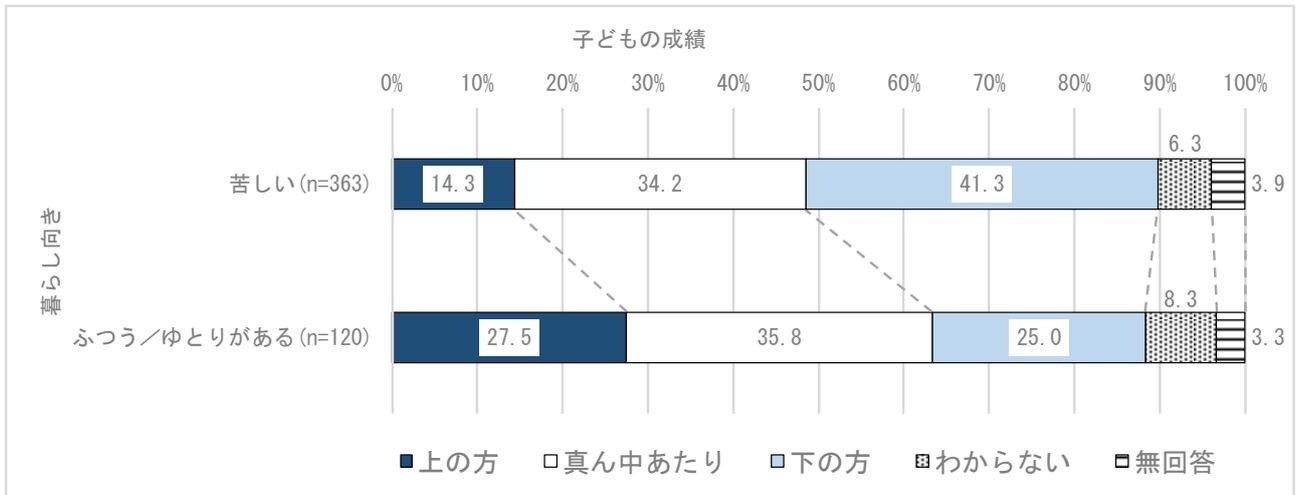
図表 114 問 16(1)現在の暮らし向き×問 52 (5)ボランティア等の社会的活動への参加



コ 現在の暮らし向き×子どもの成績(問 16(1) ×問 54)

現在の暮らし向きが「苦しい」方が、保護者からみた子どもの成績が低調である。

図表 115 問 16(1)現在の暮らし向き×問 54 子どもの成績

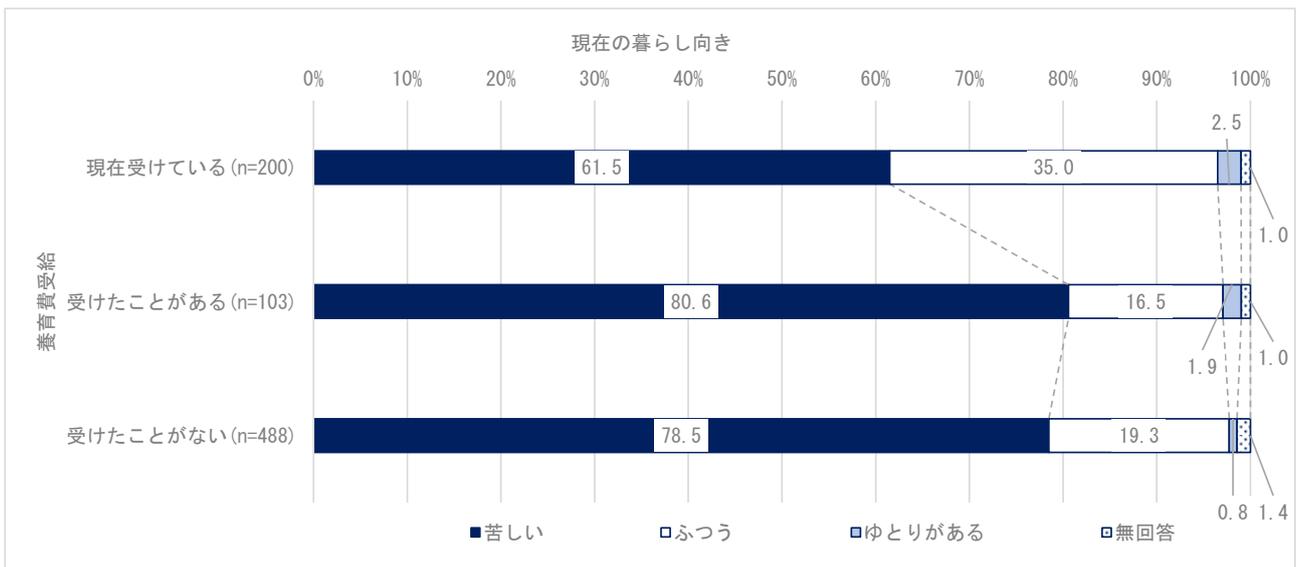


サ 養育費の受給状況

(7) 養育費の受給状況×現在の暮らし向き(問 6(2) ×問 16(1))

養育費を「現在受けている」家庭の方が、現在の暮らし向きがよい。

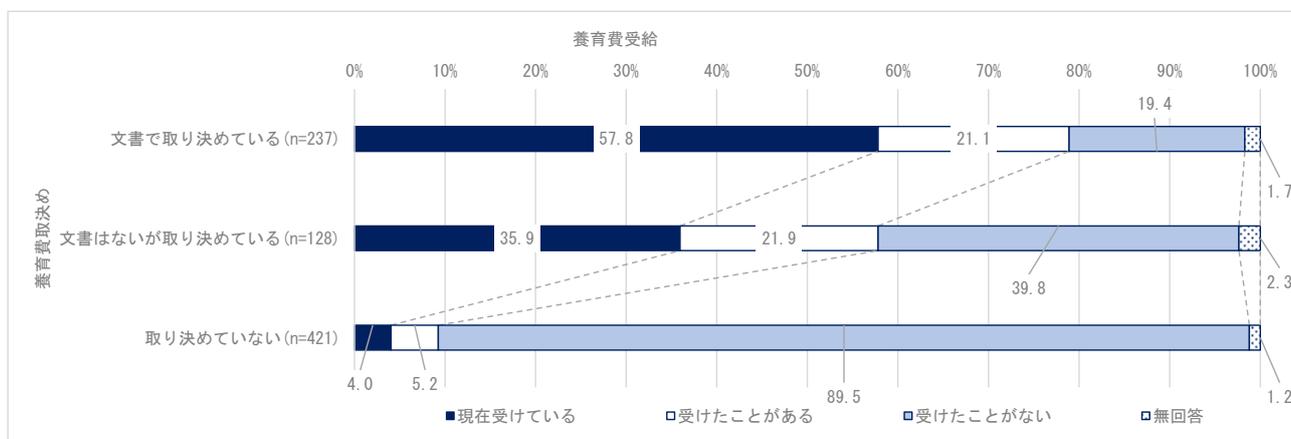
図表 116 問 6(2)養育費の受給状況×問 16(1)現在の暮らし向き



(イ) 養育費の取決めの有無×養育費の受給状況(問6(1)×問6(2))

養育費を「文書で取り決めている」方が、養育費を「現在受けている」割合が高い。

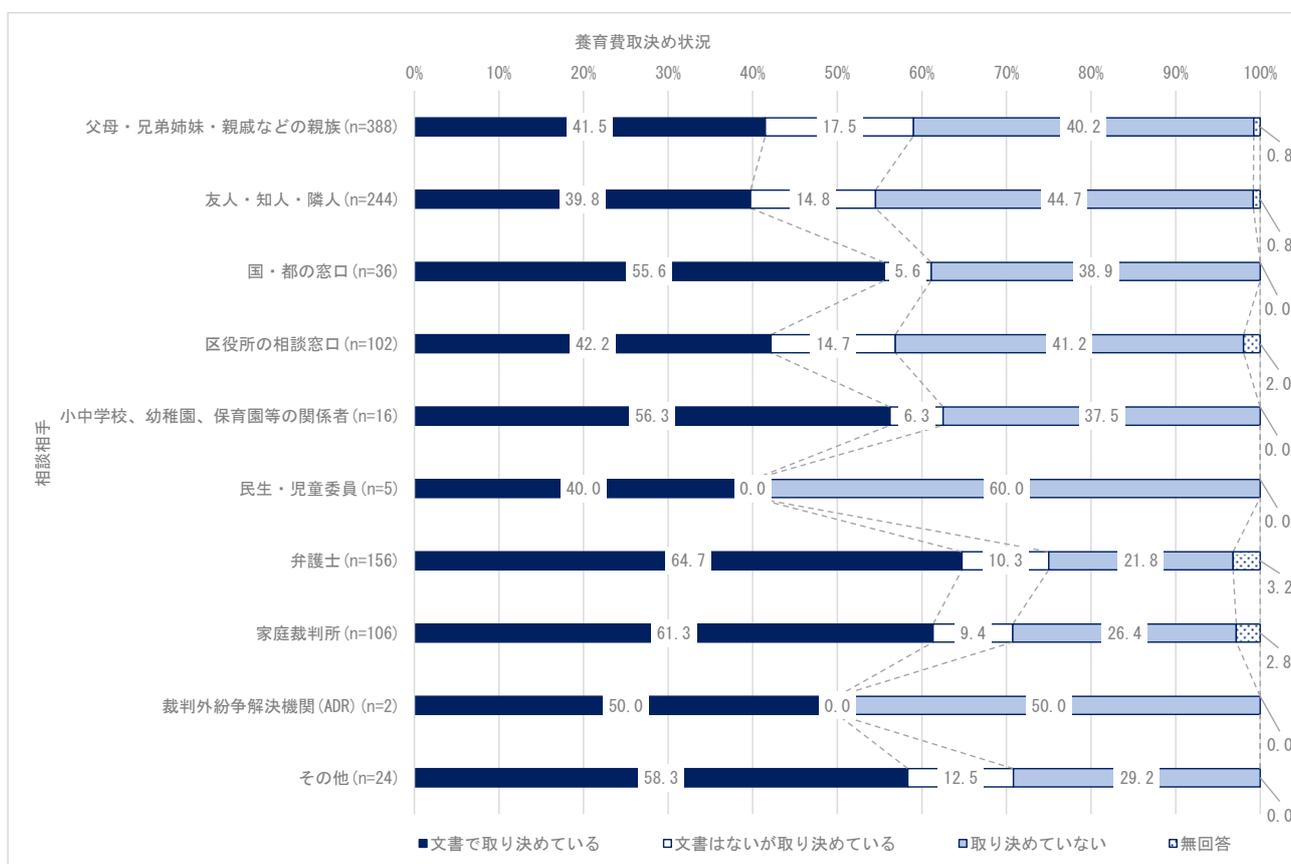
図表 117 問6(1)養育費の取決めの有無×問6(2)養育費の受給状況



(ウ) 養育費の相談先×養育費の取決めの有無(問7(2)×問6(1))

離婚の際の相談先別に養育費の取決め状況をみると、「弁護士」(64.7%)、「家庭裁判所」(61.3%)などで、「文書で取り決めている」割合が高い。

図表 118 問7(2)養育費の相談先×問6(1)養育費の取決めの有無



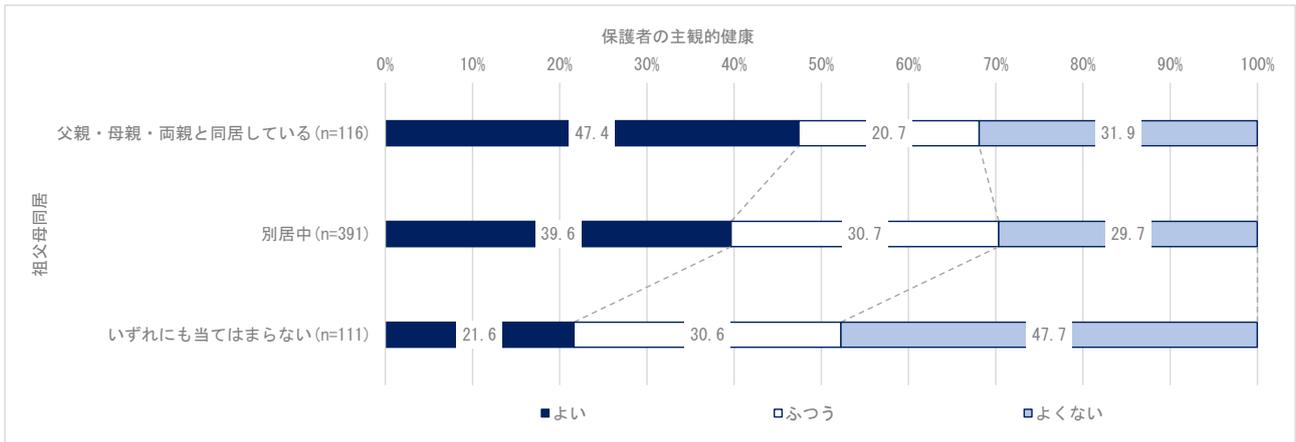
(2) 親子と社会関係

家庭の暮らし向きが「苦しい」なかで、その家庭の持つ人的資源(祖父母・相談相手等)が、親子の心身や社会関係等に及ぼす影響について検討した。

ア 現在の暮らし向き×祖父母の同居状況×保護者の主観的健康(問16(1)×問4×問20)

暮らし向きが「苦しい」家庭でも、(子どもからみた)祖父母と同居している場合には、保護者の主観的健康状態は「よい」割合が高い。

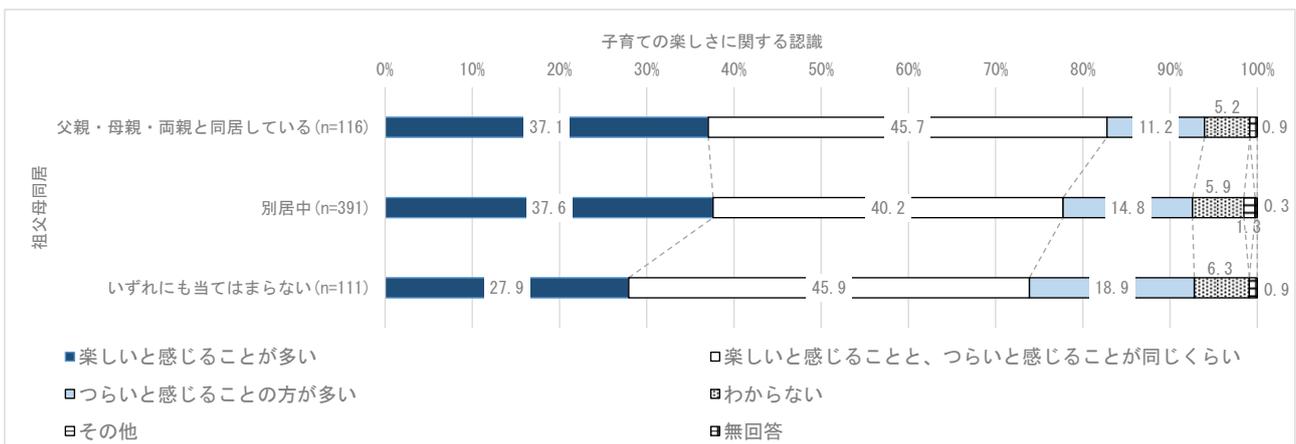
図表 119 問16(1)現在の暮らし向き(苦)×問4祖父母の同居状況×問20保護者の主観的健康



イ 現在の暮らし向き×祖父母の同居状況×子育ての楽しさに関する認識(問16(1)×問4×問21)

暮らし向きが「苦しい」家庭でも、(子どもからみた)祖父母と同居している場合には、子育てを「つらいと感じることの方が多い」割合が低くなっている。

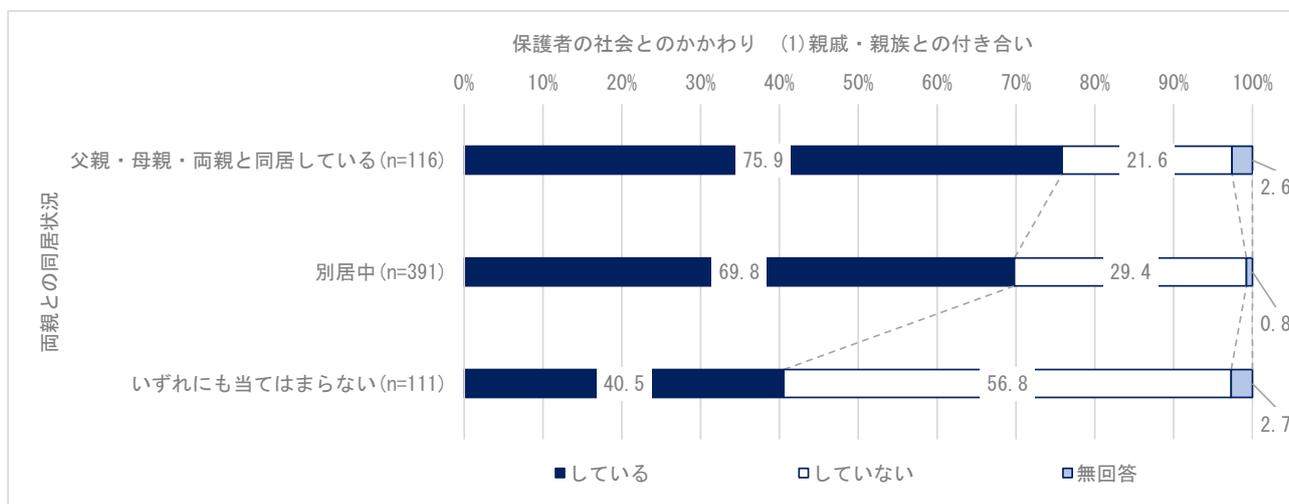
図表 120 問16(1)現在の暮らし向き(苦)×問4祖父母の同居状況×問21子育ての楽しさに関する認識



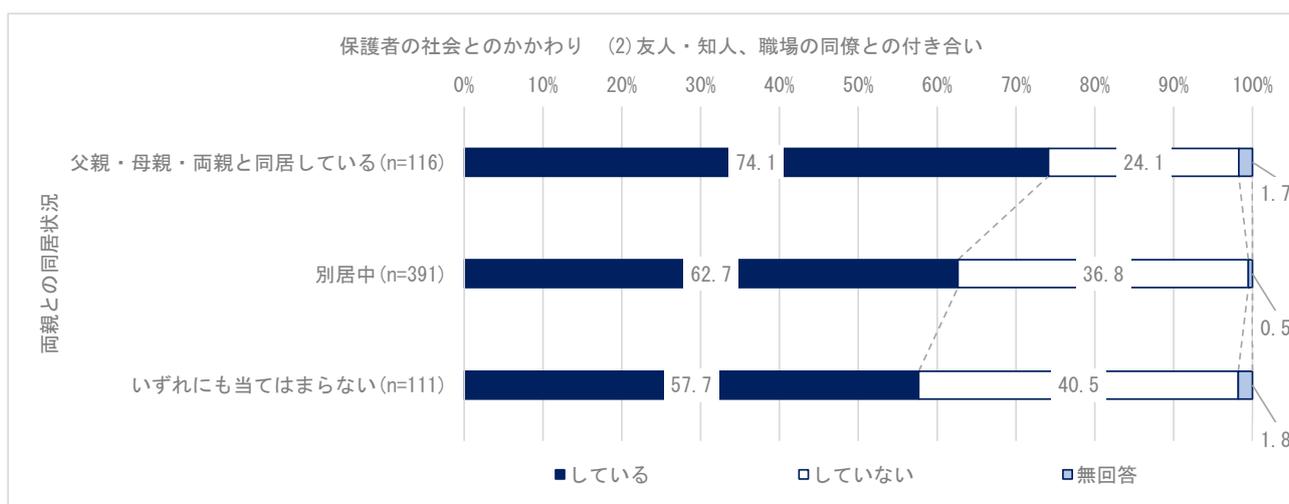
ウ 現在の暮らし向き×祖父母の同居状況×保護者の社会とのかかわり(問16(1)×問4×問23)

暮らし向きが「苦しい」家庭でも、(子どもからみた)祖父母と同居している場合には、保護者が社会とのかかわりを、「している」割合が高い傾向がある。

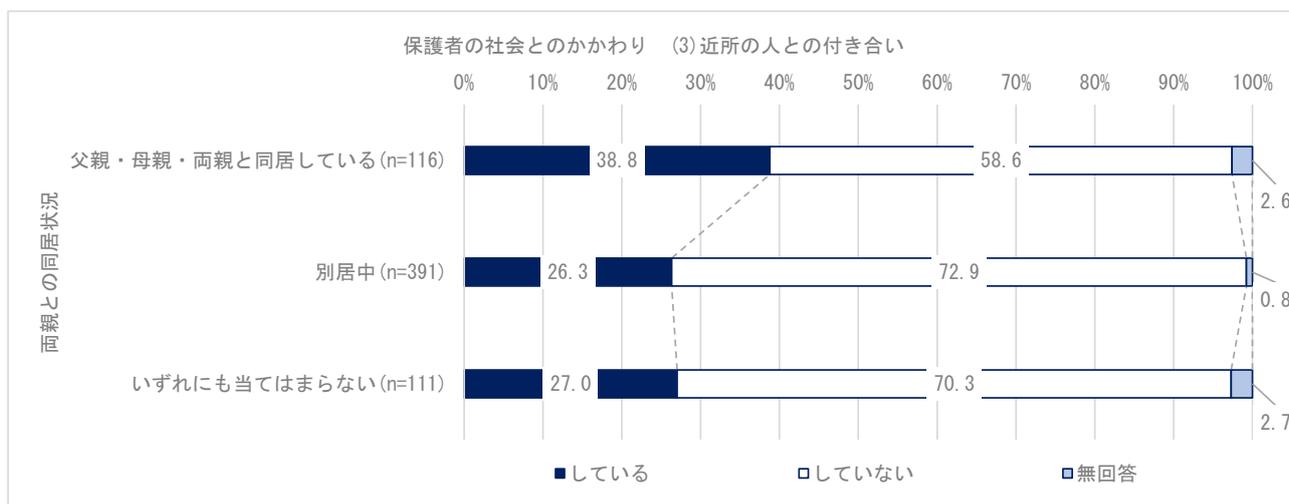
図表 121 問16(1)現在の暮らし向き(苦)×問4祖父母の同居状況
×問23(1)親戚・親族との付き合い



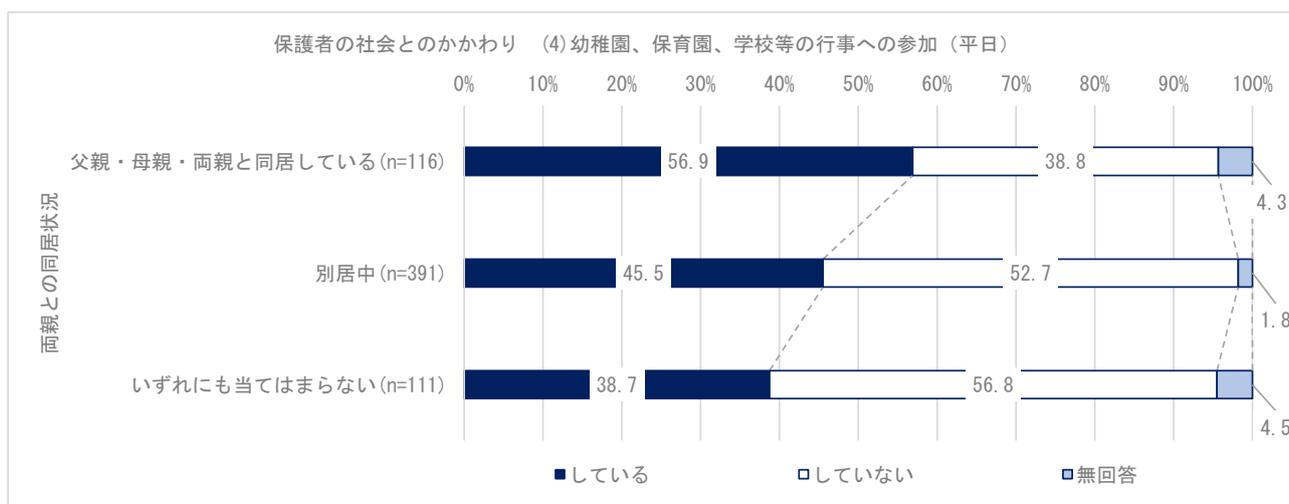
図表 122 問16(1)現在の暮らし向き(苦)×問4祖父母の同居状況
×問23(2)友人・知人、職場の同僚との付き合い



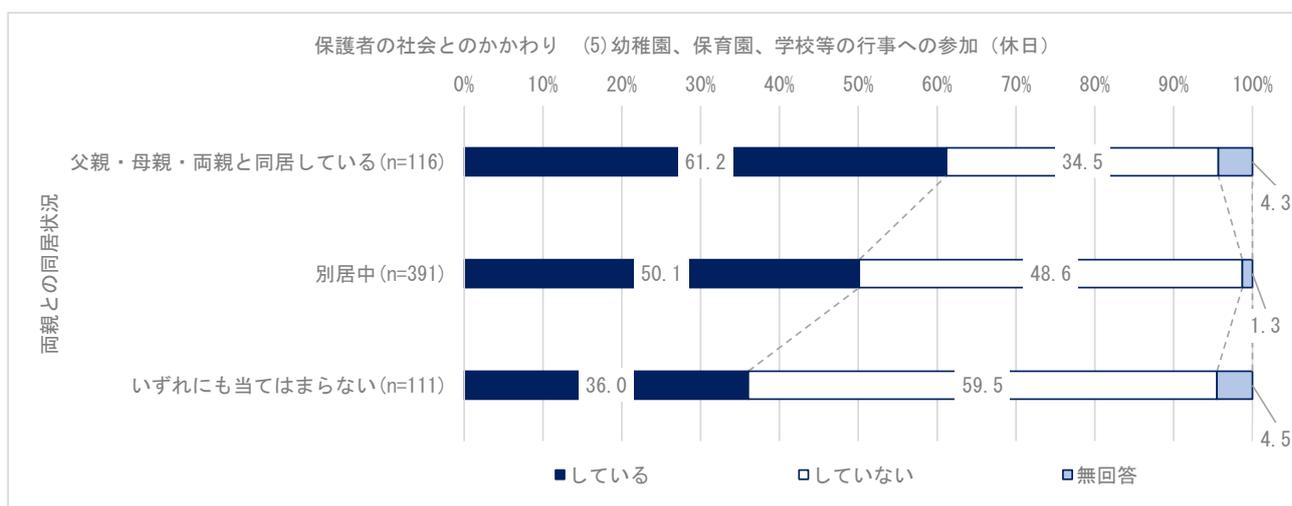
図表 123 問16(1)現在の暮らし向き(苦)×問4祖父母の同居状況×問23(3)近所の人との付き合い



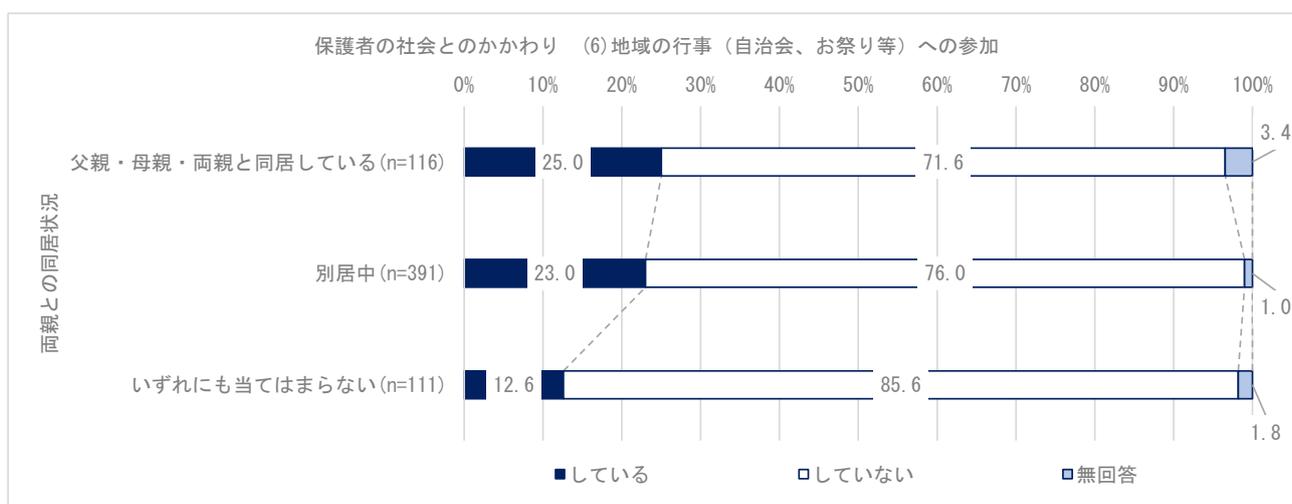
図表 124 問 16(1)現在の暮らし向き(苦)×問 4 祖父母の同居状況
×問 23 (4)幼稚園、保育園、学校等の行事への参加 (平日)



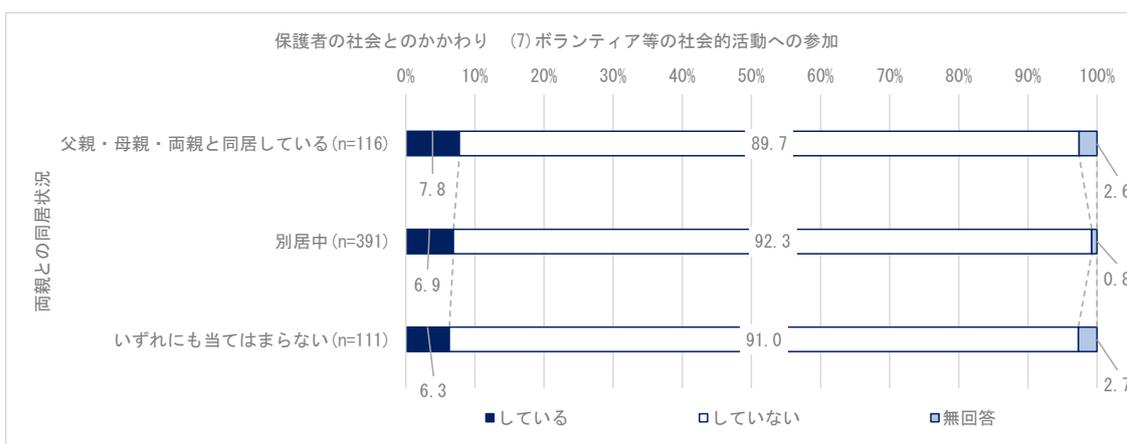
図表 125 問 16(1)現在の暮らし向き(苦)×問 4 祖父母の同居状況
×問 23 (5)幼稚園、保育園、学校等の行事への参加 (休日)



図表 126 問 16(1)現在の暮らし向き(苦)×問 4 祖父母の同居状況
×問 23 (6)地域の行事 (自治会、お祭り等) への参加

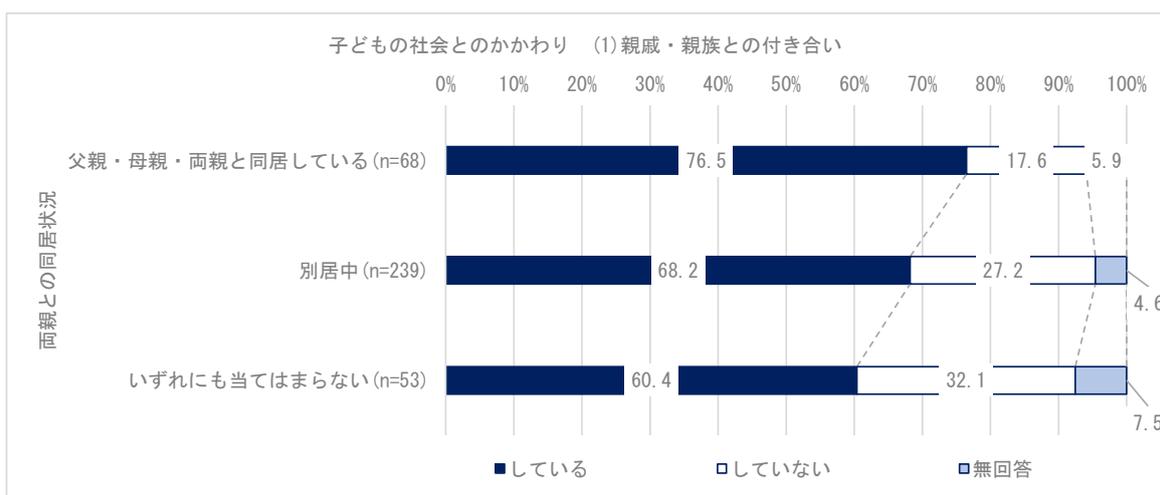


図表 127 問 16(1)現在の暮らし向き(苦)×問 4 祖父母の同居状況
×問 23 (7)ボランティア等の社会的活動への参加

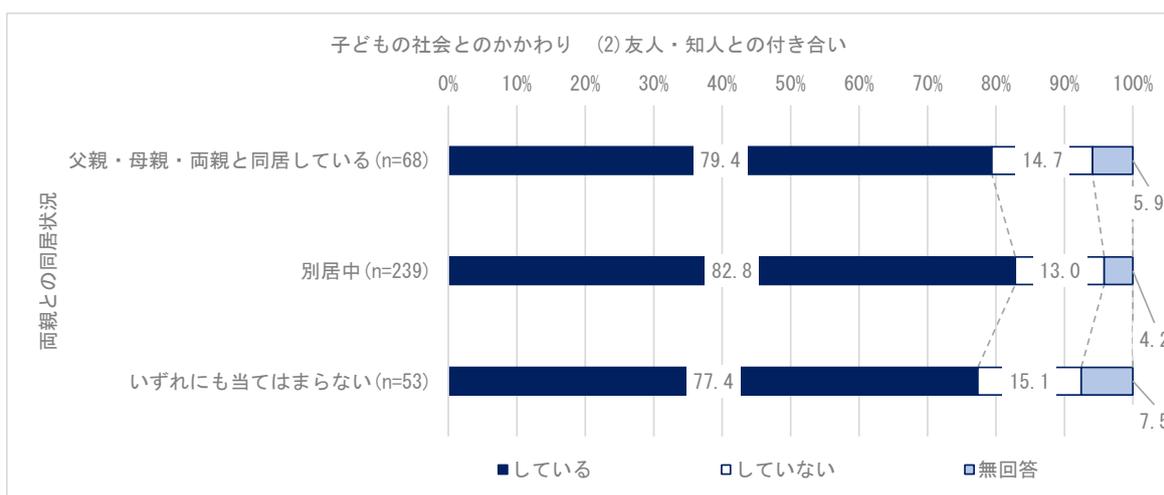


エ 現在の暮らし向き×祖父母の同居状況×子どもの社会とのかかわり(問 16(1)×問 4×問 52)
暮らし向きが「苦しい」家庭でも、(子どもからみた)祖父母と同居している場合には、子どもが社会とのかかわりを、「している」割合が高くなる傾向がある。

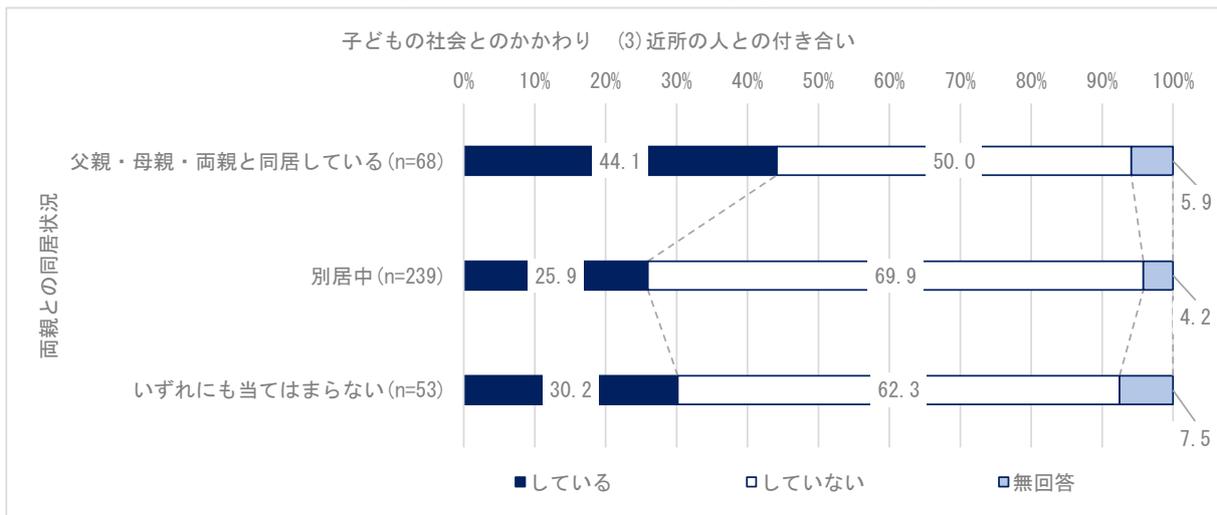
図表 128 問 16(1)現在の暮らし向き(苦)×問 4 祖父母の同居状況
×問 52 子どもの社会とのかかわり(1)親戚・親族との付き合い



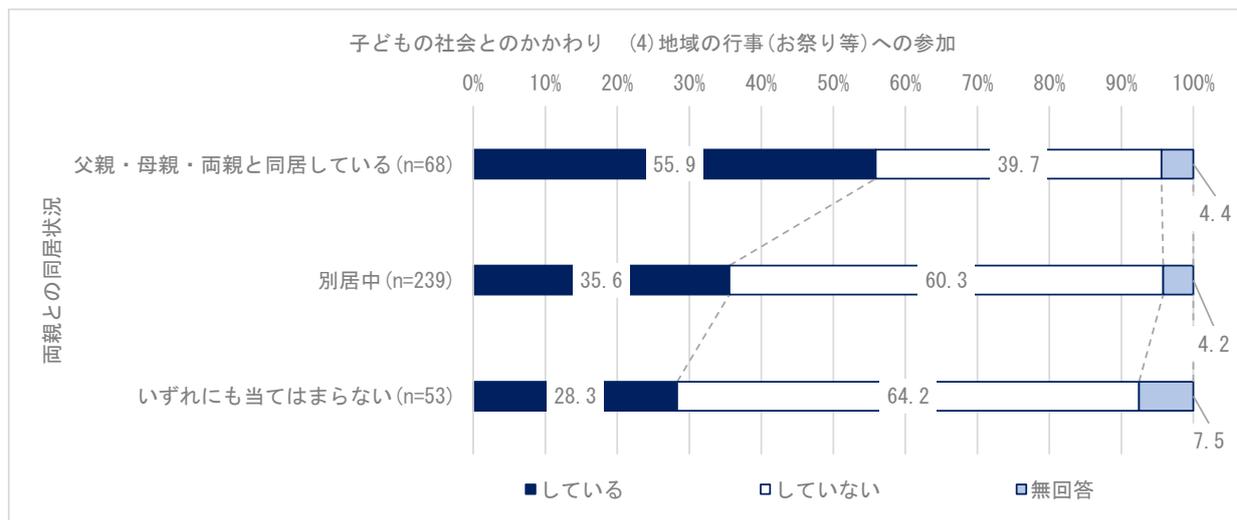
図表 129 問 16(1)現在の暮らし向き(苦)×問 4 祖父母の同居状況
×問 52 子どもの社会とのかかわり(2)友人・知人との付き合い



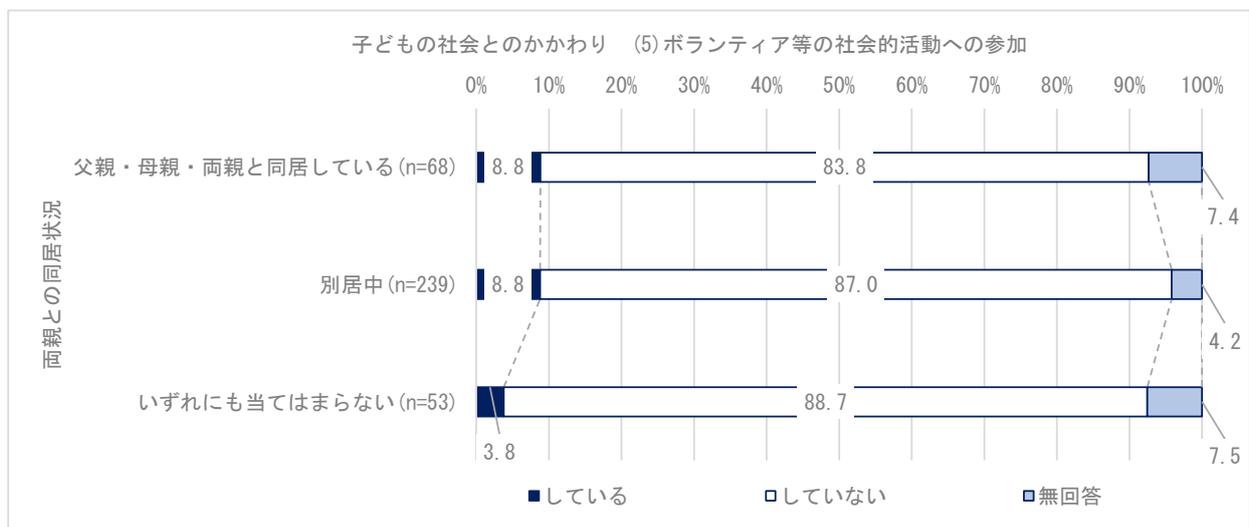
図表 130 問 16(1)現在の暮らし向き(苦)×問 4 祖父母の同居状況
×問 52 子どもの社会とのかかわり(3)近所の人との付き合い



図表 131 問 16(1)現在の暮らし向き(苦)×問 4 祖父母の同居状況
×問 52 子どもの社会とのかかわり(4)地域の行事(お祭り等)への参加



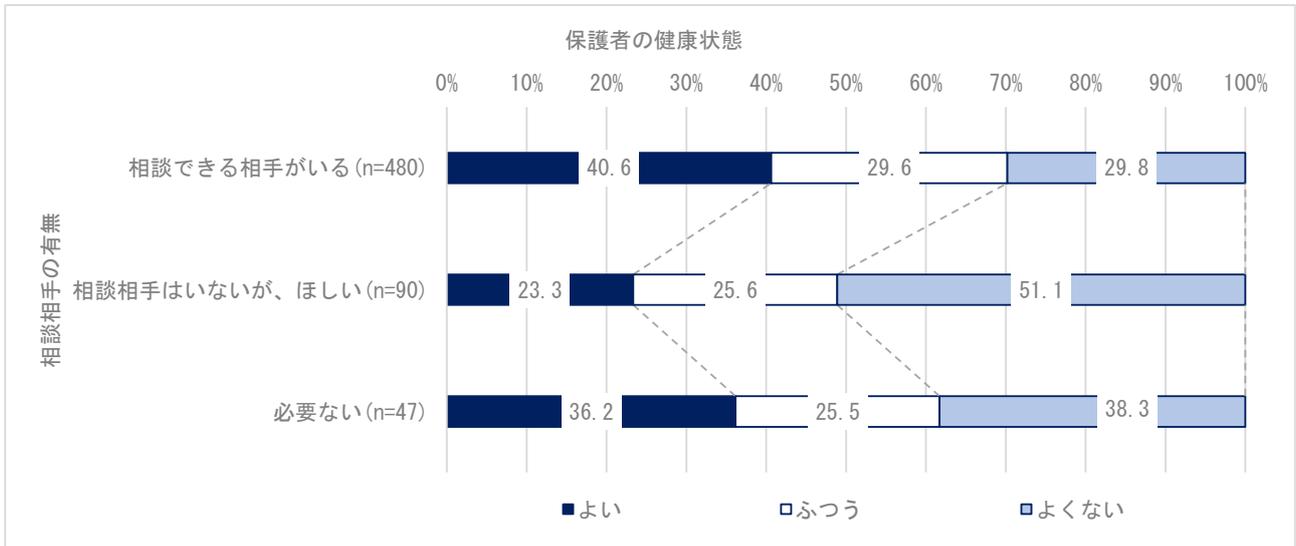
図表 132 問 16(1)現在の暮らし向き(苦)×問 4 祖父母の同居状況
×問 52 子どもの社会とのかかわり(5)ボランティア等の社会的活動への参加



オ 現在の暮らし向き×悩みの相談相手×保護者の主観的健康(問 16(1)×問 26×問 20)

暮らし向きが「苦しい」家庭でも、子どもに関する悩みを「相談できる相手がいる」場合には、保護者の主観的健康状態は「よい」割合が高い。

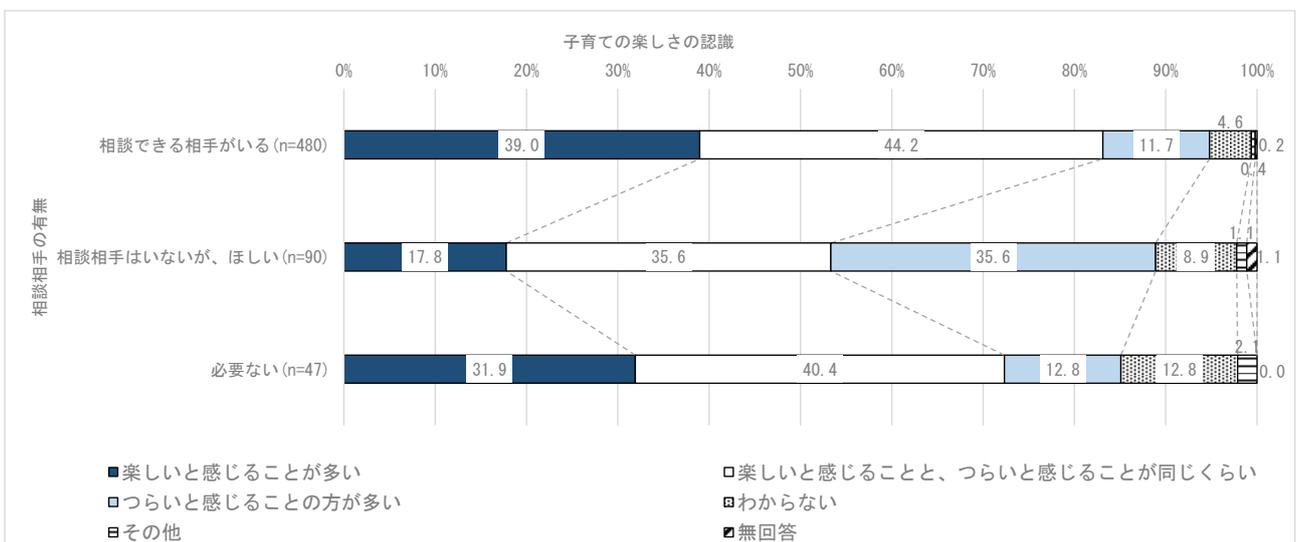
図表 133 問 16 暮らし向き(苦)×問 26 相談相手×問 20 主観的健康



カ 現在の暮らし向き×悩みの相談相手×子育ての楽しさに関する認識(問 16(1)×問 26×問 21)

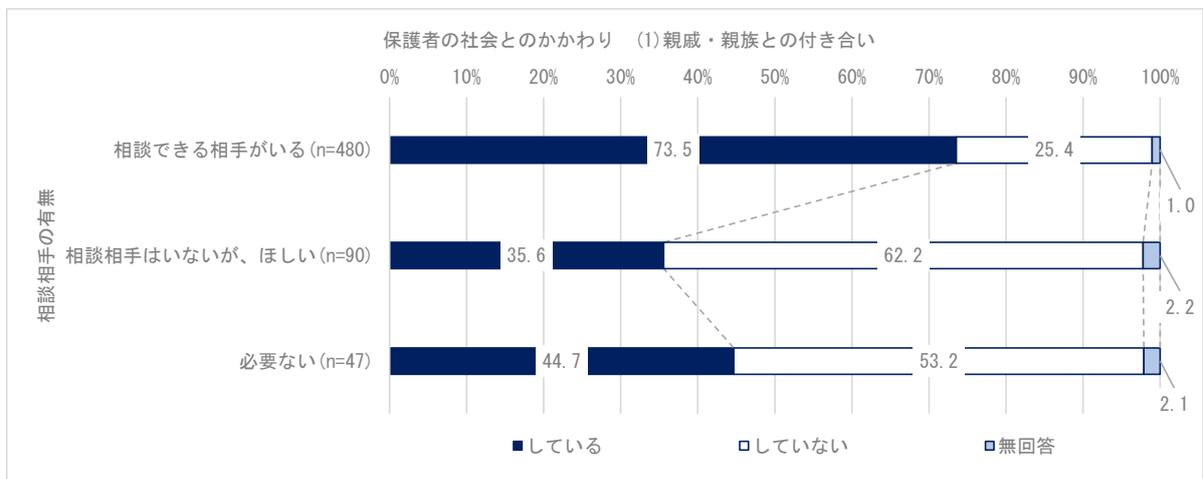
暮らし向きが「苦しい」家庭でも、子どもに関する悩みを「相談できる相手がいる」場合には、子育てを「楽しいと感じることが多い」割合が高い。

図表 134 問 16 暮らし向き(苦)×問 26 相談相手×問 21 子育ての楽しさ

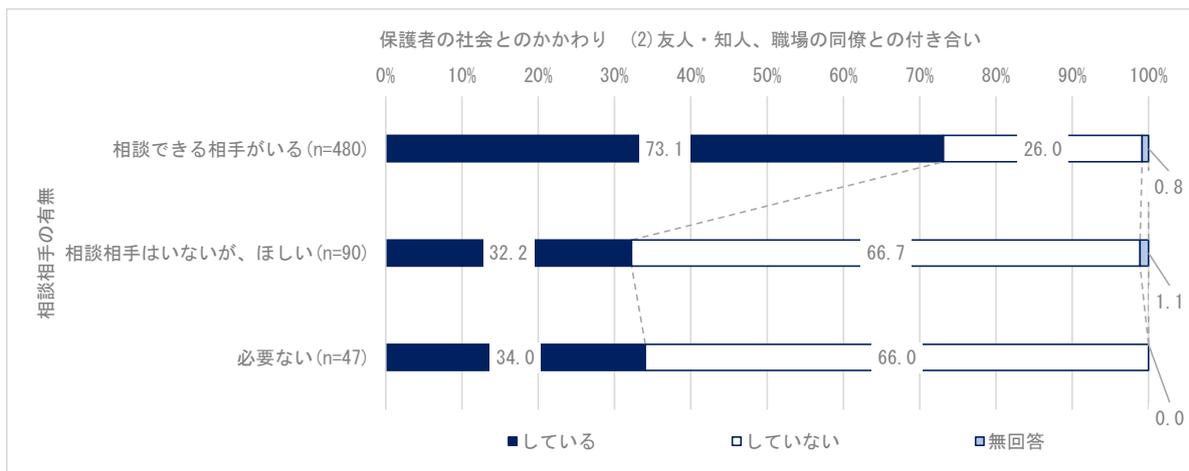


キ 現在の暮らし向き×悩みの相談相手×保護者の社会とのかかわり(問 16(1)×問 26×問 23)
 暮らし向きが「苦しい」家庭でも、子どもに関する悩みを「相談できる相手がいる」場合には、
 保護者が社会とのかかわりを、「している」割合が高い。

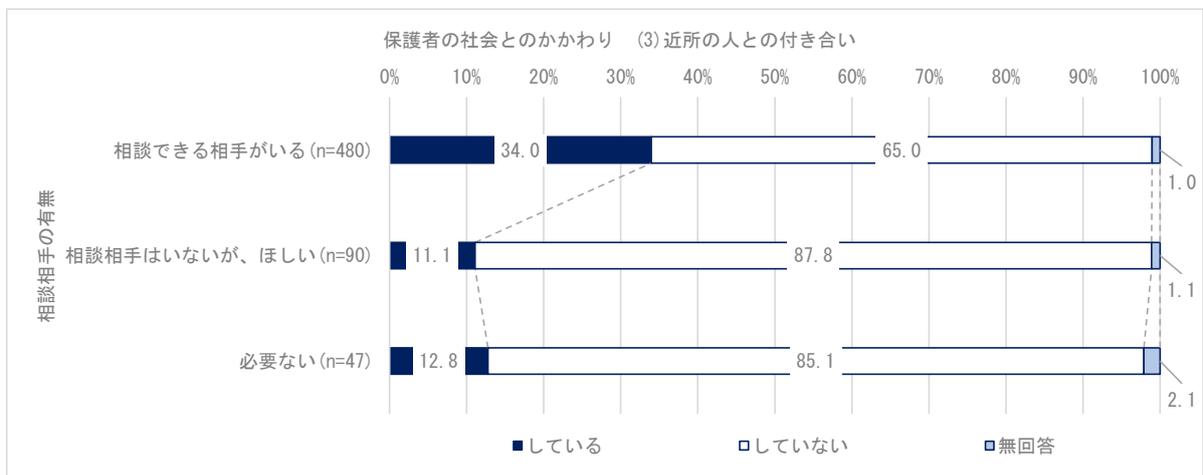
図表 135 問 16(1)現在の暮らし向き(苦)×問 26 悩みの相談相手
 ×問 23 保護者の社会とのかかわり(1)親戚・親族との付き合い



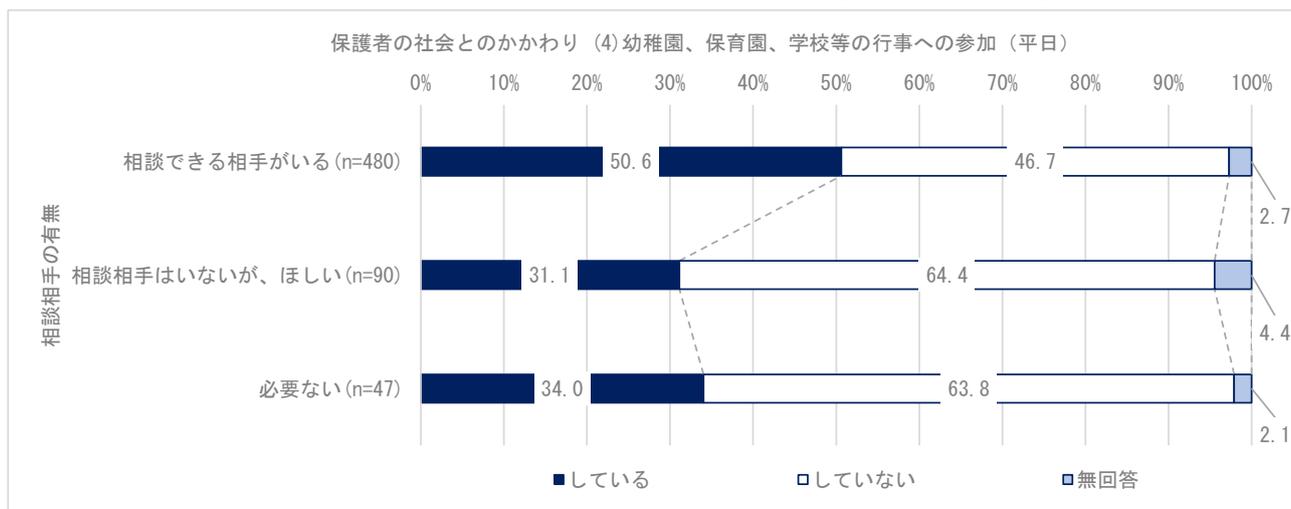
図表 136 問 16(1)現在の暮らし向き(苦)×問 26 悩みの相談相手
 ×問 23 保護者の社会とのかかわり(2)友人・知人、職場の同僚との付き合い



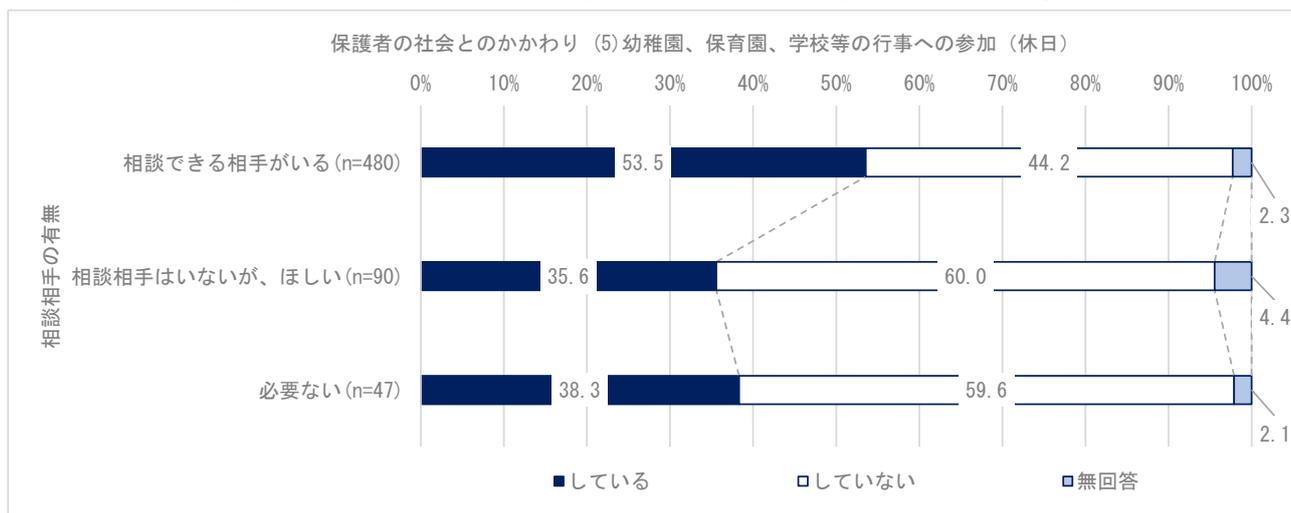
図表 137 問 16(1)現在の暮らし向き(苦)×問 26 悩みの相談相手
 ×問 23 保護者の社会とのかかわり(3)近所の人との付き合い



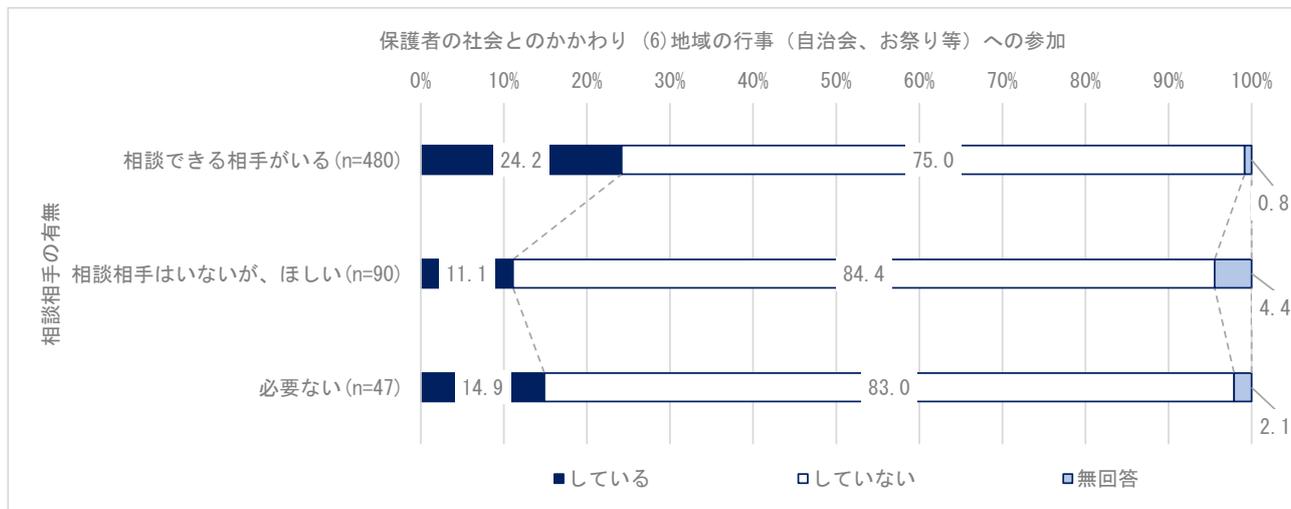
図表 138 問 16(1)現在の暮らし向き(苦)×問 26 悩みの相談相手
×問 23 保護者の社会とのかかわり(4)幼稚園、保育園、学校等の行事への参加(平日)



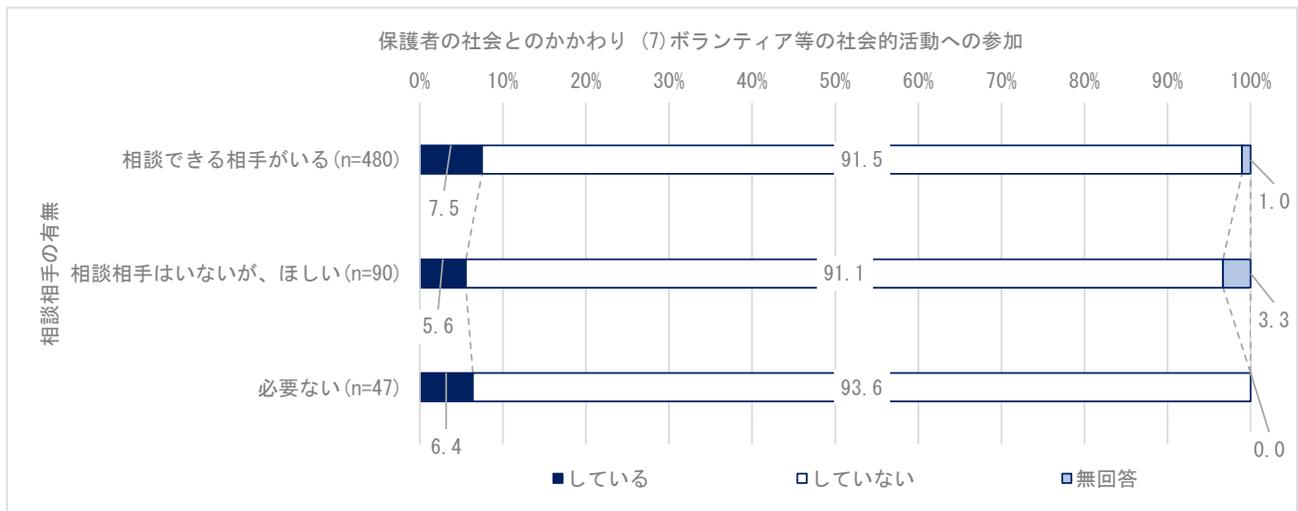
図表 139 問 16(1)現在の暮らし向き(苦)×問 26 悩みの相談相手
×問 23 保護者の社会とのかかわり(5)幼稚園、保育園、学校等の行事への参加(休日)



図表 140 問 16(1)現在の暮らし向き(苦)×問 26 悩みの相談相手
×問 23 保護者の社会とのかかわり(6)地域の行事(自治会、お祭り等)への参加



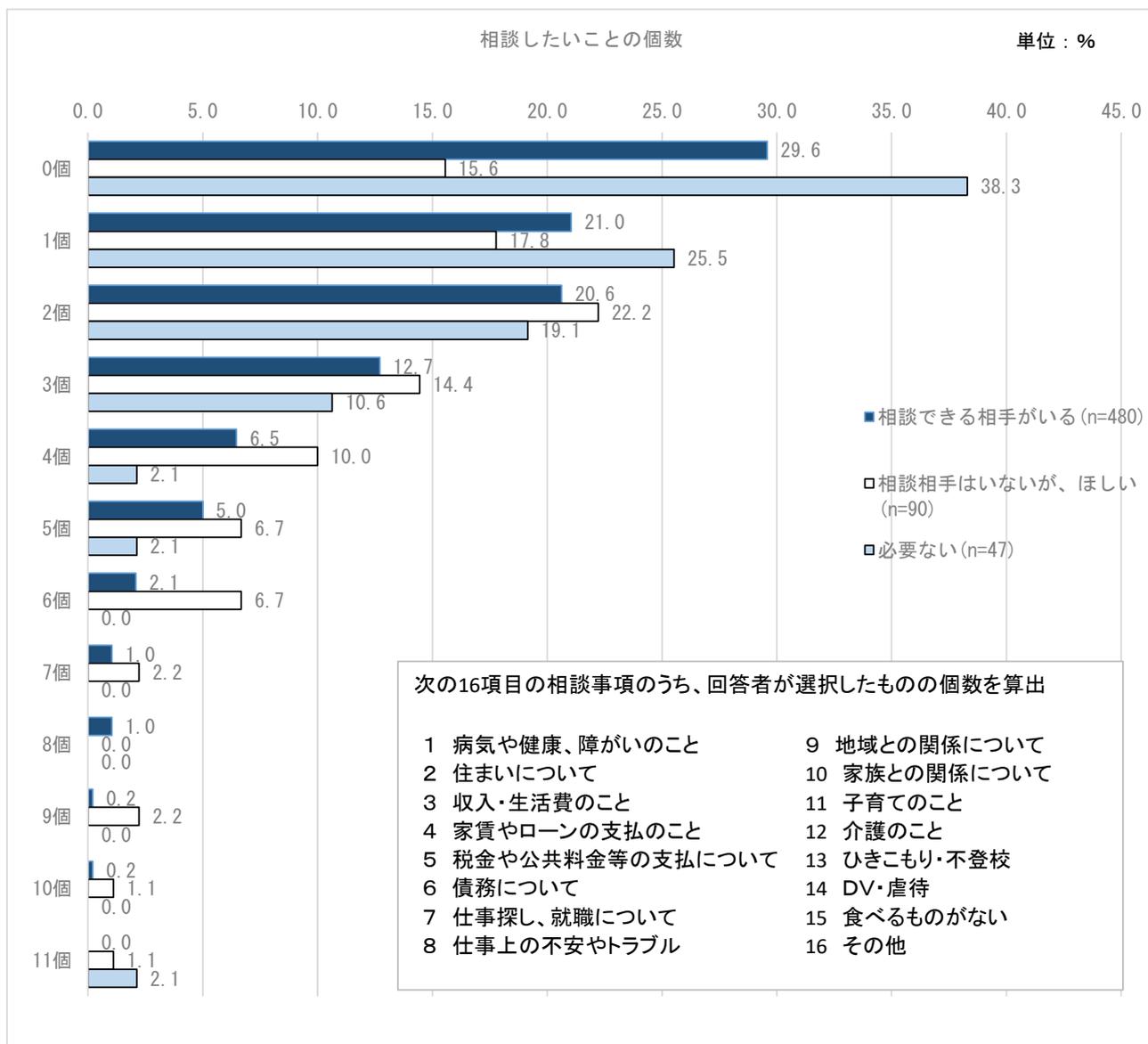
図表 141 問 16(1)現在の暮らし向き(苦)×問 26 悩みの相談相手
 ×問 23 保護者の社会とのかかわり(7)ボランティア等の社会的活動への参加



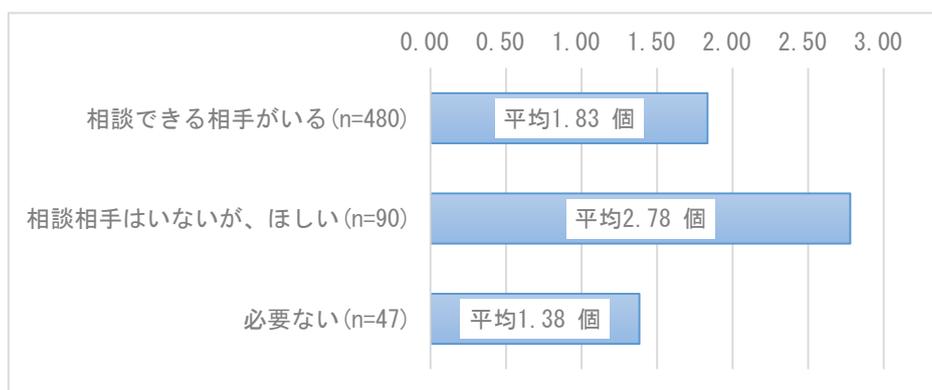
ク 現在の暮らし向き×悩みの相談相手×生活・仕事について相談したいこと(個数)
 (問 16(1)×問 26×問 24)

暮らし向きが「苦しい」家庭でも、子どもに関する悩みを「相談できる相手がいる」場合には、「相談相手はいるが、ほしい」場合と比較して、生活・仕事について相談したい項目数が少ない。

図表 142 問 16(1)現在の暮らし向き(苦)×問 26 悩みの相談相手×問 24 相談したいこと(個数)



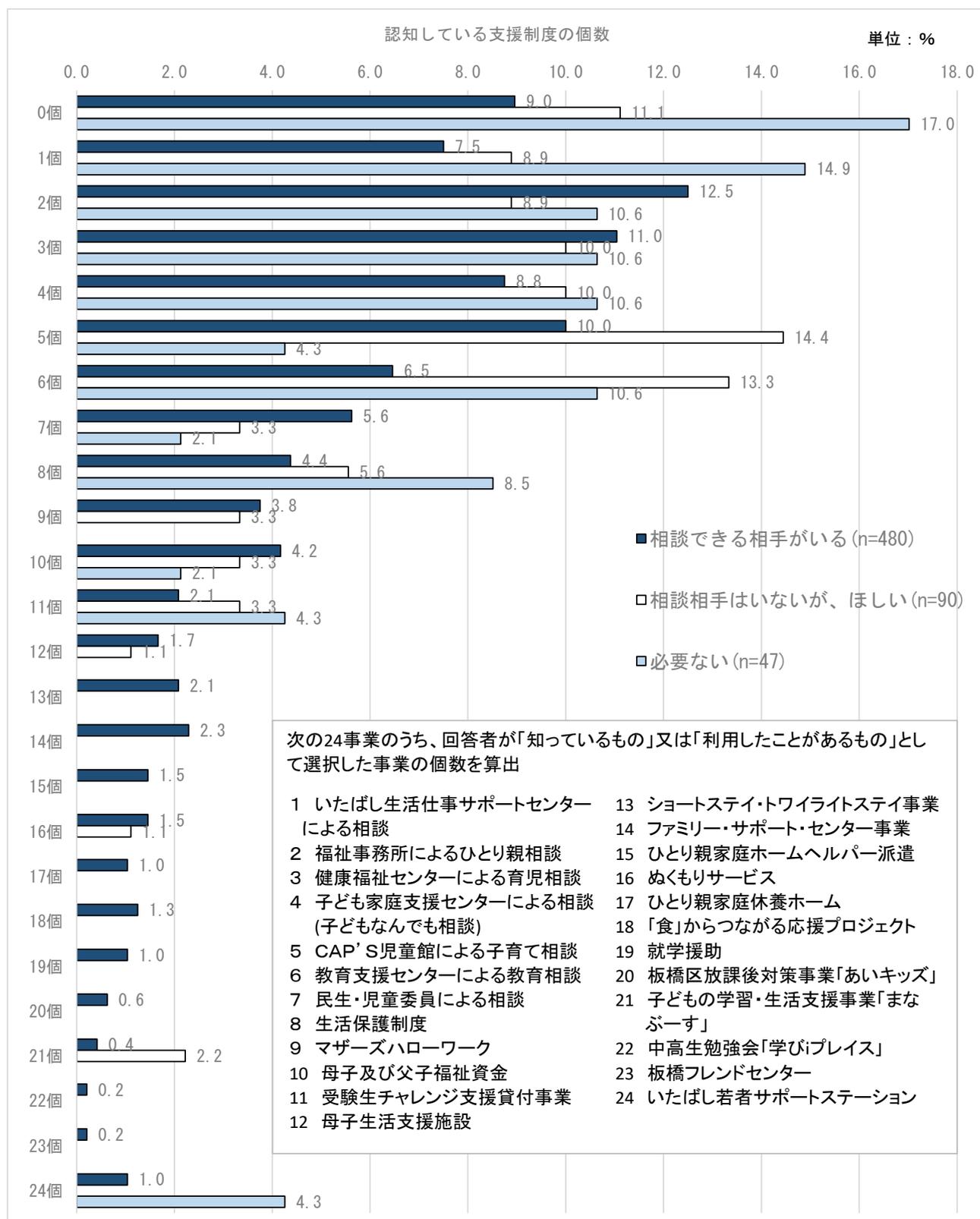
図表 143 問 16(1)現在の暮らし向き(苦)×問 26 悩みの相談相手×問 24 相談したいこと(平均個数)



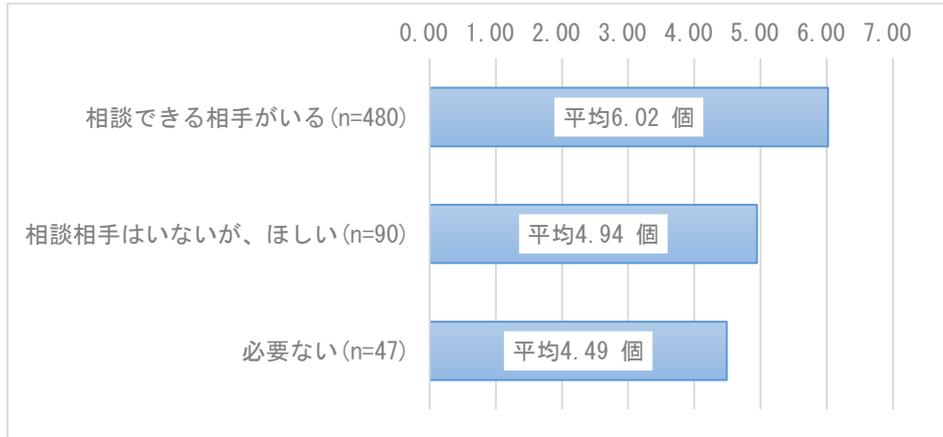
ケ 現在の暮らし向き(苦)×悩みの相談相手×支援制度の認知(個数)(問 16(1)×問 26×問 32)

暮らし向きが「苦しい」家庭でも、子どもに関する悩みについて「相談できる相手がいる」場合には、「知っていて利用したことがある」又は「知っている」支援制度の個数が多い。

図表 144 問 16(1)現在の暮らし向き(苦)×問 26 悩みの相談相手×問 32 支援制度の認知(個数)



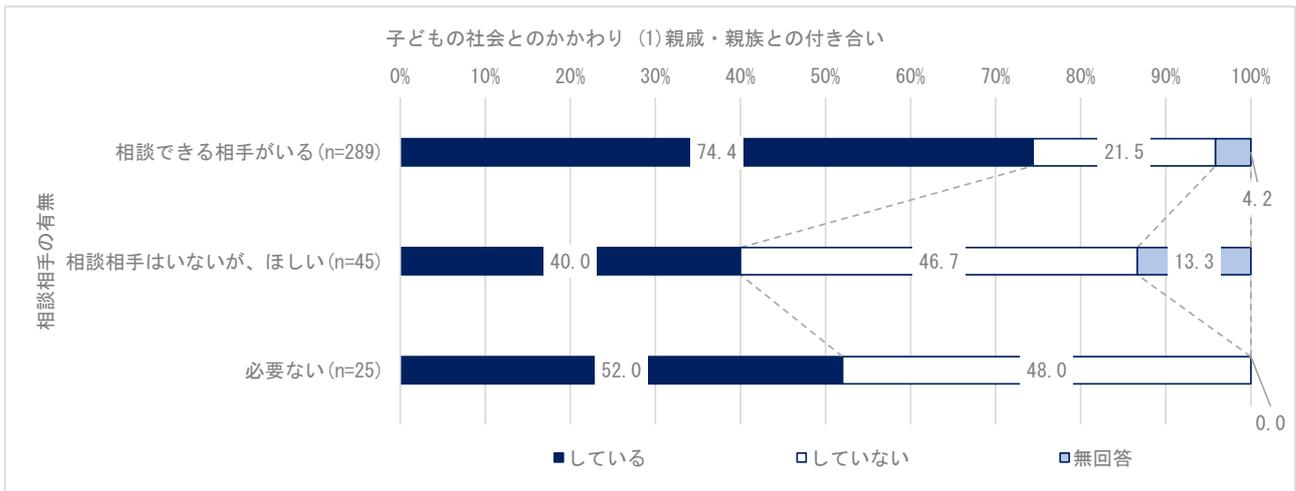
図表 145 問 16(1)現在の暮らし向き(苦)×問 26 悩みの相談相手×問 32 支援制度の認知(平均個数)



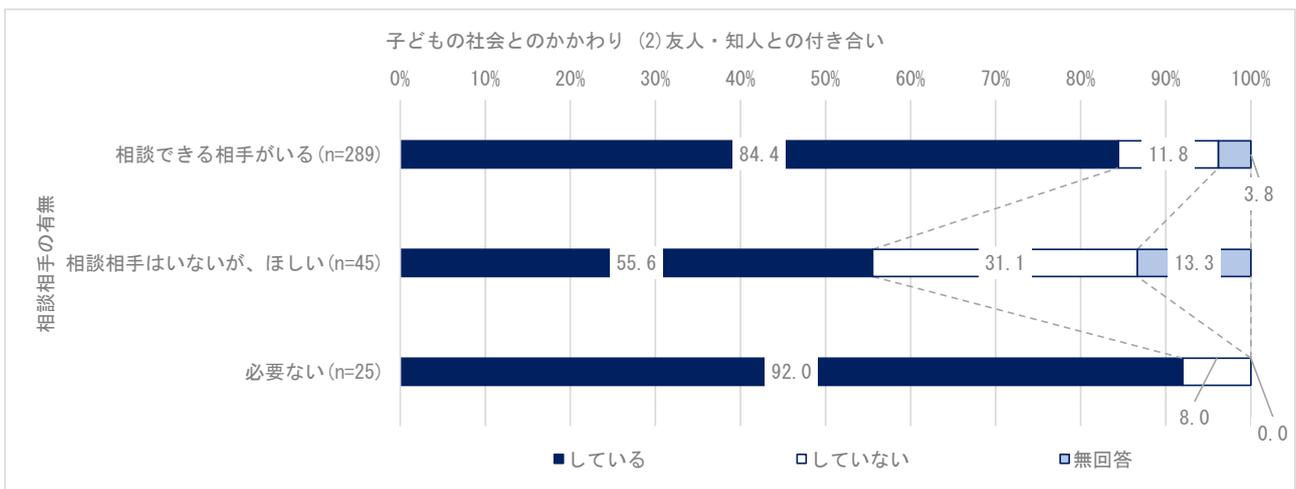
コ 現在の暮らし向き×悩みの相談相手×子どもの社会とのかかわり(問 16(1)×問 26×問 52)

暮らし向きが「苦しい」家庭でも、子どもに関する悩みについて「相談できる相手がいる」場合には、子どもが社会とのかかわりを、「している」割合が高い傾向がある。

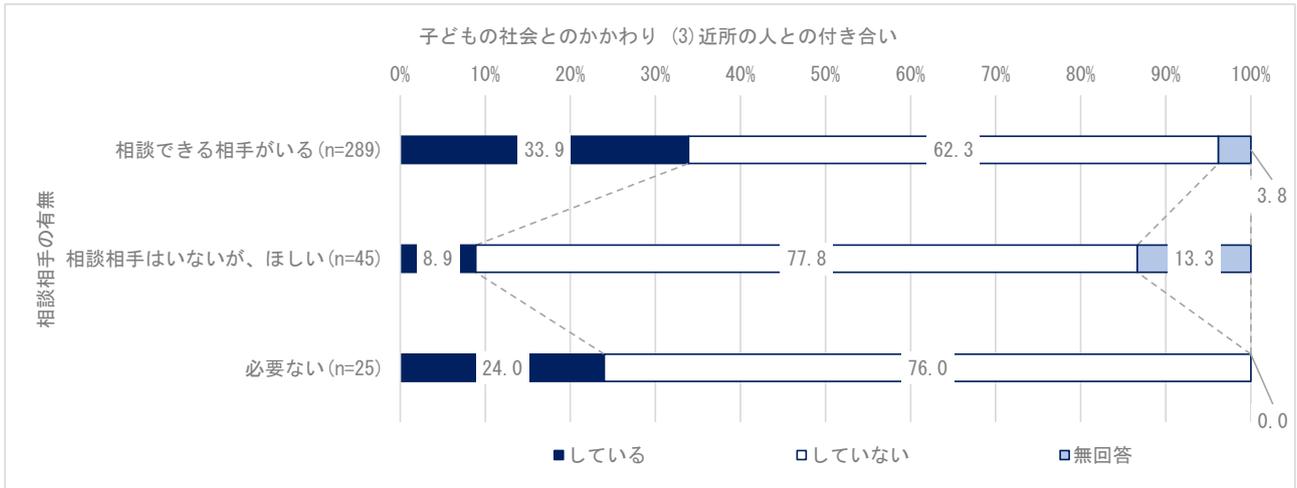
図表 146 問 16(1)現在の暮らし向き(苦)×問 26 悩みの相談相手×問 52 子どもの社会とのかかわり(1)親戚・親族との付き合い



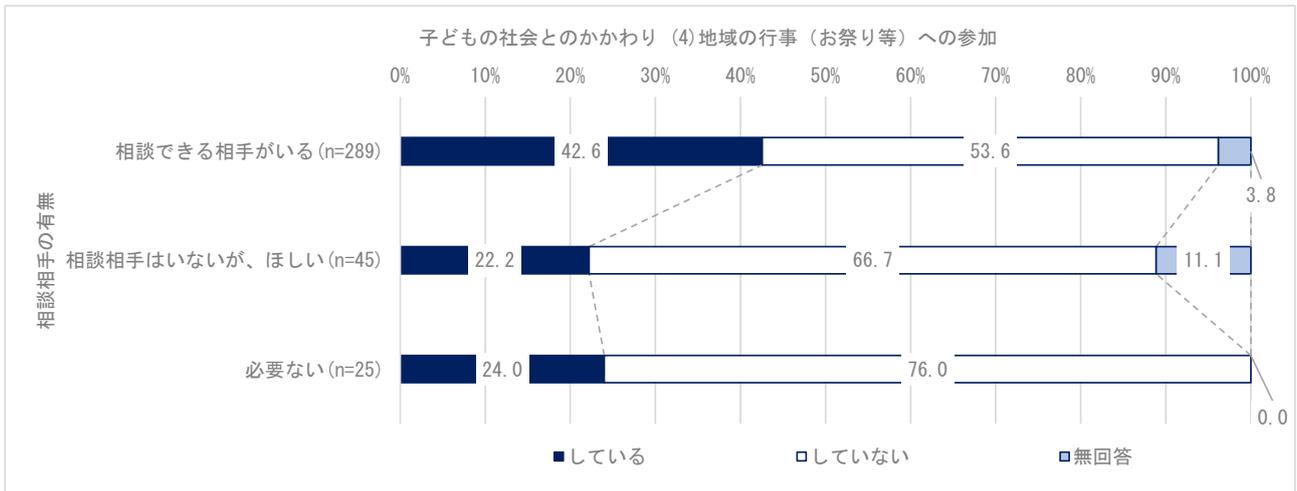
図表 147 問 16(1)現在の暮らし向き(苦)×問 26 悩みの相談相手×問 52 子どもの社会とのかかわり(2)友人・知人との付き合い



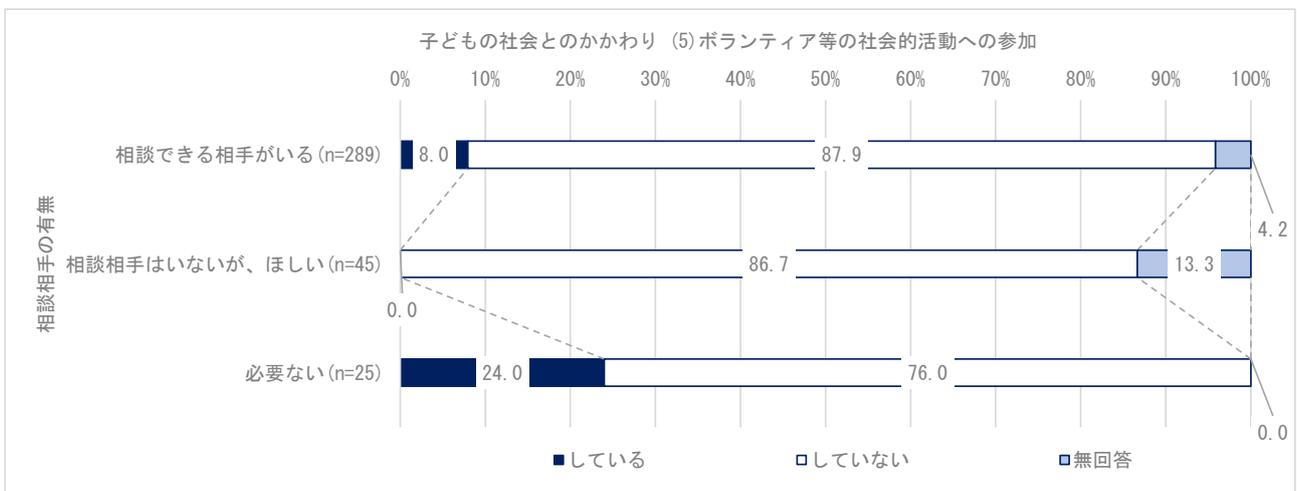
図表 148 問 16(1)現在の暮らし向き(苦)×問 26 悩みの相談相手
×問 52 子どもの社会とのかかわり(3)近所の人との付き合い



図表 149 問 16(1)現在の暮らし向き(苦)×問 26 悩みの相談相手
×問 52 子どもの社会とのかかわり(4)地域の行事 (お祭り等) への参加



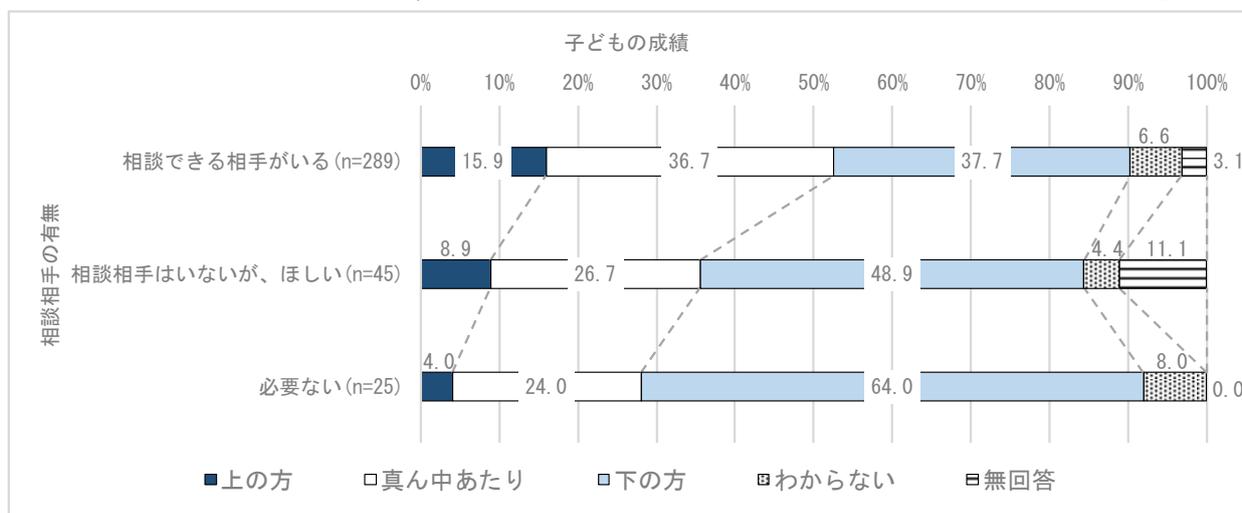
図表 150 問 16(1)現在の暮らし向き(苦)×問 26 悩みの相談相手
×問 52 子どもの社会とのかかわり(5)ボランティア等の社会的活動への参加



サ 現在の暮らし向き×悩みの相談相手×子どもの成績(問 16(1)×問 26×問 54)

暮らし向きが「苦しい」家庭でも、子どもに関する悩みについて「相談できる相手がいる」場合には、保護者からみた子どもの成績が良好である。

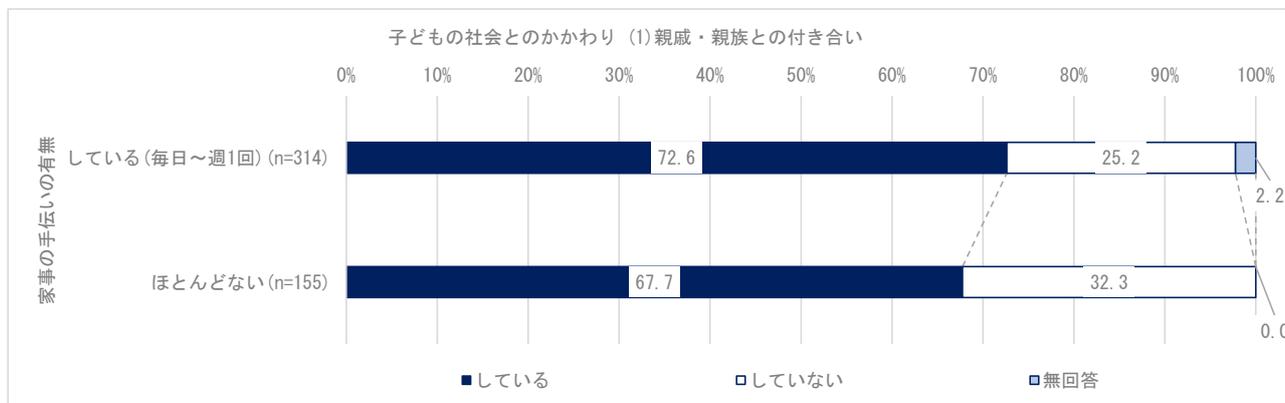
図表 151 問 16(1)現在の暮らし向き(苦)×問 26 悩みの相談相手×問 54 子どもの成績



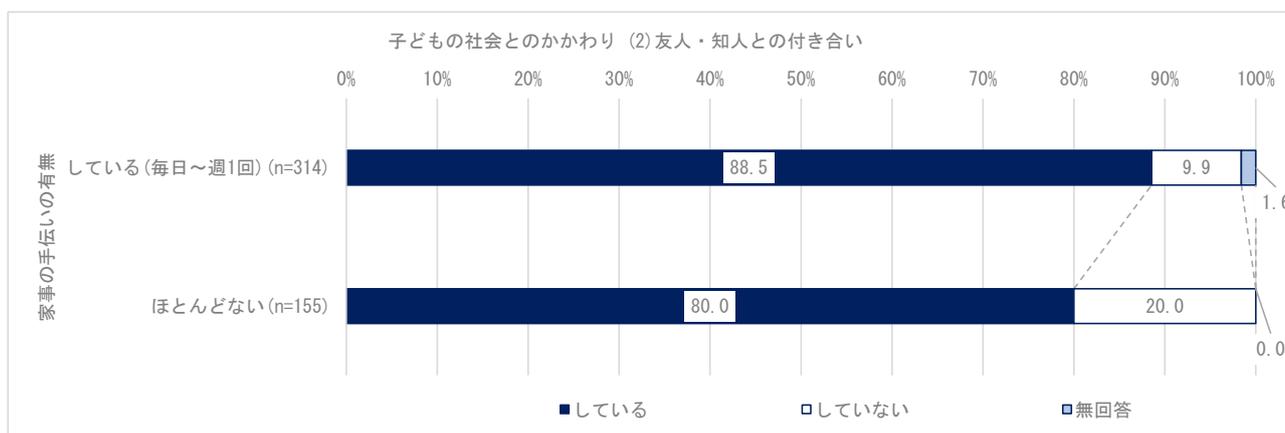
シ 家事の手伝い×子どもの社会とのかかわり(問 41×問 52)

子どもが「家事の手伝い」を「している」場合(ほとんど毎日～週1回程度)には、子どもが社会とのかかわりを、「している」割合が高い。

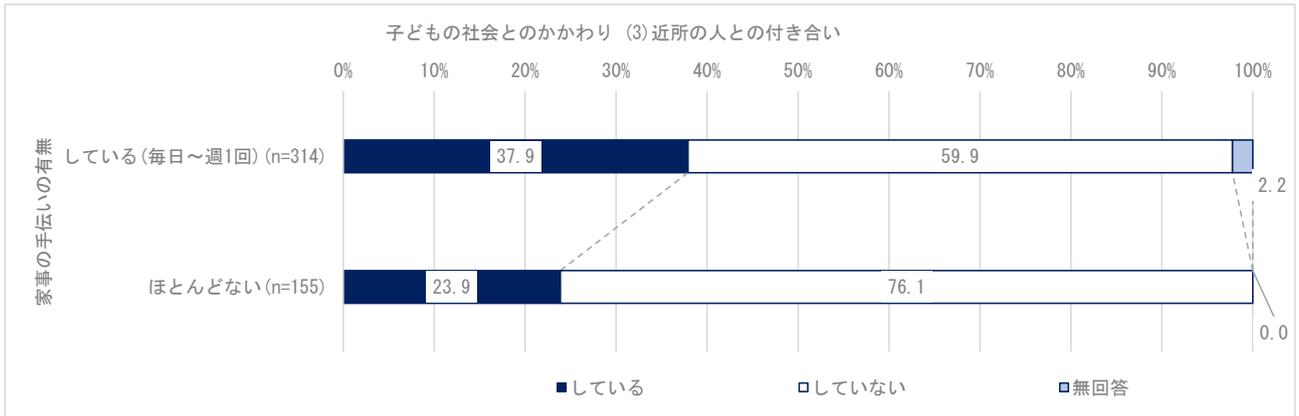
図表 152 問 41 家事の手伝い×問 52 子どもの社会とのかかわり(1)親戚・親族との付き合い



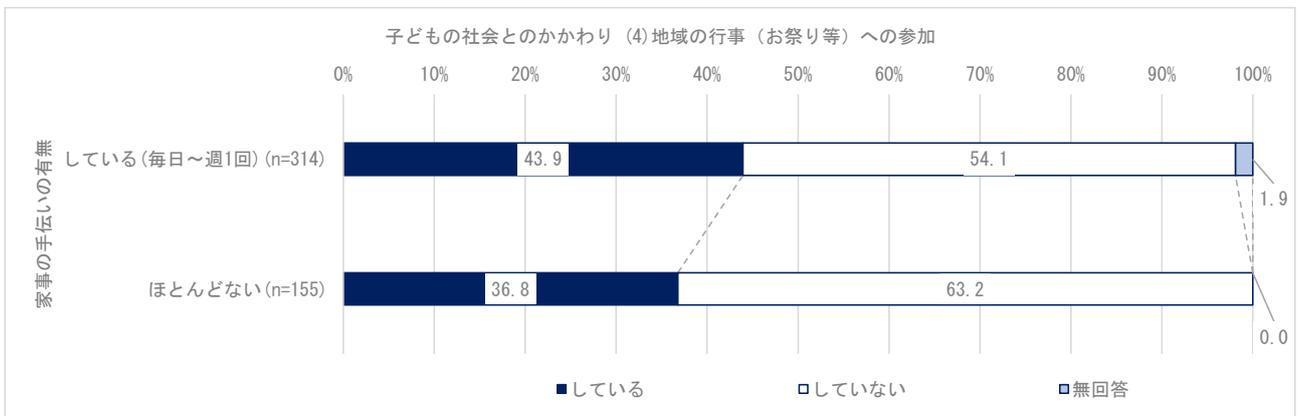
図表 153 問 41 家事の手伝い×問 52 子どもの社会とのかかわり(2)友人・知人との付き合い



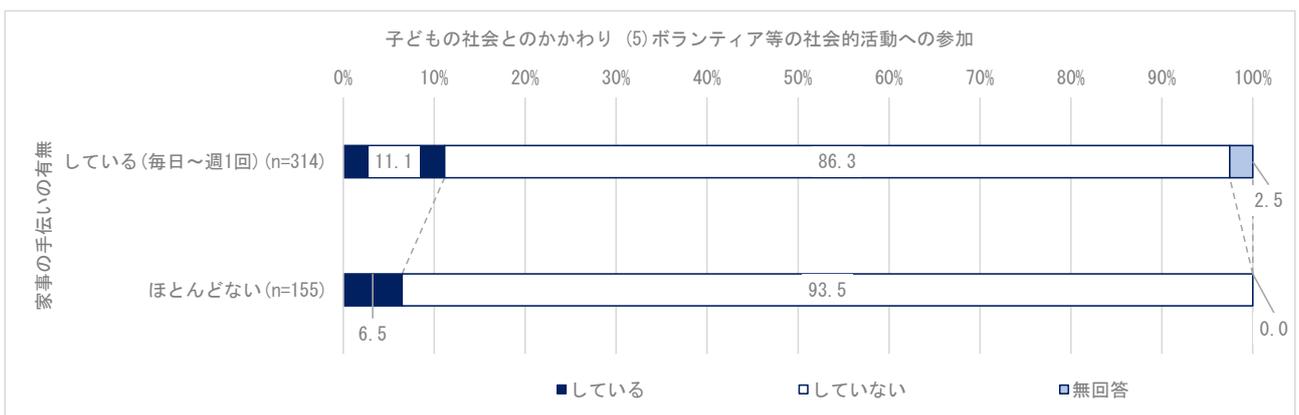
図表 154 問 41 家事の手伝い×問 52 子どもの社会とのかかわり(3)近所の人との付き合い



図表 155 問 41 家事の手伝い×問 52 子どもの社会とのかかわり(4)地域の行事（お祭り等）への参加



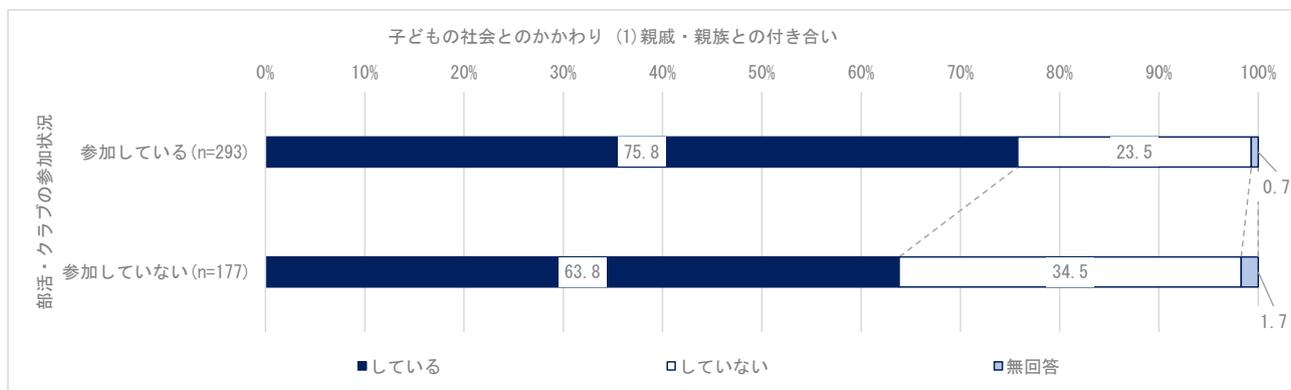
図表 156 問 41 家事の手伝い×問 52 子どもの社会とのかかわり
(5)ボランティア等の社会的活動への参加



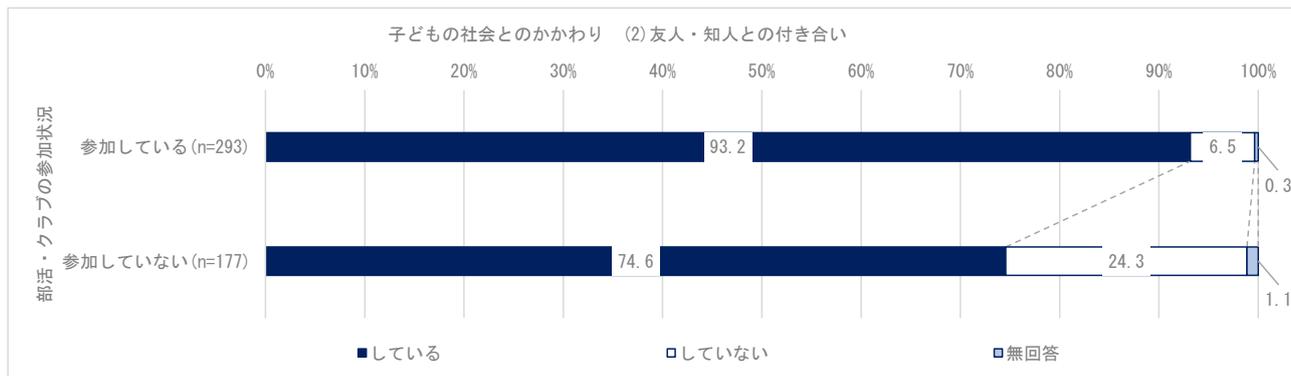
ス クラブ活動等の参加状況×子どもの社会とのかかわり(問46×問52)

子どもがクラブ活動等に「参加している」場合には、子どもが社会とのかかわりを、「している」割合が高い。

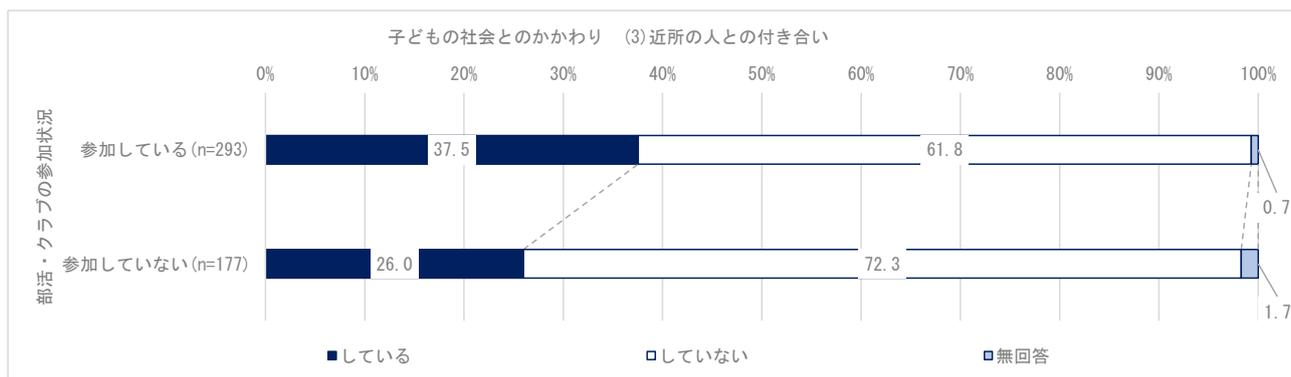
図表 157 問 46 クラブ活動等の参加状況×問 52 子どもの社会とのかかわり(1)親戚・親族との付き合い



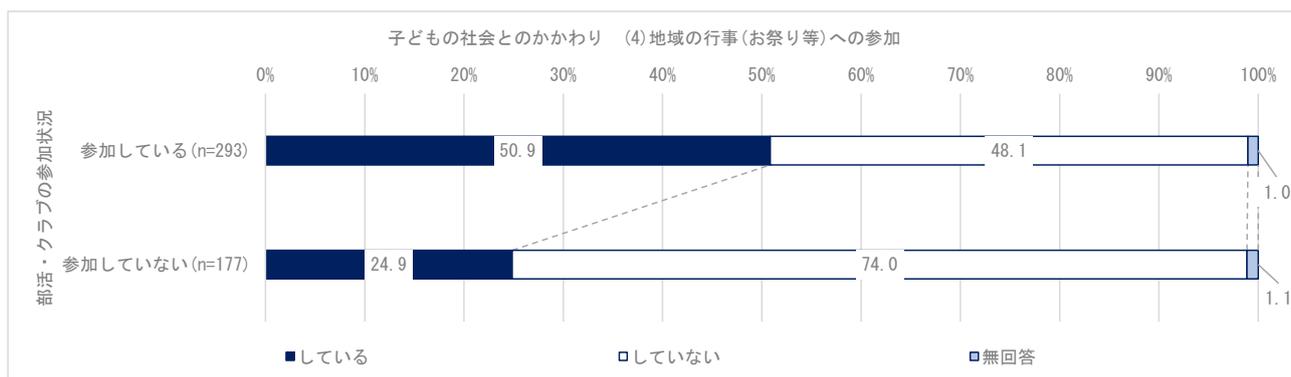
図表 158 問 46 クラブ活動等の参加状況×問 52 子どもの社会とのかかわり(2)友人・知人との付き合い



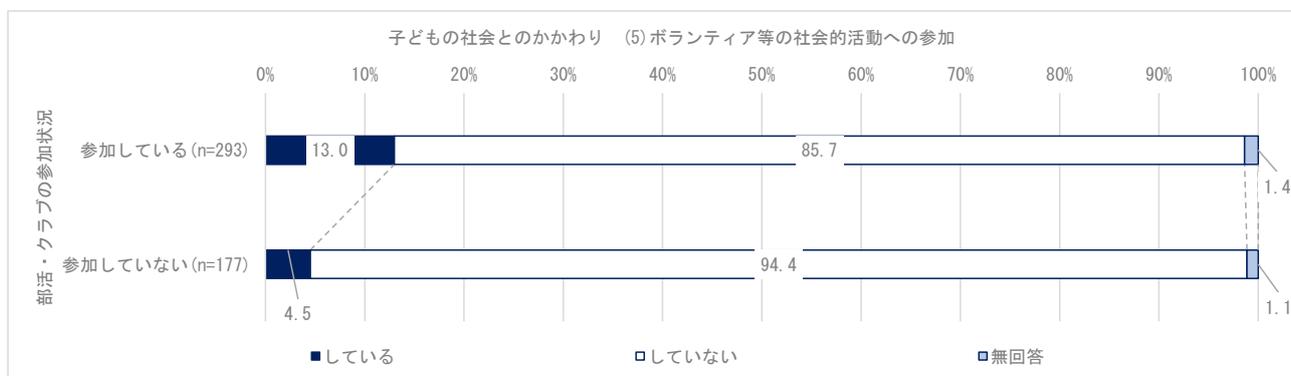
図表 159 問 46 クラブ活動等の参加状況×問 52 子どもの社会とのかかわり(3)近所の人との付き合い



図表 160 問 46 クラブ活動等の参加状況×問 52 子どもの社会とのかかわり
 (4)地域の行事(お祭り等)への参加



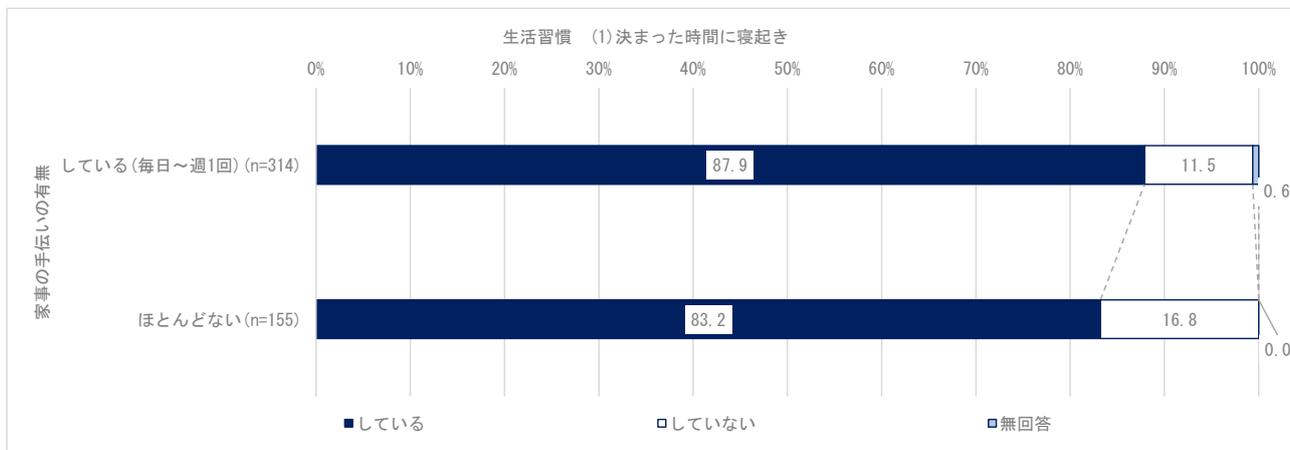
図表 161 問 46 クラブ活動等の参加状況×問 52 子どもの社会とのかかわり
 (5)ボランティア等の社会的活動への参加



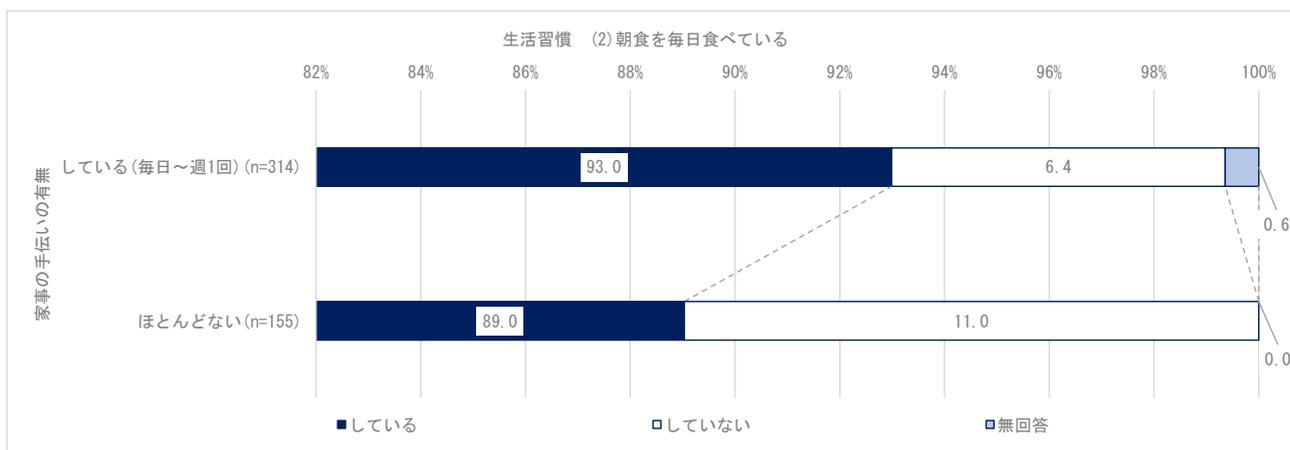
セ 家事の手伝い×子どもの生活習慣(問 41×問 53)

子どもが「家事の手伝い」を「している」場合(ほとんど毎日～週1回程度)には、過去1か月の子どもの生活習慣がより良好である。

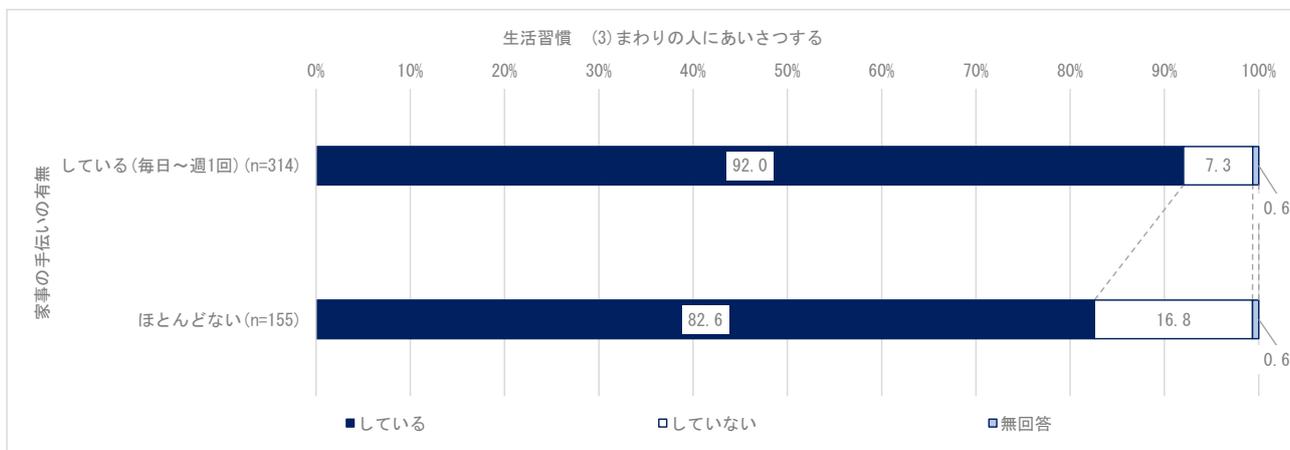
図表 162 問 41 家事の手伝い×問 53 子どもの生活習慣(1)決まった時間に寝起きしている



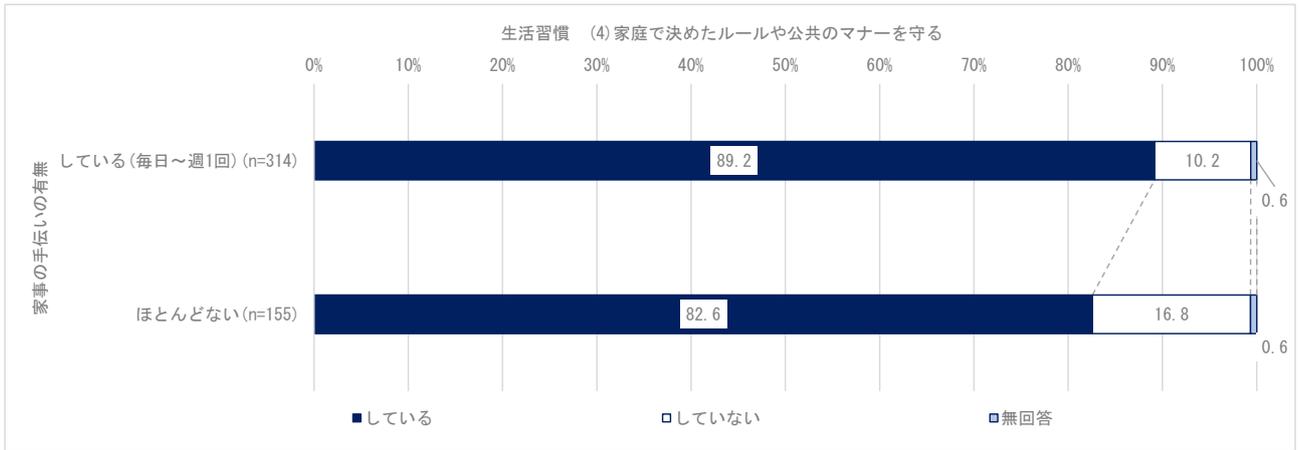
図表 163 問 41 家事の手伝い×問 53 子どもの生活習慣(2)朝食を毎日食べている



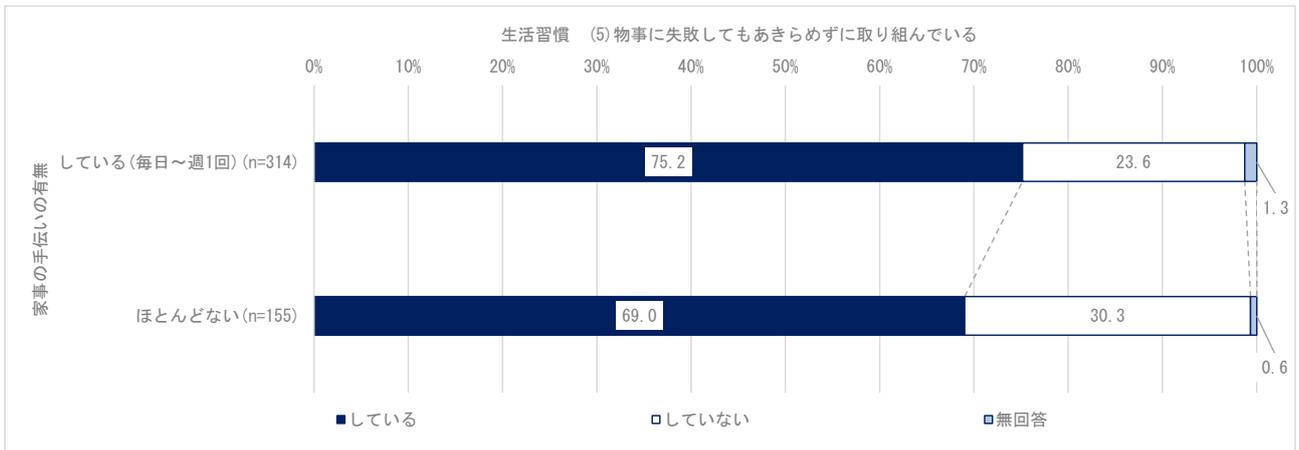
図表 164 問 41 家事の手伝い×問 53 子どもの生活習慣(3)まわりの人にあいさつする



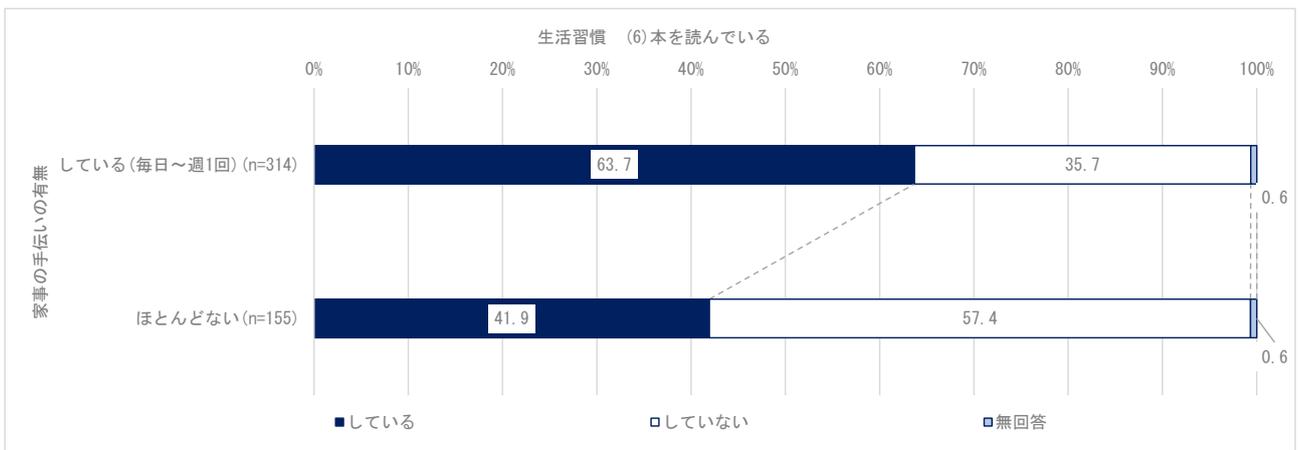
図表 165 問 41 家事の手伝い×問 53 子どもの生活習慣
(4)家庭で決めたルールや公共のマナーを守る



図表 166 問 41 家事の手伝い×問 53 子どもの生活習慣
(5)物事に失敗してもあきらめずに取り組んでいる



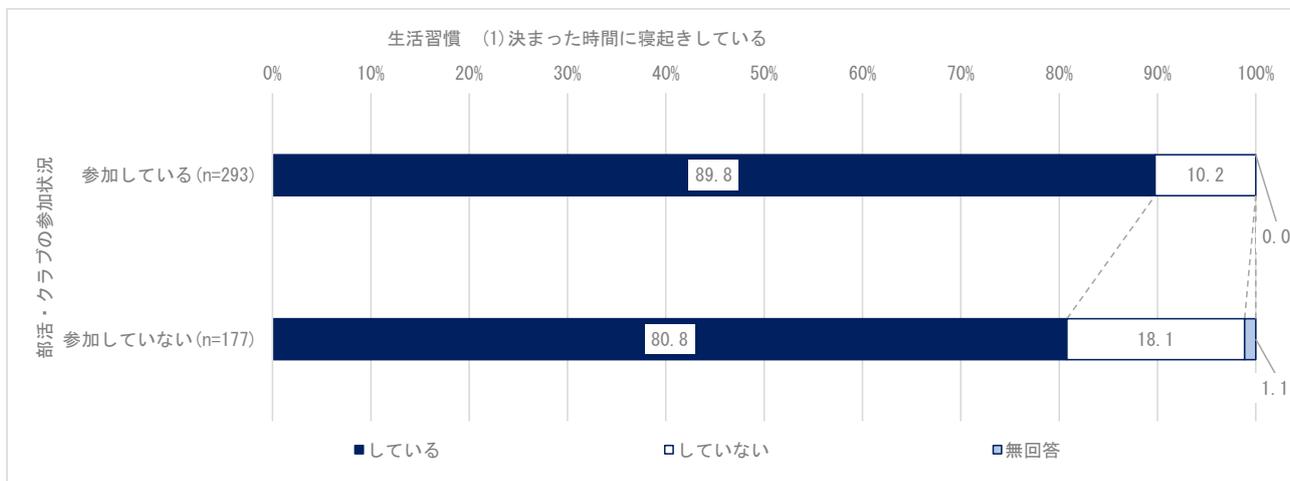
図表 167 問 41 家事の手伝い×問 53 子どもの生活習慣(6)本を読んでいる



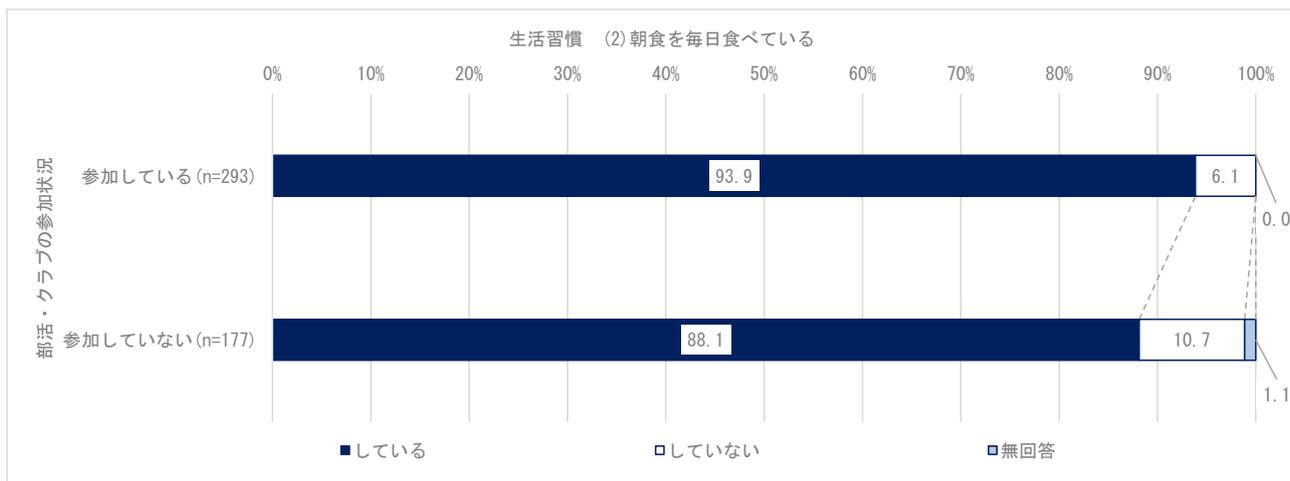
ソ クラブ活動等の参加状況×子どもの生活習慣(問46×問53)

子どもがクラブ活動等に「参加している」場合には、過去1か月の子どもの生活習慣がより良好である。

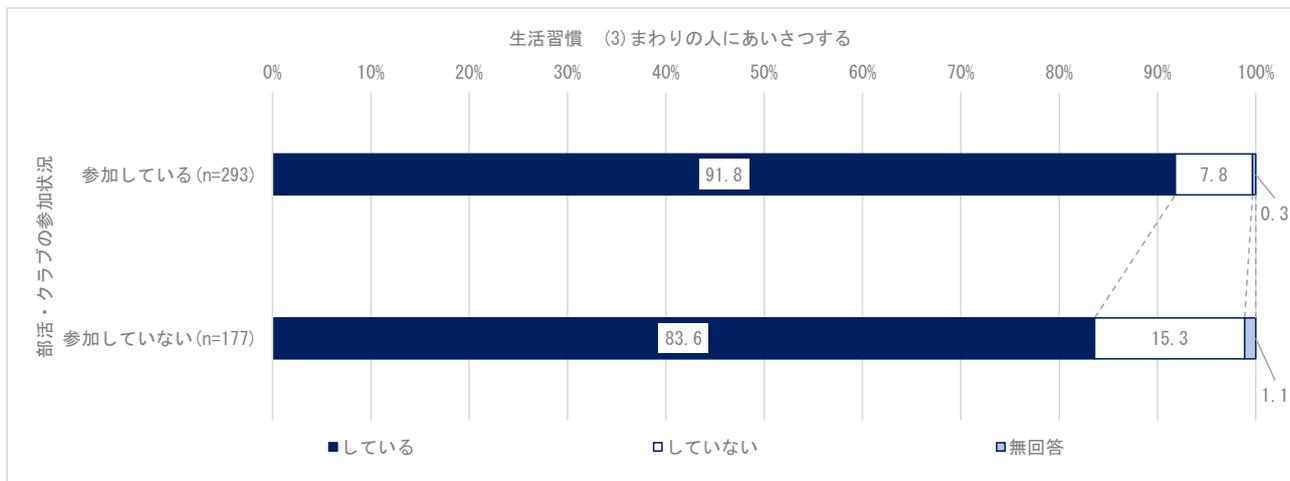
図表 168 問46 クラブ活動等の参加状況×問53 子どもの生活習慣(1)決まった時間に寝起きしている



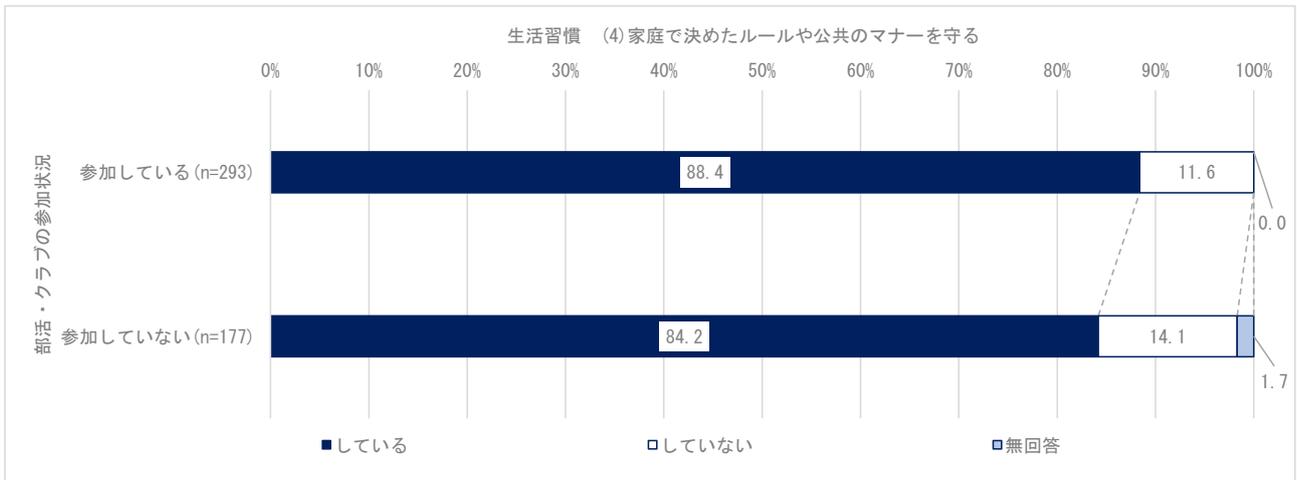
図表 169 問46 クラブ活動等の参加状況×問53 子どもの生活習慣(2)朝食を毎日食べている



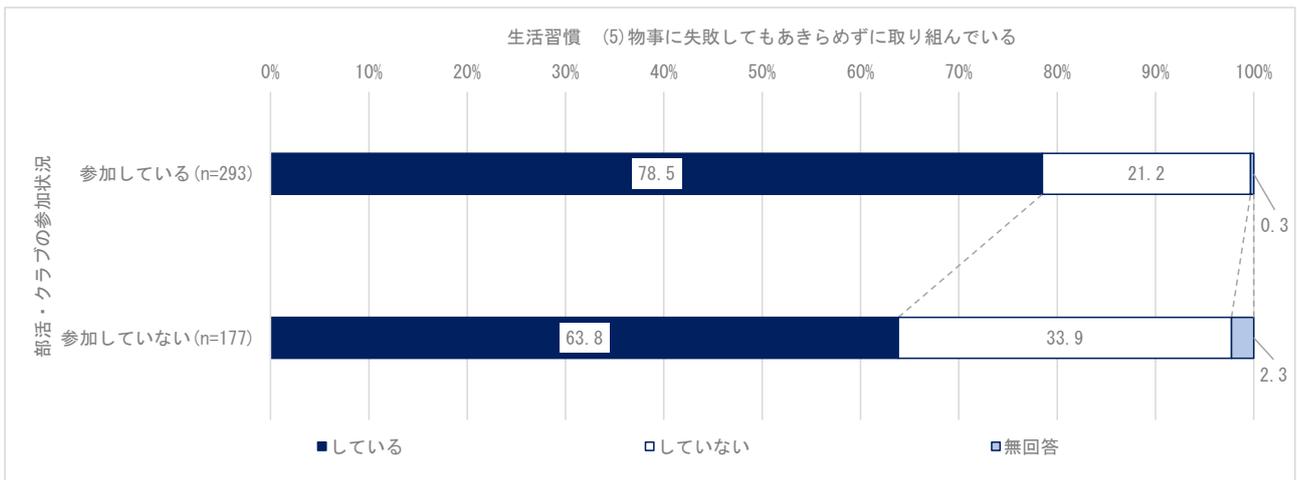
図表 170 問46 クラブ活動等の参加状況×問53 子どもの生活習慣(3)まわりの人にあいさつする



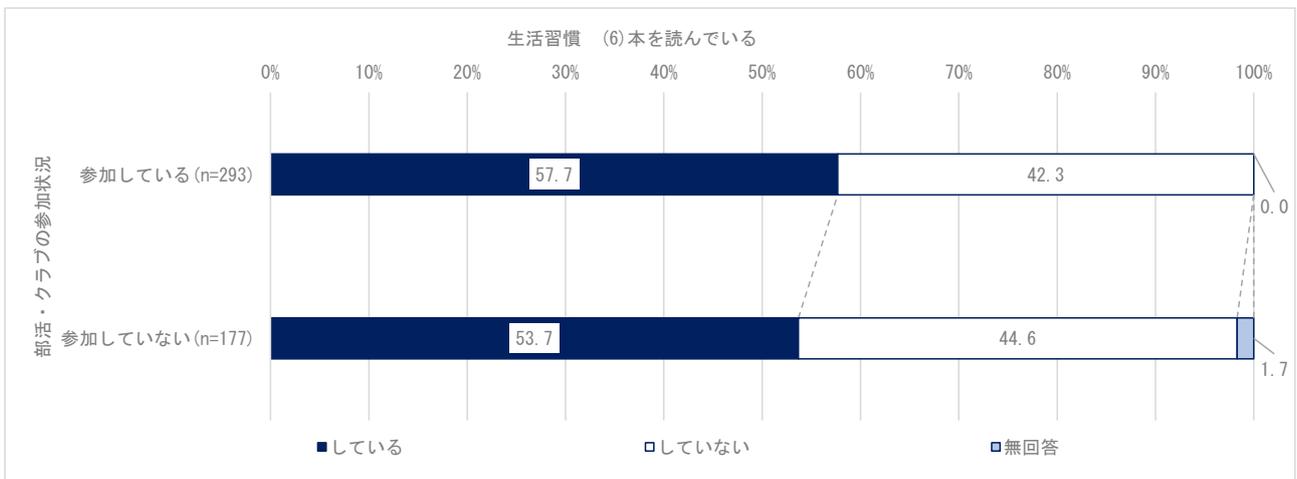
図表 171 問 46 クラブ活動等の参加状況×問 53 子どもの生活習慣
(4)家庭で決めたルールや公共のマナーを守る



図表 172 問 46 クラブ活動等の参加状況×問 53 子どもの生活習慣
(5)物事に失敗してもあきらめずに取り組んでいる



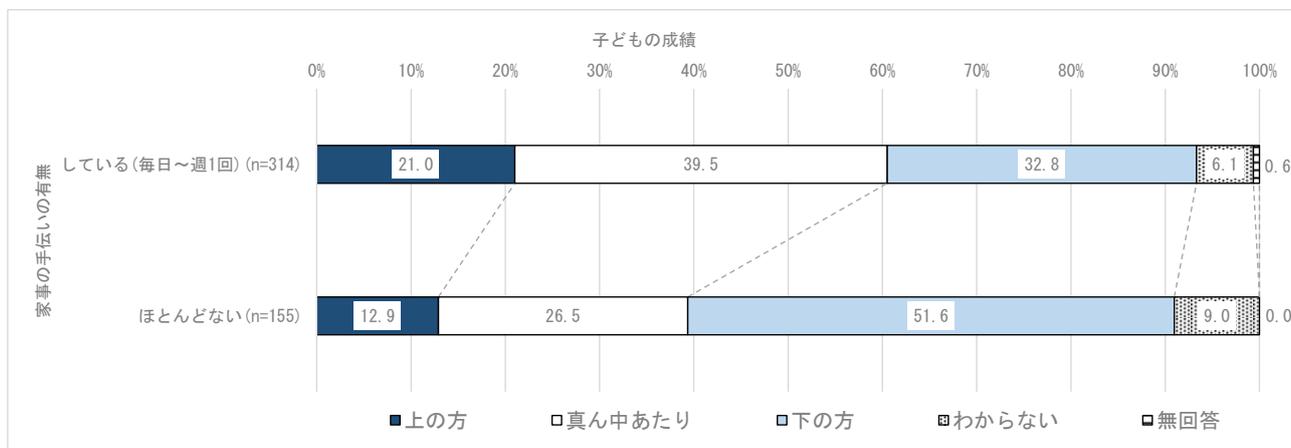
図表 173 問 46 クラブ活動等の参加状況×問 53 子どもの生活習慣(6)本を読んでいる



タ 家事の手伝い×子どもの成績(問 41×問 54)

子どもが「家事の手伝い」を「している」場合(ほとんど毎日～週 1 回程度)には、保護者からみた子どもの成績がより良好である。

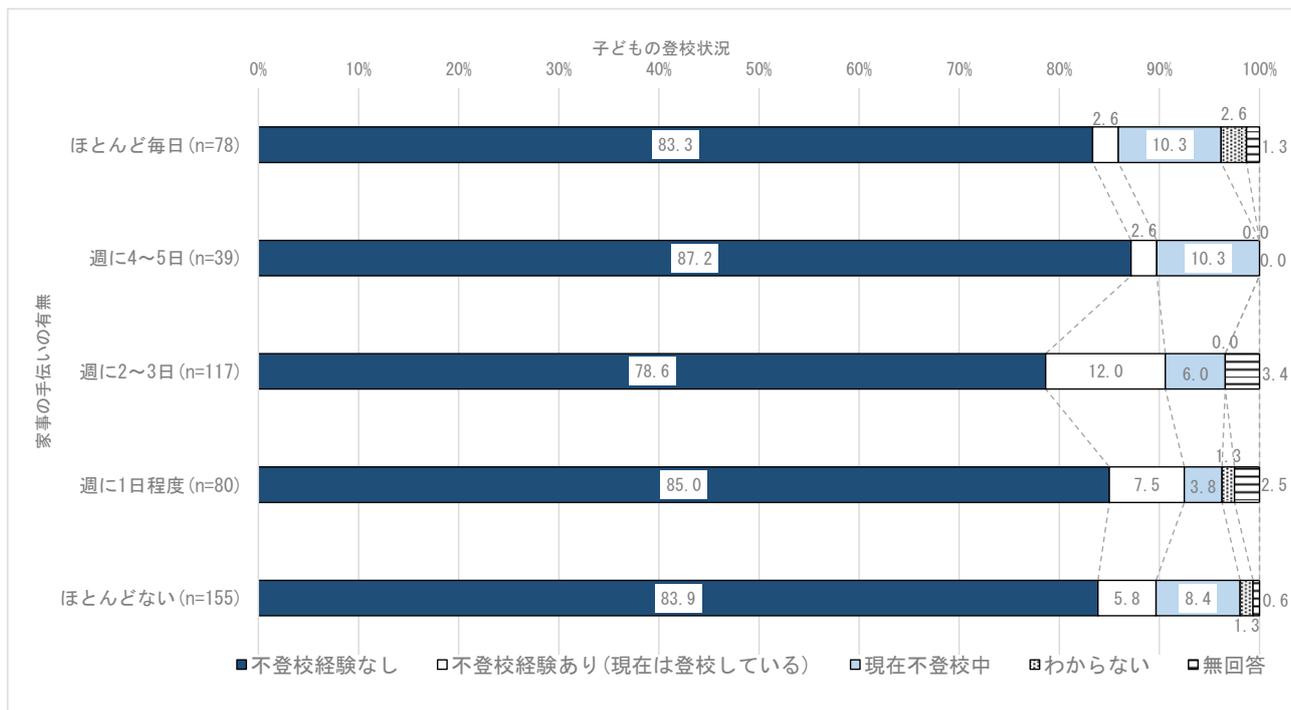
図表 174 問 41 家事の手伝い×問 54 子どもの成績



なお、ヤングケアラーが社会問題となっていることに鑑み、子どもが家事を手伝う頻度(問 41)と、子どもの不登校経験(問 45)との相関をみた。手伝いの頻度にかかわらず、「不登校経験あり(現在は登校している)」及び「現在不登校中」の者(過去・現在で不登校経験のある子ども)がおり、あまり明確な相関関係は認められなかった。

ただし、「不登校は、その要因・背景が多様・複雑であること」(文部科学省「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する基本方針」、平成 29 年)から、不登校経験のある子どものなかには、多様な要因の一つとしてヤングケアラーも含まれている可能性のあることに留意する必要がある。

図表 175 問 41 家事の手伝い×問 45 子どもの登校状況



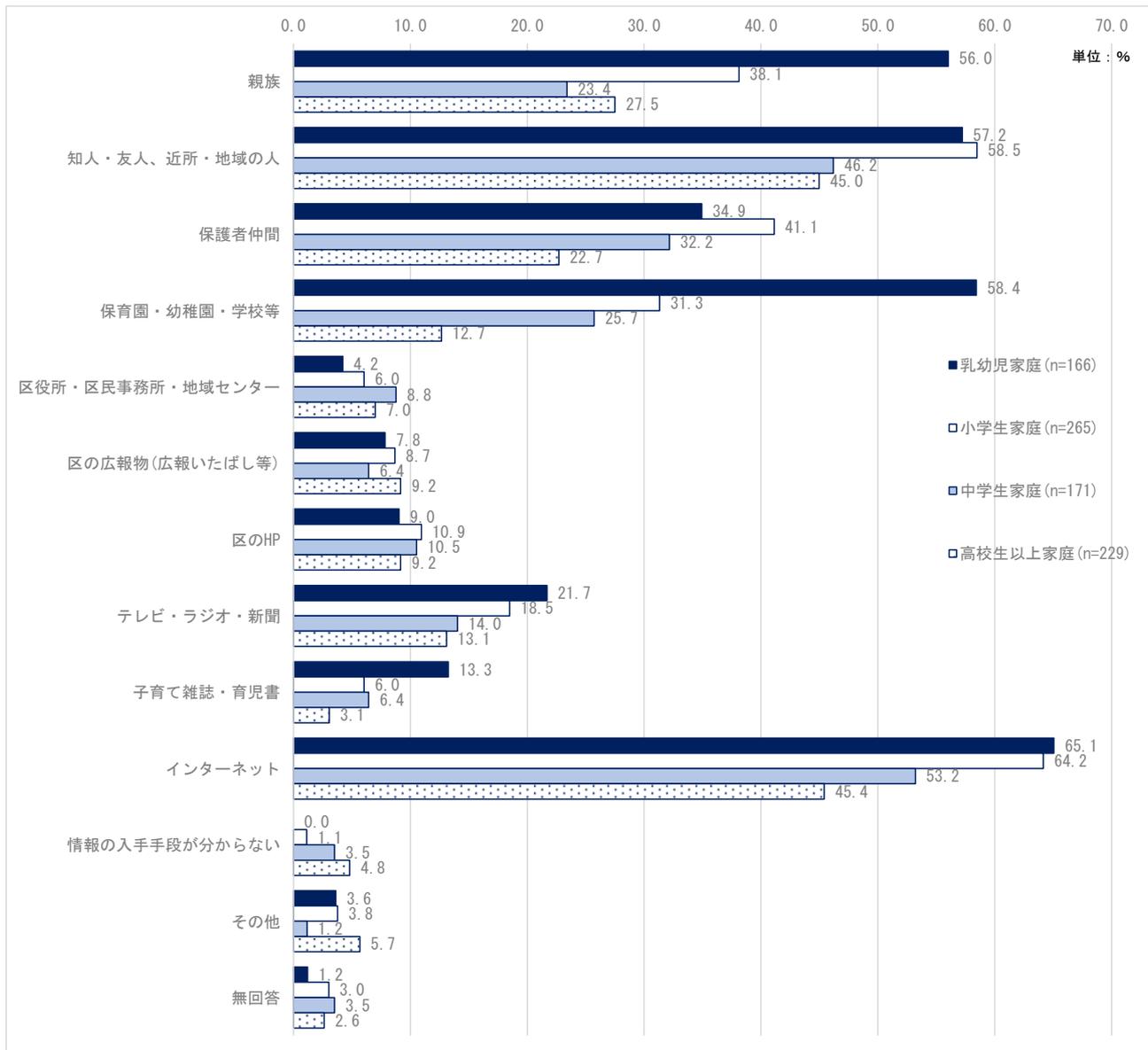
(3) 親子と社会的包摂

家庭における支援制度のニーズなどを検討した。

ア 子どもの同居状況(末子)×子育て情報の入手源(問8×問25)

乳幼児家庭など、より幼い子どもを持つ家庭ほど、子育てに関する情報の入手源が多様になっている。

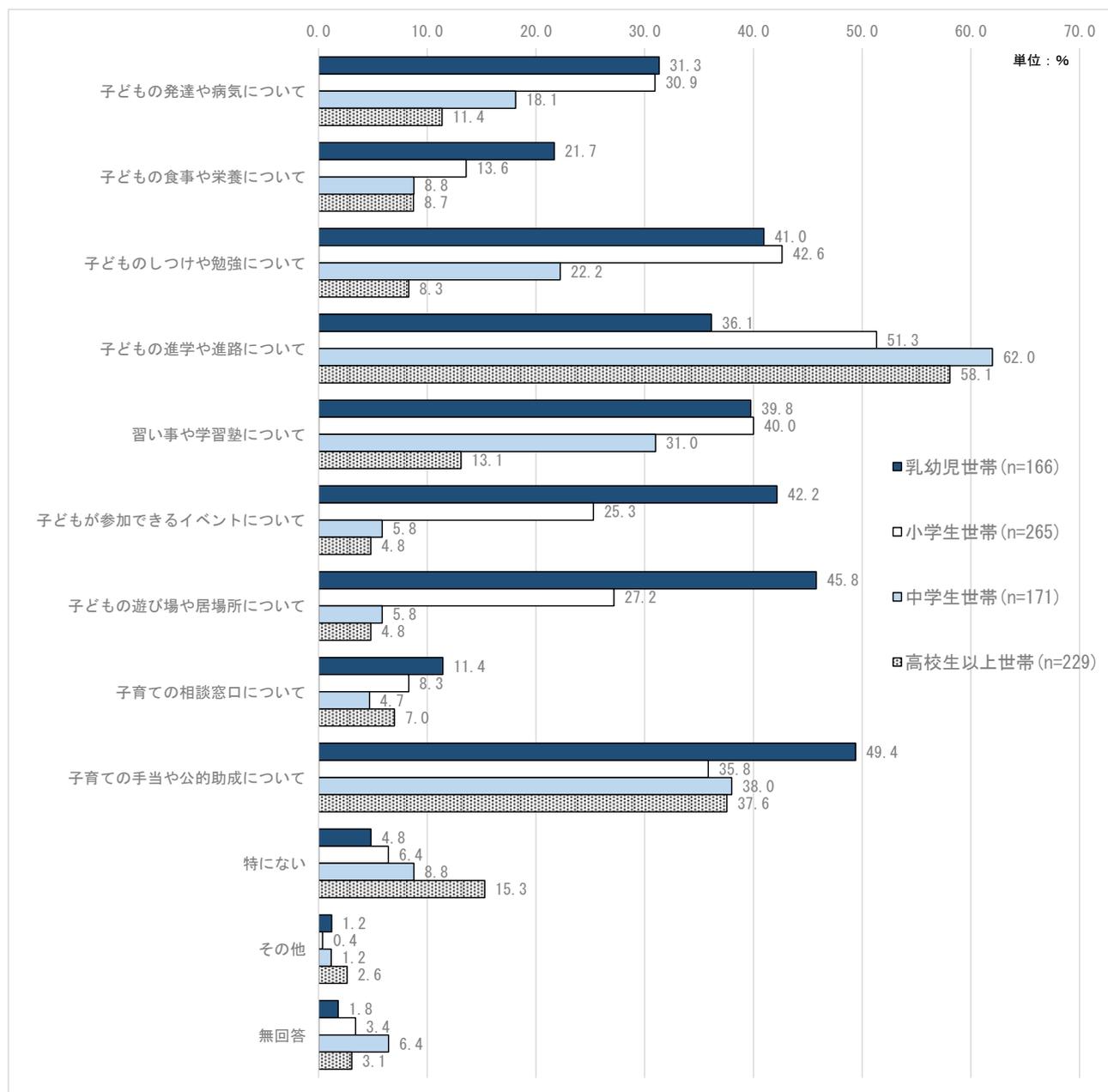
図表 176 問8子どもとの同居状況(末子)×問25子育て情報の入手源



イ 子どもの同居状況(末子)×子育てについて知りたい情報(問8×問29)

乳幼児家庭など、より若い子どもを持つ家庭ほど、知りたい子育て情報が多様になっている。

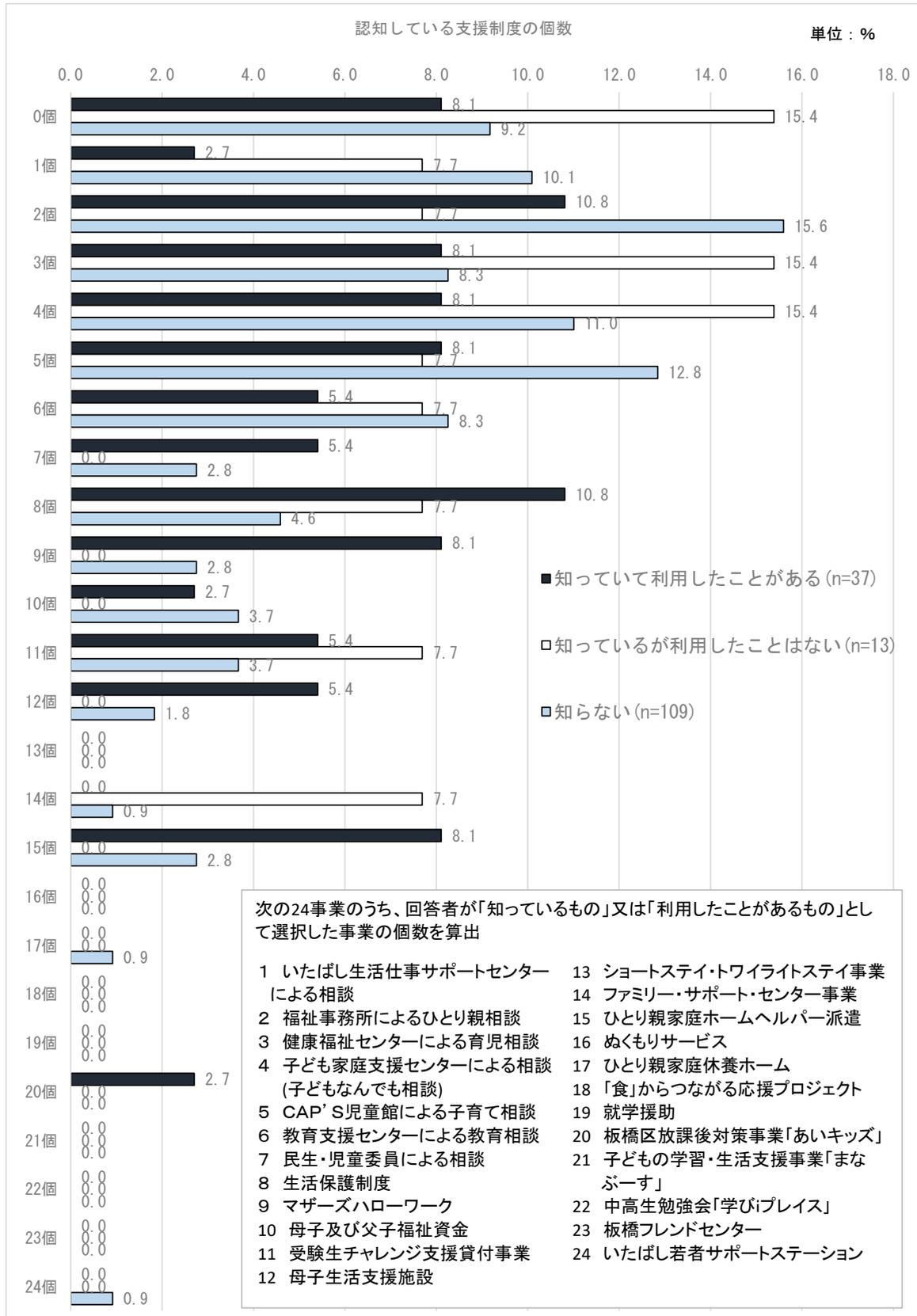
図表 177 問8子どもとの同居状況(末子)×問29子育てについて知りたい情報



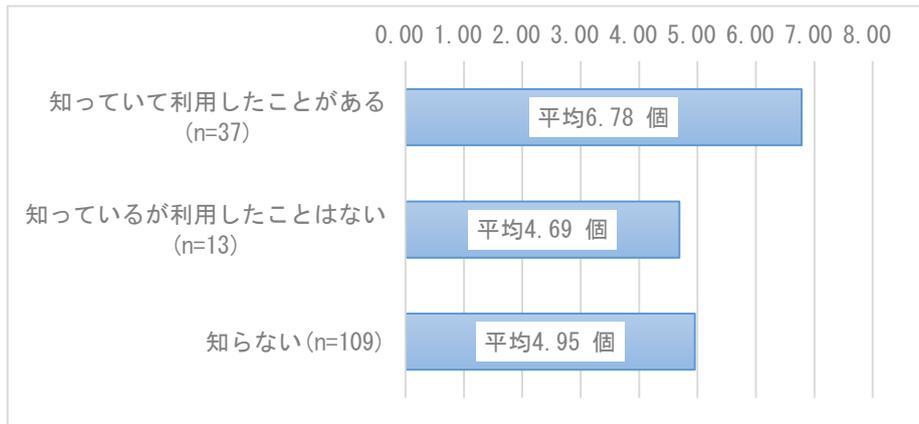
ウ 妊婦面接の利用経験×支援制度の認知(個数)(問37×問32)

妊婦面接の利用経験がある人ほど、「知っていて利用したことがある」又は「知っている」支援制度が多くなっている。

図表 178 問37 妊婦面接の利用経験×問32 支援制度の認知(個数)



図表 179 問 37 妊婦面接の利用経験×問 32 支援制度の認知(平均個数)

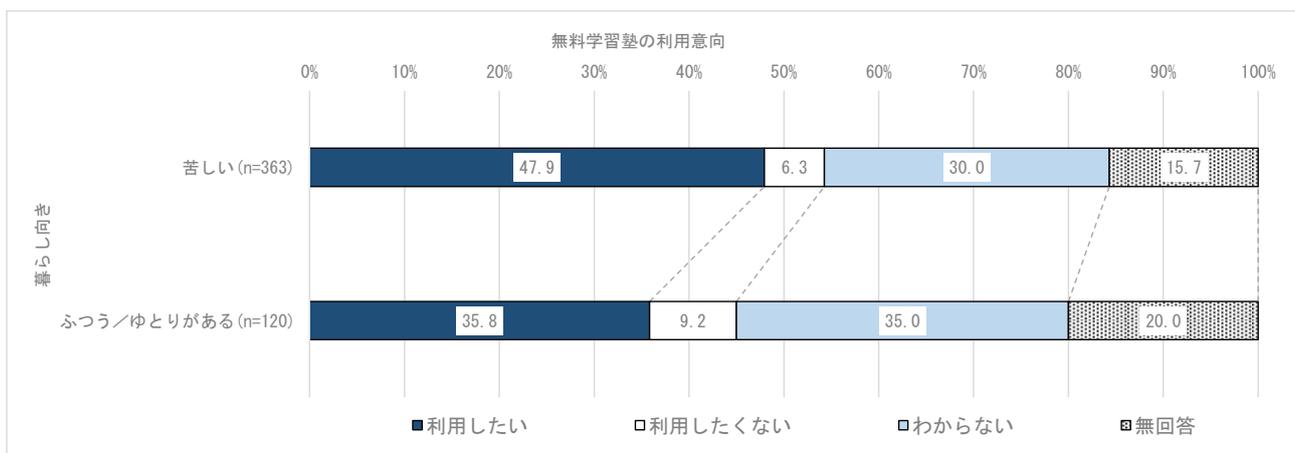
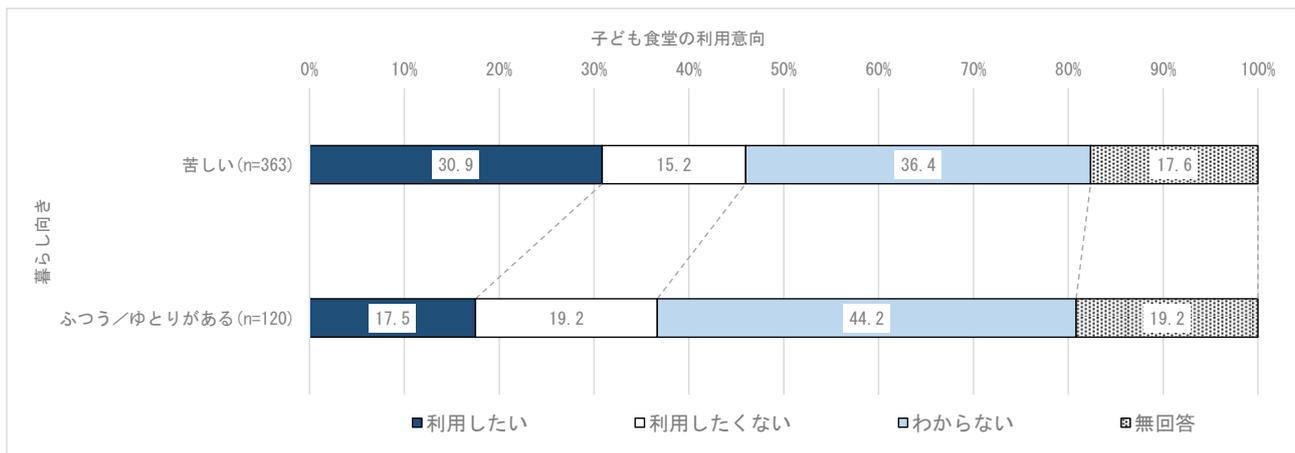


エ 子どもの居場所の利用ニーズ

(7) 現在の暮らし向き×子どもの居場所の利用ニーズ(問 16×問 51)

暮らし向きが「苦しい」家庭の方が、子どもの居場所の利用意向が高い。

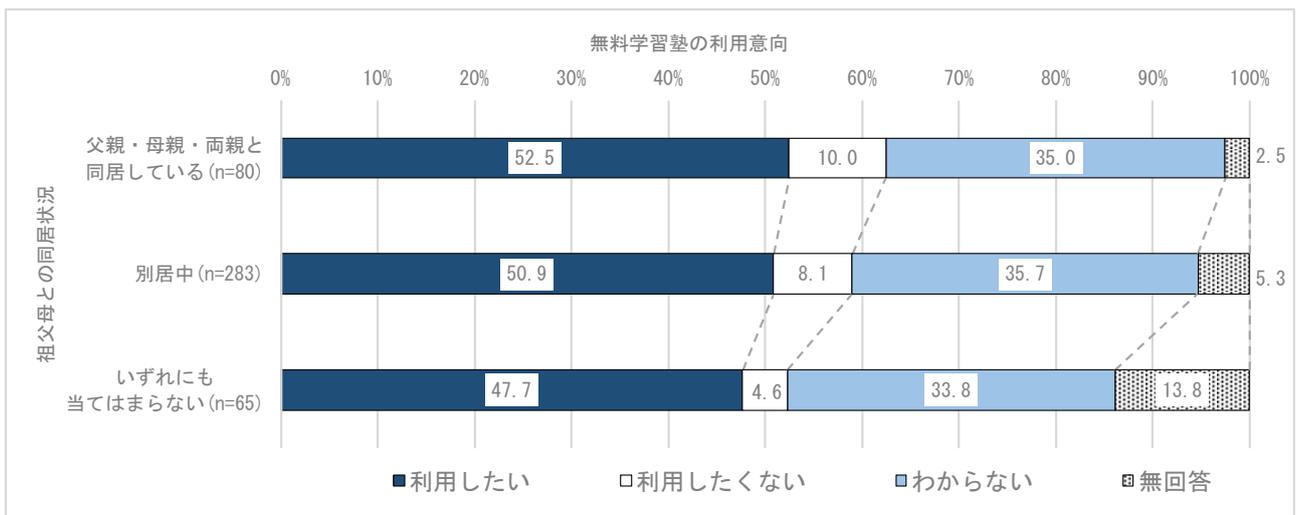
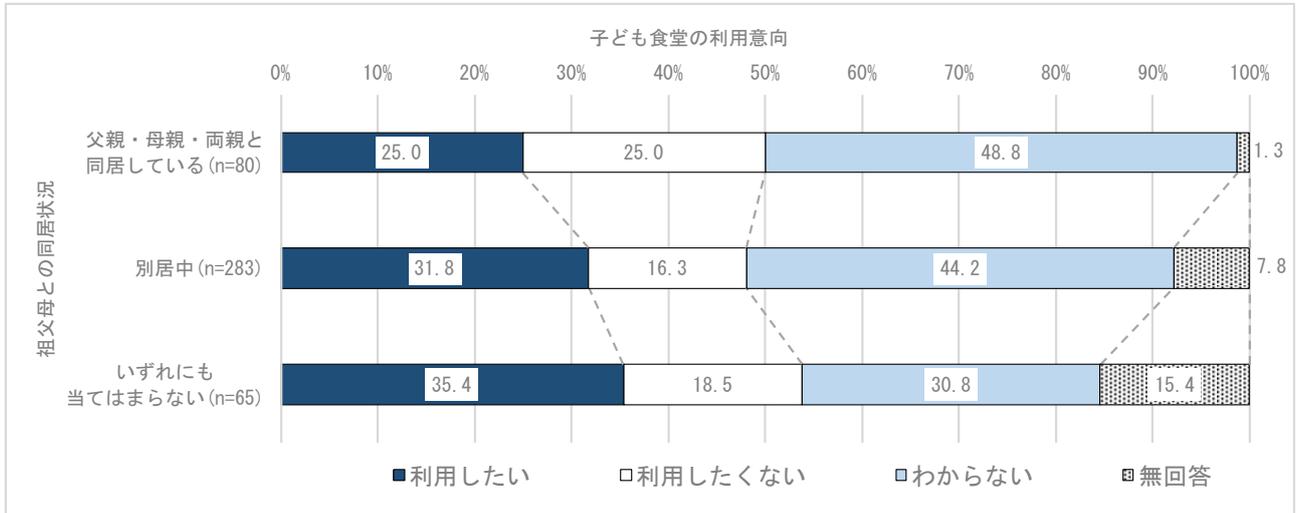
図表 180 問 16(1)現在の暮らし向き×問 51 子どもの居場所の利用ニーズ



(イ) 祖父母との同居状況×子どもの居場所の利用ニーズ(問4×問51)

(子どもからみた)祖父母と「別居中」又は「いずれにも当てはまらない」家庭は、祖父母と「同居している」家庭と比較して、子ども食堂の利用意向が高い。

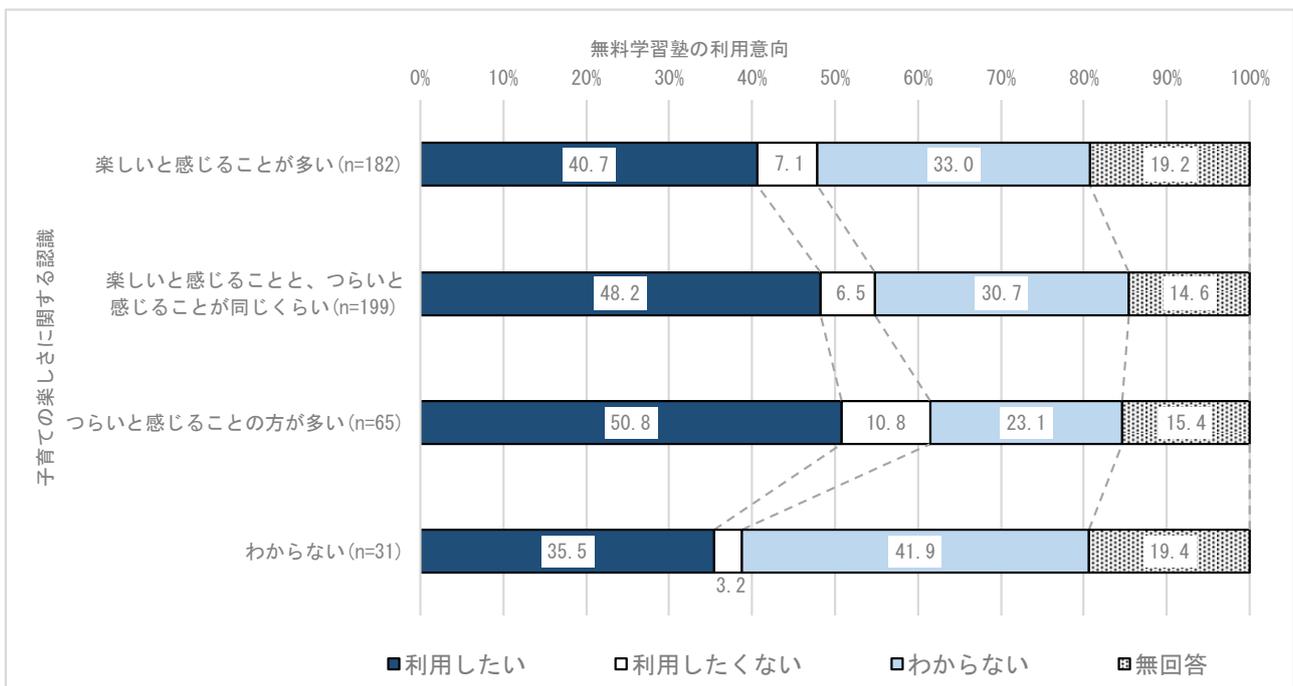
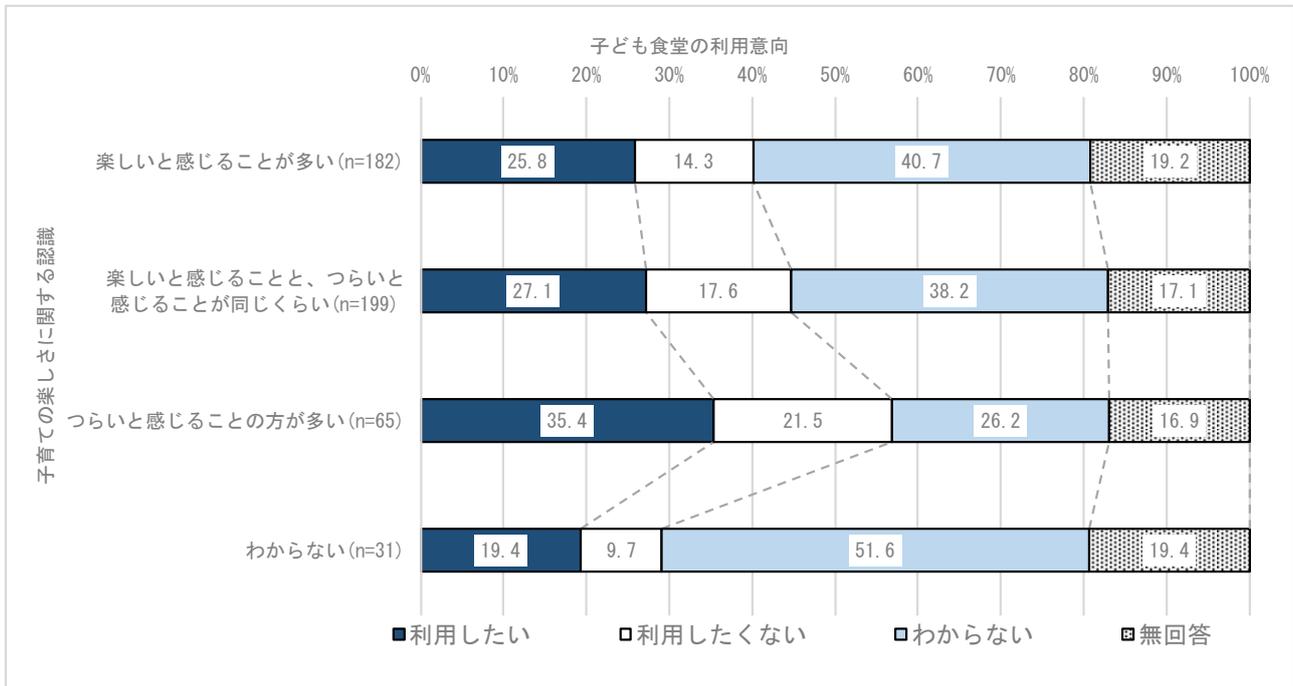
図表 181 問4 祖父母との同居状況×問51 子どもの居場所の利用ニーズ



(ウ) 子育ての楽しさに関する認識×子どもの居場所の利用ニーズ(問21×問51)

子育てを「つらいと感じることの方が多い」家庭の方が、地域の子どもの居場所の利用意向が高い。

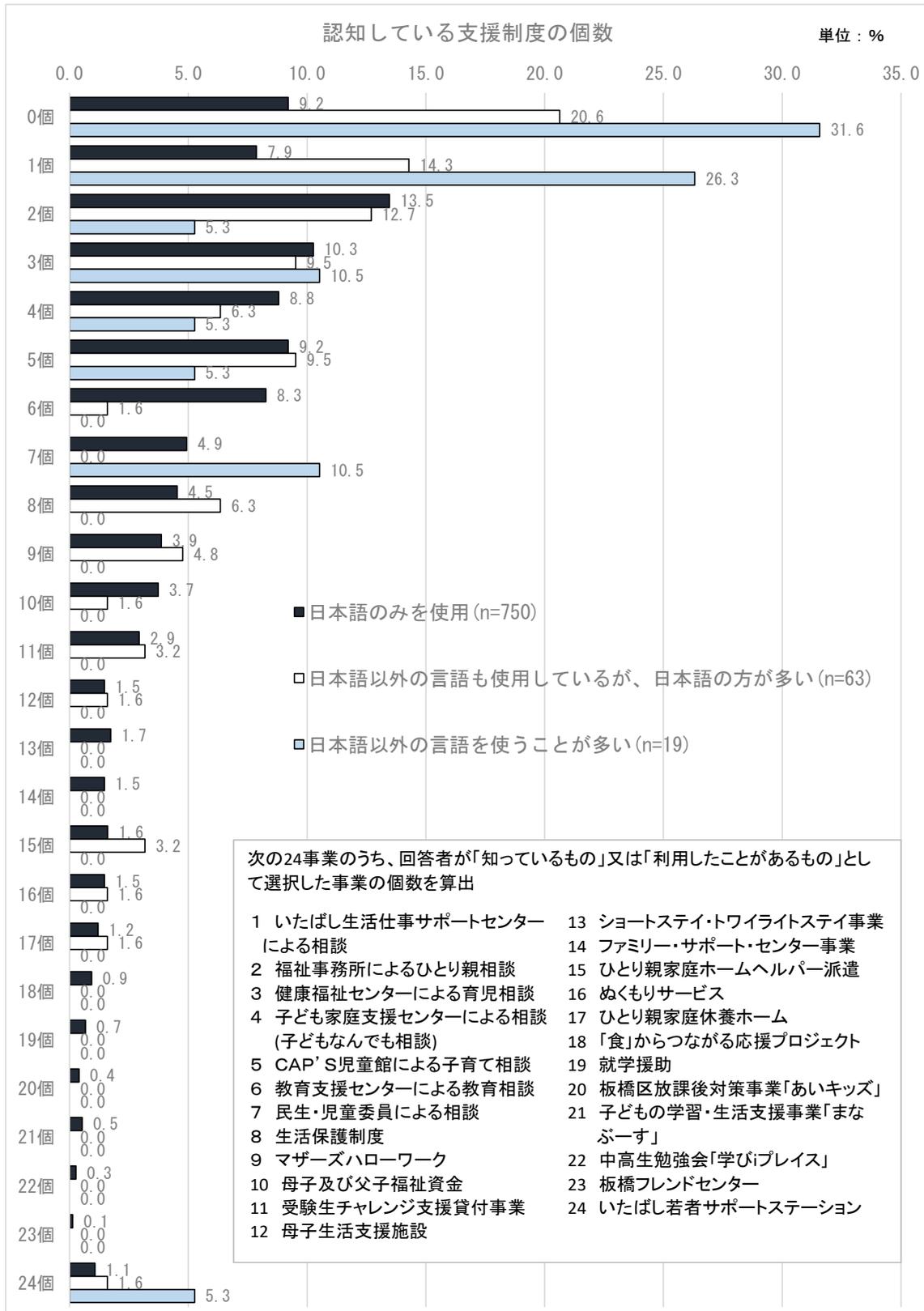
図表 182 問21 子育ての楽しさに関する認識×問51 子どもの居場所の利用ニーズ



オ 家庭での言語の使用状況×支援制度の認知度(問9×問32)

日本語以外の言語を使用する家庭は、日本語のみを使用する家庭に比べて、支援制度の認知が低い。

図表 183 問9 家庭での言語の使用状況×問32 支援制度の認知(個数)



図表 184 問 9 家庭での言語の使用状況×問 32 支援制度の認知(平均個数)

